

松山市文化財調査報告書94

樽味四反地遺跡

— 6 次 調 査 —

弥生時代～古墳時代初頭編

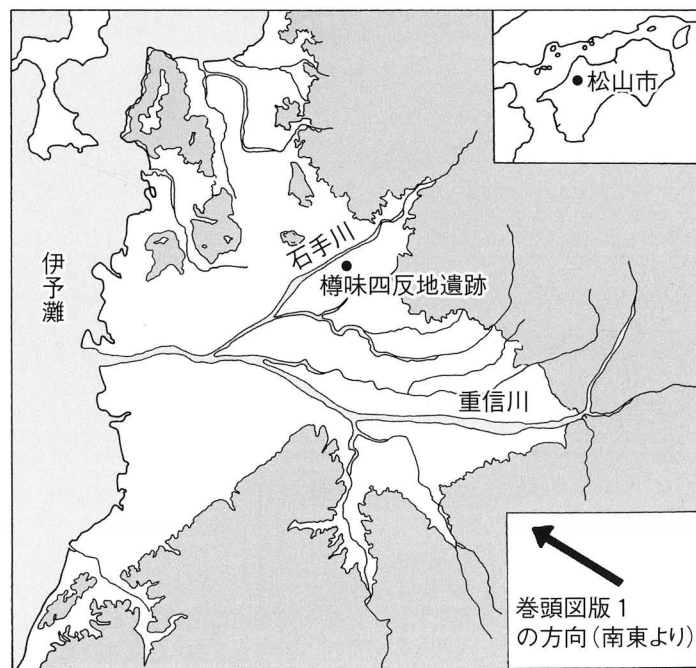
2 0 0 3

松山市教育委員会

樽味四反地遺跡

— 6 次調査 —

弥生時代～古墳時代初頭編



2003

松山市教育委員会



巻頭図版1 調査地遠景（南東より）



巻頭図版2 調査地（上空より）



巻頭図版3 掘立005〔首長居館〕（北西より）

序

松山平野の中心部を南西に流れる石手川の南岸に位置する樽味・桑原地区では、最近の松山東部環状線の建設以来、急激に宅地開発が進み、数多くの貴重な遺跡が発見されています。これまでの埋蔵文化財発掘調査によって、縄文時代～中世における集落の様相が次第に明らかになってきました。

今回報告する樽味四反地遺跡 6 次調査では、古墳時代初頭の首長居館とそれを囲む壕と柵、古墳時代中期の竪穴住居址群、中世の集落関連遺構などが確認されました。

特に、古墳時代初頭の首長居館は、中四国では初例であり、樽味・桑原地区のみならず、松山平野の古墳時代初頭の景観と社会構造を復元するうえで貴重な資料となるものです。

発掘調査および報告書刊行にあたり、協力していただいた地権者ならびに周辺の市民の方々、関係各位には厚くお礼を申し上げます。

本書が、埋蔵文化財の調査研究の一助となり、さらには文化財保護、生涯教育の向上に寄与できれば幸いです。

平成15年 3 月31日

松山市教育長 中 矢 陽 三

例 言

- 1：本書は、松山市教育委員会が、1998（平成10年）に松山市樽味4丁目230番地で調査した埋蔵文化財の調査報告書である。
- 2：報告書は『弥生時代～古墳時代初頭編』と『古墳時代中期～中世編』の2冊に分かれる。今回は1冊目の『弥生時代～古墳時代初頭編』にあたる。
- 3：本文中では、遺構の呼称を記号化して記述した。竪穴式住居址：S B、掘立柱建物：掘立、柵：S A、土坑：S K、溝：S D、柱穴・小穴：S P、性格不明遺構：S Xである。
- 4：本書での標高数値は、すべて海拔標高を示し、方位は国土座標Ⅳ系に従っている。
- 5：遺構・埋土の色調は、農林水産省農林水産技術会議事務局監修『新版標準土色帖』（1998）に準拠した。
- 6：野外写真は調査担当者で大西朋子が、遺物写真と図版作成は大西朋子が担当した。
- 7：遺構の実測は、橋本雄一・小玉亜紀子、遺物の実測・製図等は小玉亜紀子指示のもと、忽那理恵、佐伯利枝、林頌子、松友由美が行った。
- 8：挿図の縮尺は、縮尺値をスケール下に記した。遺物実測図は弥生土器・土師器は1/4、石器は1/3を原則にした。他は縮分値をスケール下に注記した。
- 9：調査は下條信行、田崎博之、村上恭通（愛媛大学）、石野博信（徳島文理大学）の諸先生方にご指導・ご教示を頂いた。記して感謝申し上げます。
- 10：本書の執筆・編集は小玉が行った。作成に際しては梅木謙一、宮内慎一、高尾和長の協力を得た。
- 11：本書に報告した記録類・出土遺物は松山市埋蔵文化財センターにおいて保管されている。
- 12：製版 カラー図版－175線、白黒図版－175線
印刷 オフセット印刷
用紙 カラー図版－ニューVマツト菊版 93.5kg 使用
白黒図版－ニューVマツト菊版 93.5kg 使用

本文目次

第Ⅰ章	はじめに	2
1.	調査の経過	
	(1) 調査に至る経緯	2
	(2) 調査組織	2
	(3) 調査経過	3
2.	環境（樽味遺跡の位置と環境）	3
第Ⅱ章	遺構と遺物	8
1.	土層（基本層序）	8
2.	遺構と遺物	8
	(1) S A001・002	8
	(2) S D001	12
	(3) 掘立005	46
	(4) 土坑（S K006・003・017）	56
	(5) 小穴（S P050・058・072・103・113）	58
第Ⅲ章	調査の成果と課題	60

挿 図 目 次

第1図	松山平野地形概要図	5
第2図	調査地周辺の遺跡（縮尺1/50,000）	5
第3図	調査地位置図	7
第4図	遺構配置図（縮尺1/200）	9
第5図	土層断面図（西・南壁）（縮尺1/80）	10
第6図	土層断面図（北・東・南壁）（縮尺1/80）	11
第7図	S D001・S A001・S A002測量図（縮尺1/60）	13
第8図	S D001下層 出土遺物実測図①（縮尺1/4）	16
第9図	S D001下層 出土遺物実測図②（縮尺1/4）	17
第10図	S D001下層 出土遺物実測図③（縮尺1/4）	18
第11図	S D001下層 出土遺物実測図④（縮尺1/4）	19
第12図	S D001下層 出土遺物実測図⑤（縮尺1/4）	20
第13図	S D001下層 出土遺物実測図⑥（縮尺1/4）	21
第14図	S D001下層 出土遺物実測図⑦（縮尺1/4）	22
第15図	S D001中層 出土遺物実測図①（縮尺1/4）	23
第16図	S D001中層 出土遺物実測図②（縮尺1/4）	24
第17図	S D001中層 出土遺物実測図③（縮尺1/4）	25
第18図	S D001中層 出土遺物実測図④（縮尺1/4）	26
第19図	S D001中層 出土遺物実測図⑤（縮尺1/4）	27
第20図	S D001中層 出土遺物実測図⑥（縮尺1/4）	28
第21図	S D001中層 出土遺物実測図⑦（縮尺1/4）	29
第22図	S D001中層 出土遺物実測図⑧（縮尺1/4）	30
第23図	S D001中層 出土遺物実測図⑨（縮尺1/4）	31
第24図	S D001中層 出土遺物実測図⑩（縮尺1/4）	32
第25図	S D001中層 出土遺物実測図⑪（縮尺1/4）	33
第26図	S D001中層 出土遺物実測図⑫（縮尺1/4）	34
第27図	S D001中層 出土遺物実測図⑬（縮尺1/4）	35
第28図	S D001中層 出土遺物実測図⑭（縮尺1/4）	36
第29図	S D001中層 出土遺物実測図⑮（縮尺1/4）	37
第30図	S D001中層 出土遺物実測図⑯（縮尺1/4）	38
第31図	S D001中層 出土遺物実測図⑰（縮尺1/4）	39
第32図	S D001上層 出土遺物実測図①（縮尺1/4）	40
第33図	S D001上層 出土遺物実測図②（縮尺1/4）	41
第34図	S D001上層 出土遺物実測図③（縮尺1/4）	42
第35図	S D001上層 出土遺物実測図④（縮尺1/4）	43

第36図	S D001上層 出土遺物実測図⑤ (縮尺 1/4)	44
第37図	S D001層位不明 出土遺物実測図① (縮尺 1/4)	45
第38図	掘立005遺構切り合い図 (縮尺 1/150)	48
第39図	掘立005測量図 (縮尺 1/150)	49
第40図	掘立005側柱断面図① (S P 2~11) (縮尺 1/40)	51
第41図	掘立005側柱断面図② (S P 12~24・1) (縮尺 1/40)	52
第42図	掘立005束柱断面図① (S P 25~36) (縮尺 1/40)	53
第43図	掘立005束柱断面図② (S P 37~49) (縮尺 1/40)	54
第44図	掘立005柱間 (縮尺 1/150)	55
第45図	掘立005出土遺物実測図 (縮尺 1/4)	56
第46図	S K 006測量図 (縮尺 1/20) ・ 出土遺物実測図 (縮尺 1/8)	57
第47図	S K 003測量図 (縮尺 1/40) ・ 出土遺物実測図 (縮尺 1/4)	58
第48図	S K 017 (縮尺 1/40) ・ S P 072・103測量図 (縮尺 1/20) ・ 出土遺物実測図 (縮尺 1/4)	59
第49図	S P 113・050・058出土遺物実測図 (縮尺 1/3)	61

表 目 次

表 1	溝一覧	63
表 2	掘立柱建物一覧	63
表 3	掘立005柱穴一覧	63
表 4	土坑一覧	65
表 5	小穴一覧	65
表 6	S D001下層 出土遺物観察表土製品	66
表 7	S D001下層 出土遺物観察表石製品	72
表 8	S D001中層 出土遺物観察表土製品	72
表 9	S D001中層 出土遺物観察表石製品	87
表10	S D001上層 出土遺物観察表土製品	87
表11	S D001上層 出土遺物観察表石製品	91
表12	S D001層位不明 出土遺物観察表土製品	91
表13	S D001層位不明 出土遺物観察表石製品	92
表14	掘立005出土遺物観察表土製品	92
表15	掘立005出土遺物観察表石製品	93
表16	S K 006出土遺物観察表土製品	93
表17	S K 003出土遺物観察表土製品	93
表18	S K 017出土遺物観察表土製品	93
表19	S P 072出土遺物観察表土製品	93
表20	S P 103出土遺物観察表土製品	94

表21	小穴出土遺物観察表石製品	94
表22	S P 113出土遺物観察表土製品	94

写 真 目 次

卷頭図版 1	調査地遠景（南東より）
卷頭図版 2	調査地（上空より）
卷頭図版 3	掘立005（北西より）
図版 1	1. 調査地完掘状況（拡張前）（北より）
図版 2	2. S D001 検出状況（北より） 3. S D001 遺物出土状況（東より）
図版 3	4. S D001 遺物出土状況（北東より） 5. S D001, S A001・002 検出状況（南西より） 6. S A001・002 完掘状況（北東より）
図版 4	7. 掘立005 検出状況（北西より） 8. 掘立005 完掘状況（北西より）
図版 5	9. 掘立005 S P 4（西より） 10. 掘立005 S P 21（南東より）
図版 6	11. 掘立005 S P 5（北西より） 12. 掘立005 S P 5 柱痕跡部分（北西より）
図版 7	13. 掘立005 S P 6（南西より） 14. 掘立005 S P 6（西より）
図版 8	15. S K006 土器棺出土状況（北西より） 16. S K006 裏込めの状況（北より）
図版 9	17. S K003（南東より） 18. S P 072（北東より）
図版10	19. S D001下層 出土遺物①

- 図版11 20. S D001下層 出土遺物② (上)
S D001中層 出土遺物① (下)
- 図版12 21. S D001中層 出土遺物②
- 図版13 22. S D001中層 出土遺物③
- 図版14 23. S D001中層 出土遺物④
- 図版15 24. S D001中層 出土遺物⑤
- 図版16 25. S D001上層 出土遺物
- 図版17 26. 掘立005 出土遺物
27. S K006 出土遺物
28. S P072・103 出土遺物

第 I 章 はじめに

1. 調査の経過

(1) 調査に至る経緯 (図 2～4)

1996 (平成 8) 年 10 月、森喬氏より、宅地造成に伴う埋蔵文化財の確認願いが、松山市教育委員会文化教育課 (以下、文化教育課) に提出された。

確認願いが申請された松山市樽味 4 丁目 230 番地は、松山平野でも有数の遺跡地帯である『樽味四反地遺物包蔵地』内に所在する。申請地は石手川中流域南岸に位置する。西周辺には、弥生時代から古墳時代の集落関連遺構が多数確認されている樽味遺跡群【樽味四反地遺跡 1～5 次調査、樽味高木遺跡 1～3 次、樽味立添遺跡 1 次、樽味遺跡 I～III 次】などが存在する。また、南周辺にも東本遺跡や桑原遺跡などが存在する。

よって、文化教育課は、申請地内の埋蔵文化財の調査について協議を行った。その結果、事前に試掘調査を実施することになった。試掘調査は、1996 (平成 8) 年 10 月 29 日に実施した。申請地内に 1 本のトレンチを設置し、土層観察や遺構・遺物の確認を行った。その結果、遺物包含層と竪穴式住居址、溝、土坑、柱穴などの生活関連遺構が確認された。

この結果を受け、文化教育課と申請者の二者は協議を重ね、発掘調査を実施することになった。

調査は、弥生時代から中世にいたるまでの集落構造の解明や古地形・古環境復元を主目的とし、文化教育課が 1998 (平成 10) 年 5 月 20 日より開始した。

また、調査地近隣の樽味立添遺跡 2 次調査地も併行して発掘調査した。期間は 1998 (平成 10) 年 7 月 22 日～9 月 1 日で、調査面積は 292m²である。

(2) 調査組織

調査地 松山市樽味 4 丁目 230 番地

遺跡名 樽味四反地遺跡 6 次調査

調査期間 1998 (平成 10) 年 5 月 20 日～同年 12 月 28 日

調査面積 999m²

調査組織 (平成 10 年度)	松山市教育委員会	教 育 長	池 田 尚 輝
	事務局	局 長	大 野 喜 幸
		次 長	岩 本 一 夫
		次 長	丹 下 正 勝
	教育委員会	課 長	松 平 泰 定

刊行組織 (平成 14 年度)	松山市教育委員会	教 育 長	中 矢 陽 三
	事務局	局 長	武 井 正 浩
		企 画 官	川 口 岸 雄
		企 画 官	石 丸 修
		課 長	馬 場 洋

(3) 調査経過

【調査】発掘調査は1998年5月25日から重機で表土剥ぎを開始した。まず、試掘調査に基づいてⅣ層までの掘削を行った。その後、人力で遺構の検出作業を行った。検出した遺構の記録や、遺物の取り上げを行うために、愛媛大学の構内に設置されている平面直角座標Ⅳ系基準点から調査区内に座標点を移動し、これを基準とした4mの方眼調査区割りを設定した。

遺構は、Ⅴ層を基盤とする面で確認した。弥生時代や古墳時代の竪穴住居址、溝、柵、掘立柱建物、土器棺墓、土坑や小穴などや中世の掘立柱建物、土坑や小穴などを確認することができた。これらの検出状況の写真撮影を行い、遺構ごとに掘削、測量、写真撮影と調査を進めていった。調査は北部から始め、南部に進行していった。

出土遺物は、主な遺構に限り出土状況の測量図を作成し取り上げた。その他はドット方式とグリッドで取り上げた。S D001の遺物は、出土状況を写真撮影し、その写真を基に主な遺物を番号を付けて取り上げた。また、住居址の重複関係の確認を行っていたところ、複数の住居址から滑石製白玉、ガラス小玉、炭化した種子、骨片などを確認した。この為、これら住居址埋土を洗浄した。

調査区南部の住居址群5・6の完掘後、床面から大型掘立柱建物(掘立005)の柱穴が確認された。

この掘立005は、S D001やS A001・002らと出土遺物や方位が共通することから、「溝に囲まれた首長居館」の可能性が出てきた。この為急遽、調査区南西部を拡張し、掘立柱建物の規模などを調査することとなった。

拡張の結果、大形掘立柱建物(掘立005)と、その他に掘立008(古代)、古墳時代の竪穴住居址群、S K017・019や小穴が確認できた。11月27日には、遺構検出写真撮影を行い、各遺構ごとの掘削、測量、写真撮影と調査を進めていった。

12月15日には南西部拡張区の完掘写真撮影を、同月22日には掘立005の航空写真撮影を行った。

また、掘立005の柱穴、S P 6の土層剥ぎ取り作業を行った。現地説明会は調査中に2度開催した。

全ての発掘作業は12月23日には終了し、埋め戻しを開始した。現場の撤収は12月28日に終了した。

【現地説明会】発掘調査中には、2度現地説明会を開催した。1回目の説明会は10月17日(土)に行い、調査地の北側の遺構である、重複している住居址やS D001とS A001・002を対象とし、樽味地区の古墳時代中期と古墳時代の初頭ごろの集落についての説明を行った。

2回目の説明会は12月19日(土)に行い、調査地南側の遺構である、大形掘立柱建物跡・掘立005を中心に、首長居館の説明を行った。どちらの説明会にも、地域の住民や考古学ファンなどが集まり、総勢220人にも及ぶ参加者を得た。

2. 環境(樽味遺跡の位置と環境)(図1～3・巻頭図版1)

【地理的環境】今回調査した樽味遺跡のある松山平野は、四国山地の北西部に位置する。この平野は、北東から南西に向かって流れる石手川や、小野川、重信川などで形成された複合扇状地と沖積低地と浜堤からなる。

平野北東部には、石手川があり、高縄山から谷を抜けて西に流れる。石手川が形成した半径約4kmの扇状地中央付近に、今回の樽味四反地遺跡6次調査地がある。調査地は、扇状地の石手川の南

はじめに

岸1.5km先の新期扇状地面に立地する。

この地域は「樽味・桑原地区」と呼称され、松山平野有数の遺跡が発見されている。

今調査地周辺は、調査の北側0.2kmに石手川があり、南側0.1km付近は遺構の密度が薄く、溝や自然流路が弥生時代～古代にかけて多く確認されている。樽味四反地遺跡1次調査地や同遺跡5次調査地より南側は、長年に渡って建物を建てるには、不安定な場所であったことが伺える。その場所は、等高線で確認すると谷部にあたり、立地条件からは、樽味地区の四反地遺跡や高木遺跡のある南北約0.2km幅付近は、川に挟まれた場所であることが分かってきた。

【歴史的環境】ここでは、主に上記の「樽味・桑原地区」の遺跡の動態を紹介する。

旧石器時代 この地域での旧石器時代の遺物は、天山古墳群・東山古墳群でナイフ形石器、経石山古墳で細石器、東本遺跡4次調査でナイフ形石器、釜ノ口遺跡でナイフ形石器と有舌尖頭器が出土している。いずれも後世の遺構に混入した状態や表採遺物である。

縄文時代 早期では、東本遺跡4次調査で槍先形石器・石鏃・スクレイパーが出土している。後期～晩期になると桑原田中遺跡1次調査と三島神社古墳の客土から土器が出土している。

今回調査した遺跡でも、溝から出土した弥生時代の遺物に混じって、晩期の土器が1点、出土地不明で3点出土している。また、古墳時代の竪穴住居址内の、後世の遺構に混入した状態で草創期のナイフ形石器が1点出土した。

この時期後期は石手川の南岸よりも、南海放送など城北地区の方が遺跡も多く確認されている。

弥生時代 前期～中期中葉では、樽味高木遺跡3次調査、東本遺跡4次調査などで出土している。中期後葉～後期からは樽味遺跡1次、樽味高木遺跡2・3次、桑原西稲葉遺跡1次、樽味四反地遺跡2・3・4次、樽味立添遺跡1次でも竪穴住居址や溝といった遺構と遺物が確認されている。この時期は平野内で遺跡の数が急増し、石手川北岸の文京遺跡では、破鏡や大形掘立柱建物址が検出された拠点集落が出現する。

古墳時代 古墳時代初頭では、樽味高木遺跡2・3次、樽味四反地遺跡2～5次、樽味立添遺跡1次で竪穴住居址や掘立柱建物址の遺構と遺物が検出される。特に、樽味立添遺跡1次からは多量の遺物が出土した。

中期～後期では、樽味高木遺跡1・3次、樽味四反地遺跡2・3・4次で多量の竪穴住居址や掘立柱建物址の遺構と遺物が検出され、桑原本郷遺跡では多量の滑石製白玉が出土した。また、集落の東側の丘陵部に桑原竹原古墳、東野お茶屋台古墳群や南集落南側に松山平野最大級規模の前方後円墳である三島神社古墳や経石山古墳が立地する。

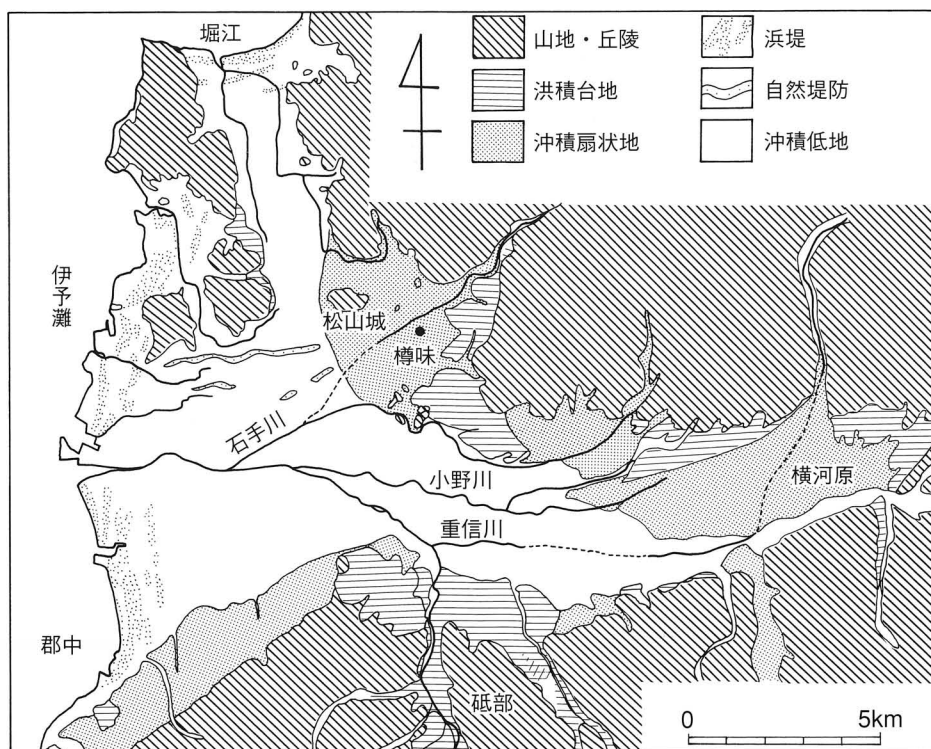
この時期、樽味・桑原地区は最大級規模の古墳や竪穴住居址群が確認されおり、平野内で中心的な地域だったことが伺える。

古代 中村松田遺跡、素鷲小学校で掘立柱建物址、樽味四反地遺跡1・5次で自然流路が検出されている。樽味四反地遺跡5次では、円面硯が4点出土する。

石手川北岸の岩崎遺跡では、緑釉陶器や土馬が出土し、石手寺近くでは内代廃寺や湯の町廃寺跡から瓦が出土する。7世紀代になると、松山平野東部の石手川から南3.5kmに官衙遺跡が出現する。

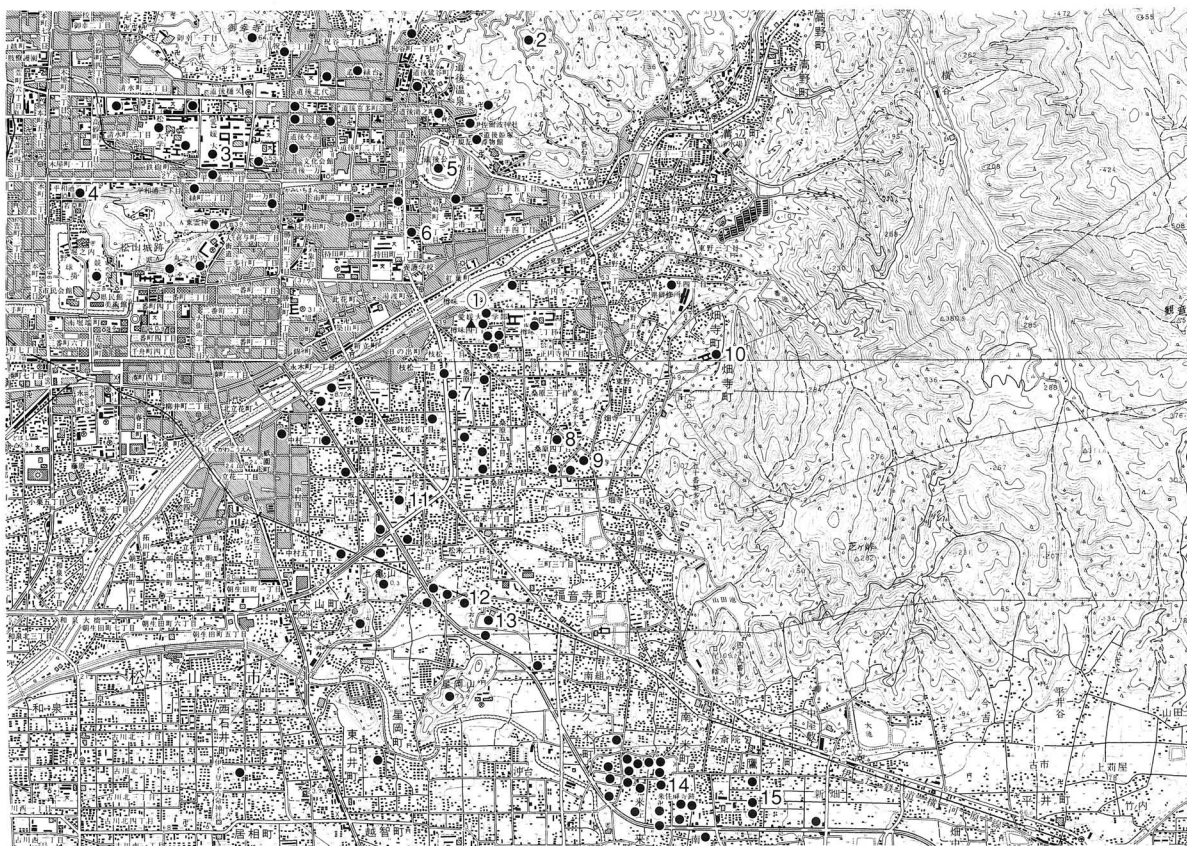
中世 中世では、樽味遺跡1・2次調査で14～16世紀の集落が検出されている。今回調査した遺跡にも、灰褐色系の掘立柱建物址が2棟検出されている。

環 境



- ① 樽味四反地遺跡 6次
- 2 瀬戸風峠古墳群
- 3 文京遺跡
- 4 若草遺跡
- 5 湯築城跡
- 6 岩崎遺跡
- 7 束本・枝松遺跡
- 8 經石山古墳
- 9 三島神社古墳
- 10 畑寺古墳群
- 11 拓南中学校・釜ノ口遺跡
- 12 福音寺遺跡
- 13 福音小学校遺跡
- 14 久米高畑・来住廃寺遺跡
- 15 来住町遺跡

第1図 松山平野地形概要図 (平井幸弘氏・1993) に一部加筆



第2図 調査地周辺の遺跡

国土地理院
「松山北部」「松山南部」
(縮尺 1/50,000)

はじめに

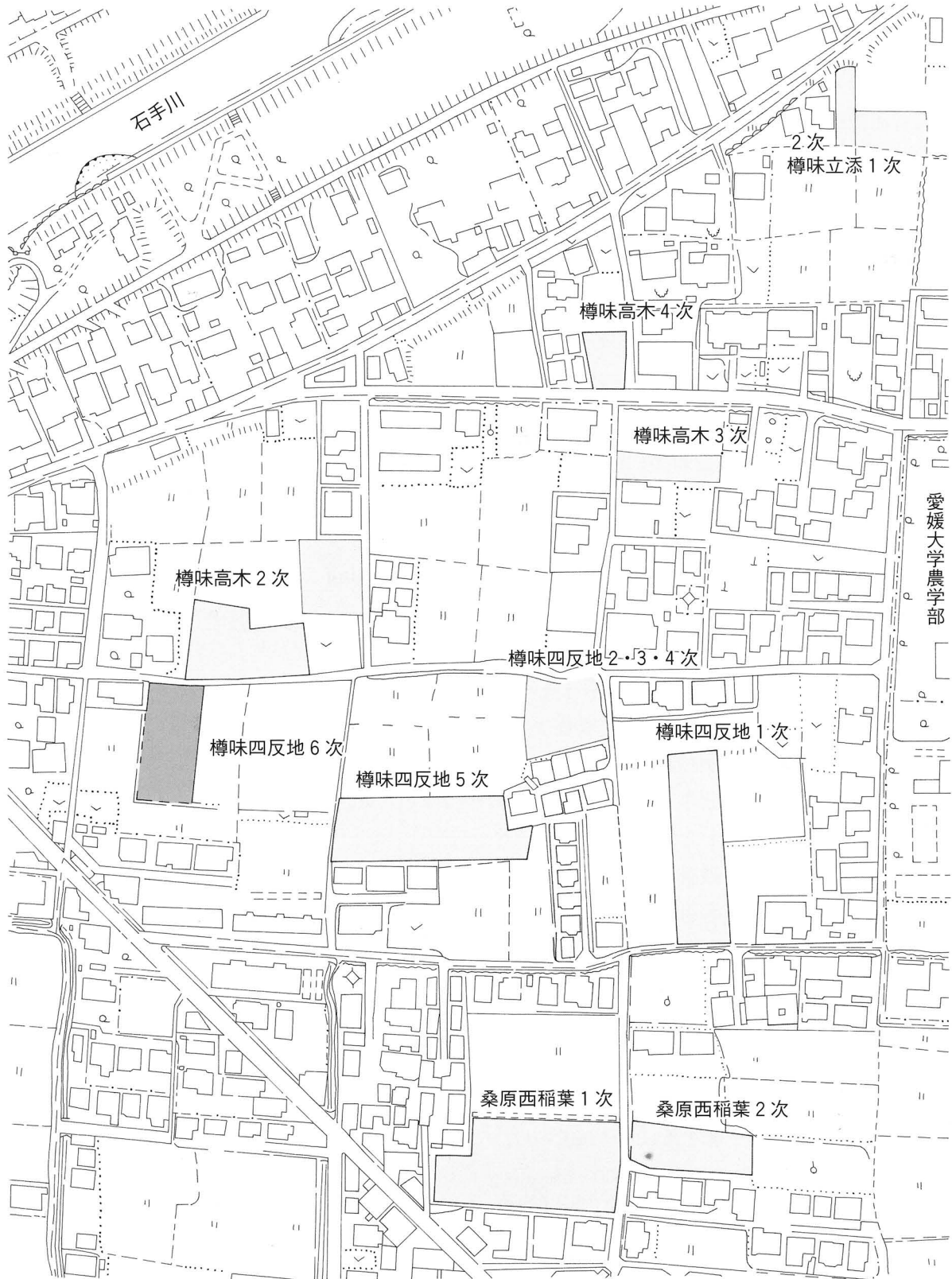
石手川北岸では、樽味遺跡と同時期の14世紀に、松山平野を支配していた河野氏の築いた湯築城址がある。

【参考文献】

- 1：鹿島愛彦・高橋治郎「松山平野とその周辺の地質」『四国松山平野の環境地質学研究（1）』愛媛大学教養部紀要、自然科学 1980年
- 2：平井幸弘「鷹子遺跡および樽味遺跡をとりまく地形環境」『鷹子・樽味遺跡の調査』愛媛大学埋蔵文化財調査室 1989年
- 3：平井幸弘「石手川扇状地城北地区における沖積低地の地形発達と考古遺跡の立地環境」愛媛大学教育部紀要、9 1991年
- 4：平井幸弘他「第2章 山と川・第5章 平野」『風景のなかの自然地理』古今書院 1993年

参考文献（周辺地域の報告書）

- 1：森光晴・長井数秋他『三島神社古墳』松山市文化財報告書 1972年
- 2：森光晴『浮穴・西石井荒神堂・東本Ⅱ・Ⅲ・桑原高井遺跡』松山市文化財報告書14 1980年
- 3：愛媛県史編集室『愛媛県史 資料編考古』 1986年
- 4：『松山市文化財調査年報Ⅰ』松山市教育委員会・（財）松山市教生涯学習振興財団松山市埋蔵文化財センター 1987年
- 5：宮本一夫編『鷹子・樽味遺跡』愛媛大学埋蔵文化財調査報告、Ⅰ 1989年
- 6：梅木謙一・橋本雄一編『桑原地区の遺跡』松山市教育委員会・（財）松山市教生涯学習振興財団松山市埋蔵文化財センター 1992年
- 7：田崎博之編『樽味遺跡Ⅱ』愛媛大学埋蔵文化財調査報告、Ⅳ 1993年
- 8：梅木謙一・宮内慎一編『桑原地区の遺跡Ⅱ』松山市教育委員会・（財）松山市教生涯学習振興財団松山市埋蔵文化財センター 1994年
- 9：『松山市文化財調査年報、Ⅶ』松山市教育委員会・（財）松山市教生涯学習振興財団松山市埋蔵文化財センター 1995年
- 10：高尾和長編『東本遺跡4次調査・枝松遺跡4次調査』松山市教育委員会・（財）松山市教生涯学習振興財団松山市埋蔵文化財センター 1996年
- 11：田崎博之他編『樽味遺跡Ⅲ－樽味遺跡3次調査報告－』愛媛大学埋蔵文化財調査室 1997年
- 12：梅木謙一編『中村松田遺跡』松山市教育委員会・（財）松山市教生涯学習振興財団松山市埋蔵文化財センター 1997年
- 13：河野史知・武正良浩編『桑原地区の遺跡Ⅲ』松山市教育委員会・（財）松山市教生涯学習振興財団松山市埋蔵文化財センター 1997年
- 14：宮内慎一・相原秀仁編『岩崎遺跡』松山市教育委員会・（財）松山市教生涯学習振興財団松山市埋蔵文化財センター 1998年
- 15：高尾和長編『樽味四反地遺跡—5次調査—』松山市教育委員会・（財）松山市教生涯学習振興財団松山市埋蔵文化財センター 2002年
- 16：栗田茂敏編『桑原地区の遺跡Ⅳ』松山市教育委員会・（財）松山市教生涯学習振興財団松山市埋蔵文化財センター 2002年



第3図 調査地位置図

第Ⅱ章 遺構と遺物

1. 土層（基本層序）（図5・6・40）

本調査区の基本層序は、拡張以前の東西南北の壁面4面と大型掘立柱建物の柱穴断面^形（~~大40~~図・SP6）^{SP6}を利用し、土層断面観察用に実測と記録を行った。当調査区の土層堆積状況は5層に大別することができた。

遺構の検出は、V層（地山）上面にて行った。各層の特徴は以下のとおりである。

- I 層：現代の耕作土。この耕作地は、二毛作を行っており、調査直前は小麦を栽培していた。厚さは18cmを測る。暗灰黄色（2.5Y4/2）の粘質土。
- II-①層：調査区の北西部と南部の一部に分布する。灰褐色系（中世）の柱穴に掘り込まれている。褐灰色（10Y R5/1）に、明赤褐色（5 Y R5/8）が40%入る。粘性が強い。
- II-②層：調査区全域に分布し、II-①層と同様に灰褐色系の柱穴に掘り込まれている。灰黄褐色（10Y R4/2）に褐灰色（10Y R5/1）が40%入る。粘性が強い。
- III 層：調査区全域に分布し、暗褐色系の柱穴に掘り込まれている。黒褐色（10Y R2/3）と（10Y R2/2）が50%ずつ入る。粘性が強い。遺物包含層で、IV層と土色・質が類似している。
- IV 層：調査区の南部に分布し、古墳時代の住居址や掘立005などに掘り込まれる。極暗褐色（7.5Y R2/3）に褐灰色（10Y R5/1）が20%入る。直径1～2cm大の長石や石英が多量に入る土である。やや粘質土だが、I～II層に較べてパサパサしている。遺物包含層。
- V-①層：いわゆる地山にあたる。調査区全域に及ぶ。無遺物層。褐色（7.5Y R4/6）に黒褐色（10Y R2/2）が20%入る。粘質土。直径1～2cm大の長石や石英が多量に入る土である。IV層同様にパサパサしている。
- V-②層：調査区全域に分布し、無遺物層で、砂層になる。灰黄褐色（10Y R4/2）。標高38.00m前後でV-①層から変わる。
- V-③層：無遺物層で、砂層。褐灰色（10Y R6/1）で、直径10cm未満の河原石を多く含む。
- V-④層：無遺物層で、砂層。褐灰色（7.5Y R6/1）で、直径5cm未満の河原石を少量含む。

2. 遺構と遺物（図4～49）

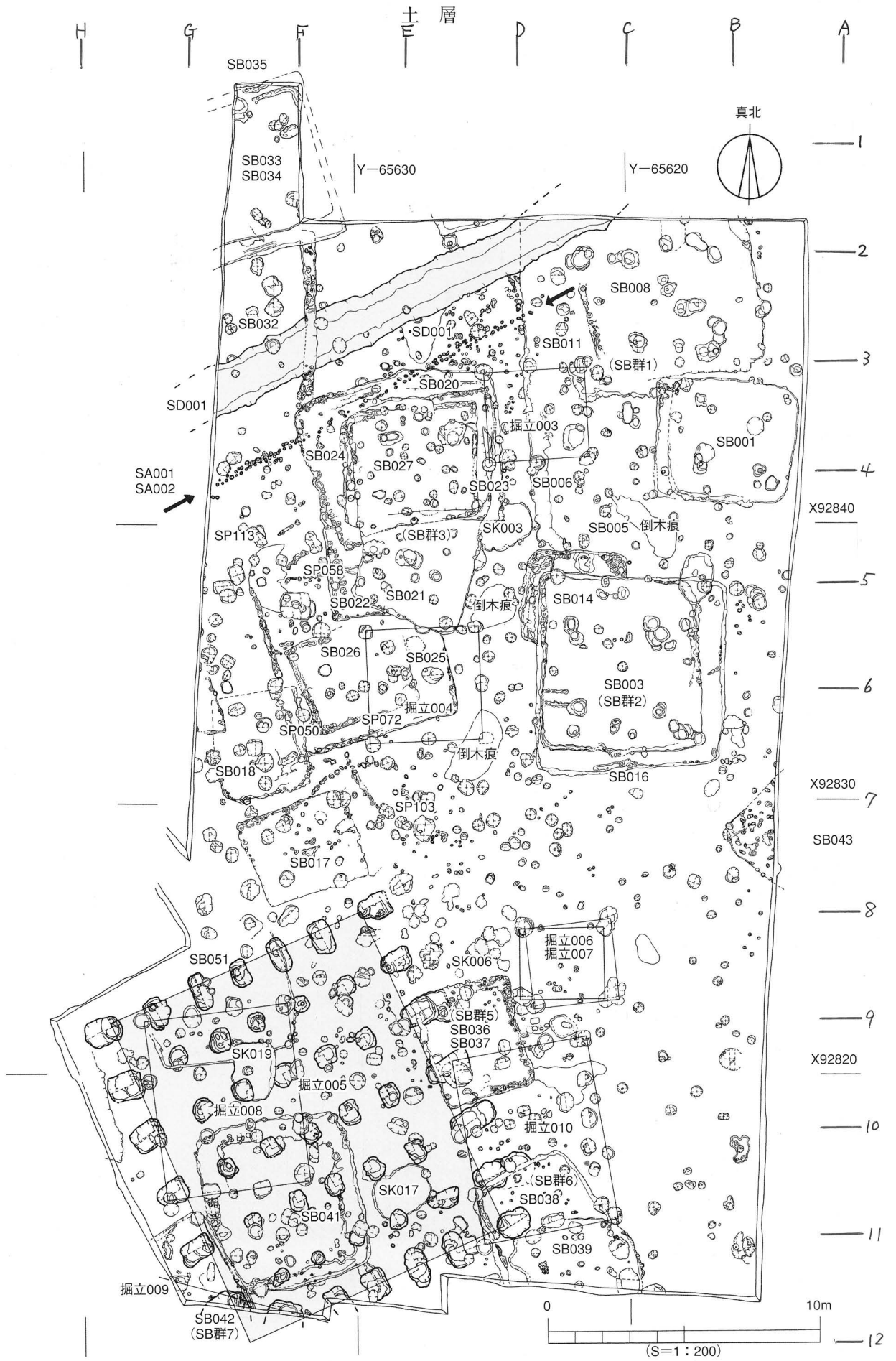
本調査で確認した遺構は、弥生時代～近世、遺物は縄文時代～近世までである。このうち、今回の報告書では、弥生時代～古墳時代初頭までの遺構と遺物を報告してゆく。

この時期の相当する遺構は以下のとおりである。

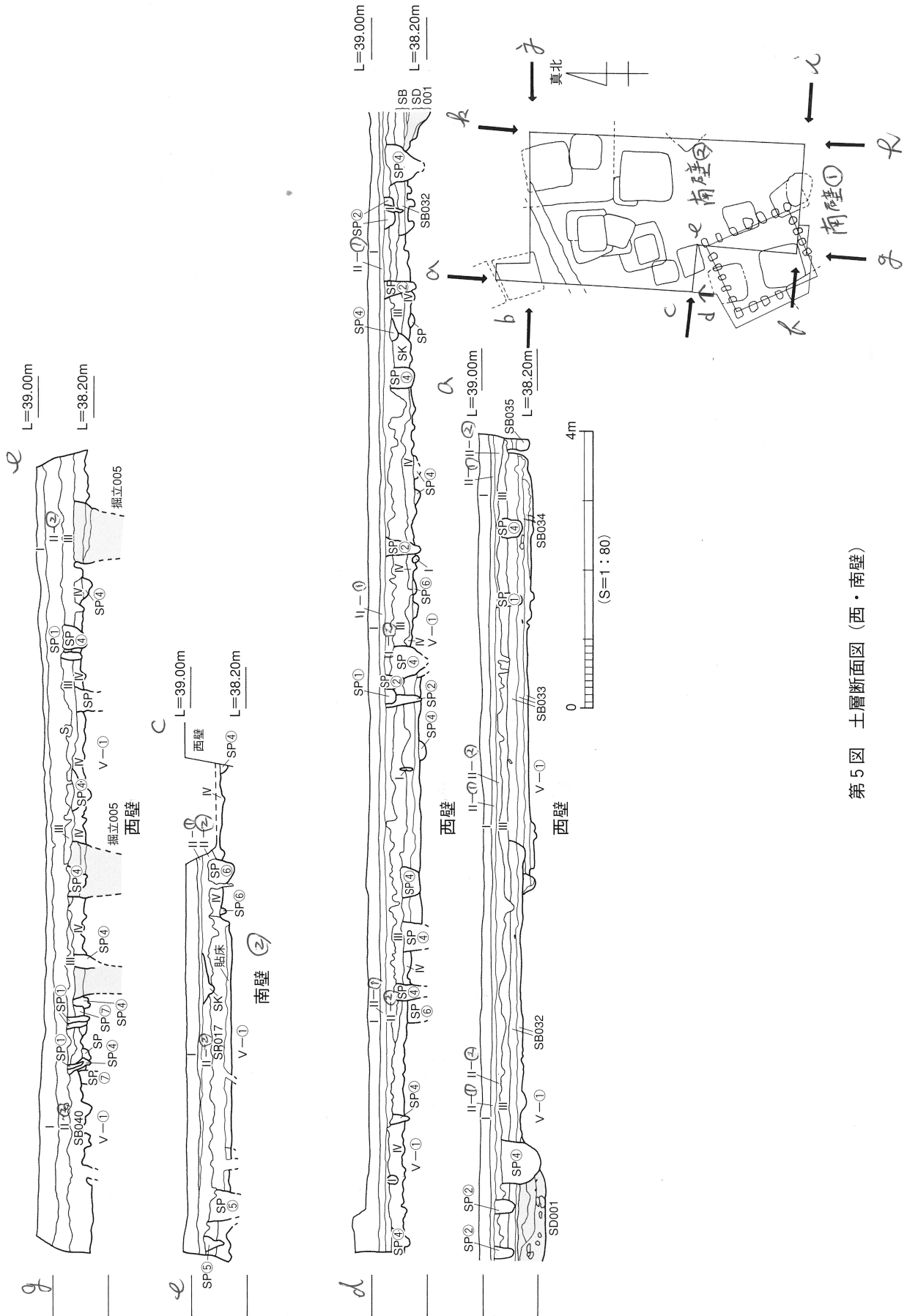
壕1条（S D001）・柵2条（S A001・002）・掘立柱建物1棟（掘立005）・土坑3基（S K003・006・017）・小穴5基（S P050・058・072・103・113）

（1）S A001・S A002（図4・7・図版3）

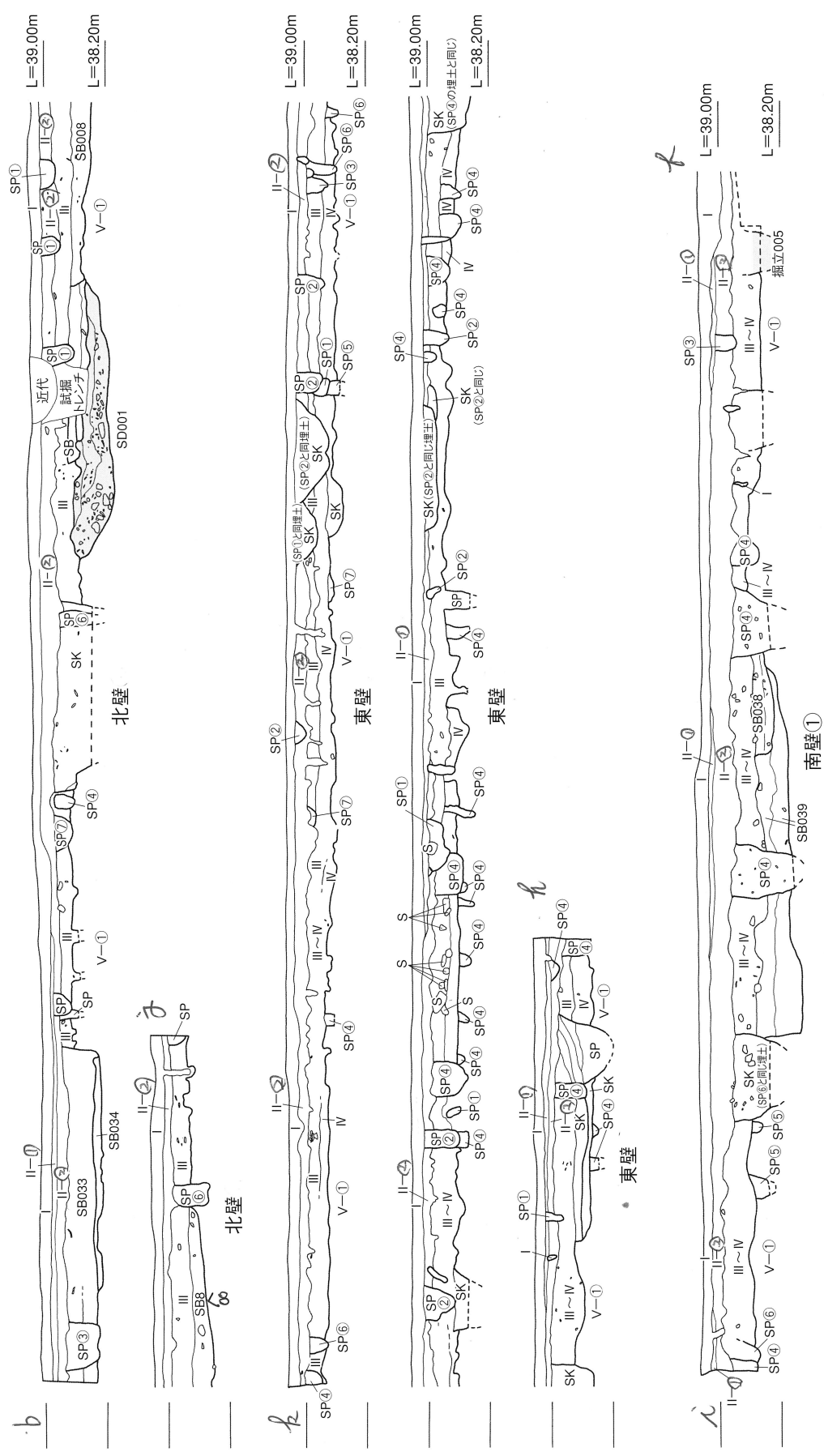
S A001・002は、S D001と伴に、大型掘立柱建物の掘立005を方形区画する可能性のある柵である。調査区北部のC2、D2・3、E3、F3・4区にかけて位置する。S D001の南側、約1m



第4図 遺構配置図



第5図 土層断面図(西・南壁)



第6図 土層断面図 (北・東・南壁)

遺構と遺物

沿いに、ほぼ平行に、2条確認できた。S A001・S A002は、第V-①層上面で検出した。他の遺構との切り合い関係は、掘立001（中世）、S B007・S B008・S B010・S B011・S B012・S B020・S B024・S B028（古墳時代）に切られる。

S A001は直径0.08～0.15mの小穴が、0.12m前後の間隔で直線に連なる。検出長は12.9m、深さは検出面より0.06～0.2mを測る。主軸の方位はN-60°-Eで、S D001の主軸方位N-65.5°-Eとは若干異なる。小穴の断面形態は、垂直と傾斜のものが半々にある。傾斜方向は、東西南北の四方に向いており、規則性はない。埋土は黒褐色（10Y R3/2）の粘質土で、出土遺物はない。

S A002もS A001と同様に、直径0.08～0.15mの小穴が0.12m前後の間隔で連なる。S A001と比べて若干不揃いに連なる。検出長は12.9m、深さは検出面より0.06～0.22mを測る。主軸の方位はN-56°-Eで、S D001の主軸方位N-65.5°-Eとは若干異なる。小穴の断面形態は、垂直のものが殆どで、傾斜のものが少量確認できた。傾斜方向は四方に向き、規則性は確認できない。埋土は、黒褐色（10Y R3/2）の粘質土で、出土遺物はない。

S A001とS A002との間は主軸角度が異なる分、幅が変わり、その距離は0～0.18mを測る。

2つの柵は切り合い関係が殆どない。このため、同時に存在していたか、建て替えられたものか不明である。また、遺物は出土していない。配置と方位から、S D001と同時期と考える。

(2) S D001 (図4・7～37・図版1～3・10～16・表1・6～13)

S D001は、S A001・002と共に、大形掘立柱建物の掘立005を方形区画する可能性のある溝である。今回の調査では、大形掘立柱建物の北側部分を調査した。

S D001は、調査区北部のC・D1～2、E・F2～3区にかけて位置し、第V-①層上面で検出した。床面付近の標高38.00m以下では、第V-②層の砂層を切り込んでいる。

溝は直線で、主軸の方位はN-65.5°-E、北東から南西方向に走る。規模は検出長16.5m、幅は検出面で最大幅19.0m、最小幅16.1m。深さは検出面より0.4～0.64mである。

溝の掘り方は、断面形態が舟底状になる。底面は北東から南西方向にむけて高低差がある。途中でやや凹凸している。

他の遺構との切り合い関係は、掘立001（中世）、S B008・S B010・S B012・S B032（古墳時代）、S P219～224（古墳時代～中世）に切れ、S P225～228（時期不明）とS D002（時期不明）を切る。

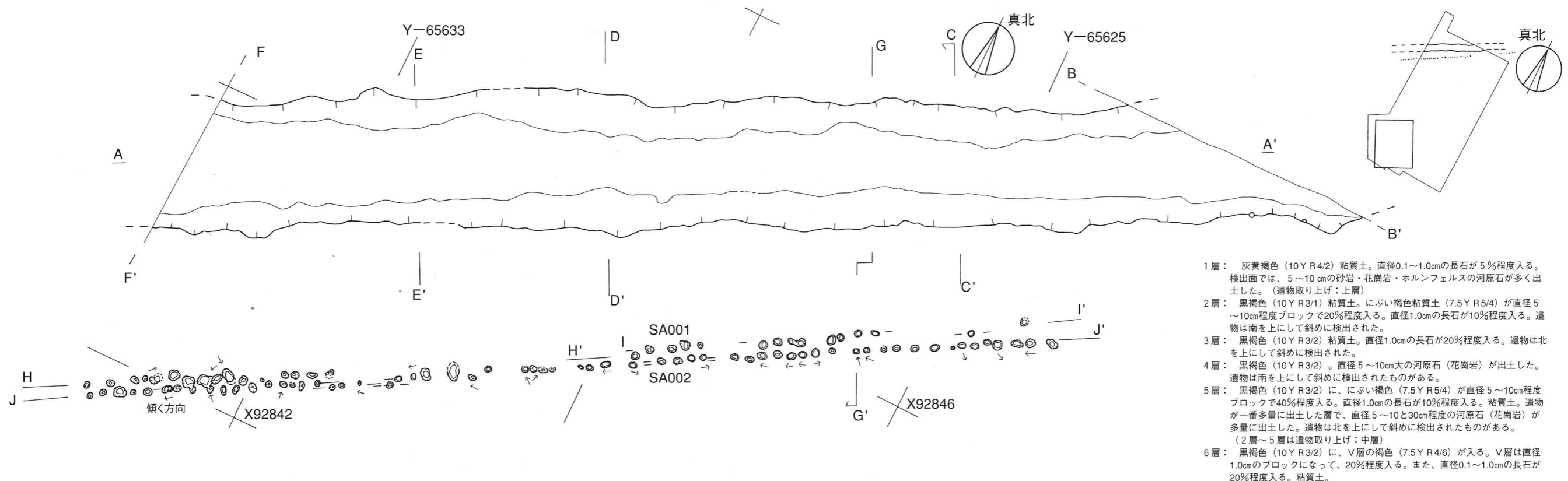
埋土の観察は、調査で北壁と西壁沿いの2カ所に幅50cmのトレンチを設定し、次に溝に直交するトレンチを2カ所設定した。土層観察の結果、埋土は**7**層に分層できた。土層は以下のとおりである。

【土層観察】

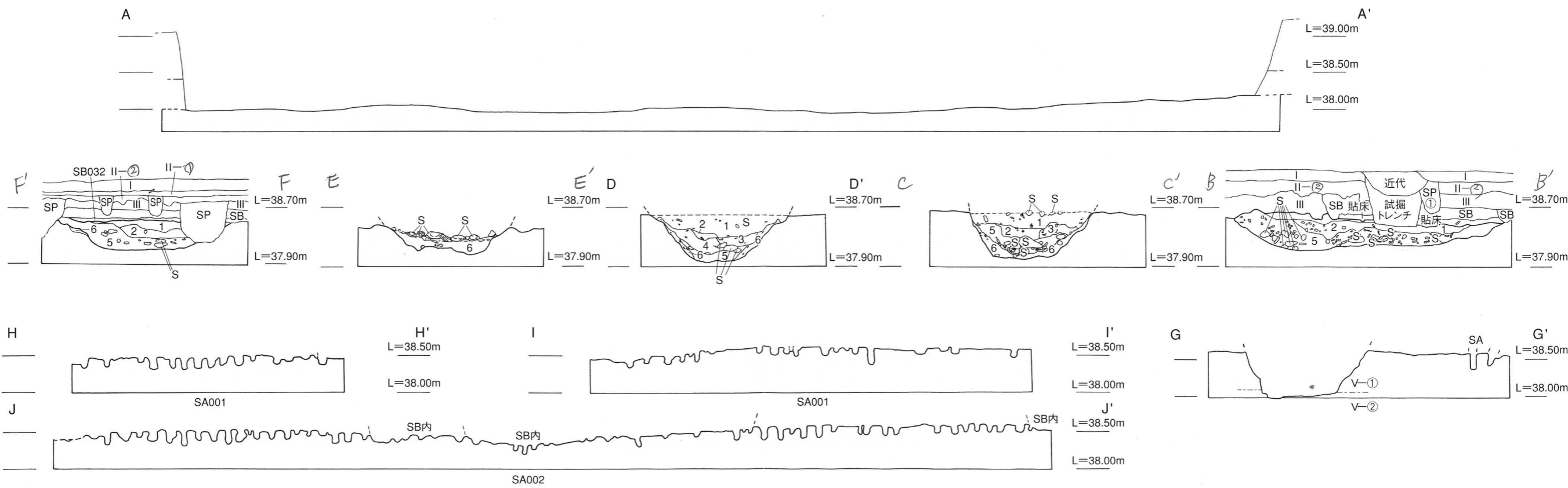
1層：灰黄褐色（10Y R4/2）の粘質土。直径0.1～1.0cmの長石が5%程度入る。検出面では、5～10cmの砂岩・花崗岩・ホルンフェルスの河原石が多く出土した。（遺物取り上げ：上層）

2層：黒褐色（10Y R3/1）に、にぶい褐色（7.5Y R5/4）が直径5～10cm程度ブロックで20%程度入る。粘質土。直径1.0cmの長石が10%程度入る。遺物は斜面に貼り付いて検出された。（2層～5層は遺物取り上げ：中層）

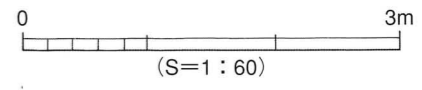
3層：黒褐色（10Y R3/2）の粘質土。直径1.0cmの長石が20%程度入る。遺物は斜面に貼り付いて



- 1層： 灰黄褐色（10Y R4/2）粘質土。直径0.1~1.0cmの長石が5%程度入る。検出面では、5~10cmの砂岩・花崗岩・ホルンフェルスの河原石が多く出土した。（遺物取り上げ：上層）
- 2層： 黒褐色（10Y R3/1）粘質土。にぶい褐色粘質土（7.5Y R5/4）が直径5~10cm程度ブロックで20%程度入る。直径1.0cmの長石が10%程度入る。遺物は南を上にして斜めに検出された。
- 3層： 黒褐色（10Y R3/2）粘質土。直径1.0cmの長石が20%程度入る。遺物は北を上にして斜めに検出された。
- 4層： 黒褐色（10Y R3/2）。直径5~10cm大の河原石（花崗岩）が出土した。遺物は南を上にして斜めに検出されたものがある。
- 5層： 黒褐色（10Y R3/2）に、にぶい褐色（7.5Y R5/4）が直径5~10cm程度ブロックで40%程度入る。直径1.0cmの長石が10%程度入る。粘質土。遺物が一番多量に出土した層で、直径5~10と30cm程度の河原石（花崗岩）が多量に出土した。遺物は北を上にして斜めに検出されたものがある。（2層~5層は遺物取り上げ：中層）
- 6層： 黒褐色（10Y R3/2）に、V層の褐色（7.5Y R4/6）が入る。V層は直径1.0cmのブロックになって、20%程度入る。また、直径0.1~1.0cmの長石が20%程度入る。粘質土。



第7図 SD001・SA001・SA002・測量図



検出された。

- 4層：黒褐色（10Y R3/2）の粘質土。直径5～10cm大の河原石（花崗岩）が出土した。遺物は斜面に貼り付いて検出されたものがある。
- 5層：黒褐色（10Y R3/2）に、にぶい褐色（7.5Y R5/4）が直径5～10cm程度ブロックで40%程度入る。粘質土で、直径1.0cmの長石が10%程度入る。遺物が一番多量に出土した層で、直径5～10cmと30cm程度の河原石（花崗岩）が多量に出土した。遺物は斜面に貼り付いて検出されたものがある。
- 6層：黒褐色（10Y R3/2）に、V層の褐色（7.5Y R4/6）が入る。V層は直径1.0cmのブロックになって、20%程度入る。また、直径0.1～1.0cmの長石が20%程度入る。粘質土。（遺物ヒメジ：下層）

【遺物出土状況】遺物は1～~~7~~⁶層の各層から出土している。遺物の取り上げや埋土の掘り下げは、1層を「上層」、2～5層を「中層」、6～~~7~~層を「下層」として掘削を行った。また、北東からトレンチ^{の溝}ごとに1・2・3区にわけて遺物の取り上げを行った。（1区：B～L, 2区：C～D, 3区：D～F）

遺物は、すべて破片出土であり、完形品はなかった。各層における遺物の出土状況は、上層では直径5～10cm大の土器片と河原石が出土した。その出土量は中層ほど多くない。1～3区まで同様の出土状況である。

中層は、場所によって出土状況が異なる。1区では遺物と河原石で埋め尽くされるほど多量に出土した。2区では北壁斜面に貼り付いて出土している。河原石は少なく、土器片が主を占める。

1・3区と較べて土器の大きさが直径5cm程度と小さい。3区は、1区ほど多量ではないが、2カ所で遺物集中箇所があった。直径10～40cm大の河原石と10cm大の土器片が出土している。下層では、床面中央部に僅かに出土した。

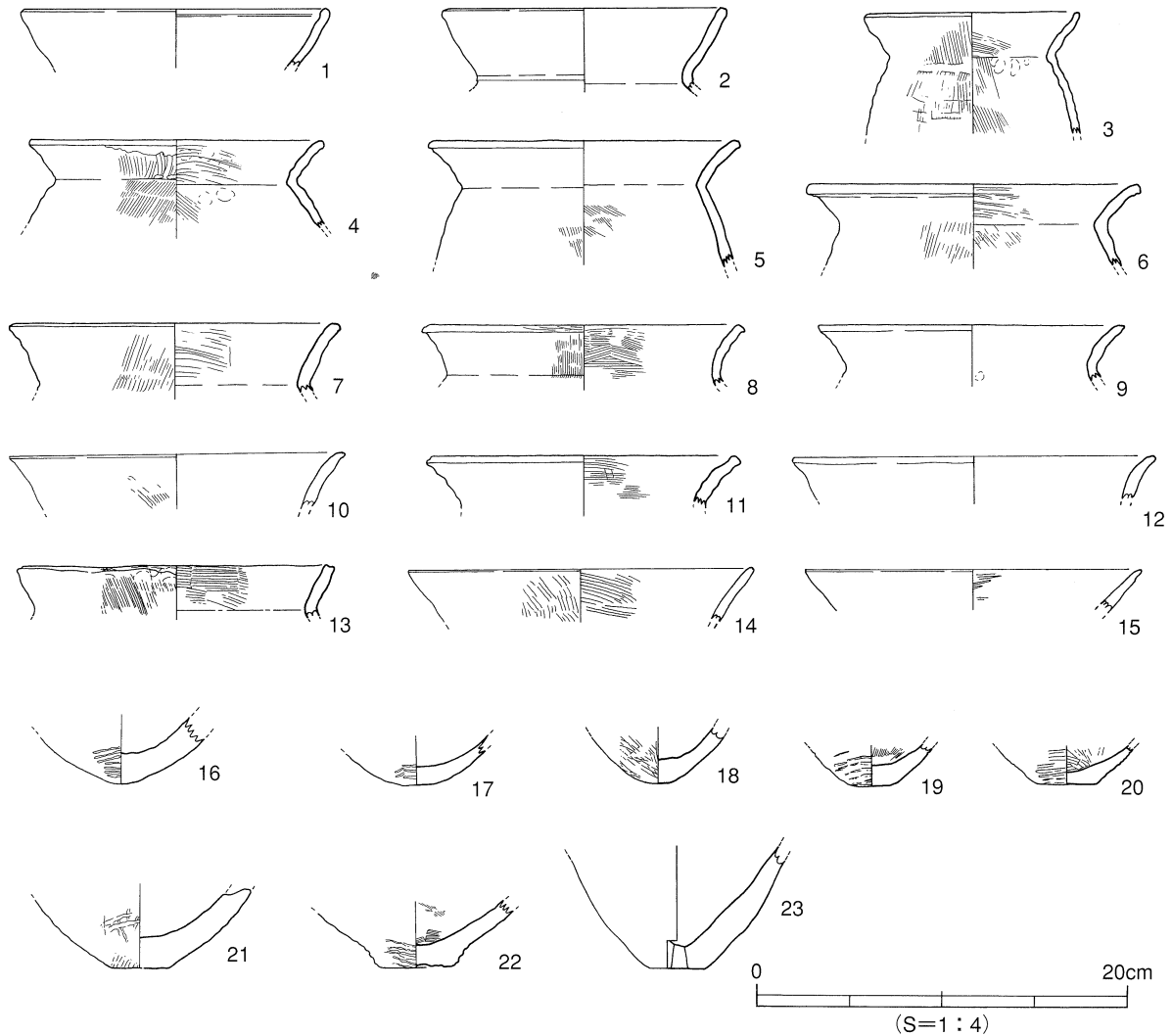
【埋没過程】埋没過程は、上記の土層観察の土質・色と遺物の出土状況から判断した。

まず~~7~~⁶層が両斜面に堆積する。黒褐色の粘質土に、V層の褐色粘質土がブロックで入る土である。~~二次の6層は、7層と同質色の土であり、V層の入り方が若干少ない。~~北壁と西壁面では6層は確認されていない。6～~~7~~層は、V層が雨風によって自然に溶けた土である。

5～2層は黒褐色の粘質土で、ほぼ同質色の埋土。短期間で堆積した層である。5層は北側斜面に堆積する。この層は、遺物と直径10～30cm大の河原石が多量に出土した。4層は反対側の南斜面に堆積する。3層も4層同様に南斜面に堆積する。各層とも、遺物は各斜面に貼り付く様に出土している。2層は溝の5～3層の堆積でできた中央部の窪みに堆積し、上面は平坦になる。1層は、灰黄褐色の粘質土で、溝全体を覆う。

埋土の堆積状況と出土遺物より、溝の北側から土砂と共に、遺物と河原石を埋め込んでいる。その後は南側から、そして中央の窪地に土を埋め、最後に全体を覆うよう平坦に埋めている。掘り直しはなく、~~7~~⁶層の何れも粘質で、砂層は確認していない。このことから滞水状態ではなかったと推測する。

遺構と遺物



(弥生時代後期中葉～古墳時代初頭)

第8図 SD001下層 出土遺物実測図①

【出土遺物】 遺物は、上・中・下層から出土している。出土数は中層が一番多く、下層、上層の順であった。各層とも、縄文時代晩期～古墳時代初頭までの広範囲時期の遺物が出土している。このため、各層ごとに時期別に説明する。

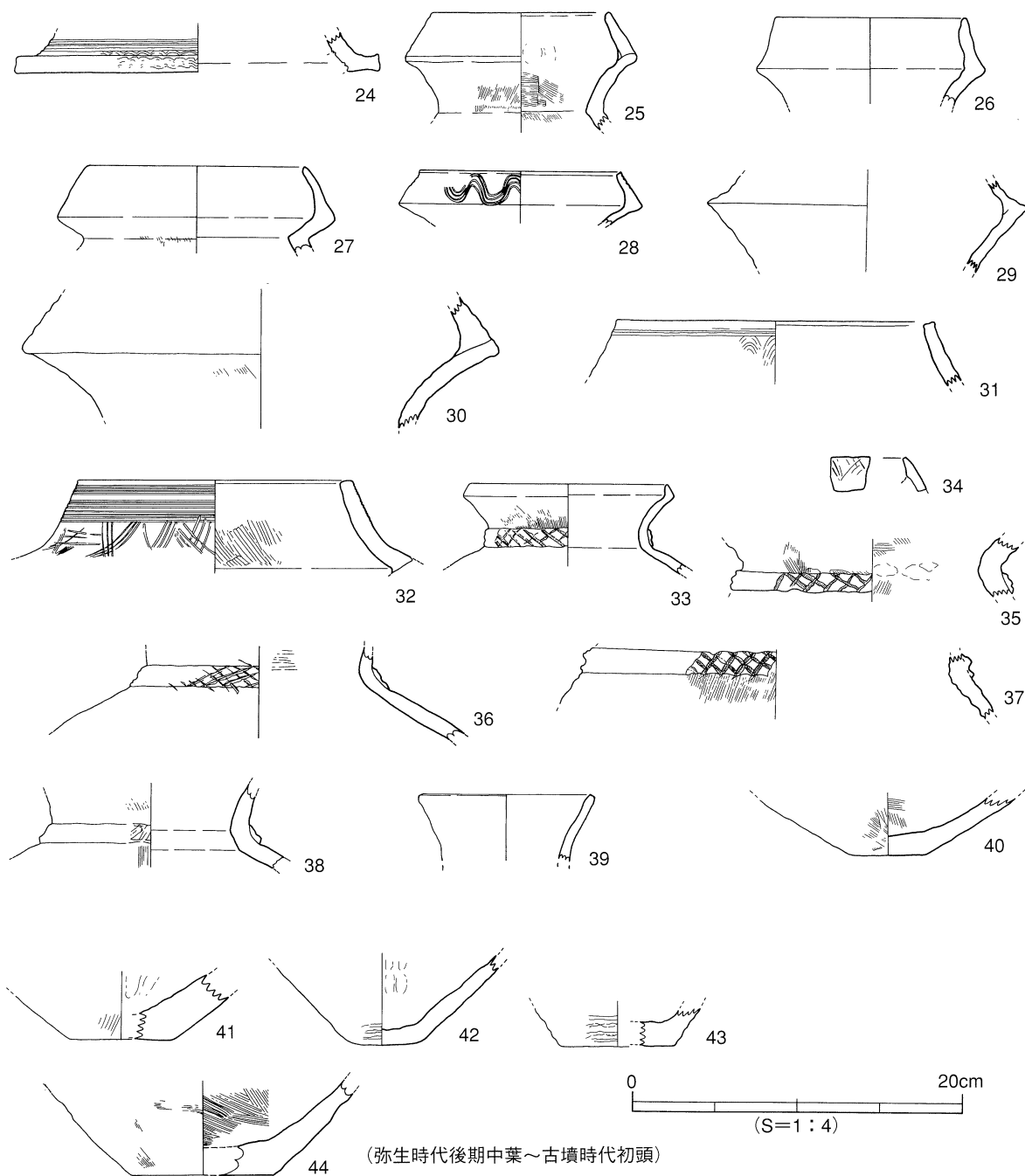
~~各グループの~~時期は、弥生時代後期中葉～古墳時代初頭、弥生時代中期～後期前葉、弥生時代前期末～中期初頭、弥生時代の土製品、弥生時代の石器、縄文時代、時期不明土器になる。

なお、時期編年は伊予中部地域中予中部編年・梅木謙一『弥生土器の様式と編年四国編 3 伊予中部地域』菅原康夫・梅木謙一編 2000年と寺沢薫編『矢部遺跡』1986年を参考にした。

SD001下層出土遺物 (図8～14・図版2～5・10・11・表6・7)

SD001下層からは、甕形土器、壺形土器、鉢形土器、高坏形土器、支脚形土器、ジョッキ形土器、紡錘車、石器が出土している。

①弥生時代後期中葉～古墳時代初頭 (中予中部編年第V-2～4様式・布留0～1式) (図8～11)

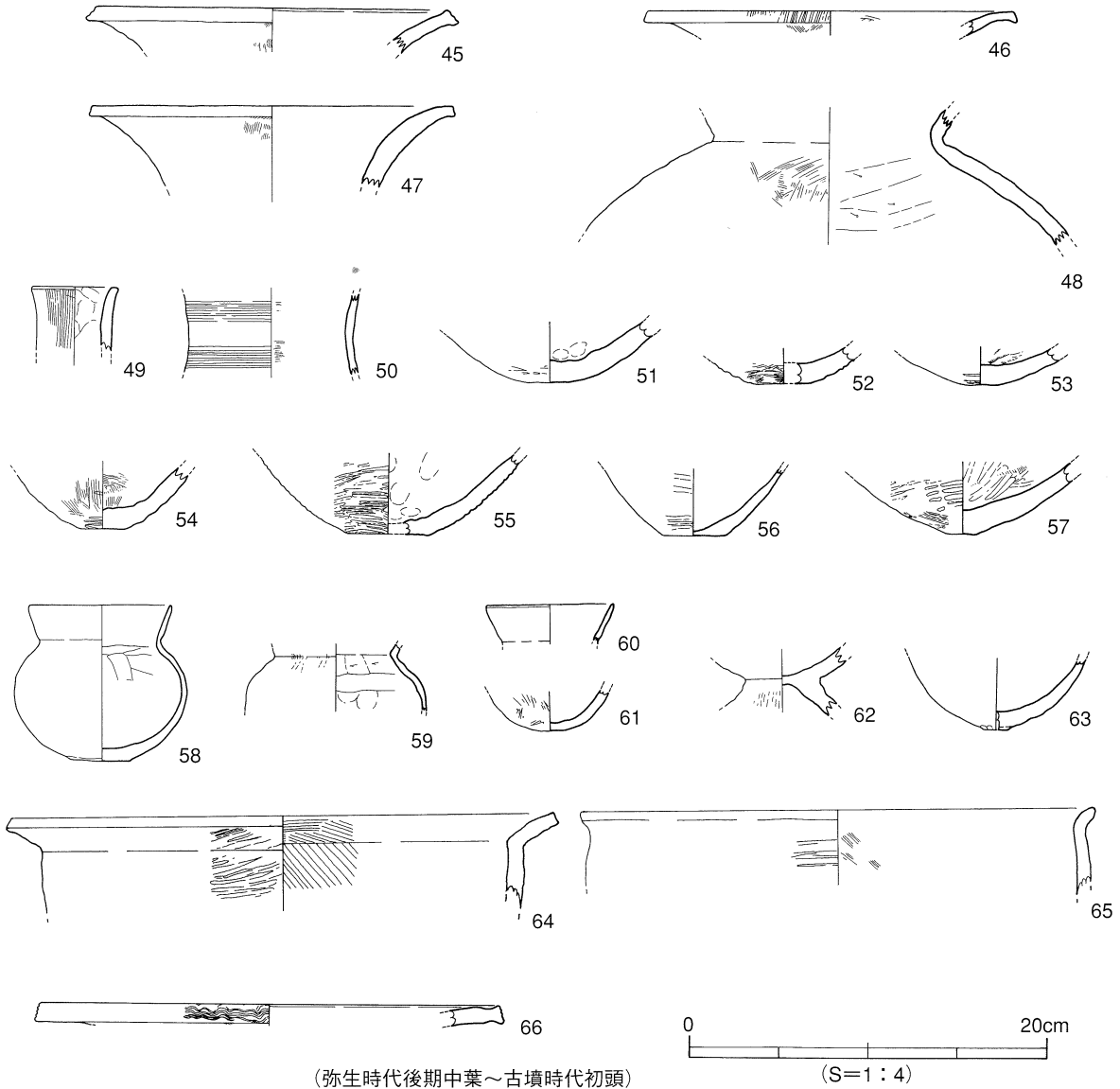


第9図 SD001下層 出土遺物実測図②

甕形土器 (1～22) 1～3は口縁部が内湾する。1は口縁端部内面が肥厚する布留式甕で、布留式0～1式の土器である。2・3は在地甕である。1・2は古墳時代初頭の時期である。3の胴部上半は張りが弱い。4～13は口縁部が外反する。胴部上半の形態からは、4の張りが強いものと、5・6の張りが弱いものに分かれる。7～12の胴部上半の状態は不明である。13～15は口縁部が外方に直行し、14・15は端部が尖る。16～22は底部で、16は尖底。17は丸底。18～22は平底。22は底部が突出する。

甑形土器 (23) 胴部下半は尖り気味で、底部は平底。底面の中央に焼成前の円孔を1つ穿孔する。

壺形土器 (24～61) 壺形土器には、複合口縁壺、長頸壺、細長頸壺、小型丸底壺が出土した。



(弥生時代後期中葉～古墳時代初頭)

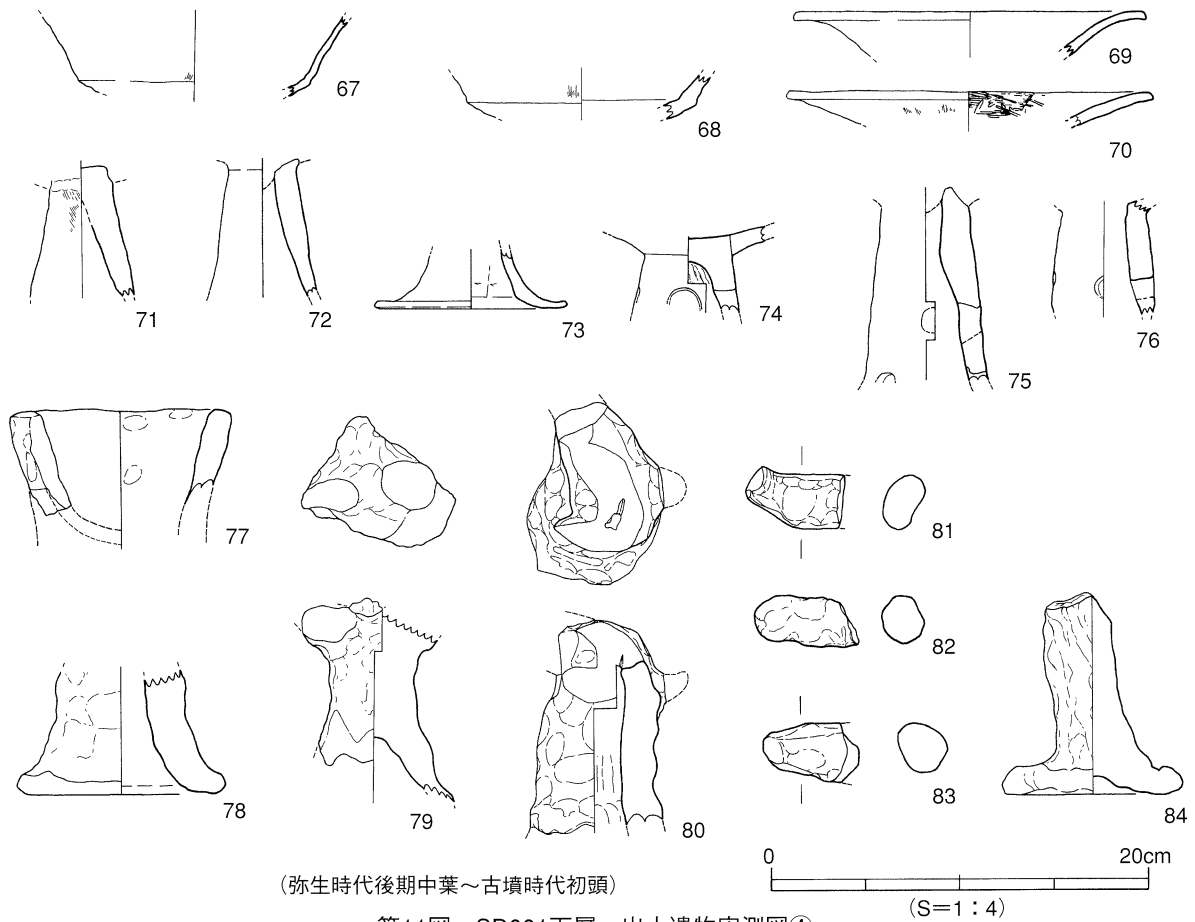
(S=1:4)

第10図 SD001下層 出土遺物実測図③

複合口縁壺 (24～38) 24は口縁部で、口縁部の接合部が面を持ち、「コ」の字状を呈するものである。二次口縁部には、櫛描き沈線を、「コ」の字状接合部には波状文を施文する。

25～30は接合部に稜を持ち、「く」の字状のものである。28には波状文が施文されている。31・32は二次口縁部のみの残存で、接合部の形態は不明である。31は波状文、32には鋸歯文が施文される。33・34は二次口縁部が短いものである。33・35～37は頸部や胴部上半で、屈曲部には格子文の突帯がつく。38は上記の遺物から一時期古い型式のものである。屈曲部には刻目入りの突帯がつく。

長頸壺 (39～48) 39は口縁部が外反し、頸部が締まるものである。45～47は口縁部で、大きく外反する。46は口縁端部には列点文が施文されている。48は頸部～胴部上半で、胴部最大径が上位ないし、中位にくる。40～44の底部は平底である。40の底面は叩き調整の工具で平底にしてある。



細長頸壺 (49・50) 49は小型品の口縁部で、やや外傾する。50は大型品の頸部で、外面には、横方向に櫛描き沈線が施文されている。

~~(壺の底部)~~ 51～57は壺形土器の底部で、外面に叩き調整を施す。51～53は丸底。54～56は平底。57は突出する底部を持つ。

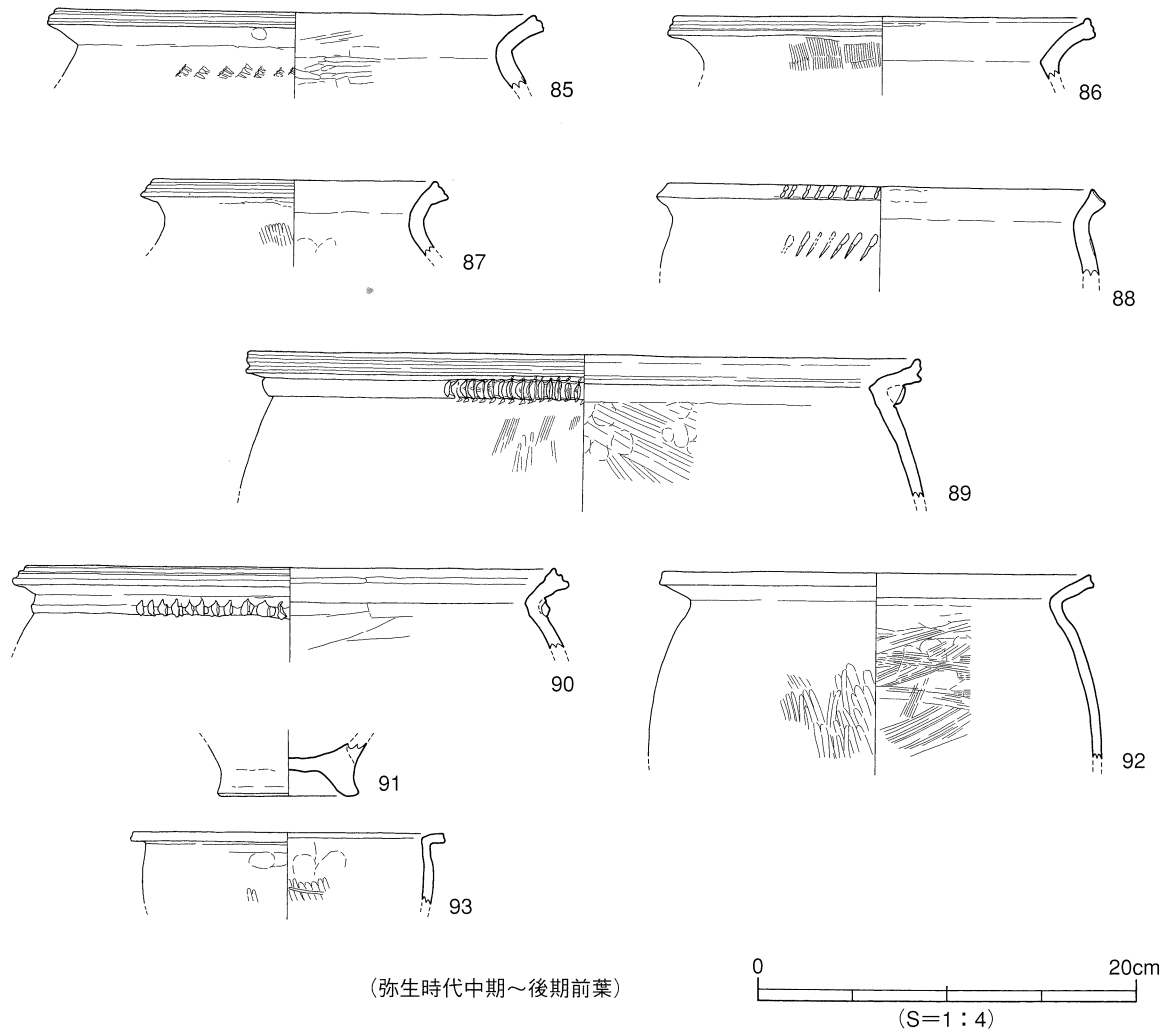
小型丸底壺 (58～61) 58は口縁部が短く外傾し、胴部は球形で、底部は小さく突出している。60は口縁部が長く外傾し、端部は細い。59は胴部が球形になる。61の底部は丸底である。小型丸底壺は畿内系の土器である。58～61は外来品であり、58の底部突出は在地の特徴なので、模倣品と考える。いずれも古墳時代初頭の土器である。

鉢形土器 (62～65) 62は低脚の台付鉢である。63は口縁部が強く外反する鉢の底部である。64・65は大型の鉢で、外面に叩き調整を施す。

器台形土器 (66) 66は器台の受部にあたる。受部端には、波状文が施文されている。

高坏形土器 (67～76) 67・68・~~69~~・70は布留0～1式の古墳時代初頭の時期である。67・68は口縁部と受部が屈曲する坏部で、70の坏部は内外面に丁寧な磨きを施す。71～76は脚部で、74～76には円孔が穿孔される。

支脚形土器 (77～84) 77・78は中空である。受部は、「U」字状に切り込まれている。79～83は背面に突起が付く。84は中実である。胴部は棒状で、脚部が広がる。



第12図 SD001下層 出土遺物実測図⑤

②弥生時代中期～後期前葉 (中予中部編年第三～V-1様式) (図12～14)

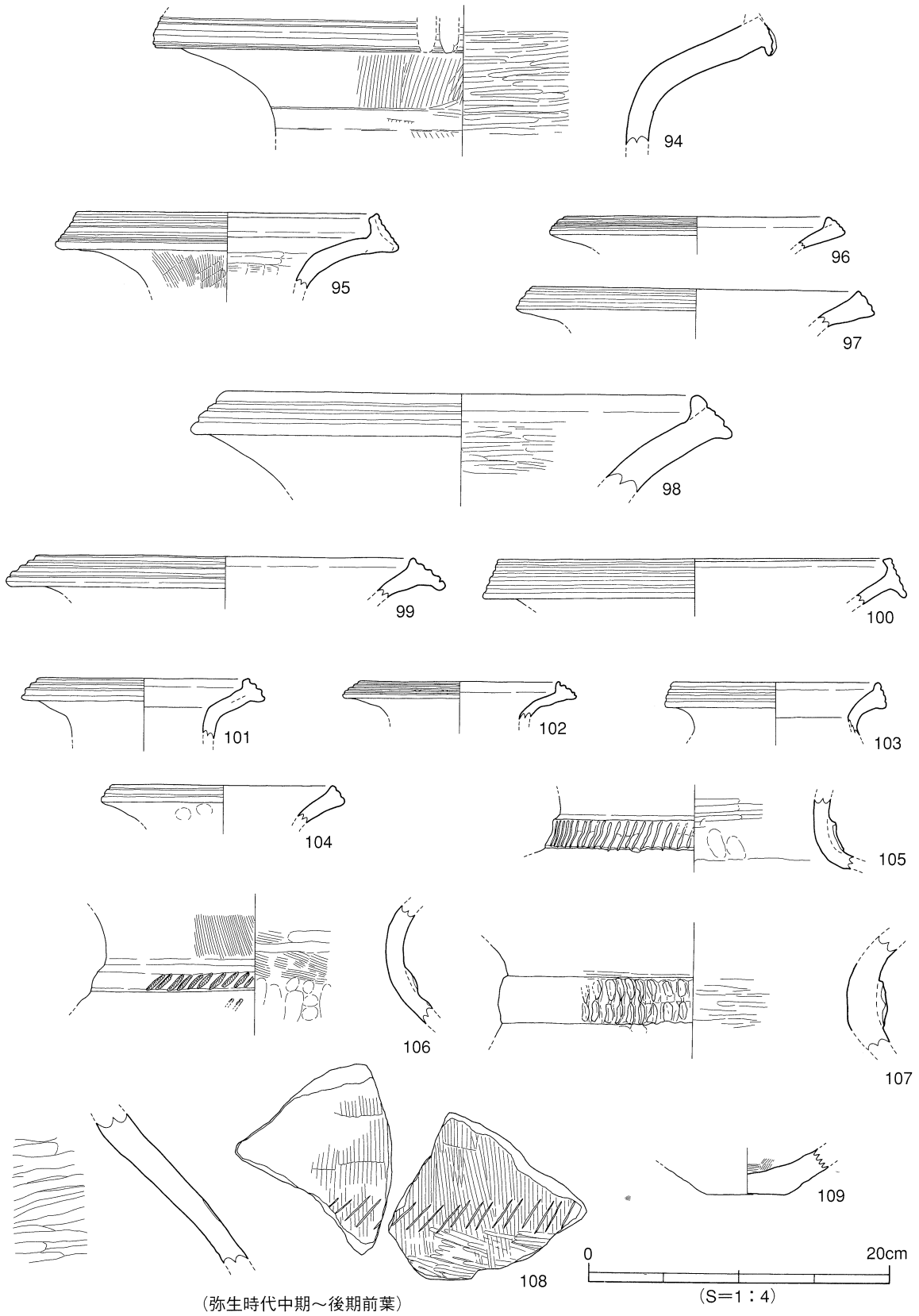
甕形土器 (85～93) 85～88は口縁部が外反し、85～87の口縁端部には弱い凹線文が入る。85の胴部上半と88の口縁端部には刻み目が入る。89・90は屈曲部に突帯のある甕型土器で、突帯には工具による刻み目を施す。92は屈曲部に突帯がなく、口縁端部には凹線文がない。91は上げ底の底部である。93は口縁部が水平に折り曲がるものである。

壺形土器 (94～110) 壺形土器には、長頸壺、短頸壺、不明土器がある。

長頸壺 (94～109) 94～104は口縁部が外反し、口縁端部は肥厚する壺形土器の口縁部である。口縁端部は上下、又は片方に肥厚する。94～97は口縁端部に弱い凹線文、94は端部に1単位2個の長方形浮文が付く。98～104は口縁端部に凹線文を施す。101～103は頸部が筒状になる。105～107は頸部である。胴部との屈曲部に突帯を巡らす。105・106はヘラ状工具か又は板状工具の刻み目文で、107は指頭圧痕による刻み目を2段施す。108は大型品の胴部上半で刻み目文を施す。109は底部。

短頸壺 (110) 110は大型品の胴部上半である。頸部との屈曲部には、三角形の突帯が巡らされる。そして、突帯の直下に刺突文がある。

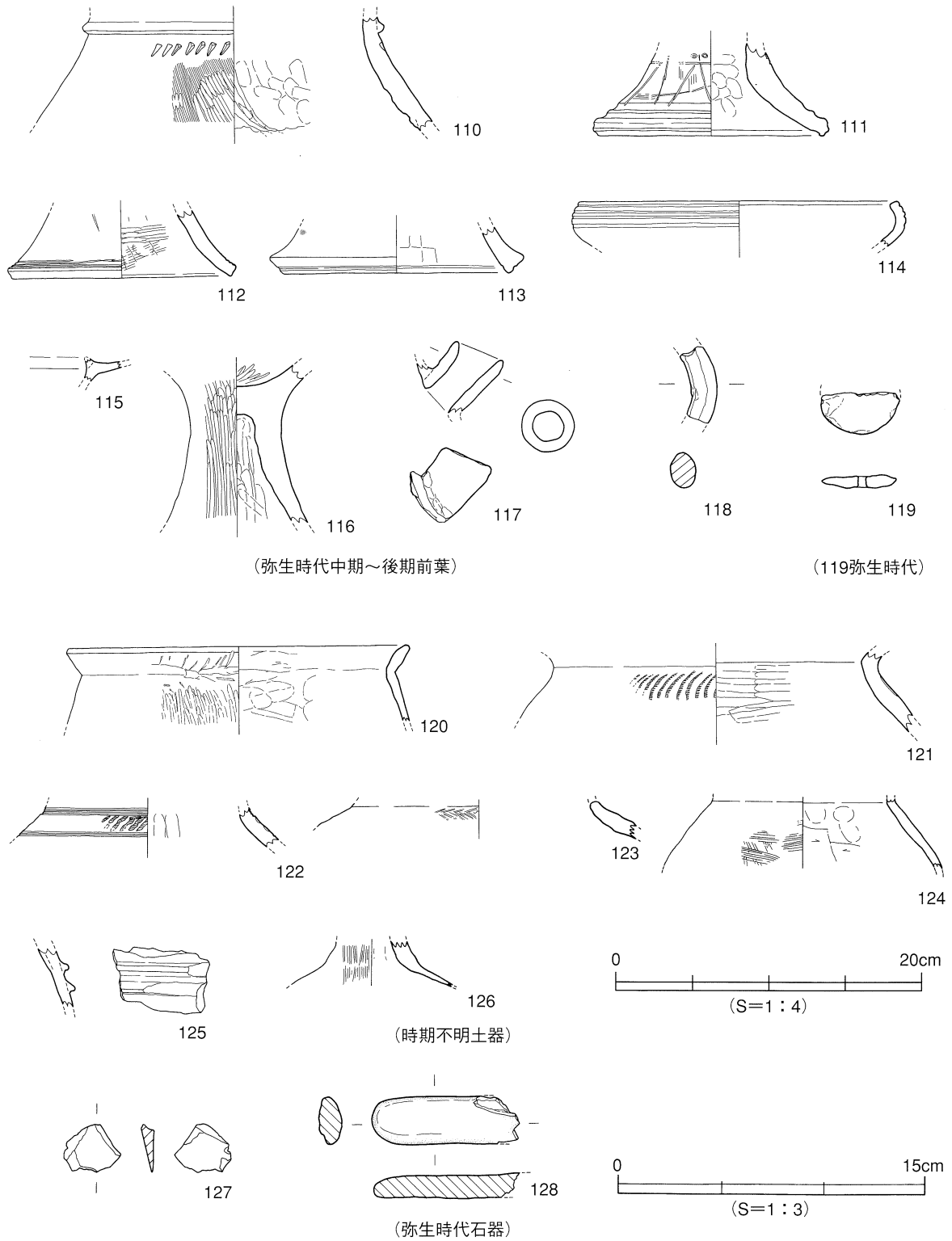
SD001の遺構と遺物



(弥生時代中期～後期前葉)

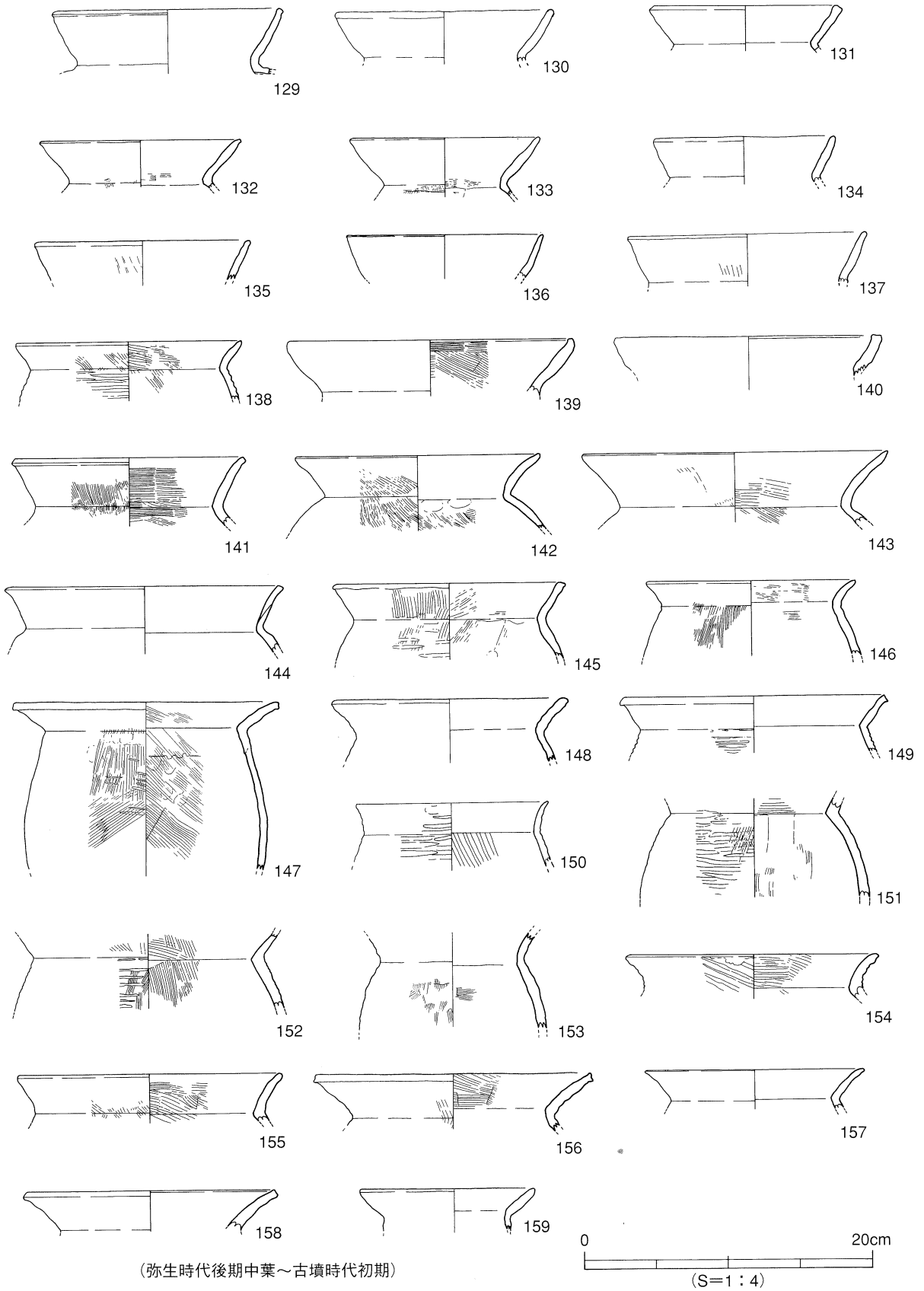
第13図 SD001下層 出土遺物実測図⑥

遺構と遺物

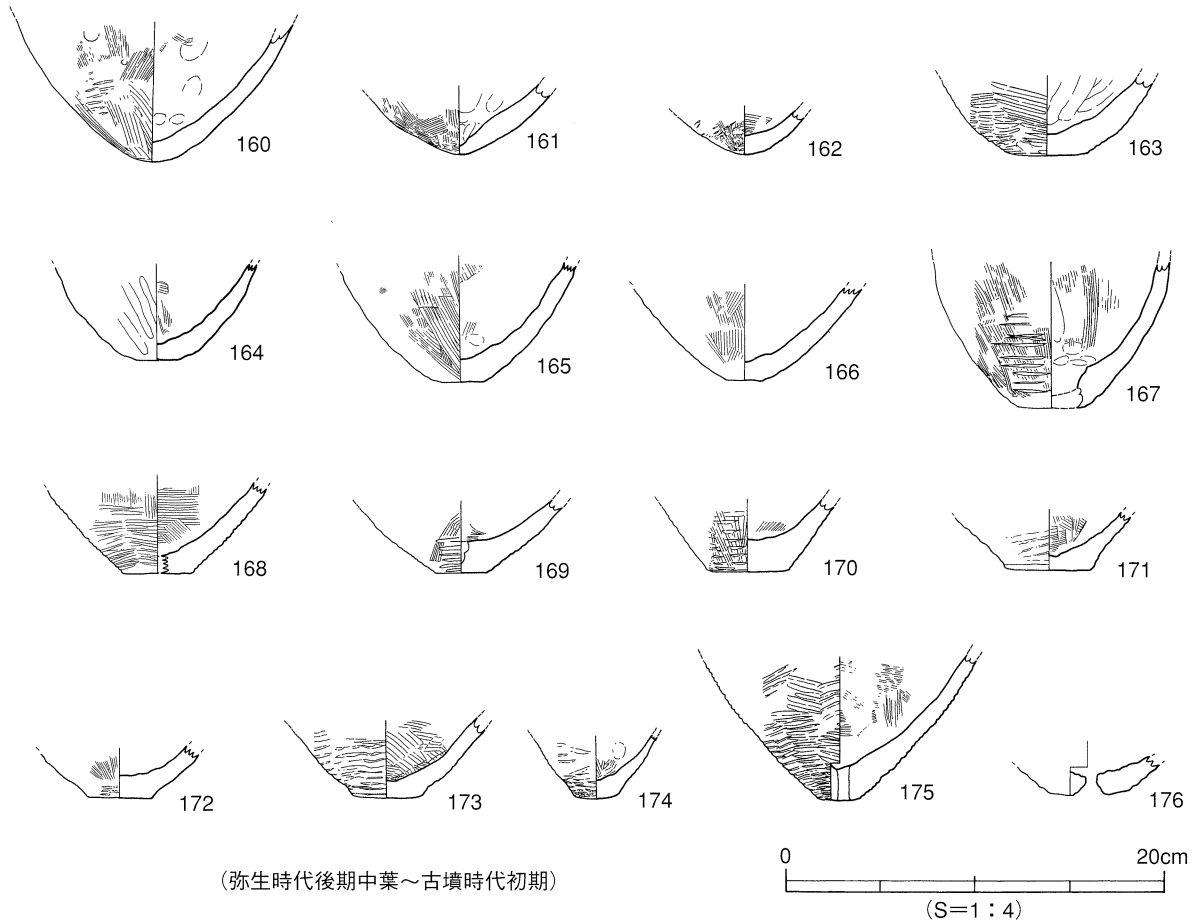


第14図 SD001下層 出土遺物実測図⑦

SD001の遺構と遺物



第15図 SD001中層 出土遺物実測図①



第16図 SD001中層 出土遺物実測図②

高坏形土器 (111～116) 111～113・116は脚部である。111～113は裾部に沈線があり、111には山形文と竹管文が施文されている。114・115は坏部である。114の口縁部は内傾し、4条の凹線文がある。115の口縁端部は水平になり、受け部との屈曲部には三角形の突帯が巡る。須久式の可能性が考えられる。

鉢形土器 (117) 注口付きの台付鉢である。注口の部分のみが出土した。山陰系の土器である。

ジョッキ形土器 (118) 取手の部分。

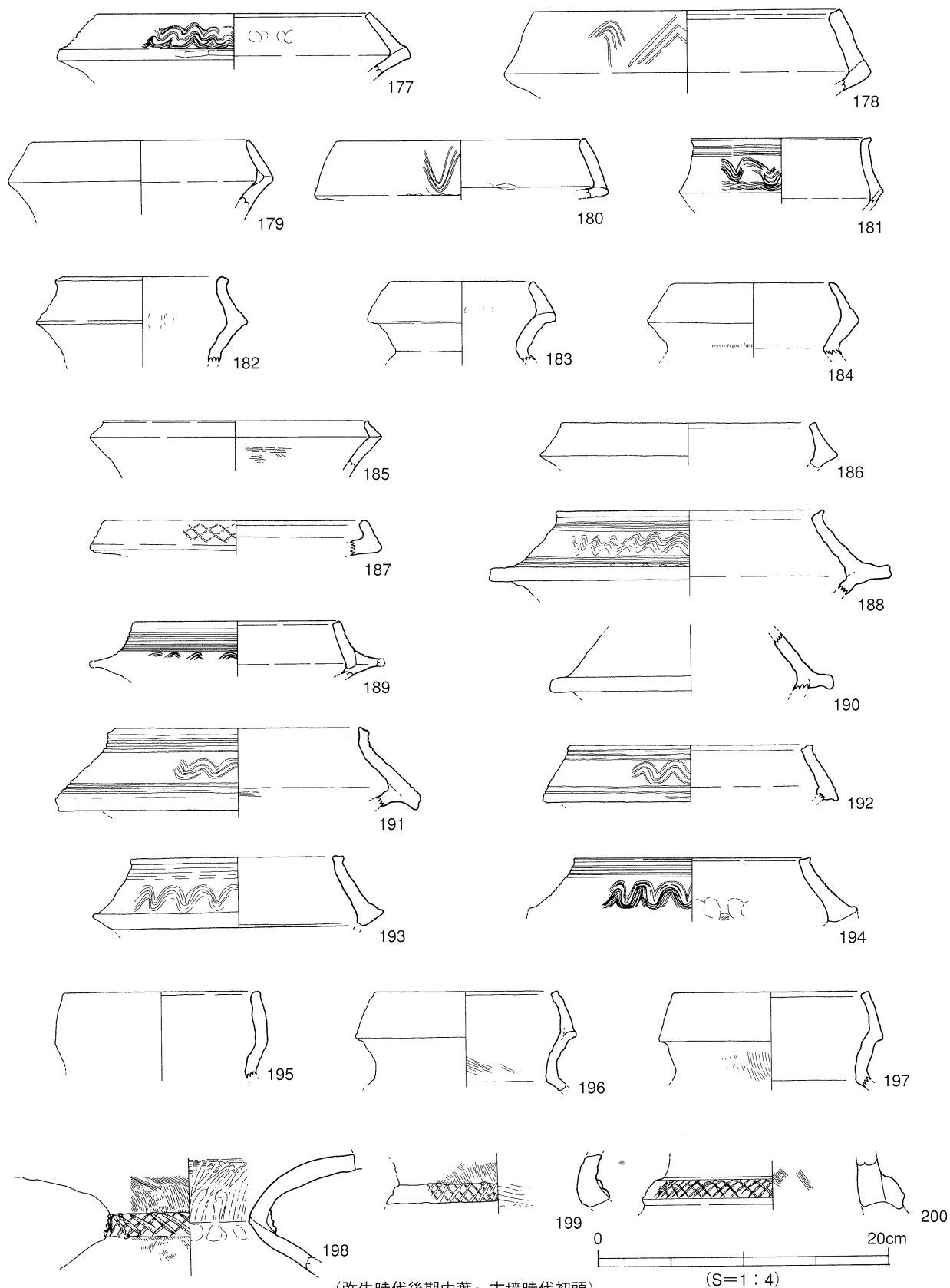
紡錘車 (119) 円盤形で、中央に円孔が空く。

③**時期不明土器** (120～126) (図14) 下層から出土した土器で、時期が不明のものである。甕形土器、壺形土器、高坏形土器がある。120は甕形土器で、口縁部外面に刻み目が線刻される。121は甕または、壺の胴部上半で、二枚貝により斜めに刻み目が線刻されている。122～125は壺形土器の胴部上半である。122には、沈線間に貝殻による線刻が施されている。123は、無軸羽状文が施文されている山陰系の土器である。125には、断面三角形の突帯が2条巡る。122～125は外来品である。126は、高坏形土器の脚部と考える。裾端部が細い。

④**弥生時代の石器** (127・128) (図14) 127はサヌカイト製の剥片刃器である。128は結晶片岩製の棒状で扁平な自然石である。

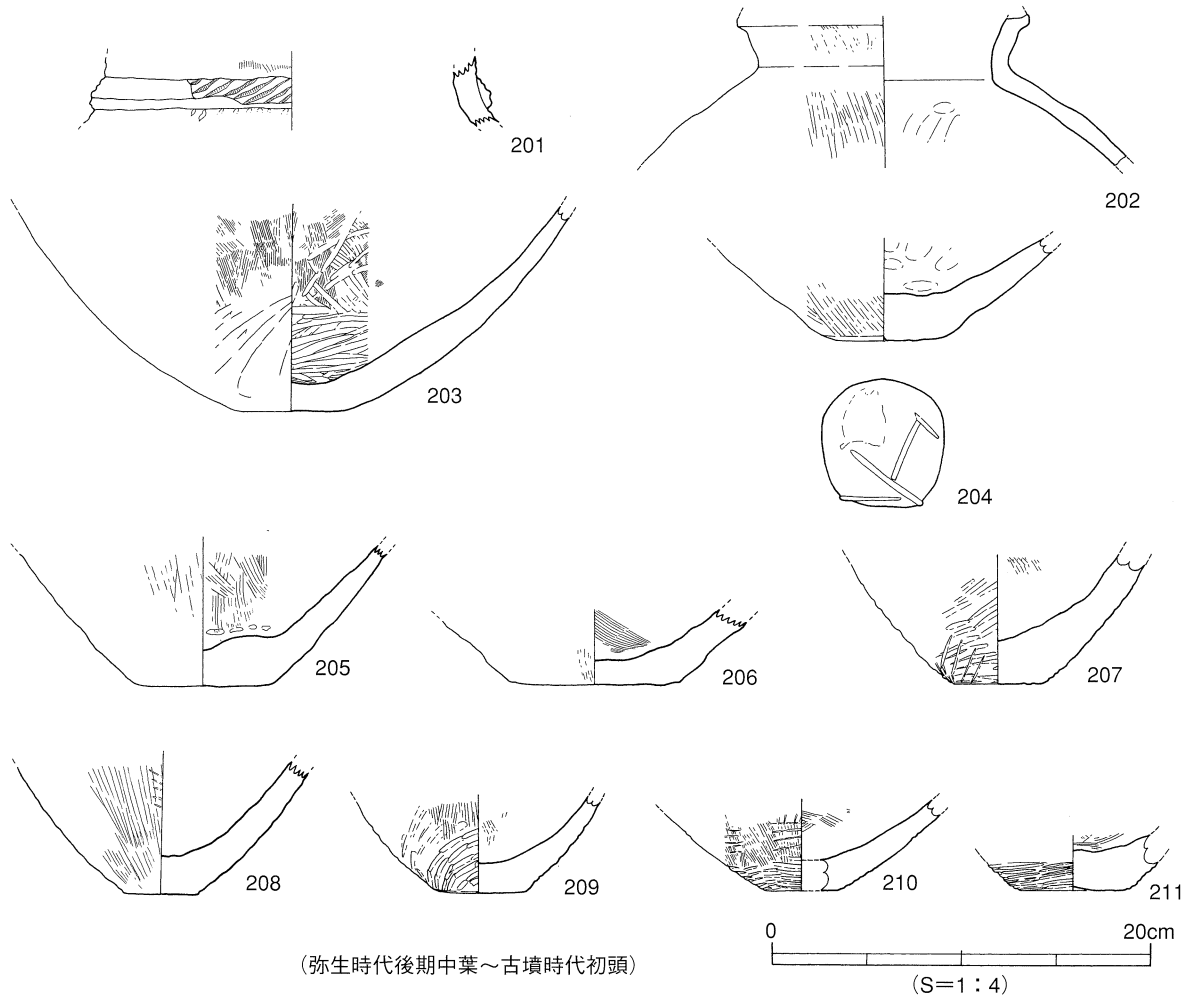
SD001中層出土遺物 (図15～31・図版11～15・表8・9)

SD001の遺構と遺物



(弥生時代後期中葉～古墳時代初頭)

第17図 SD001中層 出土遺物実測図③



(弥生時代後期中葉～古墳時代初頭)

第18図 SD001中層 出土遺物実測図④

S D001中層からは、甕形土器、甌形土器、壺形土器、鉢形土器、器台形土器、高坏形土器、ミニチュア土器、支脚形土器、石器が出土した。

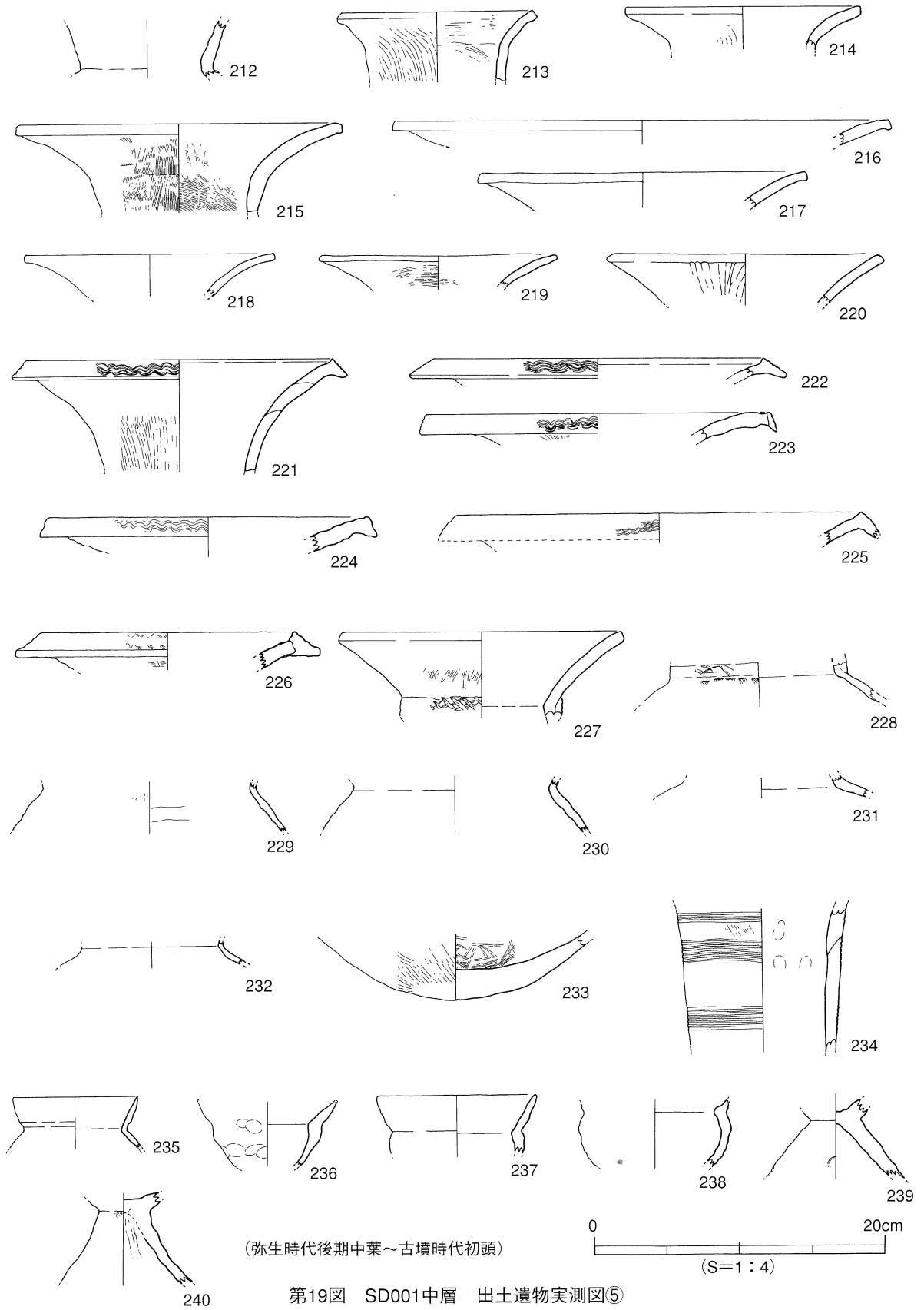
①弥生時代後期中葉～古墳時代初頭 (中予中部編年第V-2~4様式・布留0~1式) (図15~23)

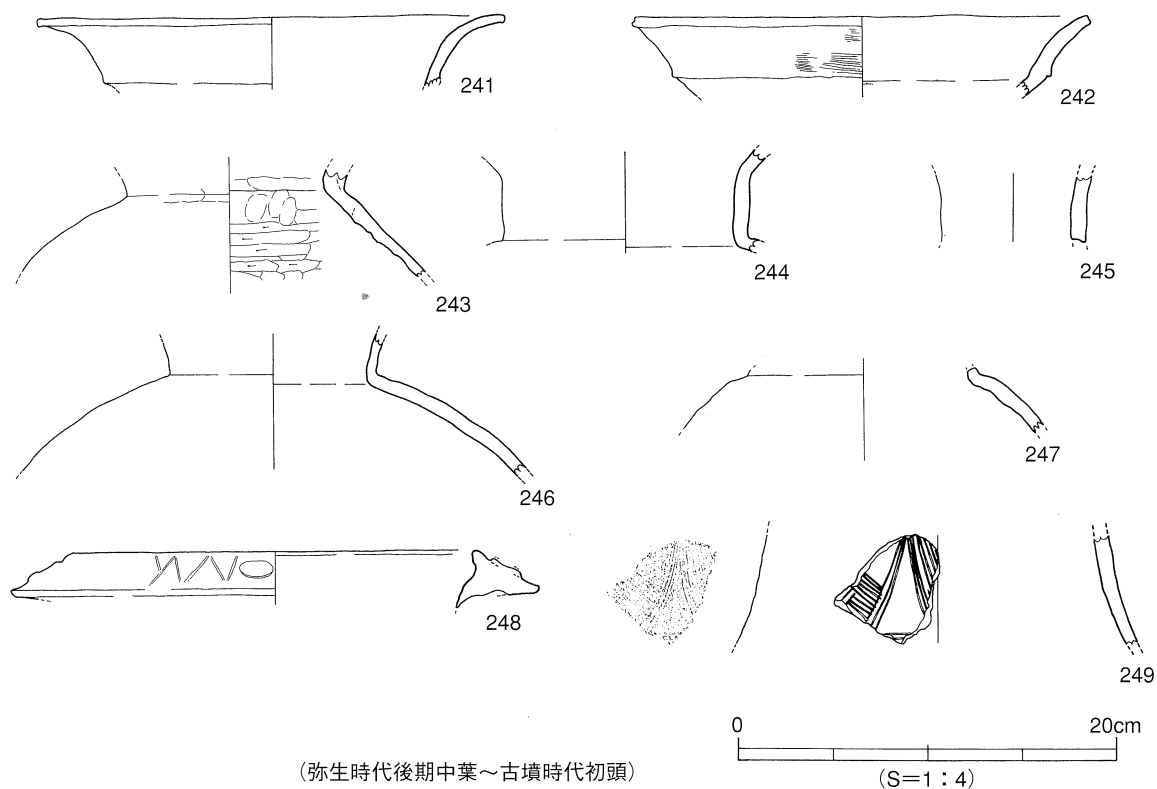
甕形土器 (129~174) 129~140は口縁部が内湾する。129~135は外来品であり、134の胎土には金雲母が多量に入る。140は口縁端部が面を持ち、水平になる。141~144は外反する口縁部を持ち、胴部上半が張りが強い。145~153は外反する口縁を持ち、胴部上半の張りが弱い。叩き調整を施すものが多い。154~158は外反する口縁を持つが、胴部の残存が少なく、胴部上半の張りが不明なもの。158は二重口縁壺の口縁部の可能性もある。160~174は底部である。外面調整は叩きが多い。160~162は尖底。163・164は丸底。165~172は平底で、173・174は突出した底部を持つ。167の外面には横方向の沈線が10条線刻されている。底部の外面調整は叩きが多いが、~~唯~~164の外面調整は磨きである。

甌形土器 (175・176) 175は尖底で、176は平底である。底面に焼成前の円孔を1つ穿孔する。

壺形土器 (177~238・241~249) 壺形土器は、複合口縁壺、長頸壺、細長頸壺、短頸壺、小型丸

SD001の遺構と遺物





第20図 SD001中層 出土遺物実測図⑥

底壺、二重口縁壺、不明壺が出土した。

複合口縁壺 (177~~~211~~²⁰²) 177~197は口縁部である。177~187は接合部に稜を持ち、「く」の字状のものである。177・180・181の二次口縁部には波状文、178には波状文と山形文が施文されている。

182~184は頸部の短いもので、185~187は二次口縁部が短いものである。187には二枚貝殻による格子文が施文されている。188~194は口縁部の接合部が面を持ち、「コ」の字状を呈するものである。191・192は「コ」の字状接合部が垂下する。二次口縁部には、櫛描き沈線と波状文が入る。

193・194は一次口縁部が剥離している為、接合部の状態が不明である。195~197は口縁部が袋状になり、頸部は短いものである。195は接合部に丸みを持つ。198~200は屈曲部に格子文の突帯がつく。201には刻目入りの突帯がつく。202は屈曲部に突帯を持たない。頸部の短いものである。

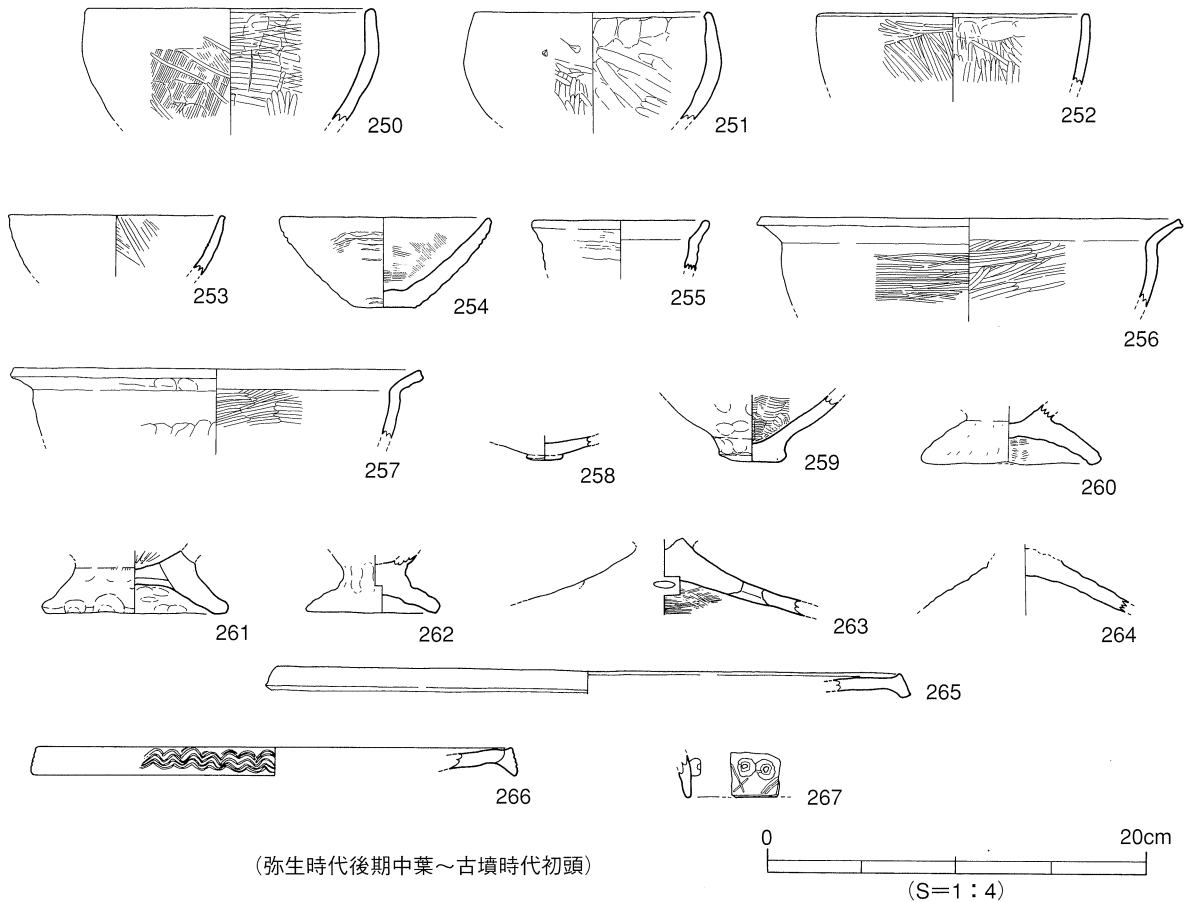
203~211は平底である。いずれも、器壁が厚い。204の底面には、沈線が4条線刻されている。

長頸壺 (212~227) 212は口縁部が外傾し、直口口縁に近いものである。213~215は口縁部が外反し、頸部は筒状になるものである。216~226は口縁部が大きく外反するもので、221~226の口縁端部は垂下する。端面に櫛描の波状文が施文されている。227は口縁部が外傾し、屈曲部に格子文の突帯がつく。

長頸壺か短頸壺 (228~233) 227は頸部の屈曲部に格子目の付いた突帯が巡る。口縁部は長く外傾する。228~232は胴部上半で、233は丸底である。

細長頸壺 (234) 大型品の頸部で、1単位6条の櫛描き沈線が施文されている。

小型丸底壺 (235~238) 口縁部はいずれも外傾する。236の胴部下半は尖りぎみである。238の胴部は球形である。



第21図 SD001中層 出土遺物実測図⑦

小形器台 (239・240) 坏部が丸く、脚部は円錐状に広がる。小型丸底壺と同様に畿内系の土器である。いずれも古墳時代初頭の土器である。

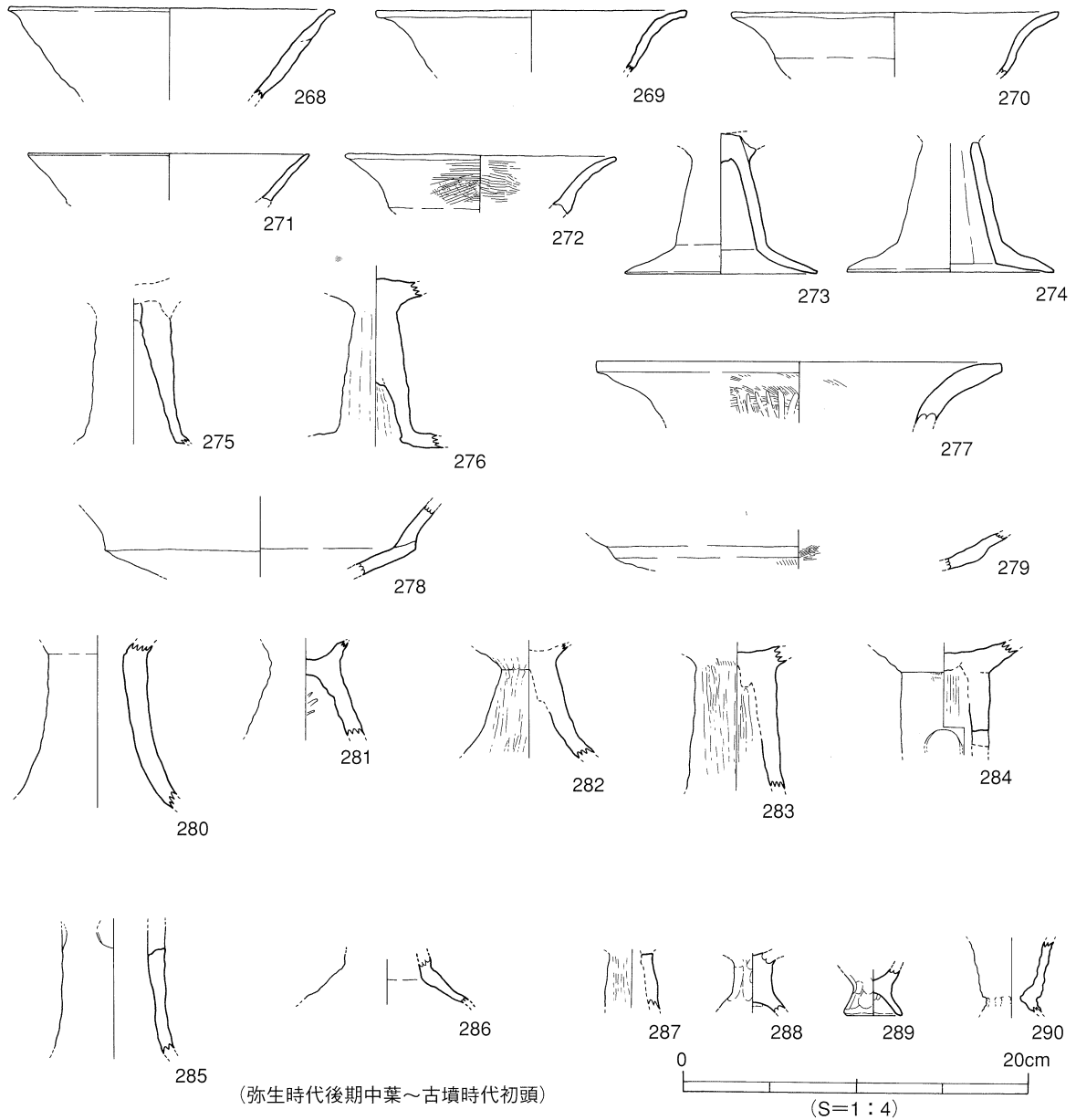
二重口縁壺 (241～247) 241・242の二次口縁部は外反し、無飾である。244～246は筒状に伸びる頸部である。246・247は胴部で、胴部上半の張りが強い。二重口縁壺は、畿内系の土器である。

外来土器 (248・249) 248は壺または、高坏形土器である。口縁部が外反し、口縁端部は肥厚する。端部には、山形文と円形浮文が付く。須^突式^式と考える。249は壺形土器の胴部上半で、直弧文が線刻されている。

鉢形土器 (250～264) 250～254は直口口縁である。碗状になり、外面には磨き調整が施されている。255～257は折り曲げ口縁である。255の外面には叩き調整が、256・257には磨き調整が施されている。258・259は口縁部外反する鉢の底部で、小さな底部が突出するもの。260は上げ底。261・262は台付鉢の低脚。263・264は円錐状に広がる。263には円孔が穿孔されている。

器台形土器 (265～267) 口縁部である。口縁端部は垂下し、その端部に文様を施す。266には波状文、267には竹管文の入った円形浮文が2個入る。

高坏形土器 (268～286) 268～272は坏部である。268・269は外傾し、270～272は外反する。273～276は脚部である。柱部は円錐状に広がり、裾部は屈曲して角度を変えてさらに広がる。273・274の裾端部は、尖る。276の柱部は細く、裾部は水平に広がる。これらの土器は、古墳時代初頭で



第22図 SD001中層 出土遺物実測図⑧

ある。

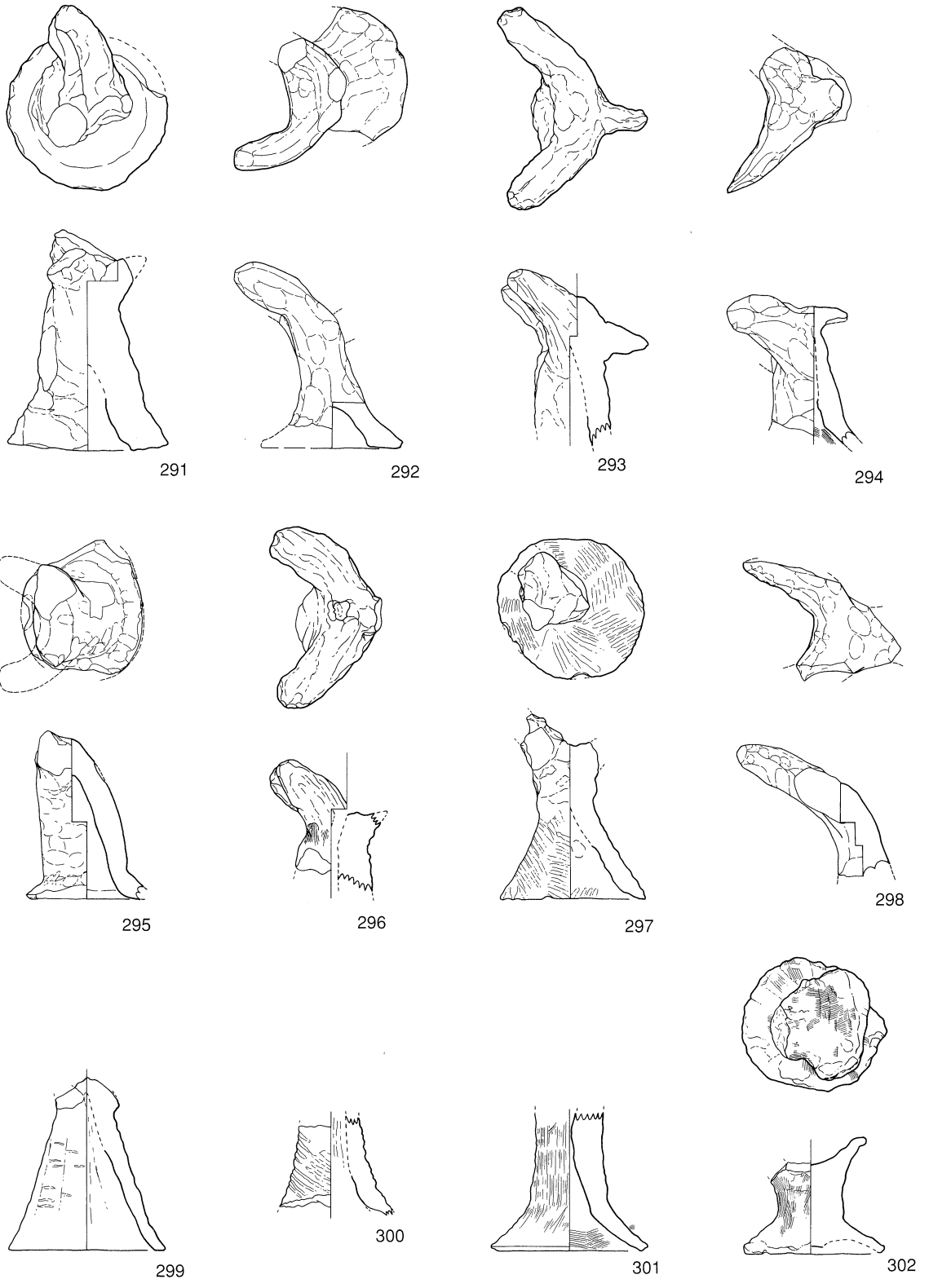
277～279の坏部は外反する。280～286は脚部である。280～282の柱部は円錐状に広がる。285の柱部は長いものである。284・285の柱部はエンタシス状で、円孔が穿孔されている。286は裾部。

ミニチュア土器 (287～290) 287・288は小形の高坏形土器の脚部、289は台付き鉢の台、290は甑形土器である。

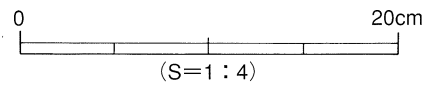
支脚形土器 (291～302) 291～297は背面に突起の付くものである。298は背面に突起が付かない。296は受部～脚部にかけて貫通する。301は柱部は筒状で、裾部が開く。外内面の調整が刷毛目調整である。302は中実で、受部の平面は翼状に、断面では上方に立ち上がる。柱部は筒状で、脚部は外方に広がる。

②弥生時代中期～後期前葉 (中予中部編年第Ⅲ～Ⅴ-1様式) (図24～29)

SD001の遺構図と遺物

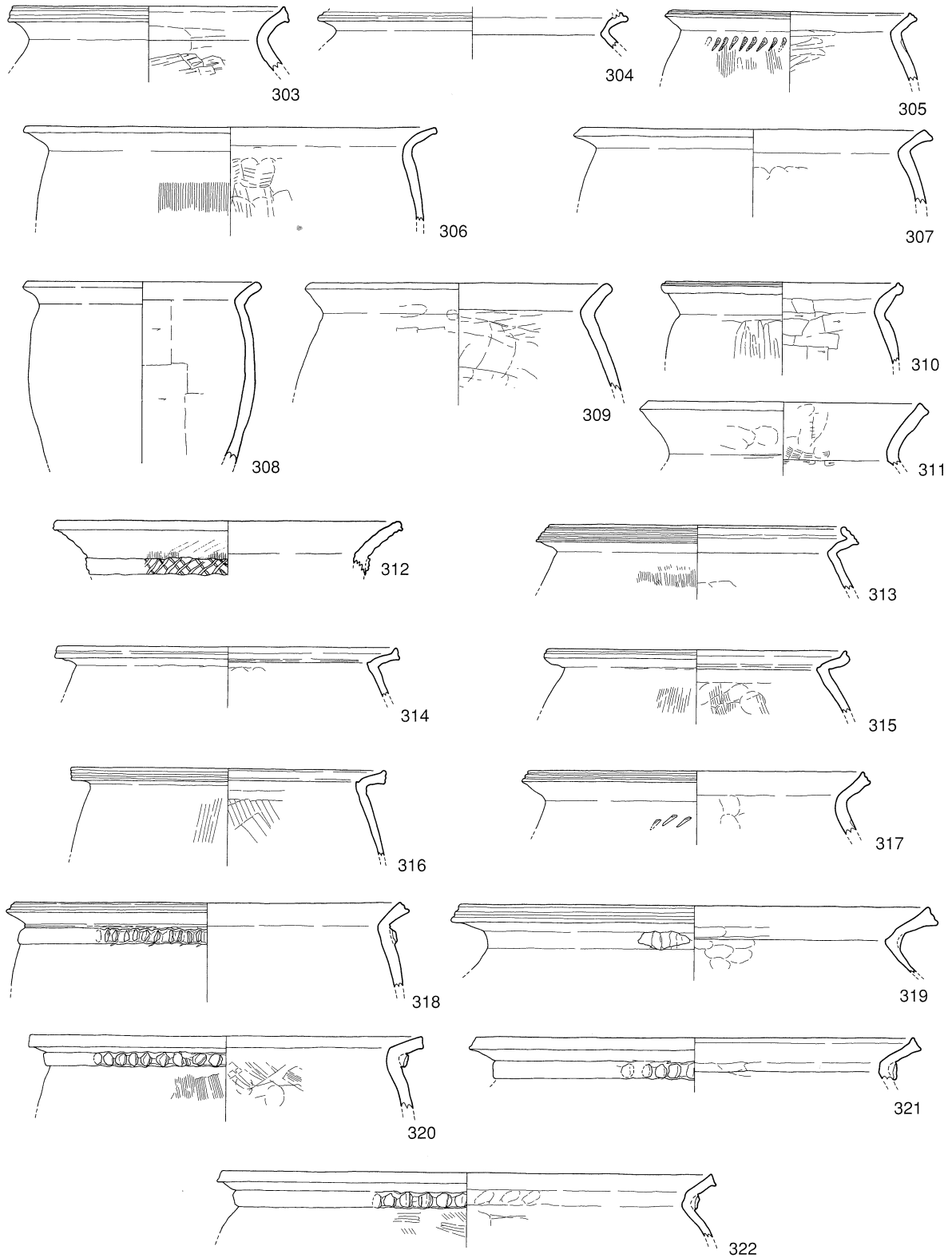


(弥生時代後期中葉～古墳時代初頭)



第23図 SD001中層 出土遺物実測図⑨

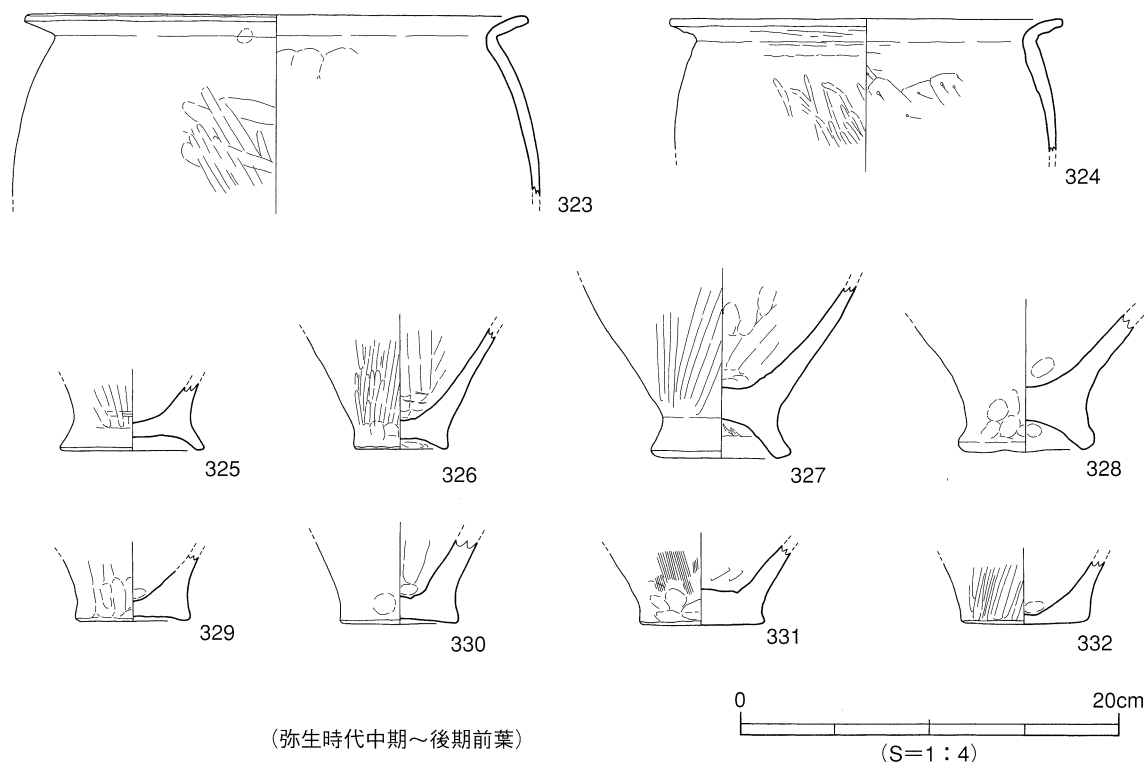
遺構と遺物



(弥生時代中期～後期前葉)
葉

0 20cm
(S=1:4)

第24図 SD001中層 出土遺物実測図⑩



第25図 SD001中層 出土遺物実測図①

甕形土器 (303～332) 303～305は口縁部が上方に拡張し、端部に擬凹線がある。胴部上半の張りが弱い。305の胴部上半には、斜めに刻み目がはいる。306～312は口縁部が外傾し、胴部上半の張りが弱い。312には、屈曲部には、格子目の突帯が巡る。口縁部には、斜めの貝殻文が施文される。

313は外来品で、中部瀬戸内系のものである。口縁部が「く」の字になり、凹線文がある。

314～319は口縁部が外傾し、端部には凹線文が施される。314・315は、口縁端部が上方に拡張する。317は胴部上半に斜めの刻み目が入る。318～322は口縁端部を拡張するもので、胴部との屈曲部に布目押圧の刻み目突帯が巡る。318・319の口縁端部には、凹線文が施される。323・324は無飾である。口縁部が外傾し、胴部上半の張りは弱い。

325～332は底部である。325・326はやや上げ底、327・328は上げ底、329～332は平底である。

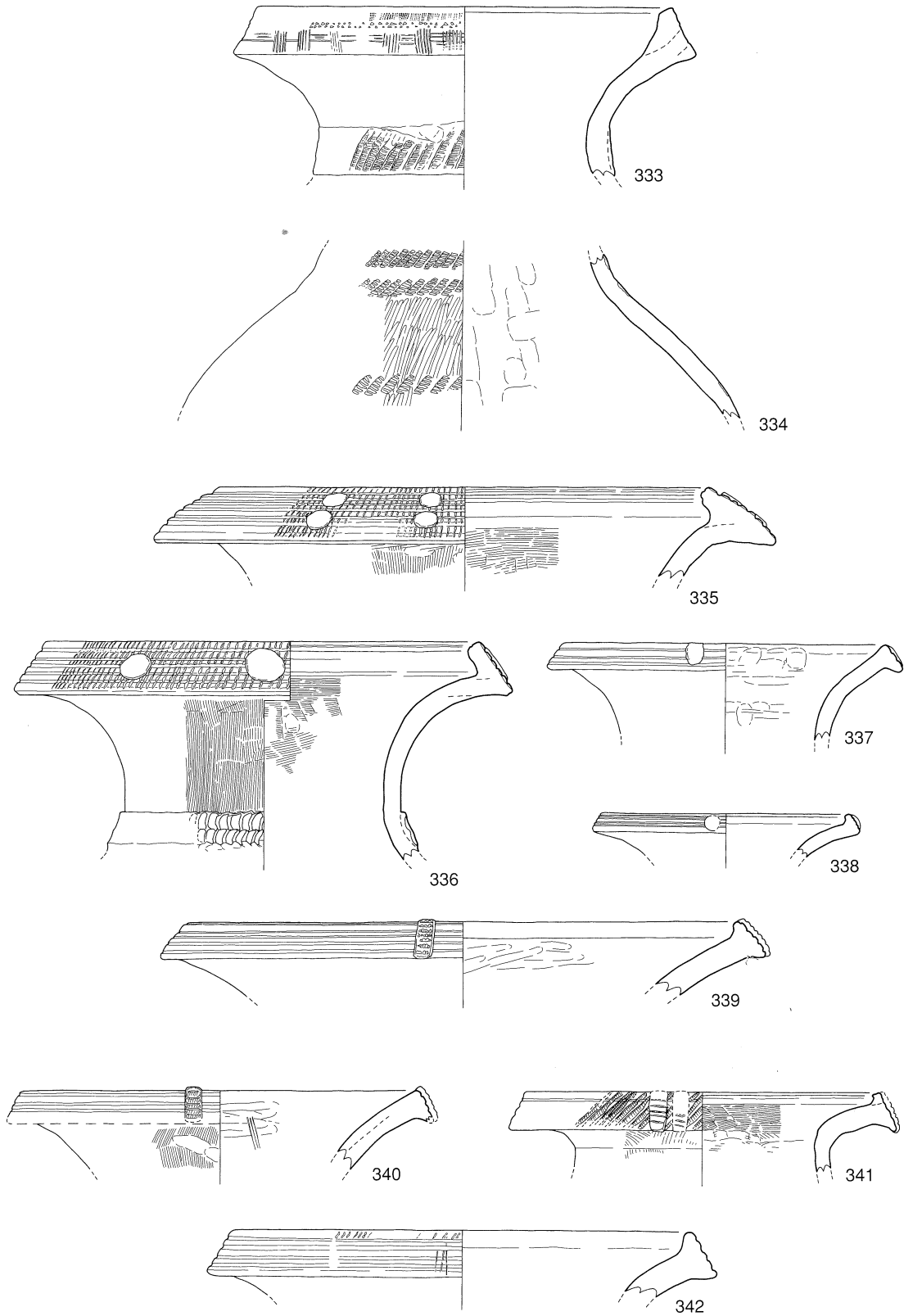
壺形土器 (333～384) 壺形土器には、長頸壺、細長頸壺、短頸壺、不明壺がある。

長頸壺 (333～381) 333～350は口縁部が外反し、口縁端部は肥厚する。上下に肥厚するものと、上・下のみに肥厚するものとの3種類ある。

333・334は同一個体である。口縁端部は上方に肥厚する。端部には刺突文、沈線、貝殻文が施文される。また、頸部と胴部上半に貝殻による刻み目を施す。335～338は口縁端部に凹線文と円形浮文を施す。339・340は口縁部に凹線文と刻みの入った方形浮文を施す。341は口縁端部に板状工具による刻み目の上に、刻みの入った方形浮文を施す。342は口縁端部に凹線文と貝殻文が施文される。343～349は口縁端部に凹線文が施される。350は口縁端部には、格子文が施される。

351・352は頸部から胴部上半である。351の頸部には、指頭押圧の突帯が巡る。352の頸部には斜文の突帯が巡る。353の胴部上半はヘラ状工具で刻み目を入れる。

遺構と遺物

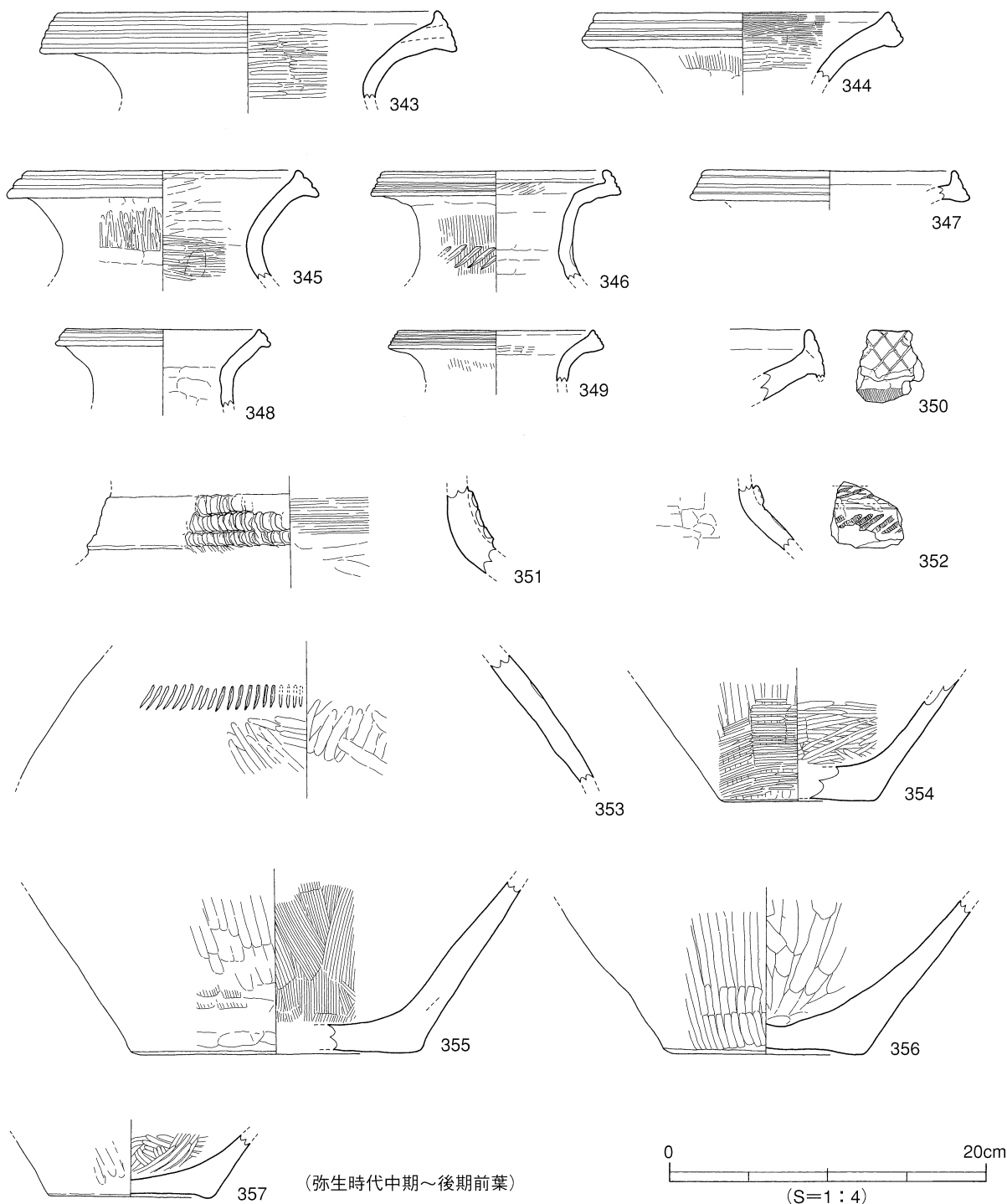


(弥生時代中期～後期前葉)

0 20cm
(S=1:4)

第26図 SD001中層 出土遺物実測図⑫

SD001の遺構と遺物

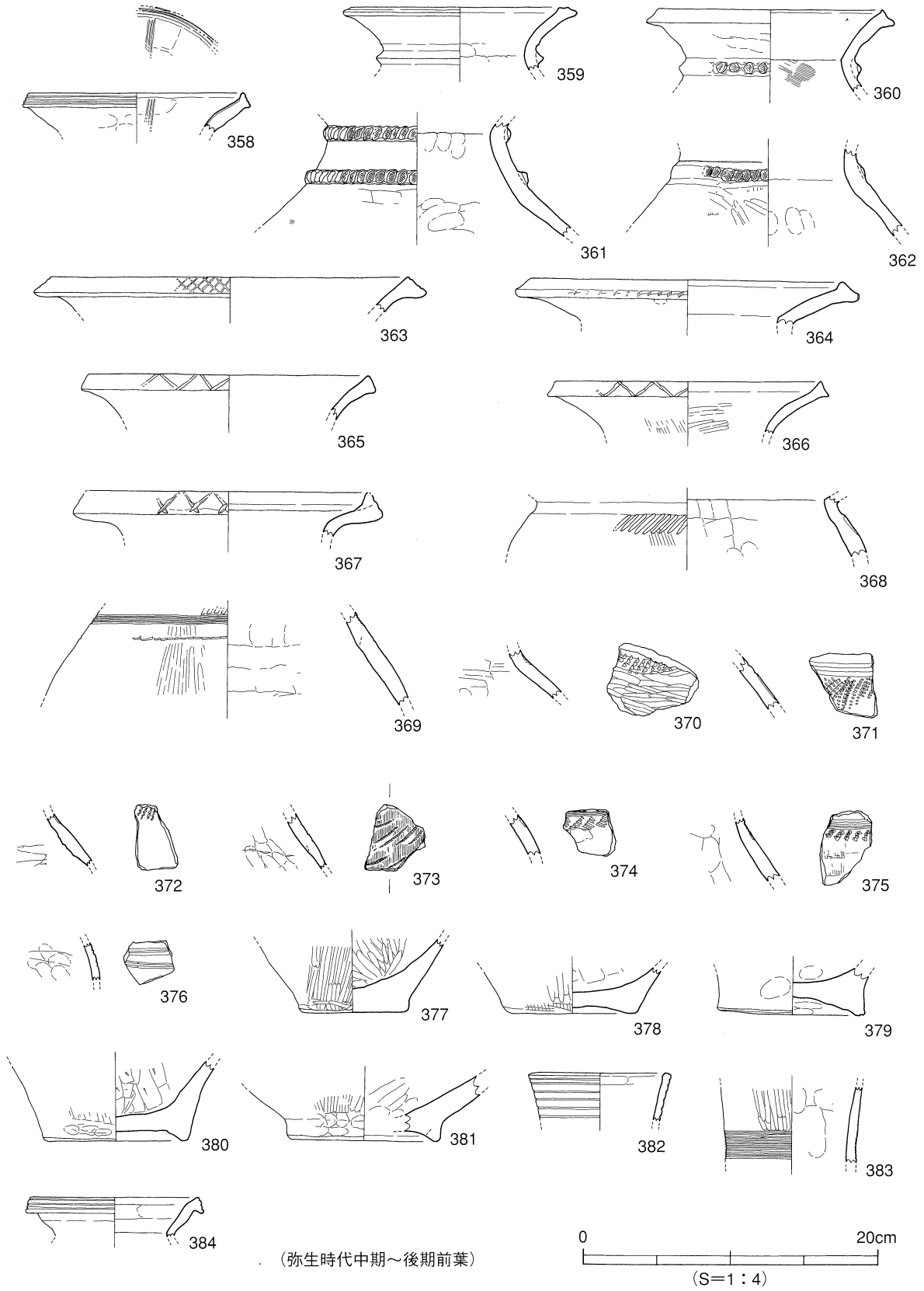


第27図 SD001中層 出土遺物実測図⑬

354～357は底部である。354・355は平底、356・357はやや上げ底である。

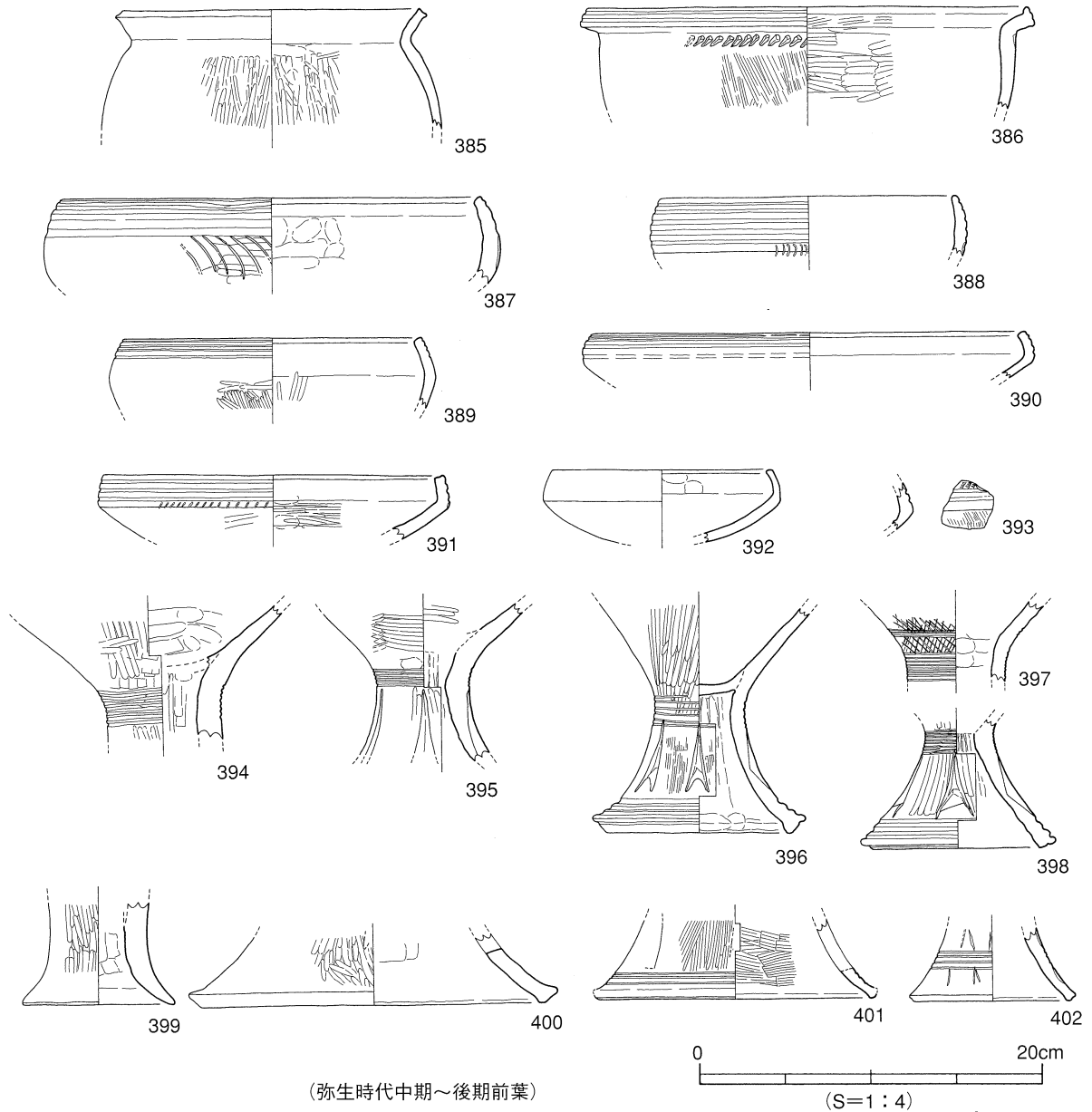
358は口縁部が外傾し、口縁端部が上方に肥厚する。口縁部内面には、1単位3条の沈線が円形に2条巡り、その間にも、縦に同単位の沈線が線刻されている。359～362は口縁部が外傾し、頸部との屈曲部に布目押圧痕の突帯が1ないし、2条巡る。363・364は垂下し、口縁端部に363は格子文、364は刻み目文、365～367は山形文が施文されている。368～376は胴部上半で、それぞれ文様

遺構と遺物



(弥生時代中期～後期前葉)

第28図 SD001中層 出土遺物実測図⑭



(弥生時代中期～後期前葉)

第29図 SD001中層 出土遺物実測図⑮

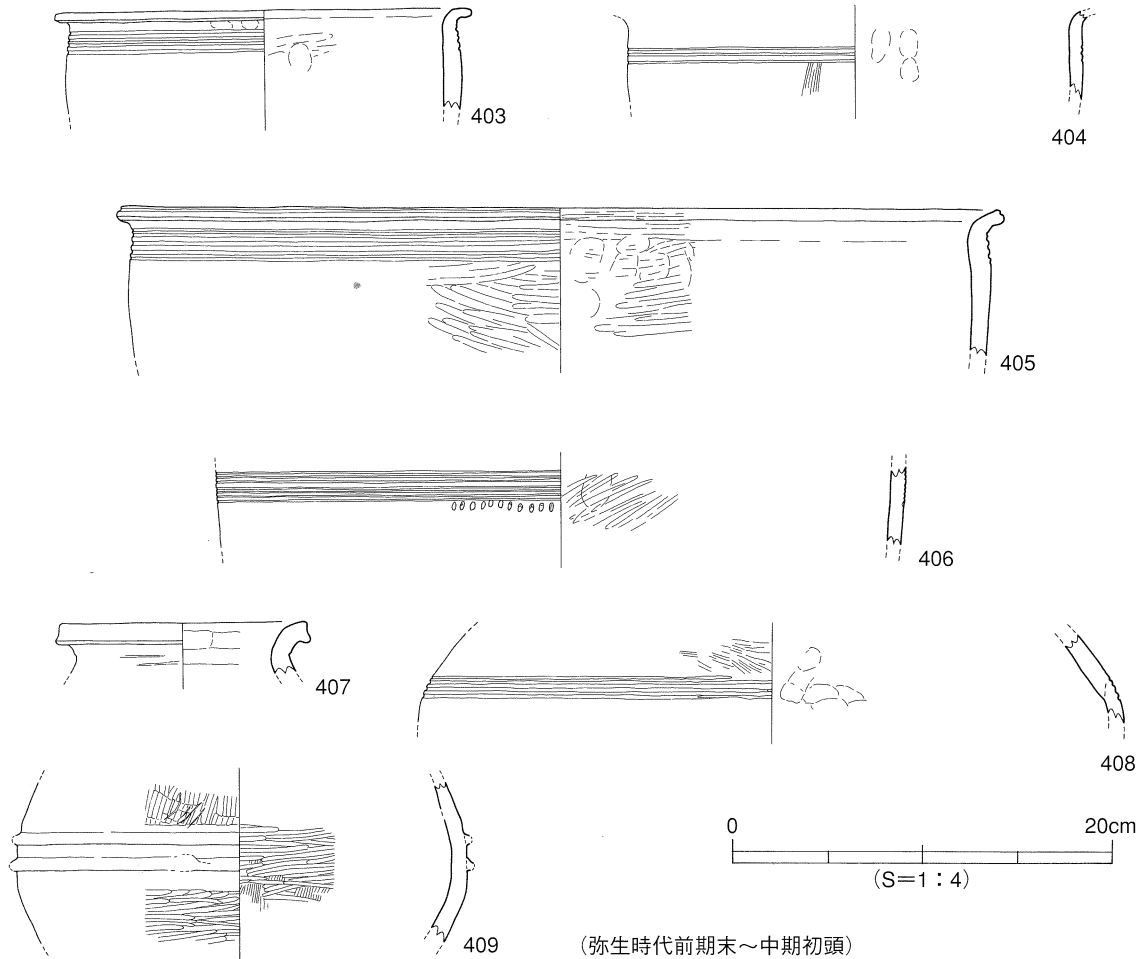
がある。368はヘラ状工具による刻み目文、369は櫛描きによる沈線と刺突文、370～375は貝殻による斜文、376は櫛描きによる沈線。377～381は底部である。377は平底、378～381は上げ底である。

細長頸壺 (382・383) 382は口縁部は外傾する。383は大型品で、頸部は筒状になり、横沈線が多数施される。

短頸壺 (384) 口縁部は外傾する。口縁端部は垂下し、凹線文が入る。

鉢形土器 (385・386) 385は口縁部が短く外傾し、胴部上半は張る。386は口縁部が短く外傾し、口縁端部が上方に立ち上がる。胴部上半は張らない。口縁部直下に刺突文を施す。

高坏形土器 (387～402) 387～389は坏部が深いもので、390～392は坏部が浅いものである。392以外の坏部に口縁部に凹線文が入る。394～402は坏部から脚部である。裾部には凹線文が、坏部との屈曲部には、数条の沈線が入る。387の坏部には沈線の間^に斜文が、388・391には凹線文直下に^に



第30図 SD001中層 出土遺物実測図⑩

刻み目が施文されている。394～389・400～402は裾部が外反する脚部である。坏部との屈曲部に数条の沈線395・396・398の脚部には、矢羽根透かしがある。400～403には三角形の透かし孔がある。402には山形文と脚部中央に沈線が巡る。397には、沈線の中に格子目文が施文される。399は柱部が棒状で、裾部が外方に広がる。

③弥生時代前期末～中期初頭（中予中部編年第I-4様式）（図30）

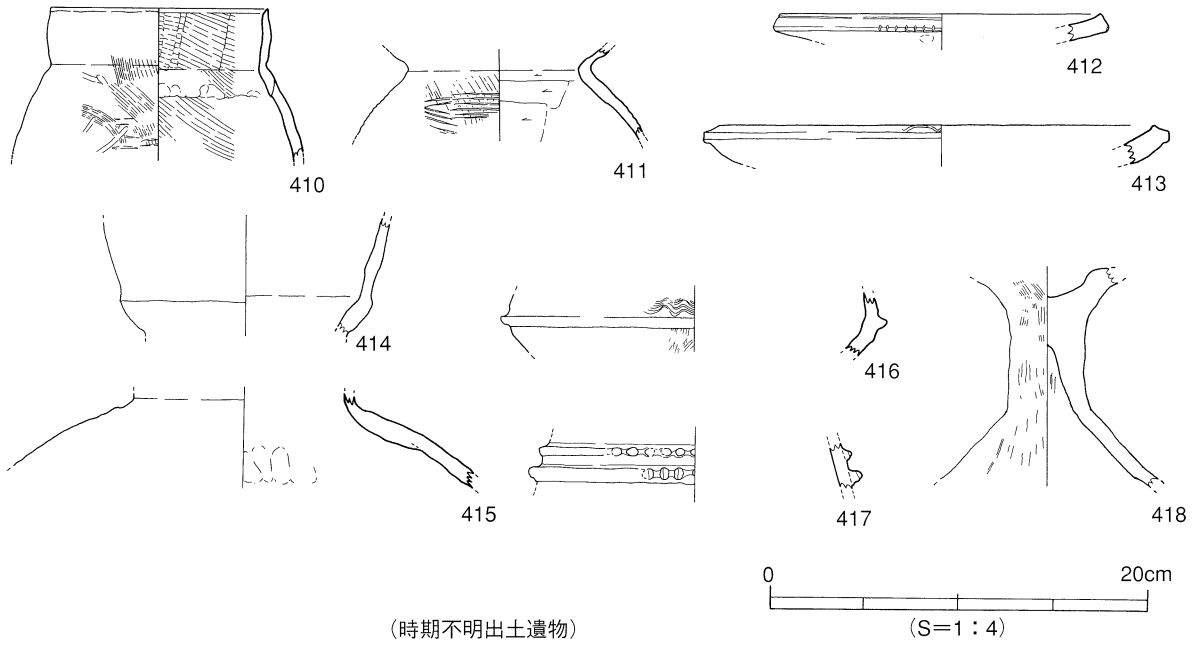
甕形土器（403～406）403～405は口縁部が折り曲げてある。口縁部直下には、数条の沈線があり、406には沈線下に刺突文が巡る。

壺形土器（407～409）壺形土器には、短頸壺、外来品の壺がある。407は短頸壺である。口縁部を大きく外反する。408・409は胴部である。408は胴部最大径の近くに数条の沈線が巡る。409は外来品で、胴部最大径に2条の突帯を巡らす。

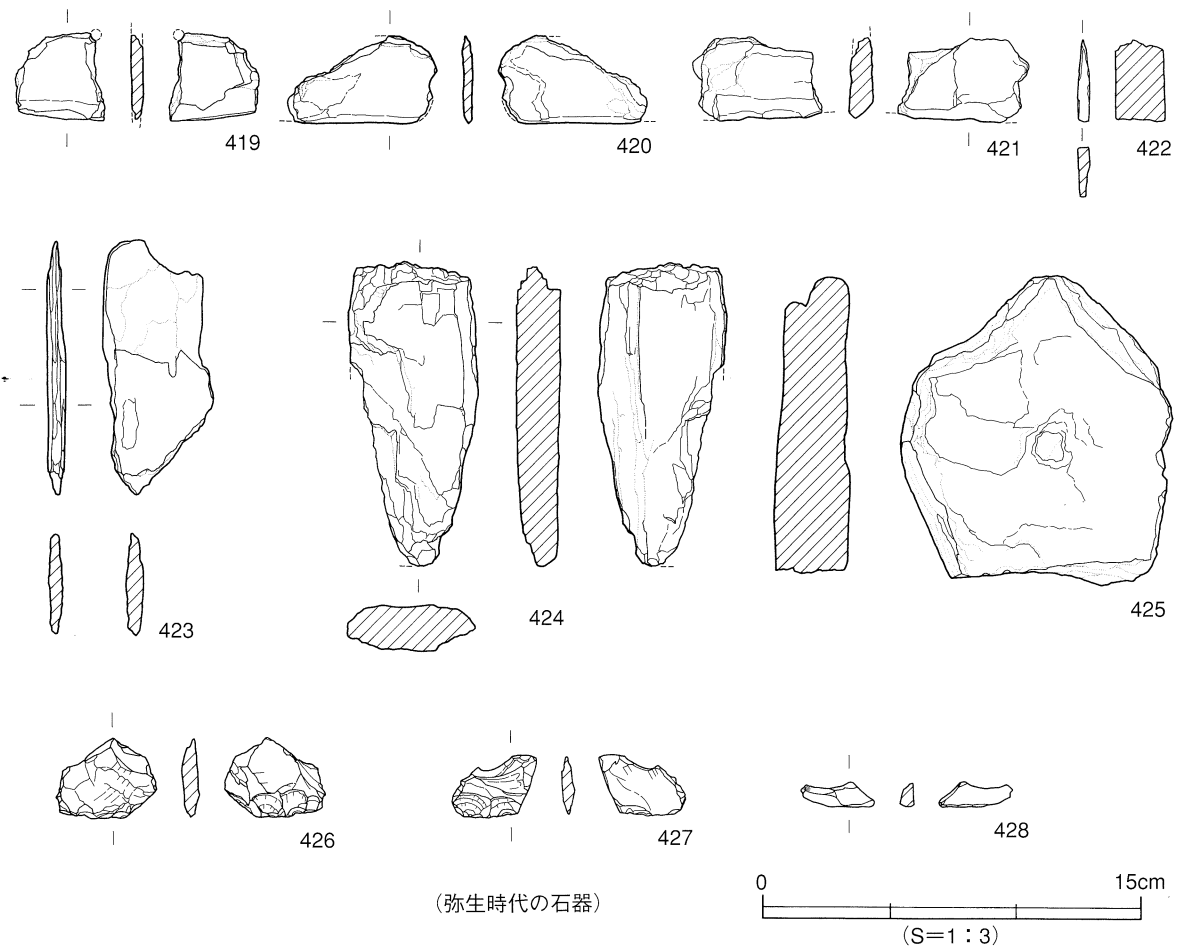
④時期不明土器（410～418）（図31）

410～417は外来品である。410は甕形土器である。口縁部が袋状で、胴部上半の張りが弱い。411～413は甕または壺形土器の口縁部～胴部である。411は口縁部は段を持つ。胴部外面には叩き調整、内面には削り調整が施される。412と413の口縁端部には文様が施されている。412には刻み目、413には1条の波状文が施される。

SD001の遺構と遺物



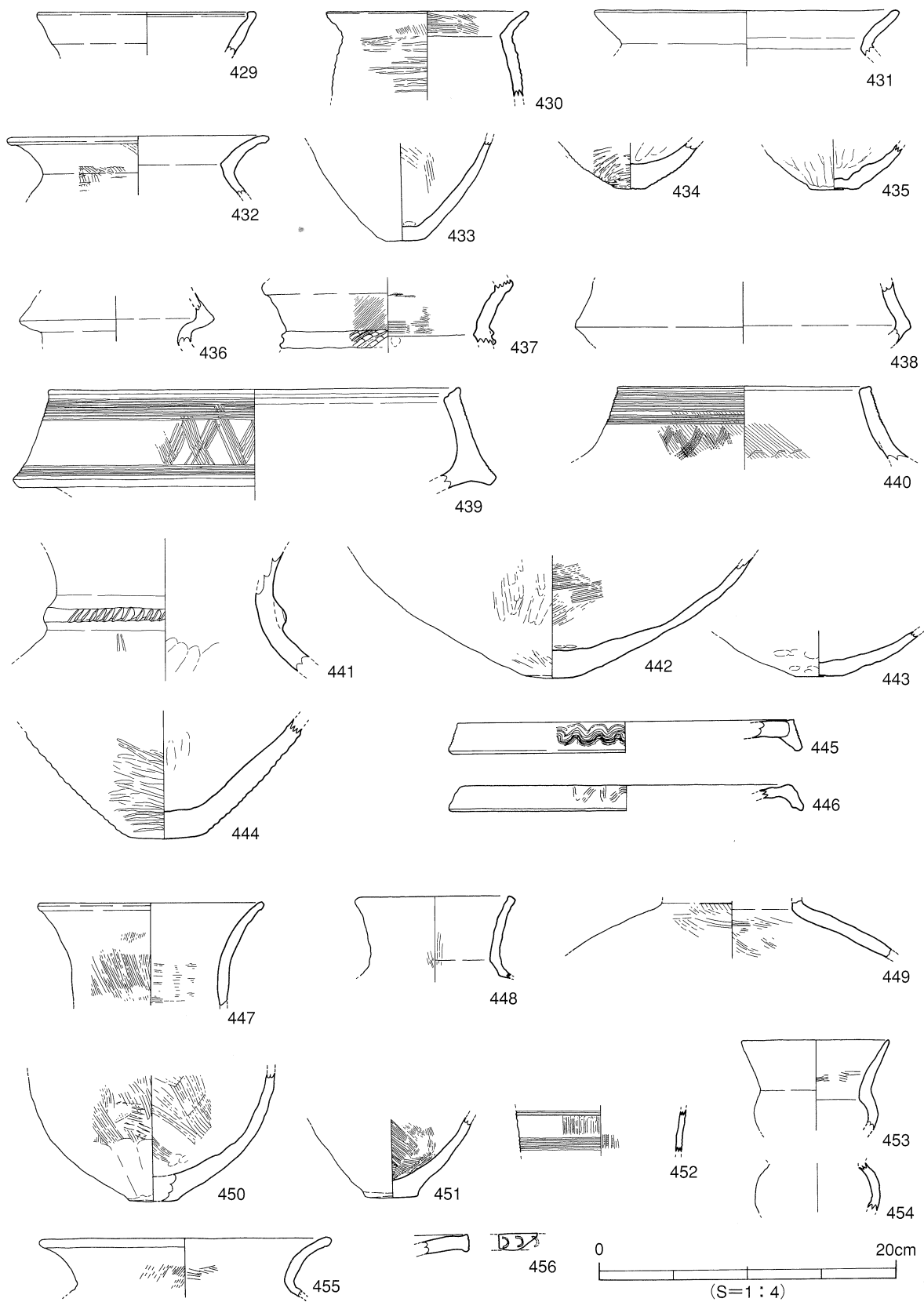
(時期不明出土遺物)



(弥生時代の石器)

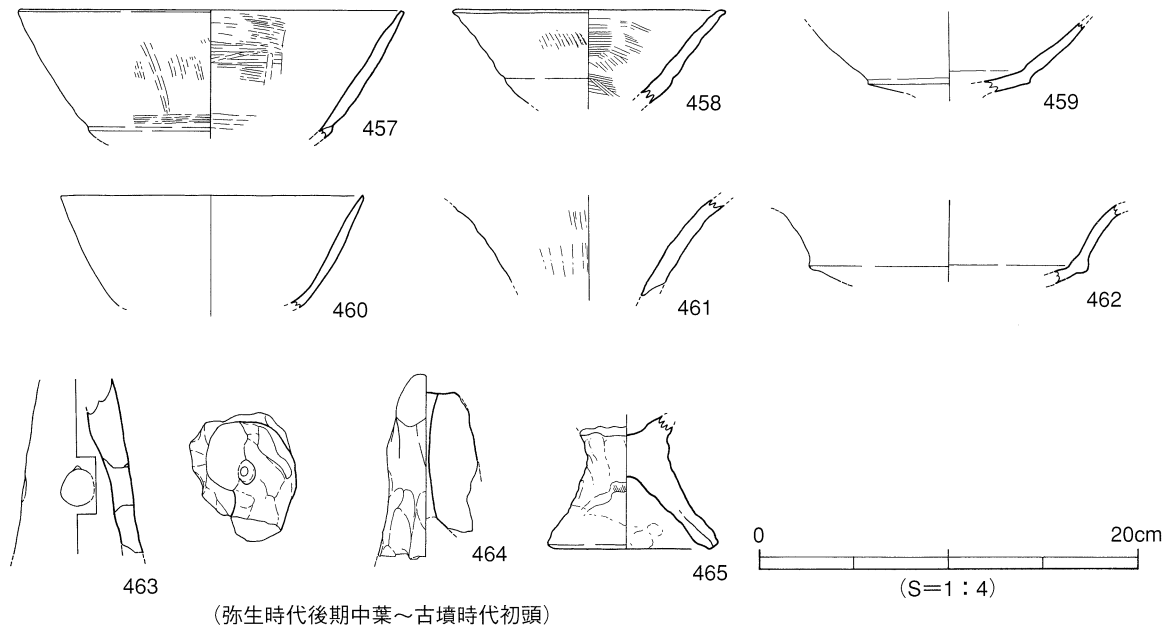
第31図 SD001中層 出土遺物実測図⑰

遺構と遺物



(弥生時代後期中葉～古墳時代初頭)

第32図 SD001上層 出土遺物実測図①



第33図 SD001上層 出土遺物実測図②

414～417は壺形土器の口縁部～胴部である。414・415は同一個体で、口縁部は段を持ち、胴部上半は強く張る。

416は胴部が玉葱状になる。胴部最大径に断面形が三角形になる突帯が巡る。また、その突帯の上方に波状文が施される。417は胴部上半は内傾し、2条の刻み目入りの突帯を巡らす。418は高坏形土器である。上下不明。

⑤弥生時代の石器 (419～428) (図31)

419～421は結晶片岩製の石庖丁である。422・423は結晶片岩製の柱状片刃石斧、424は伐採斧である。425は中央部に窪みのある自然石である。426・427はサヌカイト製の剥片刃器である。

SD001上層出土遺物 (図32～34・図版16・表10・11)

SD001上層からは、甕形土器、壺形土器、高坏形土器、支脚形土器、紡錘車、分銅形土製品が出土した。

①弥生時代後期中葉～古墳時代初頭 (中予中部編年第V-2～4様式・布留0～1式) (図32～33)

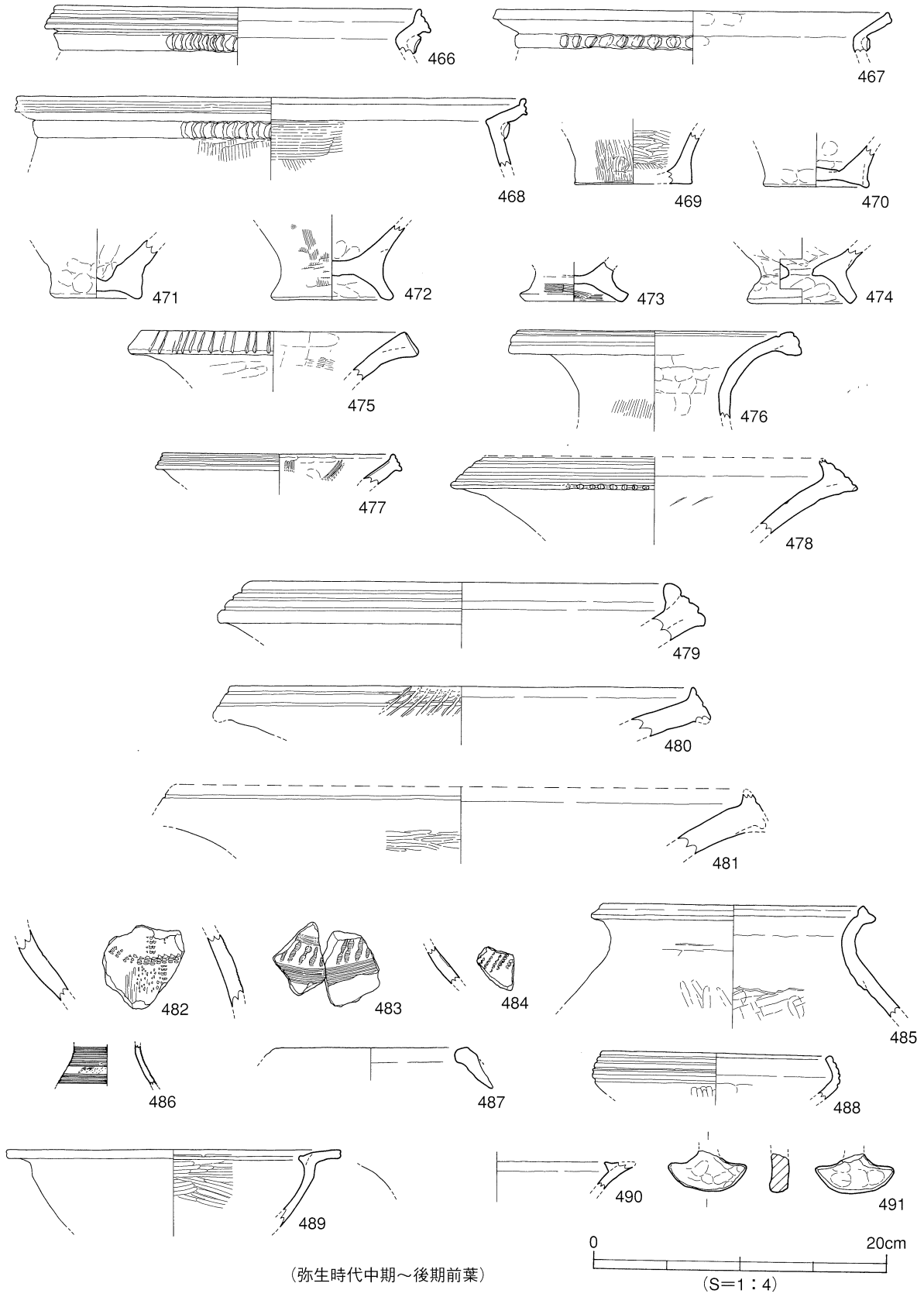
甕形土器 (429～435) 427は口縁部が内湾し、口縁端部の内面は肥厚する外来品である。430は胴部上半の張りが弱い甕で、外面胴部に叩き調整が施されている。431はやや内湾気味の口縁を持ち、432は外反する口縁部を持つ。433～435は平底である。

壺形土器 (436～455) 壺形土器は、長頸壺、細長壺、短頸壺、複合口縁壺、小型丸底壺が出土した。

複合口縁壺 (439～444) 436～438は接合部に稜を持ち、「く」の字状のものである。437の屈曲部には、格子文の突帯がつく。

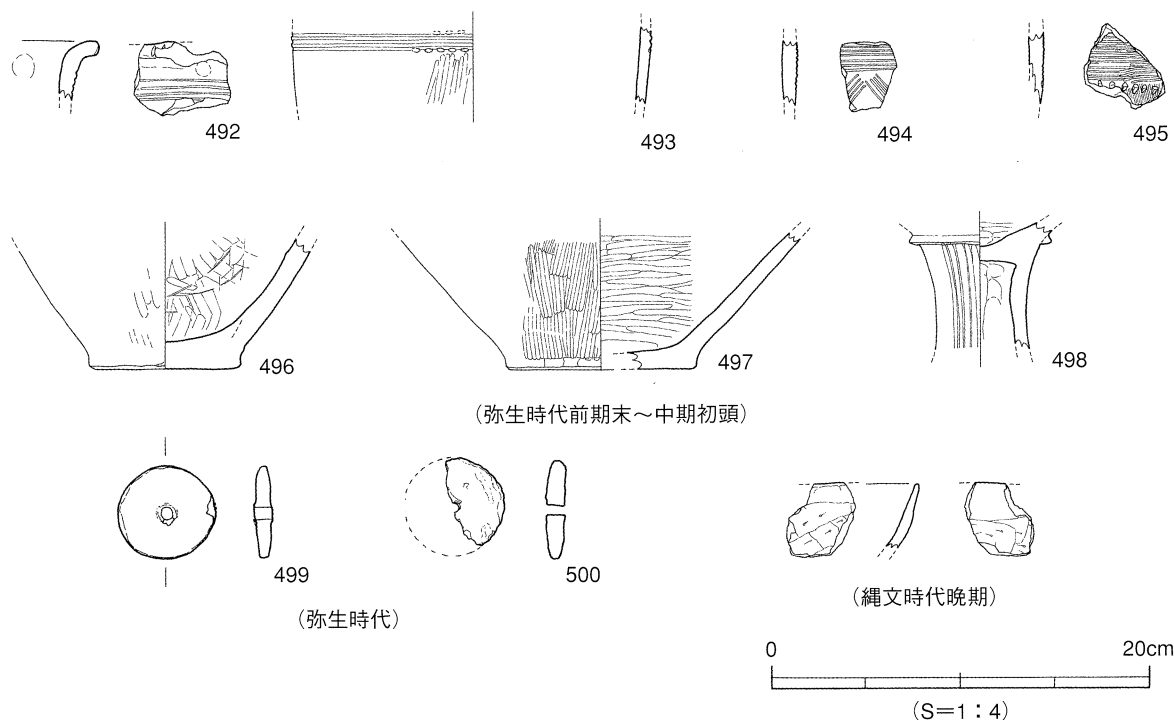
439は口縁部の接合部が面を持ち、「コ」の字状を呈するものである。439・440の二次口縁部には、櫛描き沈線と斜格子文を施す。441は頸部で、屈曲部に刻目入りの突帯がつく。442～444は平底。

遺構と遺物



(弥生時代中期～後期前葉)

第34図 SD001上層 出土遺物実測図③



第35図 SD001上層 出土遺物実測図④

長頸壺（445～451）外反する広口の壺形土器で、445・446は垂下した口縁部に波状文を施す。447・448は直行する頸部に外反する口縁部のもの。449～451は球形になる胴部である。

細長頸壺（452）452は大型品の頸部で、外面には、櫛描き沈線が施文されている。

小型丸底壺（453・454）胴部は球形である。453は口縁部が外反し、端部は尖る。胴部は球形である。454は胴部上半で、球形になる。外来品であり、古墳時代初頭の土器である。

器台形土器（456）受け部は水平になる。端部に半截竹管文が施される。

高坏形土器（457～463）457～462は坏部と受部が屈曲する高坏である。457・458の坏部は外方に直線状に伸びる。459・460の坏部はやや内湾する。463は脚部で、千鳥状に円孔がある。457～460の高坏形土器は、古墳時代初頭の時期である。

支脚形土器（464・465）464は中空で、中央に孔があき、受部に角状突起を持つものである。465は中実で、受部の平面は翼状になる。

②弥生時代中期～後期前葉（中予中部編年第Ⅲ～Ⅴ-1様式）（図34）

甕形土器（466～473）466～468は大型品で、屈曲部に突帯のある甕形土器である。

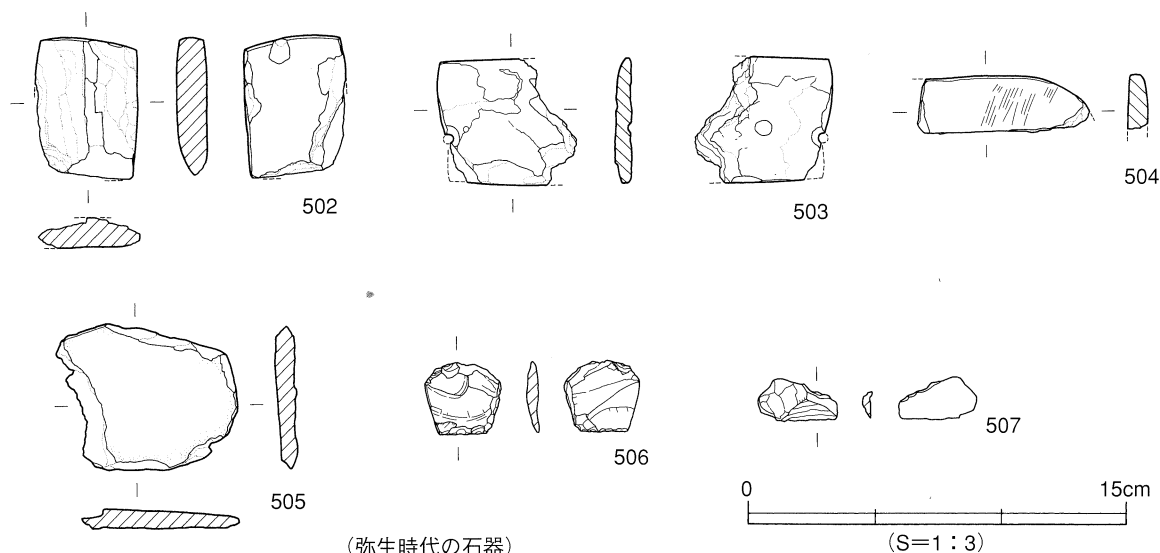
466は口縁端部が肥厚し、擬凹線文がある。突帯は指頭圧痕による刻み目を施す。467は口縁部が外傾し、突帯は布目押圧による刻み目を施す。468は口縁部は外傾し、端部は上方に肥厚し、凹線文がある。突帯は指頭圧痕による刻み目を施す。

469～473は底部である。469は平底。470・471はやや上げ底。472・473は上げ底である。

甑形土器（474）上げ底で、焼成前の円孔が底の中央に1つ穿く。

壺形土器（475～487）壺形土器には、長頸壺、細長頸壺、無頸壺がある。

長頸壺（475～484）壺形土器の口縁部である。475は口縁部が外反し、口縁端部にはヘラ工具で刻み目が施される。476は口縁部が大きく外反し、肥厚する口縁端部には凹線文がある。477・478



第36図 SD001上層 出土遺物実測図⑤

は口縁部は外反し、肥厚した口縁端部には、凹線文が施される。477の内面には、1単位6条の沈線が、間を置いて放射線状に線刻されている。478には、端部の下端に刻み目が施されている。480には凹線文の後にヘラ工具で刻み目が施されている。481は口縁部が外反し、口縁端部には擬凹線が施される。482～484は胴部上半に文様を施す。482には刺突文を、483には櫛描き沈線の間に同工具にて刻み目を、484には貝殻文で刻み目を施す。

短頸壺 (485) 大型品。口縁部は外反し、口縁端部は肥厚する。端部には擬凹線文が施される。

無頸壺 (486・487) 486は小型品で、細長頸壺の可能性もある。頸部から胴部上半である。櫛描き沈線が施されている。487は口縁部は内傾し、端部は丸い。

高坏形土器 (488～490) 488～490は坏部で、488は口縁部が内傾する。5条凹線文が施される。

489は口縁部は坏部から屈曲し、ほぼ水平に外傾する。490は口縁部が外反し、端部には三角形の突帯が口縁が水平になる様に巡る。須^以式に類似する。

分銅形土製品 (491) 分銅形の下部にあたる。表情はない。
^{顔面}

①弥生時代前期末～中期初頭 (中予中部編年第I-4～II様式) (図35)

甕形土器 (492～495) 492は折り曲げ口縁である。3条のヘラ描き沈線が残存する。493～495は胴部である。493には3条のヘラ描き沈線と直下に刺突文、494には6条のヘラ描き沈線と山形文、495には櫛描き沈線と直下に刺突文が施文されている。

壺形土器 (496・497) 大型品の壺形土器の底部である。内外面ともに磨き調整が施されている。

高坏形土器 (498) 脚部である。坏部との間に三角形の突帯が巡る。

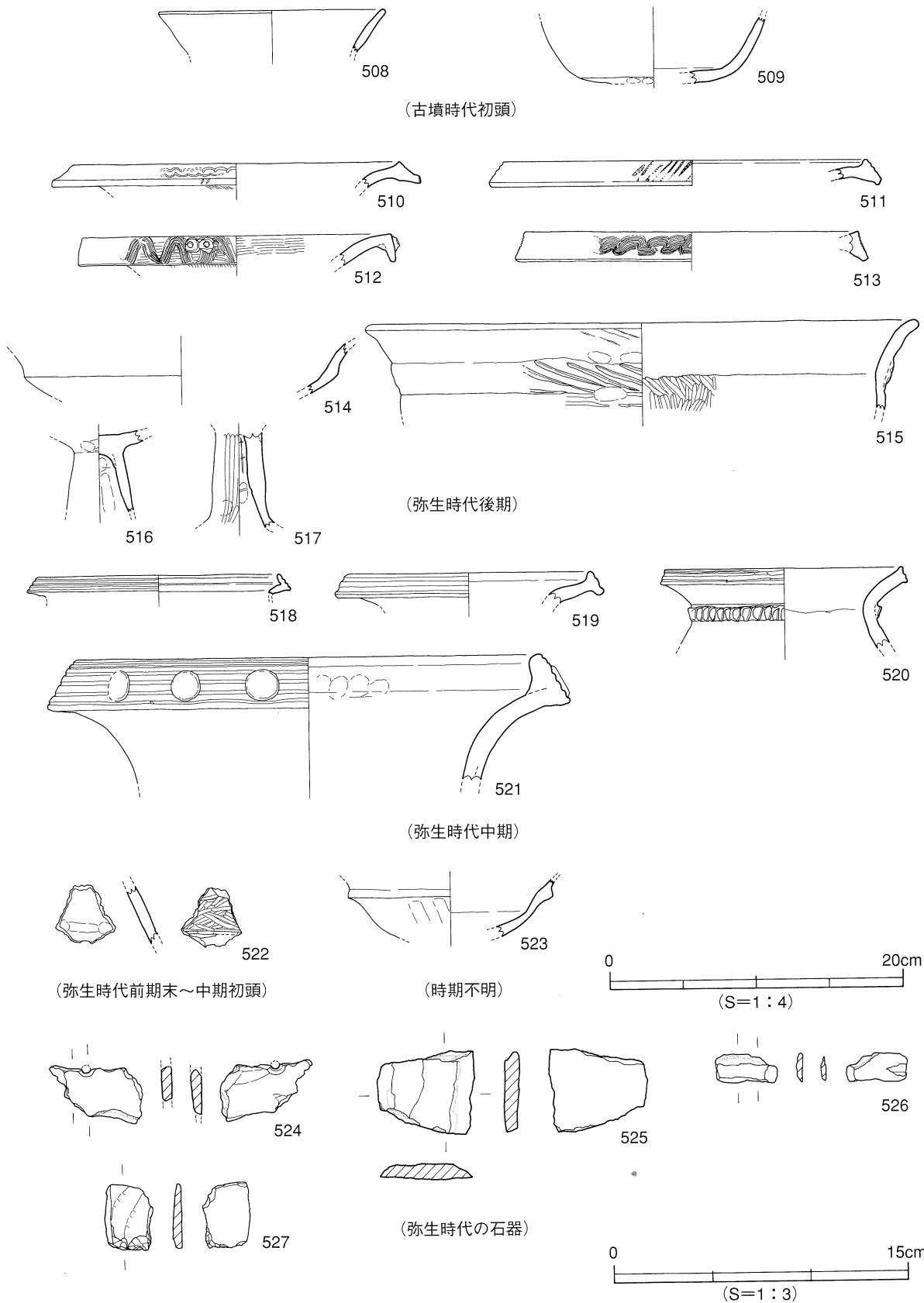
②弥生時代 紡錘車 (499・500) 円形の中央に円孔が穿孔される。

③縄文時代の土器 (501) 深鉢の口縁部で、内外面は削られている。

④弥生時代の石器 (502～507) (図36・図版16・表11)

502～505は結晶片岩製である。502は扁平片刃石斧、503・504は石庖丁、505は剥片。506・507は

SD001の遺構と遺物



第37図 SD001層位不明 出土遺物実測図①

サヌカイト製の剥片刃器である。

S D 001層位不明出土遺物 (508～527) (図37・表12・13)

①古墳時代初頭の土器 (508・509) 高坏の坏部である。

②弥生時代の後期の土器 (510～517) 510は長頸壺の口縁部である。511～513は壺形土器の口縁部である。口縁部は外反し、口縁端部が垂下する。510・513には波状文、511には刻み目文、512には波状文の後、円形浮文が付く。514は高坏である。515は鉢形土器である。518は有段の坏部で、516は円錐状に広がる脚部、517は細く、裾部が屈曲する脚部である。

③弥生時代中期の土器 (518～521) 518～521は口縁端部に凹線文が入る壺形土器である。518は、甕形土器の可能性もある。口縁部は「く」の字になる。519・521の口縁端部は肥厚する。521は凹線文の上に円形浮文が付く。520は口縁部が外傾し、頸部との屈曲部には突帯が巡る。

④弥生時代前期末～中期初頭の土器 (522) 壺形土器の胴部である。

⑤時期不明の土器 (523) 内湾し、断面が三角形の段が付く。

⑥弥生時代の石器の土器 (524～527) 524は結晶片岩製の石庖丁で、円孔が2個穿孔されている。525・526は剥片、527はサヌカイト製の剥片刃器である。

【S D 001の小結】

以上のような遺物出土状況から、上・中・下層とも古墳時代初頭～弥生時代前期末までの遺物が混在して出土している様子が伺える。S D 001は短期間に人為的に埋めたと考えられる。

調査区の北隣には樽味高木遺跡2次調査地があり、S D 001出土の遺物とほぼ同時期の古墳時代初頭～弥生時代中期中葉の遺物が各堅穴住居址から出土している。この付近の遺構から土砂を移動したのであろう。

今回検出した溝の部分には、陸橋部や両端に対称になる柱穴などは確認されていない。また、盛り土(土塁)は、北と西壁面土層や遺構検出面から確認できなかった。古墳時代中期の堅穴住居址に切られた可能性も考えられる。

時期：出土遺物からは、埋没したのが古墳時代初頭であり、機能していたのは、古墳時代初頭か、それ以前と考える。

(3) 掘立005 (図38～45・巻頭図版1・2・図版1・7～14・表2・3・14・15)

掘立005は、調査区西南部のD・E・F 8～12、G 8～11に位置する大形掘立柱建物である。

他の遺構との重複関係は、S K 017 (弥生時代)、S P 143 (時期不明)・197 (時期不明)・198～202 (時期不明)を切り、掘立009 (古墳時代以降)・010 (古墳～古代)、S B 038・045・049・050・051 (古墳時代)、S K 019 (近代)、S P 139・141・145・193・203～217 (時期不明)に切られる。また、第IV層を掘り込んでいる。

規模は桁行6間(12.72m)×梁行6間(10.11m)の総柱建物である。床面積は128.60㎡、主軸は長軸方向でN-24°-Wである。これはS D 001の主軸方位N-65.5°-Eとほぼ直交する。掘立柱建物付近に庇や柵は確認されなかった。

S P 1～24は側柱である。平面形態が全て長方形で、長辺の中央部には若干の窪みがある。長辺

が0.98～2.20m、短辺が0.6～1.0mで、長軸を東西側の柱列は東西方向に、南北側の柱列は南北方向に持つ。断面形態は、1～2段の階段状の掘り込みを持ち、上面には傾斜の緩いスロープがある。柱穴の端は平面が円形に膨らむ。ここが最も深くなっており、埋土の観察や根石・礎板痕跡が確認されたことから、ここに柱を設置していたことが分かった。深さは約0.6mで、底面は標高37.10～37.60m。柱は抜き取られていたが、すっぽりと抜き取られているSP2・5・6・7・10・12・16・21の柱痕跡から、直径は推定~~20~~^{20～30cm}を測る。SP1・3～6・16・21・23・24の埋土からは、上面のスロープが柱設置の際から存在していたことが確認でき、柱を落とし込むための斜路として機能したと考えられる。この斜路は、各柱列ごとに同じ向きに揃う。柱の抜き取り時にも、この柱設置時の斜路を利用している。これは抜き取り時に、柱設置当時の掘り込みの方向を知っていたと推測する。

SP25～49は束柱である。平面形態は円形または、長方形で、円形は直径約0.6m、長方形は長辺0.5～1.20m、短辺0.45～0.70mで側柱よりも規模が小さい。断面形態は、逆台形のものが多い。上面にスロープを持つものは、SP36・38・43。深さは0.15～0.25mで、底面は標高37.75～38.05m。束柱は全て抜き取られており、抜き取りの際に大幅に掘り返されていた。このため、柱の推定径は側柱ほどははっきりしないが、SP27・28・31・36・38・39・44から0.05～0.3mの範囲と推定する。SP45・46の石は根石の可能性が高い。礎板痕跡は確認されなかった。

【掘立柱建物の側柱の設置方法】

以下の順序である。①地山に1～2段の階段状の掘り込みを形成する。掘り込みは、上面に傾斜の緩いスロープとスロープの反対側の端に約1m程度を急激に深くする。掘り方は、各柱列ごとに同じ向きに合わず。これにより、柱穴の斜路は各柱列ごとに揃い、東西の柱は外側に、南北の柱は内側に準備しておけるので、一気に四方の柱を立てることができる。まず始めに内側にある南北の柱をそれぞれ立ち上げ、次に外側の東西の柱を立てる。

②柱の設置予定箇所に礎板または、石を置く。石の下には前もって埋土を充填しておく。

③スロープを斜路として利用し、斜路に沿って柱を一番深い掘り込みへ入れる。

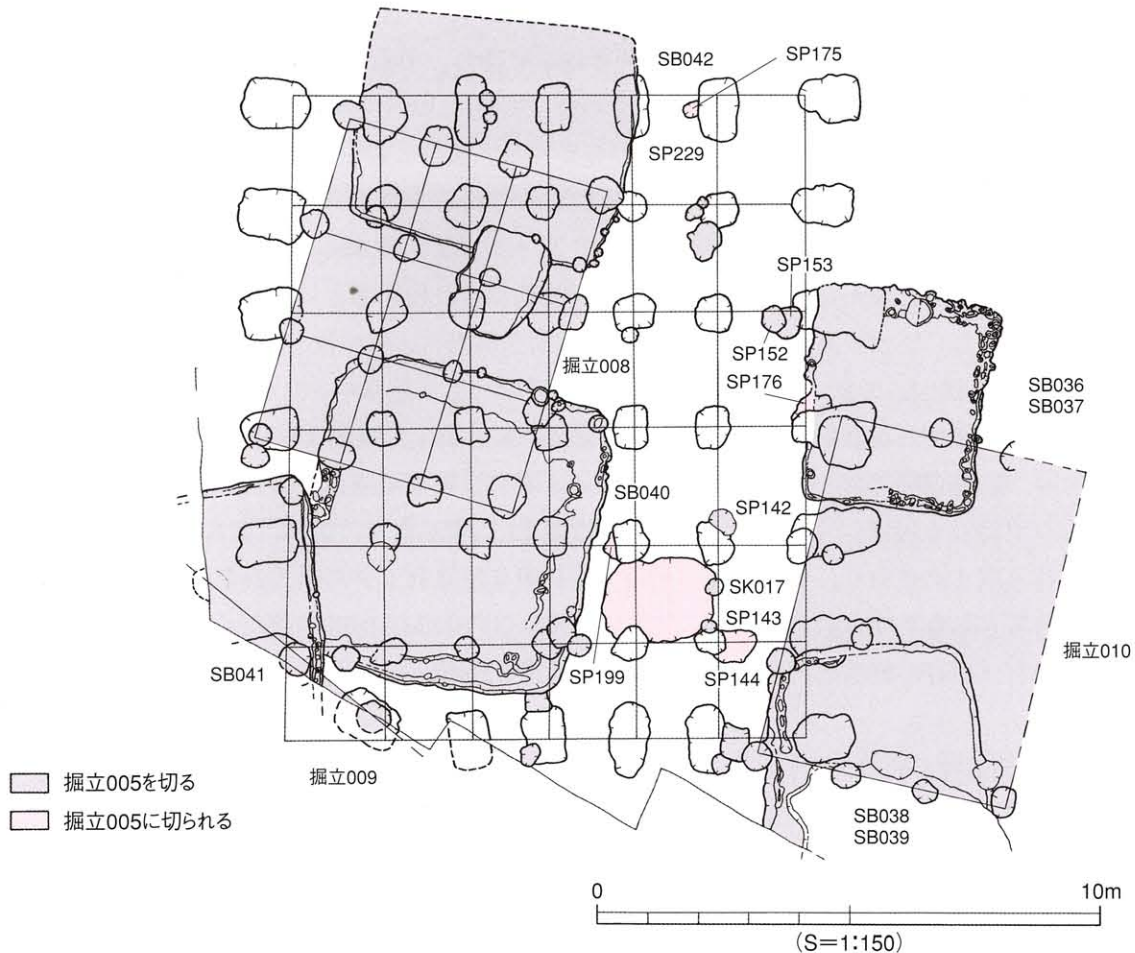
④直立した柱の周辺に、直^径10～15cm大の栗石や土を充填する。柱の下には一部で根石か礎板痕跡が確認できた。これは、基盤層が標高38.00m以下だと砂層になり、柱の沈下を防ぐためと考えられる。このため、確認できなかった柱穴にも礎板が設置されていた可能性が高い。

【掘立柱建物の側柱の抜き取り方法】

以下の順序である。①柱設置時に掘り込んだ柱穴の一部を再び掘り返す。その際、柱設置時の斜路を利用し、その傾斜に合わせて柱までの斜路を作る。②斜路に沿って柱を引き抜く。③柱穴を埋める。

【建物の建て替え】

側柱のSP6は、唯一上部から下部まで直立した柱痕跡が確認できる柱穴である。埋土観察からは、柱設置時の埋土と柱抜き取り時に埋め戻した埋土も確認できる。このためこの柱穴のみ、柱の建て直しが行われた可能性が出てくる。他の柱穴ではその様な痕跡は確認できない。他に、可能性として考えられることは、何らかの理由で、抜き取り途中で作業を中止して、柱の上部のみを切り取り、柱の根元はそのまま埋めたためである。



第38図 掘立005遺構切り合い図

【出土遺物】(図45・表14・15・図版17)

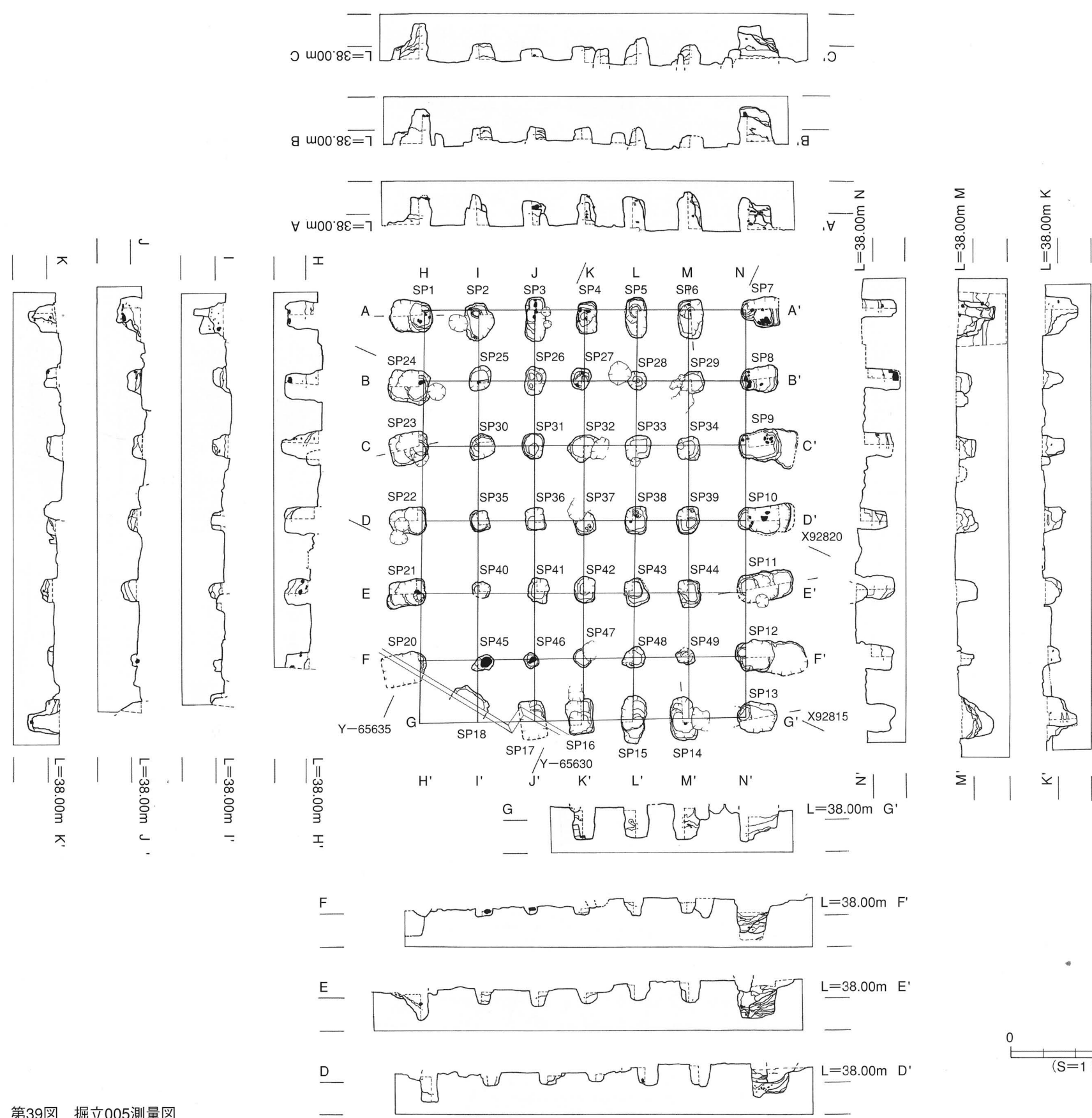
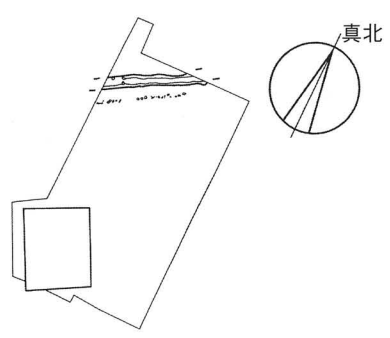
遺物は側柱で少量出土した。遺物は、埋土の性格により3種類で取り上げた。①柱設置時の充填土、②柱を抜き取った後に柱穴を埋めた土、③当初の掘り方と柱抜き取り跡の平面ラインが確認できるまで掘削した上部の埋土である。(柱穴検出面の出土遺物)以下、図化の可能な遺物を記載した。遺物はいずれも小片で、出土状況からも祭祀や地鎮行為が行われた様子は伺えない。柱穴を掘り、埋める際に自然に混入したのであろう。

①柱設置時充填土の出土遺物 (528～534)

528は甕形土器の口縁部。529は甕形土器の胴部で、内外面とも明瞭な境がある。外面に叩き調整、内面に刷毛目調整を行っている。530は青白口縁壺か又は、二重口縁壺の二次口縁部。口縁は緩やかに外反する。土器の色調が他と違い、橙色である。531は細長頸壺の頸部。532は壺形土器の胴部上半部。533・534は支脚。

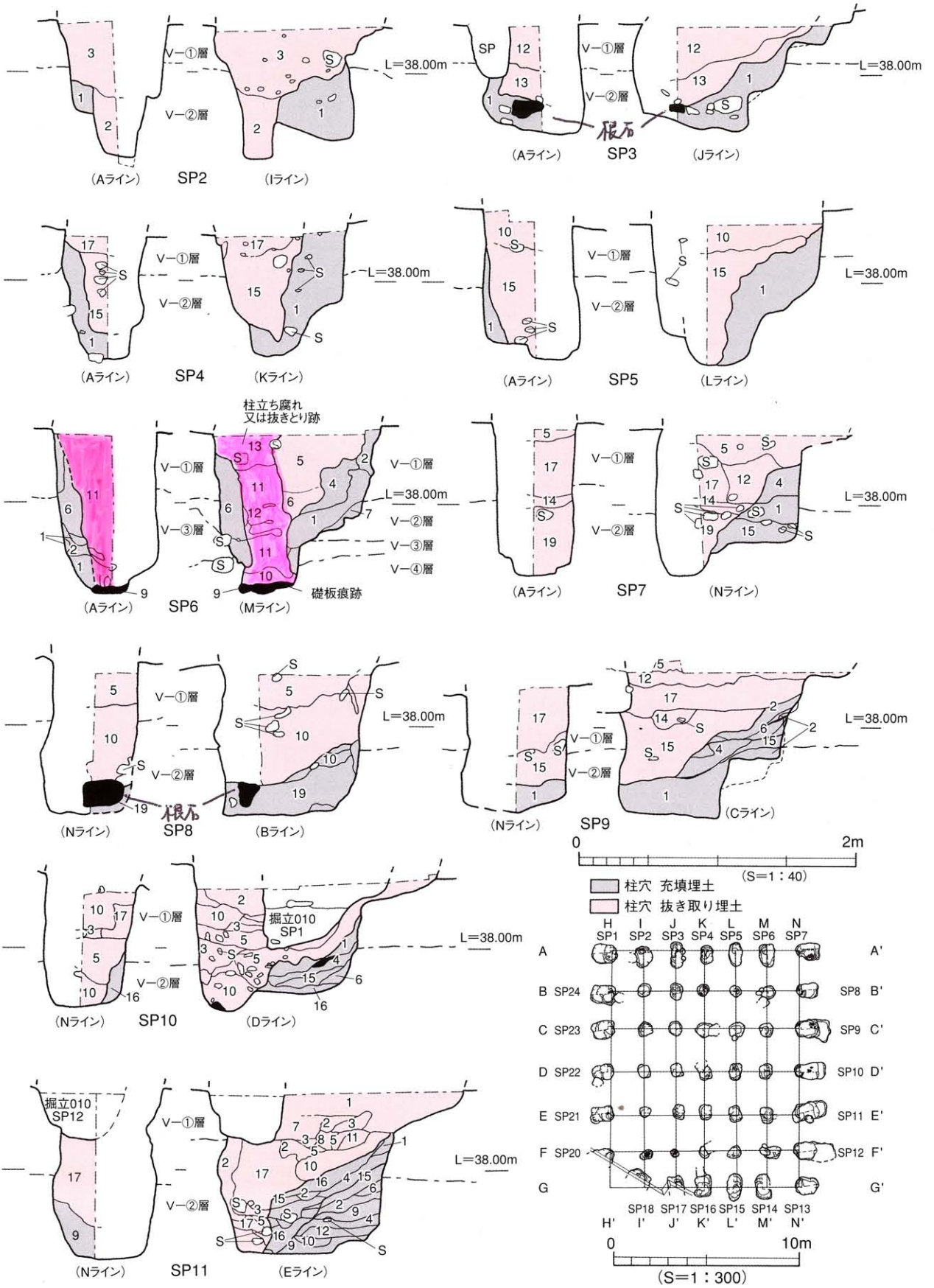
②柱を抜き取った後に埋めた土の出土遺物 (535～546)

535～540は甕形土器である。535～537は口縁部～胴部上半部分。536と537には、内外面とも明瞭な境がある。538は小形の甕形土器の胴部。539は甕形土器の底部。外面に叩き調整、内面に刷毛目調整を行っている。540は甕形土器の上げ底の底部。541は壺形土器の口縁部で、口縁端部には格子



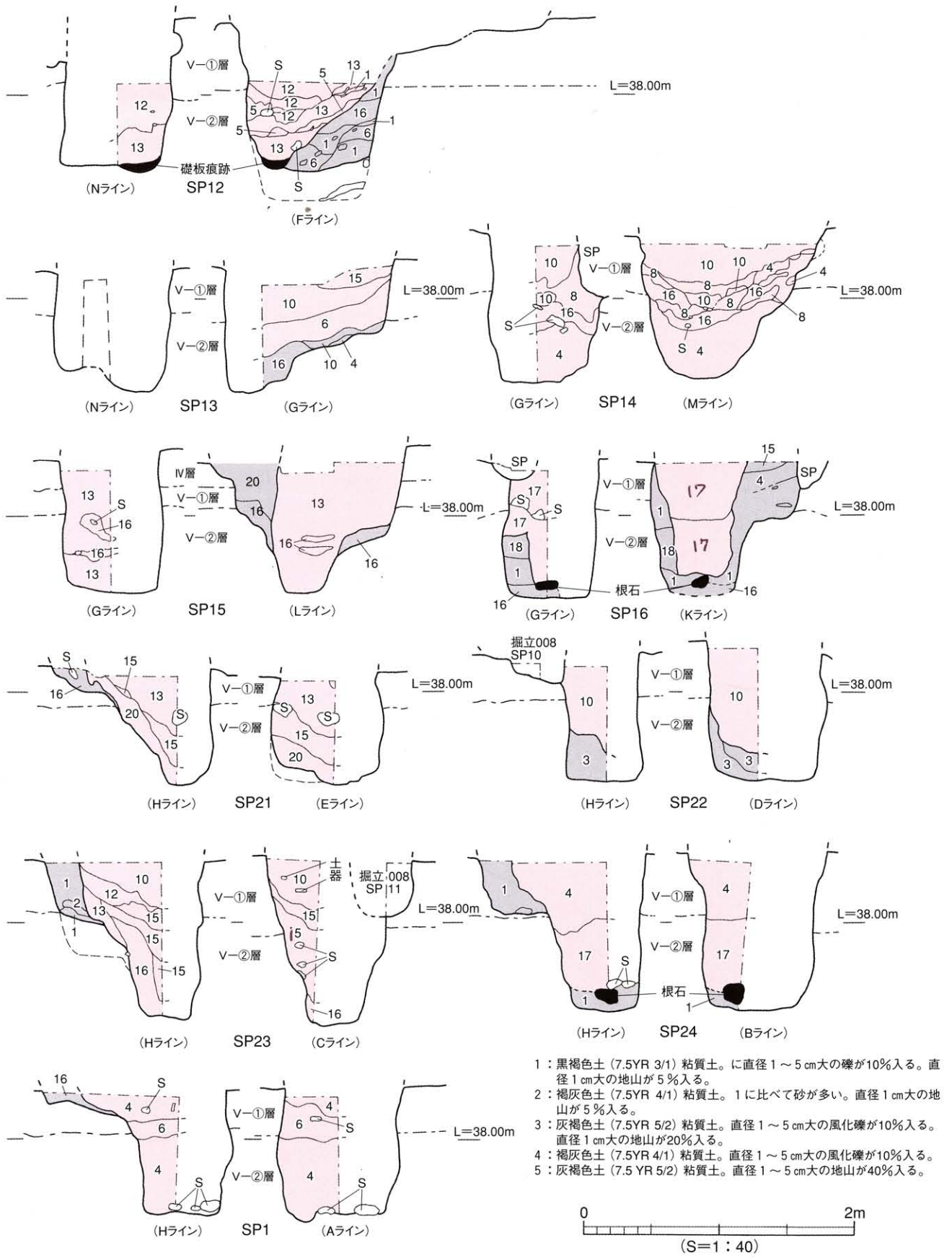
第39図 掘立005測量図

掘立005の遺物と遺構



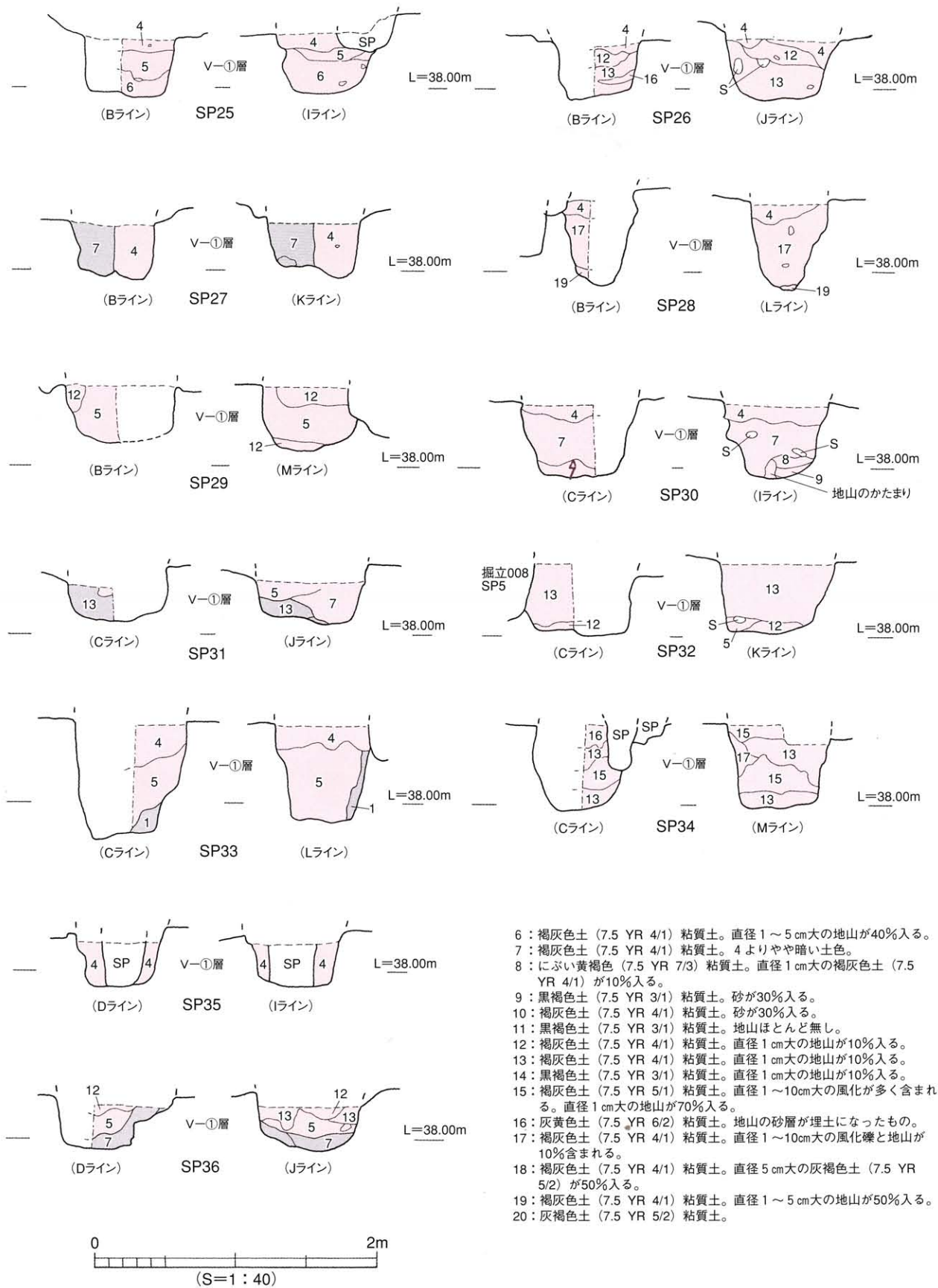
第40図 掘立005側柱断面図①(SP2~11)

遺構と遺物



第41図 掘立005側柱断面図②(SP12~24・1)

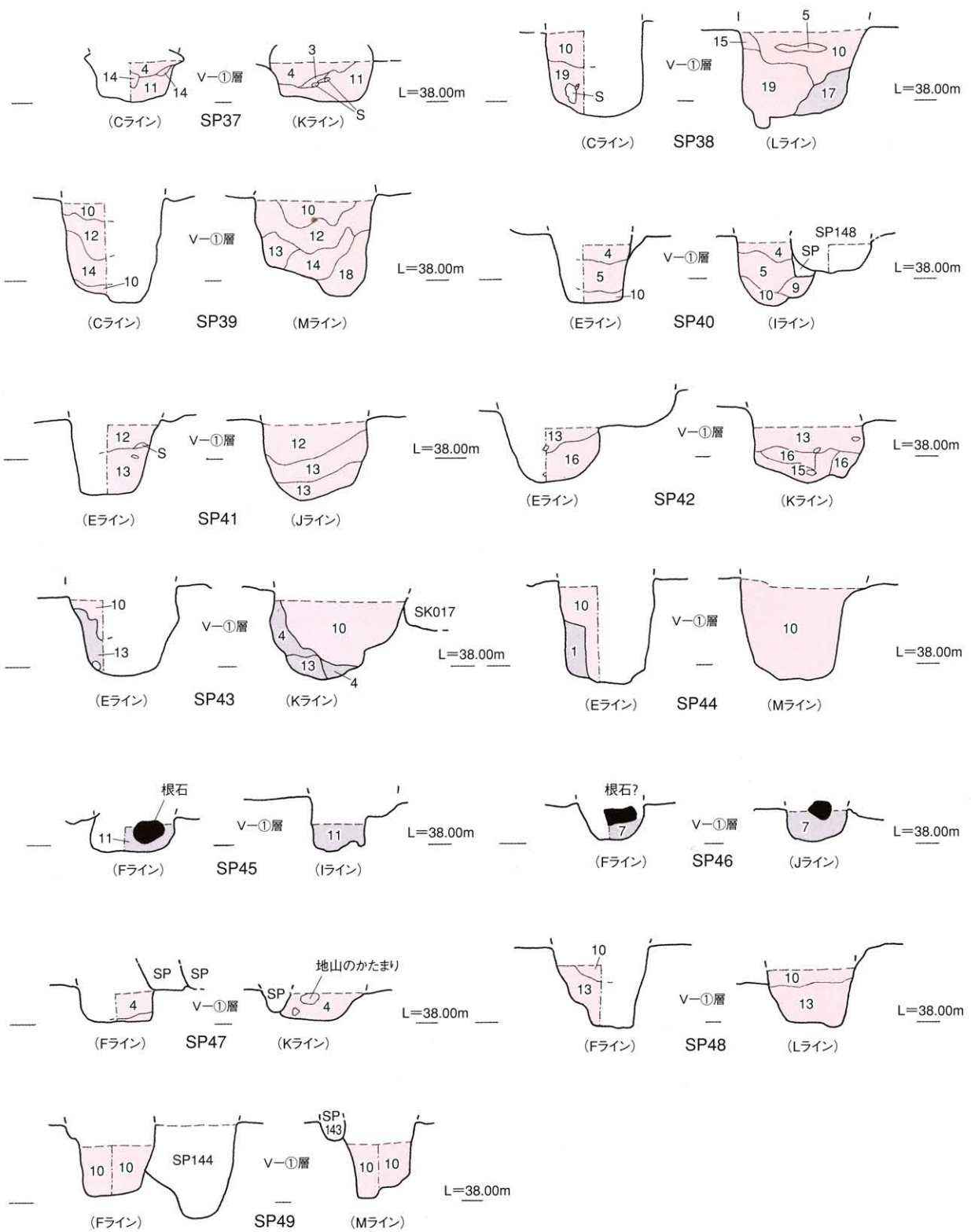
掘立005の遺物と遺構



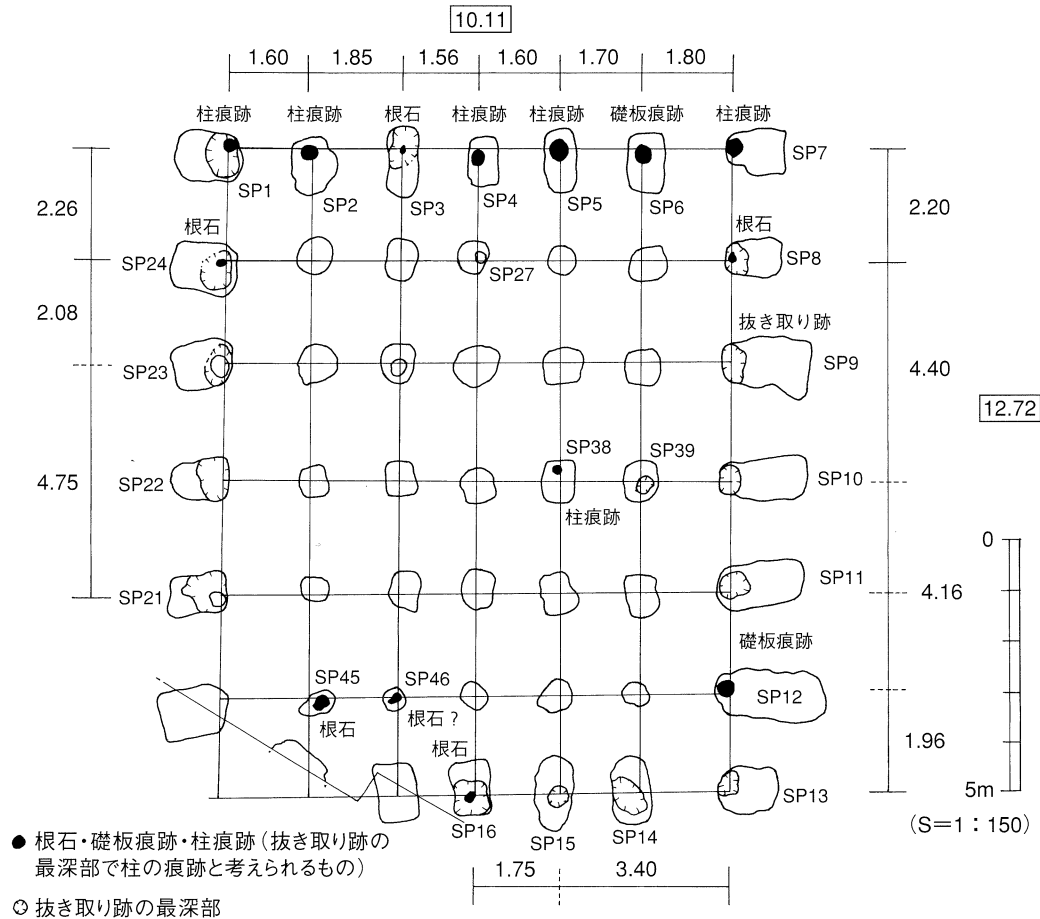
- 6：褐灰色土 (7.5 YR 4/1) 粘質土。直径1～5cm大の地山が40%入る。
- 7：褐灰色土 (7.5 YR 4/1) 粘質土。4よりやや暗い土色。
- 8：にぶい黄褐色 (7.5 YR 7/3) 粘質土。直径1cm大の褐灰色土 (7.5 YR 4/1) が10%入る。
- 9：黒褐色土 (7.5 YR 3/1) 粘質土。砂が30%入る。
- 10：褐灰色土 (7.5 YR 4/1) 粘質土。砂が30%入る。
- 11：黒褐色土 (7.5 YR 3/1) 粘質土。地山ほとんど無し。
- 12：褐灰色土 (7.5 YR 4/1) 粘質土。直径1cm大の地山が10%入る。
- 13：褐灰色土 (7.5 YR 4/1) 粘質土。直径1cm大の地山が10%入る。
- 14：黒褐色土 (7.5 YR 3/1) 粘質土。直径1cm大の地山が10%入る。
- 15：褐灰色土 (7.5 YR 5/1) 粘質土。直径1～10cm大の風化が多く含まれる。直径1cm大の地山が70%入る。
- 16：灰黄色土 (7.5 YR 6/2) 粘質土。地山の砂層が埋土になったもの。
- 17：褐灰色土 (7.5 YR 4/1) 粘質土。直径1～10cm大の風化礫と地山が10%含まれる。
- 18：褐灰色土 (7.5 YR 4/1) 粘質土。直径5cm大の灰褐色土 (7.5 YR 5/2) が50%入る。
- 19：褐灰色土 (7.5 YR 4/1) 粘質土。直径1～5cm大の地山が50%入る。
- 20：灰褐色土 (7.5 YR 5/2) 粘質土。

第42図 掘立005束柱断面図① (SP25～36)

遺構と遺物



第43図 掘立005束柱断面図② (SP37~49)



第44図 掘立005柱間

目文の文様を施している。542は低脚の高坏の坏部。543は高坏形土器の受け部で、円盤充填技法。

544は高坏形土器の脚部。矢羽根透かし孔を持ち、凹線文を施す。545は壺か鉢形土器の取手。546はサヌカイト製の打製石鏃で、凸基式。

③柱穴検出面出土遺物 (547～551)

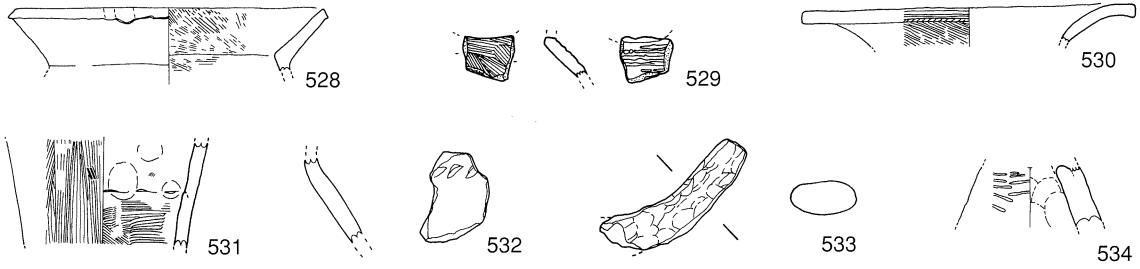
この遺物は、柱穴検出時の出土遺物である。上面の住居址や包含層遺物が入っている可能性がある。547・548は甕形土器の胴部上半。549は支脚の脚部。550は壺形土器の口縁部。551は高坏形土器の坏部。

時期：掘立005の出土遺物からは、①の「柱設置時の充填土」が上限となり、②の「柱を抜き取った後に柱穴を埋めた土」が下限になる。上限が弥生時代後期後葉（中予中部編年第V-4様式）で、下限が古墳時代初頭となる。

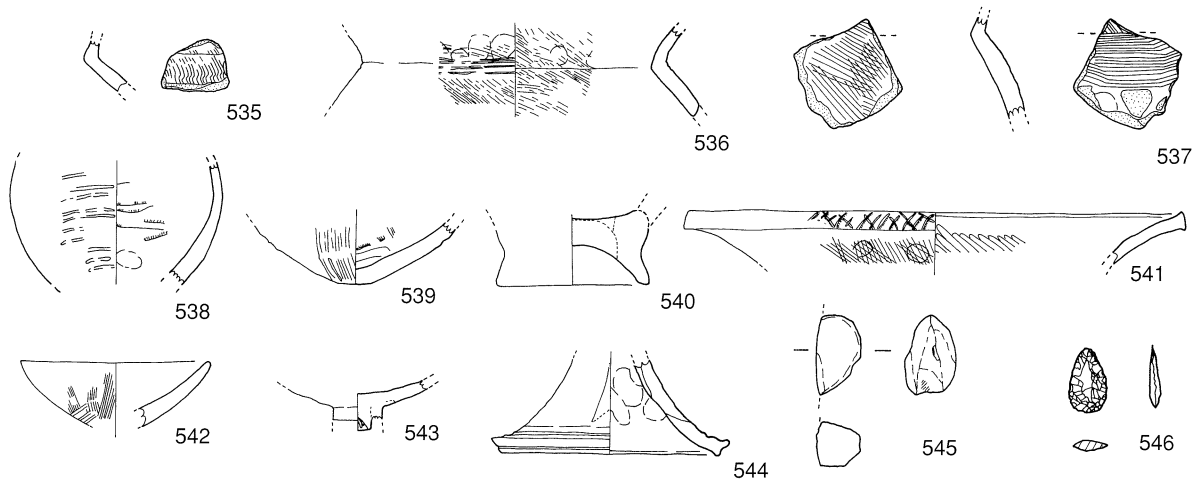
(4) 土坑 (図46～48)

S K 006 (図46・図版8・表16)

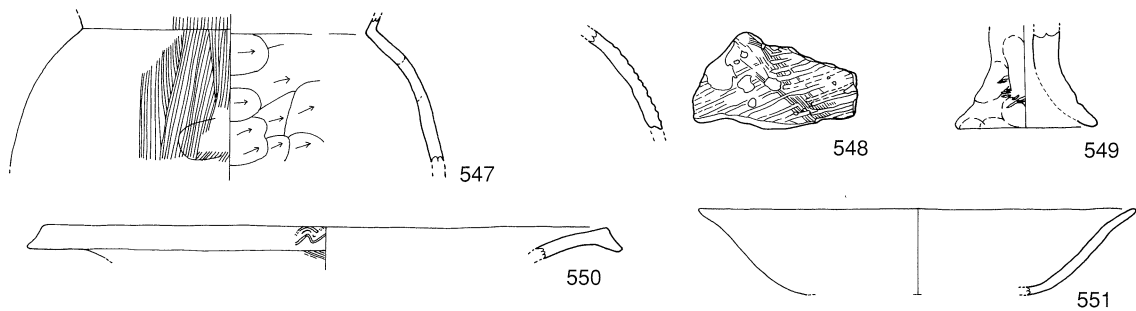
掘立005の遺構と遺物



掘立005 柱設置時の充填埋土 出土遺物 (528~534)



掘立005 柱穴抜き取り埋土 出土遺物 (535~546)



掘立005 柱穴検出面 出土遺物 (547~551)

【柱設定時の充填埋土出土遺物】

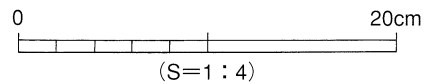
(SP8 : 532、SP14 : 529・530・534、SP17 : 528・531、SP32 : 533)

【抜き取り埋土出土遺物】

(SP4 : 535、SP8 : 545、SP13 : 541、SP16 : 538・540・543)
(SP17 : 547、SP23 : 544、SP24 : 537)

【柱穴検出面出土遺物】

(SP9 : 550、SP7 : 547)
(SP23 : 536、SP32 : 551)



第45図 掘立005出土遺物実測図

S K006は、調査区中央のD 8区に位置する土器棺墓である。他の遺構との切り合い関係は、S P 167に切られ、S P 85を切る。土器棺は、大型壺を棺身に使用している。遺構は大幅に削平されており、残存状況は、壺の胴部4分の1程度であった。その他の土器片は出土しておらず、口縁部

土坑の遺構と遺物

を打ち欠いていたか、合わせ口の土器棺であったかは不明である。

遺構の規模は、検出長軸長0.63m、短軸長0.58m、深さ0.15mを測る。平面形態は、残存部分から円形であったと推測する。断面形態は、地面を緩やかな逆台形に掘り込んでいる。土器棺を安置するために灰褐色（7.5Y R 4/2）の粘質土を埋め、一部には裏込めに石を用いて設置している。

埋葬状態は横位で、土器棺内の埋土は、極暗褐色（7.5Y R 2/3）の粘質土で、副葬品は確認されなかった。

土器は、複合口縁壺の胴部である。残存している胴部片には意図的な穿孔は無い。また、赤色顔料は内外面とも確認されていない。底部の外面の調整には、叩きの後なでを行っている。

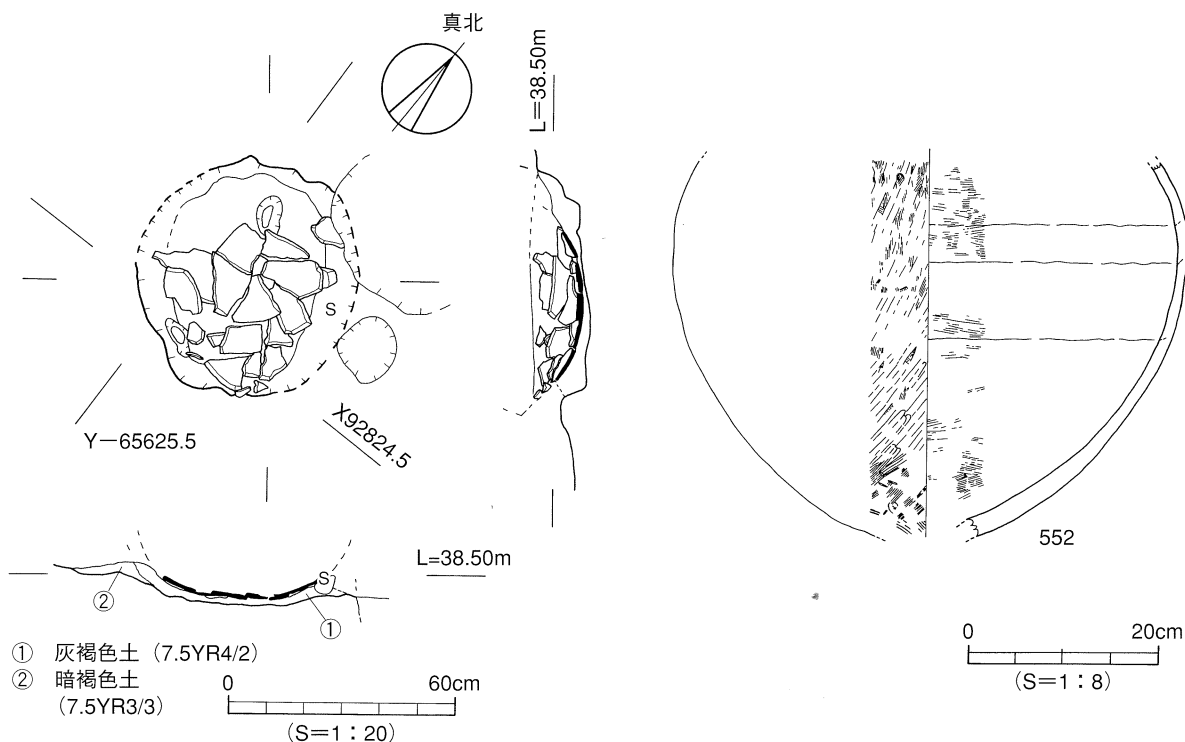
調査区内では、他に埋葬施設は確認されておらず、同時期の住居址もない。このため全くの単独墓である。

時期：弥生時代後期（中予中部編年第V - 2 ~ 4 様式）

S K 003（図47・図版9・表17）

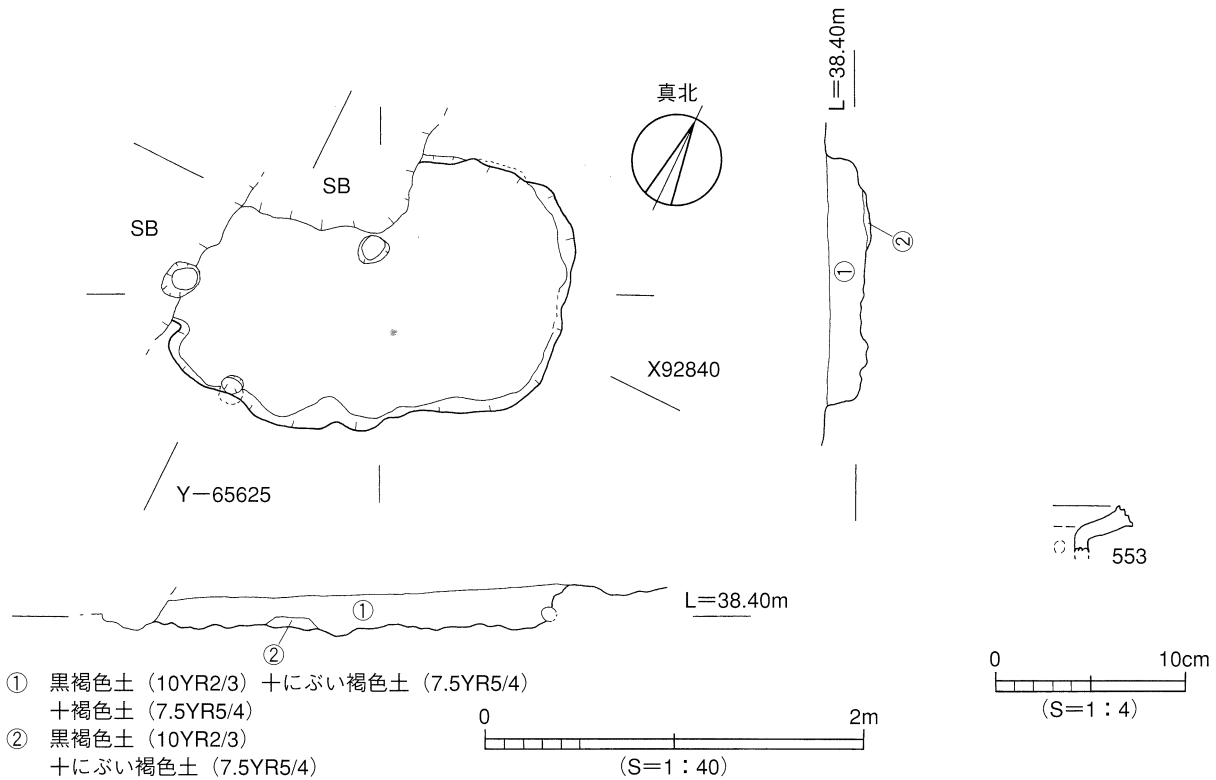
S K 003は、調査区北側のC・D 5区に位置する長方形の土坑である。他の遺構との切り合い関係は、S B 019、S B 021、S B 023に切られる。

規模は、検出長軸2.04m、短軸1.35m、深さ0.21mを測る。断面形態は、筒状を呈する。床はほぼ平坦である。埋土は上層が黒褐色土（10Y R 2/3）に、にぶい褐色土（7.5Y R 5/4）の粘質土と褐色土（7.5Y R 5/4）の粘質土がそれぞれ直径2cm程度のブロックで5%ずつ入る。2層は、黒褐色



第46図 SK006測量図・出土遺物実測図

遺構と遺物



第47図 SK003測量図・出土遺物実測図

(10Y R 2/3) の粘質土に、にぶい褐色 (7.5Y R 5/4) の粘質土が直径 5 cm 程度のブロックで 20% 入る。

出土遺物は壺形土器片で、口縁端部に凹線文を 3 条施す。

時期：遺物は弥生時代後期 (中予中部編年Ⅳ様式または、V-1 様式) であるが、小片で 1 点のみ出土であるため、遺物からの時期比定は難しい。遺構の切り合い関係では、S B 019・021・023 は古墳時代中期であり、S K 003 の時期は古墳時代中期以前である。

S K 017 (図48・表18)

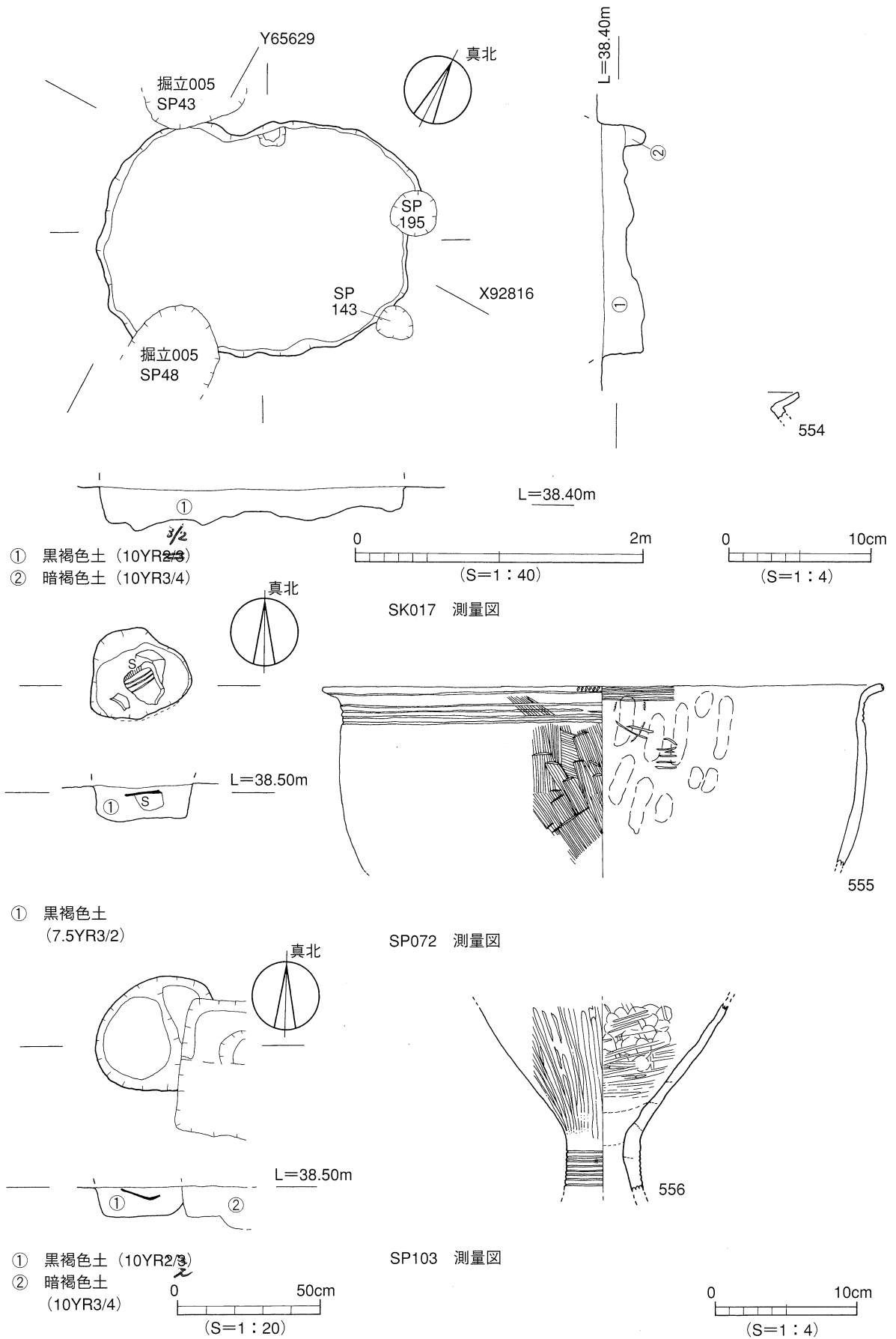
S K 017 は、調査区南側の D・E 10 区に位置する長方形の土坑である。他の遺構との切り合い関係は、掘立 005 の S P 43・48、S P 143・195 に切られ、土坑内の S P 198 を切る。

規模は、長軸 2.20m、短軸 1.65m、深さ 0.29m を測る。断面形態は、立ち上がりは垂直だが、床面は凸凹している。埋土は黒褐色 (10Y R 3/2) の粘質土と、にぶい黄褐色 (7.5Y R 4/3) の粘質土がそれぞれ直径 2～3 cm 程度のブロックで 50% ずつ入る。出土遺物は甕形土器片の口縁部が出土している。

時期：遺物は弥生時代後期 (中予中部編年第Ⅳ様式) であるが、小片で 1 点のみの出土であるため、遺物からの時期比定は難しい。遺構の切り合い関係では、掘立 005 に切られている。このため、S K 017 の時期は古墳時代初頭以前である。

(5) 小穴 調査区内では、小穴 158 基を検出した。このうち、弥生時代～古墳時代初頭の実測可能な遺物の出土した小穴は S P 050・058・072・103・113 の 5 基である。

土坑・小穴の遺構と遺物



第48図 SK017・SP072・SP103測量図・出土遺物実測図

遺構と遺物

S P 072 (図48・図版17・表19)

S P 072は、調査区のE 6区に位置する円形の小穴で、S B 025 (古墳時代)、掘立004 (古墳時代)のS P 7に切られる。規模は、長軸0.34m、短軸0.32m、深さ0.12mを測る。断面形態は筒状を呈する。埋土は黒褐色 (7.5 Y R 3/2) の粘質土。出土遺物は555の甕形土器片で、直径10cm大の河原石の直上で出土した。折り曲げ口縁で、口縁部直下に沈線が4条入る。

時期：弥生時代前期末～中期初頭 (中予中部編年第I - 4様式)

S P 103 (図48・図版17・表20)

S P 103は、調査区のD 6区に位置する円形の小穴で、S P 208に切られる。規模は、長軸0.42m、短軸0.32m、深さ0.12mを測る。断面形態は、逆台形を呈する。埋土は黒褐色 (10 Y R 2/2) の粘質土。出土遺物は高坏形土器で、横倒しになって出土した。

時期：弥生時代後期前葉 (中予中部編年第IV様式)

S P 113・S P 050・S P 058 (図49)

S P 113は、調査区のF 4区に位置する楕円形の小穴である。規模は長軸0.36m、短軸0.26m、深さ0.10mを測る。断面形態は筒状を呈する。埋土は黒褐色 (7.5 Y R 3/2) 粘質土。出土遺物は石器・石材類で、スクレイパー1点、砥石片1点、サヌカイトの石核1点、自然石2点が出土した。石類が多く出土していることから、人為的に埋められたものとする (時期不明)。

他に、S P 050は柱状片刃石斧片 (弥生時代)、S P 058は敲・磨石片が出土している (時期不明)。

第三章 調査の成果と課題

調査の結果、中世の掘立柱建物址、古墳時代中期の竪穴住居址が40数基と掘立柱建物址、弥生時代前期末～後期までの土坑や小穴が検出された。

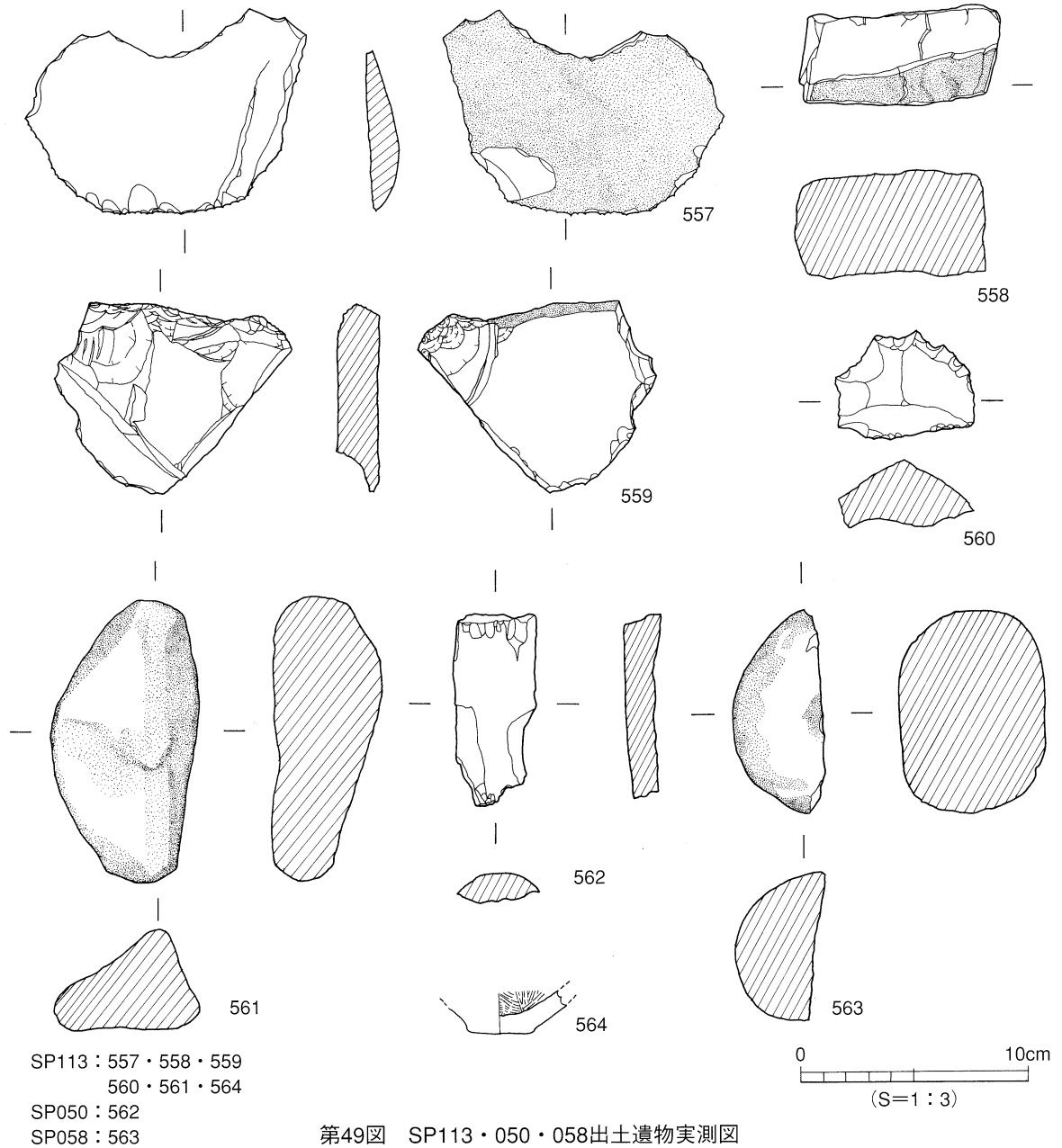
また、古墳時代初頭の大形掘立柱建物址1棟と、その建物に平行な壕と柵が検出された。これらの遺構は独立区画を持ち、一般集落から隔絶しており、壕・柵といった防御性も持つことから、首長居館になるものとする。壕の時期は、その出土遺物から埋没時期が古墳時代初頭となる。機能していた時期は、古墳時代初頭か、またはそれ以前となる。

一連の遺構である大形掘立柱建物址は、上限が弥生時代後期後葉で、下限が古墳時代初頭となるので、壕の時期も大形掘立柱建物に準じるものとなる。

各遺構の位置は、中世の掘立柱建物址が調査区北部で、古墳時代中期の竪穴住居址は調査区全域で重複し、8グループに分かれる。特に、北部で多量に住居址が分布する。多くの住居址では、白玉中心とした玉類、桃などの炭化物、魚類の骨が出土した。

古墳時代初頭の大形掘立柱建物址は、掘立005¹⁾、調査区の南西部に位置する。壕と柵は建物から北に約50m離れた北部にある。この間の空間には、一様式古い壺棺が1基確認されている以外には、確認されていない。北部の壕と柵は、調査区外にも伸びており、その延長の遺構は、現在確認されていない。西側は未調査のため不明で、東側は、壕と同方向の溝2条が樽味高木遺跡3次調査で検出されている。しかし、溝の幅からは、壕の延長とは考えにくい。

調査の成果と課題



古墳時代初頭～前期の遺構は、竪穴住居址が調査地東側0.15km離れた樽味四反地遺跡2・3・4調査では4棟検出されている。このうちSB4では、住居内から瑪瑙製の勾玉が1点出土している。

調査地北東側0.4km離れた樽味立添遺跡では、4棟が検出されている。竪穴住居址は合わせて8棟確認されている。掘立柱建物址は、樽味高木3次調査で、弥生時代後葉～古墳初頭時期で2×3間が1棟検出されている。一段階前の弥生時代では、後期後葉の遺構が多く確認されている。樽味四反地遺跡2・3・4次調査では、竪穴住居址2棟、土坑1基、小穴1基、樽味立添遺跡では3基検出されている。これらの遺構は樽味地区に弥生時代後期～古墳時代初頭時期の集落があったことを示している。遺物では、樽味立添遺跡で貨泉が1点出土し、樽味高木遺跡3次では、船の線刻が入る弥生後期の複合口縁壺が出土している。集落でも特異な遺物も出土している。

現在、松山平野では、今遺跡で検出した古墳時代初頭の大形掘立柱建物址や首長居館は確認され

遺構と遺物

ていない。四国でも初例になる。類例は、時期は古くなるが、弥生時代後中期後葉で樽味四反地遺跡6次調査検出の掘立と同規模の大形掘立柱建物址が2棟確認されている。遺跡は、石手川を越えて北に2.5km先にある文京遺跡である。古墳時代初頭の集落では若草遺跡、松山北高遺跡、古照遺跡、祭祀遺跡では、宮前川・古照遺跡、墳墓では、朝日谷2号墳、若草遺跡で確認されている。しかし、首長居館となるような遺構は確認されていない。

なぜこの樽味・桑原地区に古墳時代初頭の首長居館が存在するのか、また、その後この地区には、松山平野最大級の前方後円墳が立地される。古墳時代初頭から古墳時代中期にどう展開するのか今後の課題となる。

【参考文献】

- 1：平井勝『弥生時代の石器』ニューサイエンス社 1991年
- 2：正岡陸夫・松本岩雄編『弥生土器の様式と編年 一山陽・山陰編一』木耳社 1992年
- 3：山之内志朗「道後城北地域出土の分銅形土製品 ～顔面の表現方法を中心として～」『祝谷アイリ遺跡』（財）松山市教生涯学習振興財団松山市埋蔵文化財センター 1992年
- 4：田崎博之編『樽味遺跡Ⅱ 一樽味遺跡2次調査報告一』愛媛大学埋蔵文化財調査室 1993年
- 5：梅木謙一「西瀬戸地方の弥生時代前期土器」『牟田裕二追悼論集』1994年
- 6：宮内慎一編『松山大学構内遺跡Ⅱ』松山市教育委員会・松山市埋蔵文化財センター 1995年
- 7：宮本長二郎『日本原始古代の住居建築』中央公論美術出版 1996年
- 8：「中海道遺跡 一第32次発掘調査概要一」『向日市埋蔵文化財調査報告書 第44集』向日市教育委員会・（財）向日市埋蔵文化財センター 1997年
- 9：間壁菫子「古代出雲における医薬~~きしん~~への憶測 一大量の青銅器出土に関係して一」『神女大史学第14号』1997年
- 10：間壁菫子「古代出雲と医薬への覚え書 一スクナヒコナの羽根・扁平勾玉・~~水~~形多孔土器一」『神女大史第15号』1998年
- 11：『弥生のまつりと大型建物 一弥生神殿をさぐる一 資料集』史跡池上曾根整備委員会1997年
- 12：作田一耕『斎院・古照 一新松山空港道路建設に伴う埋蔵文化財調査報告書一』（財）愛媛県埋蔵文化財センター 1998年
- 13：寺沢薫「古墳時代の首長居館 一階級と権力行使の場としての居館一」『古代学研141』1998年
- 14：『文京遺跡シンポジウム 一弥生大集落の解明一 資料集』愛媛大学埋蔵文化財調査室1998年
- 15：角南聡一郎「土器棺の副葬品 一西日本の状況一」『文化財学報』第17集 光森正士先生追悼記念論集奈良大学文学部文化財学科刊 1999年
- 16：田中祐介・土居和幸他編『小迫辻原遺跡Ⅰ一A・B・C・D区編一』九州横断自動車道関係埋蔵文化財発掘調査報告書10 大分県教育委員会 1999年
- 17：境靖紀「弥生時代大柱祭祀の一例 一春日市立石遺跡の検討一」『古文化談叢』第47集 九州古文化研究会 2001年
- 18：『愛媛大学埋蔵文化財調査室年報一1995・1996年度一』愛媛大学埋蔵文化財調査室 2001年

遺構観察表

【凡 例】遺物と遺構の一覧

(1) 以下の表は遺構と遺物の計測値、及び観察一覧である。

(2) 各記載について

法 量 欄 () : 復元推定値

形態・施文欄 土器の各部位名称を略記 (例) 口→口縁部、胴上→胴部上半

胎土・焼成欄 胎土欄では混和剤を略記した (例) 砂→砂粒、長→長石、石→石英、金ウンモ→金雲母

() 内の数値は混和剤粒子の大きさを示す

焼成欄の略記について ◎→良好、○→良、△→不良

表1 溝一覧

溝 (SD)	地 区	断面形	規 模 長さ×幅×深さ(m)	方 向	埋 土	出土遺物	時 期	備 考
001	C1・2 E2・3	D1・2 F2・3	舟底状 16.5×1.9×(0.4~0.65)	N-65°-E	灰黄褐色土 黒褐色土	縄文土器 弥生土器 古式土器	古墳時代 初頭以前	

表2 掘立柱建物一覧

掘立	規模 (間)	方 向	桁 行		梁 行		方位	床面積 (㎡)	時 期	備 考
			実長(m)	柱間寸法(m)	実長(m)	柱間寸法(m)				
005	6×6	南北	12.72	2.20・(4.40)・ (4.16)・1.96	10.11	1.60・1.85・1.56 1.50・1.70・1.80	長軸N-24°-W 短軸N-66°-E	131.25	上限・弥生後期 下限・古墳初頭	

表3 掘立005柱穴一覧

(1)

柱穴 (SP)	地区	平面形	断面図 (掘り方) (抜きとり)	規模(m) 長さ(長径)×幅(短径)×深さ	柱穴 種類	柱の痕跡	最深部	遺構との 切り合い関係	備 考
2	G8・9	不整形	段掘り スロープ状	1.20×0.85×0.98	側柱	柱痕跡	北 側	掘立009とSB042 に切られる。	
3	F8	隅丸 長方形	段掘り 段掘り	1.38×0.60×0.90	側柱	根 石	北 側	SB042・SP203・204 に切られる。	
4	F8	隅丸 長方形	段掘り スロープ状	0.98×0.65×0.94	側柱	柱痕跡?	北 側	SB042に 切られる。	
5	E8 F8	隅丸 長方形	段掘り スロープ状	1.26×0.65×1.10	側柱	柱痕跡	北 側	SB042に 切られる。	
6	E8	隅丸 長方形	段掘り 段掘り	1.20×0.75×1.10	側柱	礎板痕跡	北 側	SP198を 切る。	
7	D7・8 E7・8	隅丸方形が 2つ重なる	段掘り スロープ状	1.15×0.94×1.06	側柱	柱痕跡	西 側	-	
8	D8 E8	隅丸 長方形	スロープ状 スロープ状	1.10×0.80×1.18	側柱	根 石	西 側	-	
9	D8・9	隅丸 方形	段掘り 段掘り	1.80×1.00×1.10	側柱	不 明	西 側	SB036とSP209 に切られる。	
10	D9	隅丸 方形	段掘り 段掘り	1.75×0.85×1.08	側柱	不 明	西 側	SB036と掘立010 に切られる。 SP199を切る。	
11	D9・10	隅丸 方形	段掘り スロープ状	1.75×0.90×1.16	側柱	柱痕跡?	西 側	掘立010・SP212 に切られる。	
12	C10 D10	隅丸 方形	スロープ状 スロープ状	2.20×0.98×1.14	側柱	礎板痕跡	西 側	SB038に 切られる。	
13	C10	不整形	段掘り 段掘り	1.25×0.98×0.97	側柱	不 明	西 側	SB038・039 に切られる。	

遺構観察表

表 掘立005柱穴一覧

(2)

柱穴 (SP)	地区	平面形	断面図 (掘り方 (抜きとり))	規模(m)		柱穴 種類	柱の痕跡	最深部	遺構との 切り合い関係	備考
				長さ(長径)×幅(短径)×深さ						
14	D11	楕円形	段掘り 段掘り	1.35×0.80×1.10	側柱	不明	北側	掘立010・SP216・ 217に切られる。		
15	D11	楕円形	段掘り 段掘り	1.50×0.78×1.06	側柱	不明	中央	-		
16	D11 E11	隅丸 方形	段掘り スロープ状	*1.05×0.85×0.98	側柱	根石	南側	SP215に 切られる。		
17	E11	隅丸 方形	段掘り 不明	(0.55+a)×(0.75+a)×(0.15)	側柱	不明	不明	-	1部調査地外	
18	E11	不明	不明 不明	(1.40+a)×(0.60+a)×(0.20)	側柱	不明	不明	掘立009に 切られる。	1部調査地外	
19	F11	未掘	未掘	未掘につき不明	側柱	-	-	-	調査地外	
20	F11	不明	段掘り 不明	(0.80+a)×(0.50+a)×(0.15)	側柱	不明	不明	掘立009に 切られる。	1部調査地外	
21	F10 F11	隅丸 長方形	スロープ状 スロープ状	1.13×0.83×0.86	側柱	柱痕跡?	東側	SB041に 切られる。		
22	F10 G10	隅丸 方形	不明 不明	1.15×0.85×1.03	側柱	不明	東側	掘立008・SP210 切られる。		
23	G9 G10	隅丸 長方形	スロープ状 スロープ状	1.20×1.00×1.24	側柱	柱痕跡?	東側	掘立008に 切られる。		
24	G9	隅丸 長方形	段掘り 段掘り	1.28×1.05×1.16	側柱	根石	東側	掘立008に 切られる。		
1	G9	隅丸 長方形	スロープ状 スロープ状	1.38×0.94×1.00	側柱	柱痕跡	東側	-		
25	F9	円形	U字状 U字状	6.75×0.65×0.42	束柱	不明	-	SB042・SP208 切られる。		
26	F9	隅丸 方形	逆台形 逆台形	0.85×0.60×0.44	束柱	不明	-	SB042に 切られる。		
27	F8 F9	円形	逆台形 1部が凹む	0.65×0.55×0.41	束柱	抜きとり跡	南側	SB042に 切られる。		
28	E8	円形	U字状 U字状	0.60×0.55×0.72	束柱	不明	北側	SB042と掘立 008に切られる。		
29	E8	円形	U字状 U字状	0.74×0.70×0.46	束柱	不明	北側	SP141・205・206・ 209に切られる。		
30	F9	円形	U字状 U字状	0.80×0.75×0.56	束柱	不明	南側	-		
31	F9	隅丸 方形	逆台形 段掘り	0.80×0.65×0.42	束柱	抜きとり跡	-	SK019に 切られる。		
32	E9	円形	逆台形 逆台形	0.80×0.75×0.50	束柱	不明	北側	掘立008とSK019 に切られる。		
33	E9	隅丸 方形	逆台形 スロープ状	0.80×0.70×0.68	束柱	不明	-	SP139に 切られる。		
34	E9	隅丸 方形	逆台形 逆台形	0.80×0.70×0.60	束柱	不明	-	SP209に 切られる。		
35	F10	隅丸 方形	逆台形 逆台形	0.70×0.60×0.40	束柱	不明	-	SB041・SP211に 切られる。		
36	F10	隅丸 方形	段掘り 段掘り	0.70×0.60×0.43	束柱	不明	-	SP041に切られる。 SP200を切る。		

遺構観察表

(3)

柱穴 (SP)	地区	平面形	断面形 (掘り方 (抜きどり))	規模 (m)		柱穴 種類	柱の痕跡	最深部	遺構との 切り合い関係	備 考
				長さ(長径)×幅(短径)×高さ						
37	E9 E10	隅方 丸形	逆台形 逆台形	0.70×0.65×0.63		束柱	不 明	-	掘立008とSB041 に切られる。	
38	E9	隅方 丸形	スロープ状 段掘り	0.85×0.65×0.64		束柱	柱痕跡	北 側	-	
39	D9 E9	隅方 丸形	段掘り 段掘り	0.85×0.70×0.74		束柱	不 明	南 側	-	
40	F10	円 形	段掘り 段掘り	0.55×0.45×0.46		束柱	不 明	南 側	SB041に 切られる。	
41	E10	隅方 丸形	U字形 U字形	0.80×0.65×0.52		束柱	不 明	南 側	SB041に切られる。 SP202を切る。	
42	E10	隅方 丸形	凹 凸 凹 凸	0.80×0.65×0.46		束柱	不 明	-	SB041に 切られる。	
43	E10	隅方 丸形	段掘り 段掘り	0.90×0.70×0.62		束柱	不 明	南 側	SK017とSP197 を切る。	
44	D10	隅方 丸形	U字形 U字形	0.85×0.70×0.70		束柱	不 明	中 央	SP145に 切られる。	
45	E11	円 形	段掘り 不 明	0.60×0.45×0.22		束柱	根 石	-	SB040に 切られる。	
46	E11	円 形	U字状 不 明	0.50×0.45×0.26		束柱	根 石 ?	-	SB040に 切られる。	
47	E10・11	円 形	逆台形 逆台形	0.60×0.55×0.24		束柱	不 明	-	SP213・214に 切られる。	
48	D10	不 円 整 形	段掘り 段掘り	0.70×0.65×0.52		束柱	不 明	南 側	SK017を 切る。	
49	D10	円 形	段掘り 段掘り	1.20×0.60×0.50		束柱	不 明	南 側	SP143に切られる。 SP144を切る。	

表4 土坑一覧

土坑 (SK)	地区	平面形	断面形	規模 (m)		床面積 (㎡)	埋 土	出土遺物	時 期	備 考
				長さ(長径)×幅(短径)×高さ						
006	D8	円 形	舟底状	0.63×(0.58+a)×0.15		0.37+a	灰褐色土	弥生土器	弥生時代 後期	土器棺
003	C5 D5	方 形	筒 状	(2.04+a)×1.35×0.21		2.75+a	黒褐色土	弥生土器	古墳時代 中期以前	SB019・023に 切られる。
017	D10 E10	隅方 長方形	逆台形	2.20×1.65×0.29		3.63	黒褐色土	弥生土器	古墳時代 初頭以前	掘立005に 切られる。

表5 小穴一覧

小穴 (SP)	地区	平面形	断面形	規模 (m)		床面積 (㎡)	埋 土	出土遺物	時 期	備 考
				長さ(長径)×幅(短径)×高さ						
072	E6	円 形	筒 状	0.34×0.32×0.12		0.09	黒褐色土	弥生土器	弥生時代 前期末~中期初頭	SB025・掘立004 に切られる。
103	D6	円 形	逆台形	0.42×0.32×0.12		0.11	黒褐色土	弥生土器	弥生時代 後期前葉	SP208に 切られる。
113	F4	楕円形	筒 状	0.36×0.26×0.10		0.07	黒褐色土	石器 弥生土器	不明	

遺物観察表

表6 SD001下層 出土遺物観察表 土製品

(1)

番号	器種	法量 (cm)	形態・施文	調整		色調 (外面) (内面)	胎土 焼成	備考	図版
				外面	内面				
1	甕	口径(16.2) 残高3.1	口縁部は内湾する。口縁 端部は内側に肥厚する。	ヨコナデ	ヨコナデ	黒褐色 乳黒褐色	石・長(1~2) 金ウンモ ◎		10
2	甕	口径(14.6) 残高4.5	口縁部は内湾する。	ヨコナデ	ヨコナデ	乳褐色 乳褐色	石・長 金ウンモ ◎		10
3	甕	口径(11.4) 残高6.5	口縁部は内湾し、胴部上半 は張りが弱い。	Ⓛ端 ハケ Ⓛ ナデ Ⓛ タタキ→ハケ	Ⓛ端 ハケ Ⓛ ナデ	乳橙色 乳橙色	石・長(1~2) 金ウンモ ◎		
4	甕	口径(15.7) 残高4.5	口縁部は外反し、胴部上半 は張りが強い。	Ⓛ端 ナデ Ⓛ ハケ	Ⓛ端 ナデ Ⓛ ハケ	褐黒色 乳橙黄色・褐色	石・長(1~2) 金ウンモ ◎	黒斑	10
5	甕	口径(16.0) 残高6.3	口縁部は外反する。 胴部上半の張りは弱い。	Ⓛヨコナデ→マメツ Ⓛハケ→マメツ	Ⓛヨコナデ Ⓛハケ→マメツ	乳橙色 乳橙色	石・長(1~3) 金ウンモ ◎		10
6	甕	口径(17.6) 残高4.4	口縁部は外反する。 胴部上半の張りは弱い。	Ⓛヨコナデ Ⓛハケ	Ⓛヨコナデ Ⓛハケ	乳橙色 乳橙色	石・長(1~2) 金ウンモ ◎		
7	甕	口径(16.7) 残高3.6	口縁部は外反する。	Ⓛヨコナデ→マメツ Ⓛハケ→ヨコナデ	Ⓛヨコナデ→マメツ Ⓛハケ	乳橙色 乳橙色	石・長(1~3) 金ウンモ ◎		
8	甕	口径(16.5) 残高3.0	口縁部は外反する。	Ⓛヨコナデ→ハケ Ⓛハケ	Ⓛヨコナデ Ⓛハケ	乳橙色 乳橙色	石・長(1~2) 金ウンモ ◎		
9	甕	口径(16.4) 残高2.8	口縁部は外反する。	マメツ	ヨコナデ→マメツ	乳白橙色 乳白橙色	石・長(1~2) 金ウンモ ◎		
10	甕	口径(18.0) 残高3.0	口縁部は外反する。	Ⓛヨコナデ Ⓛハケ	マメツ・ハクリ	乳白色 乳白色	石・長(1~3) ◎		
11	甕	口径(16.4) 残高2.8	口縁部は外反する。	マメツ	Ⓛヨコナデ Ⓛハケ	褐橙色 褐橙色	石・長(1~2) 金ウンモ ◎		
12	甕	口径(19.9) 残高2.3	口縁部は外反する。	マメツ	マメツ	乳白橙色 褐黄色	石・長(1~4) 金ウンモ ◎		
13	甕	口径(16.4) 残高2.9	口縁部は外方に直行する。	指おさえ→ハケ	Ⓛ端 凹みハクリ ハケ	乳褐色 乳橙白色	石・長(1~2) ◎		
14	甕	口径(18.4) 残高2.8	口縁部は外方に直行する。	ハケ Ⓛヨコナデ	ハケ	乳橙白色 乳白色	石・長(1) ◎		
15	甕	口径(18.0) 残高2.2	口縁部は外方に直行する。 口縁端部は尖る。	マメツ・ハクリ	ハケ→ミガキ	乳赤色 乳赤橙色	密 ◎		
16	甕	残高2.4	尖底。	タタキ	マメツ	乳白黄色 乳白黄色・黒黄色	石・長(1~3) 金ウンモ ◎		10
17	甕	残高1.7	丸底。	Ⓛタタキ 底マメツ	マメツ	乳白褐色 乳白橙色	石・長(1) ◎	黒斑	
18	甕	底径1.0 残高3.0	平底。	ハケ	ナデ	乳褐色 乳灰褐白色	石・長(1) 赤色酸化土粒 ◎		10
19	甕	底径(2.6) 残高2.2	平底。	Ⓛタタキ 底ナデ	ナデ	乳白色・乳灰色 乳白色	石・長(1~2) ◎	黒斑	
20	甕	底径3.1 残高2.1	平底。	タタキ	ハケ	乳灰色 乳灰色	石・長(1~3) ◎		

遺物観察表

表 SD001下層 出土遺物観察表 土製品 (2)

番号	器種	法量 (cm)	形態・施文	調整		色調(外面 内面)	胎土 焼成	備考	図版
				外面	内面				
21	甕	底径(3.0) 残高3.6	平底。	㊦タタキ→ナデ ㊧ナデ	マメツ	乳 橙 色 黄 褐 色	石・長(1~7) ◎		
22	甕	底径(4.0) 残高2.9	突出し、平らになる底部。	㊦タタキ ㊧ナデ	ハケ	乳白黄褐色 乳白黄褐色	石・長(1~4) 金ウンモ ◎		
23	甗	底径(2.8) 残高6.5	胴部下半は尖り気味。平底 焼成前穿孔の円孔1つ。	マメツ・ハクリ	マメツ・ハクリ	乳白色・黒灰色 乳灰白色	石・長(1~5) 金ウンモ ◎	黒斑	
24	壺	残高2.2	複合口縁壺の口縁部。接合 部が「コ」の字状。横沈線と波 状文。端部に波状文。		㊦ヨコナデ ㊧ハケ	乳橙褐色・褐黒色 乳 橙 色	石・長(1~4) 金ウンモ ◎	黒斑	10
25	壺	口径(10.2) 残高6.4	複合口縁壺。接合部が「く」 の字状。頸部が短い。	㊦ヨコナデ ㊧ハケ	㊦次口 ヨコナデ 接合部 指ナデ ㊧次口 ハケ	乳白橙色 乳白橙色	石・長(1~5) 金ウンモ ◎		10
26	壺	口径(11.6) 残高5.2	複合口縁壺。接合部が 「く」の字状。	マメツ・ハクリ	マメツ・ハクリ	乳 白 色 乳 白 色	石・長(1~4) 金ウンモ ○		
27	壺	口径(13.0) 残高5.2	複合口縁壺。接合部が「く」 の字状。頸部が短い。	㊦マメツ・ハクリ ㊧ハケ	マメツ・ハクリ	乳 白 色 乳 白 色	石・長(1~2) ○		
28	壺	口径(12.2) 残高3.1	複合口縁壺。接合部が「く」の 字状。二次口縁部に波状文。	ヨコナデ	ヨコナデ	乳 橙 白 色 乳 橙 白 色	石・長(1~2) 金ウンモ ◎		
29	壺	残高5.5	複合口縁壺。接合部が 「く」の字状。	マメツ	ヨコマデ→マメツ	乳 橙 色 乳 橙 色	石・長(1~2) 金ウンモ ◎		
30	壺	残高8.3	複合口縁壺。接合部が 「く」の字状。	マメツ ㊧ハケ	マメツ	乳 橙 色 橙 褐 色	石・長(1~3) 金ウンモ ◎		
31	壺	口径(19.2) 残高3.5	複合口縁壺。二次口縁部 に横沈線3条と波状文。	㊦口端 ヨコナデ	マメツ	乳 褐 黄 色 乳 橙 色	石・長(1~3) 金ウンモ ◎	若干 黒斑	
32	壺	口径(16.4) 残高5.6	複合口縁壺。二次口縁部 に櫛描沈線文と鋸歯文。		㊦口端 ヨコナデ ハケ	乳 橙 白 色 乳 黄 橙 白 色	石・長(1~3) 密 金ウンモ ◎		10
33	壺	口径(11.8) 残高5.3	複合口縁壺。二次口縁が極 端に短い。頸部との屈曲部に 格子目入りの突帯がつく。	㊦次口 ヨコナデ ㊧次口 ハケ→ヨコナデ ㊨胴上 マメツ	マメツ	乳 黄 橙 色 乳 白 色	石・長(1~2) ◎		10
34	壺	残高2.1	複合口縁壺の二次口縁部 。鋸歯文。	マメツ・ハクリ	マメツ・ハクリ	乳 白 色 乳 白 色	石・長(1) ◎		
35	壺	残高2.9	複合口縁壺の頸部。 頸部との屈曲部に格子目入り の突帯がつく。	ハケ	ナデ→ハケ	乳白褐色 乳白褐色	石・長(1~3) 金ウンモ ◎		
36	壺	残高5.5	複合口縁壺の頸部から胴部 上半。屈曲部に格子目入りの 突帯がつく。	マメツ・ハクリ	マメツ・ハクリ	乳 黄 橙 色 灰 色	石・長(1~3) 金ウンモ ◎		
37	壺	残高4.0	複合口縁壺。 頸部との屈曲部に格子目入り の突帯がつく。	㊦胴上 ハケ	㊦頸ナデ マメツ	乳 橙 色 黒 褐 色	石・長(1~5) 金ウンモ ◎	黒斑	
38	壺	残高5.0	頸部から胴部上半部。頸部は 上方に立ち上がる。屈曲部に 刻み目が入る突帯。	マメツ・ハクリ	マメツ・ハクリ	乳 白 色 乳 灰 白 色	石・長(1~3) 赤色酸化土粒 ◎		
39	壺	口径(10.1) 残高4.0	長頸壺。口縁部は外反する。	マメツ・ハクリ	マメツ・ハクリ	乳 褐 色 乳 褐 色	石・長(1~2) ◎		
40	壺	底径(4.6) 残高3.4	平らな底部。底面は叩きで 仕上げられている。	㊦ハケ ㊧底タタキ	ハケ	乳 褐 橙 色 橙 褐 色	石・長(1~3) 金ウンモ ◎		

遺物観察表

表 SD001下層 出土遺物観察表 土製品

(3)

番号	器種	法量 (cm)	形態・施文	調整		色調(外面) (内面)	胎土 焼成	備考	図版
				外面	内面				
41	壺	底径(6.0) 残高2.6	平底。	ハケ		乳黄褐色・黒褐色 乳橙色・黒褐色	石・長(1~3) 金ウンモ ◎	黒斑	
42	壺	底径4.3 残高4.7	平底。	底タタキ マメツ	ナデ	乳白橙色・褐色・黒灰色 乳白褐色	石・長(1~5) 金ウンモ ◎	黒斑	
43	壺	底径(7.0) 残高2.3	平底。	胴タタキ 底ナデ	ナデ	乳白橙色 乳白褐色	石・長(1~3) ◎		
44	壺	底径(8.4) 残高5.7	平底。	ハケ→ナデ	ハケ	乳褐色・黒褐色 灰褐色	石・長(1~3) 赤色酸化土粒 ◎	黒斑	
45	壺	口径(19.4) 残高2.4	長頸壺の口縁部。 大きく外反する。	口端ヨコナデ 口ハケ	ヨコナデ	乳橙色褐色 乳褐色	石・長(1) 金ウンモ ◎		
46	壺	口径(20.3) 残高1.3	長頸壺の口縁部。大きく外反する。端面に刻み目が入る。	口端ハケ→ヨコナデ 底ハケ	マメツ・ハクリ	乳黄色 乳赤褐色	密 石・長(1) 赤色酸化土粒 ◎		
47	壺	口径(20.0) 残高4.5	長頸壺の口縁部。 大きく外反する。	口ハケ マメツ	口端ヨコナデ 口マメツ	乳橙色 乳褐色	石・長(1~3) 金ウンモ ◎		10
48	壺	残高6.4	長頸壺の頸部から胴部上半。 頸部は外方に伸びる。	頸ヨコナデ 胴上ハケ	頸ヨコナデ 胴上ケズリ	乳橙色 乳白褐色	石・長(1~2) 金ウンモ ◎		
49	壺	口径(4.7) 残高3.5	細長頸壺。 口縁部はやや外反する。	ハケ	ナデ	淡褐色 淡褐色	石・長(1) ◎	黒斑	
50	壺	残高4.3	細長頸壺の頸部。横沈線 11条と7条が施される。		ハケ→マメツ	乳橙色 乳橙黄色	石・長(1) 金ウンモ ◎		10
51	壺	残高3.4	丸底。	マメツ・ハクリ	マメツ・ハクリ	乳橙色 乳白色	石・長(1~3) ◎		
52	壺	残高2.0	丸底。	タタキ	ナデ	黒褐色 黒褐色	石・長(1~6) ◎		
53	壺	残高2.1	丸底。	タタキ→ナデ	ハケ→ミガキ	乳橙白色 乳橙白色	石・長(1) ◎		
54	壺	底径(2.5) 残高3.0	平底。	胴タタキ→ハケ 底タタキ	ハケ	乳橙色・褐黄色 乳褐色・褐色	石・長(1~2) 金ウンモ ◎	黒斑	
55	壺	底径(4.6) 残高4.5	平底。	タタキ	ナデ	乳灰白色 乳褐色	石・長(1~2) ◎		
56	壺	底径(3.3) 残高3.7	平底。	タタキ→ナデ	ナナメハケ→ナデ	乳白色 乳灰色	密 石・長(1) ◎		
57	壺	底径1.5 残高4.0	やや突出する底部。	胴タタキ 底タタキ→ハケ	底ハケ→ミガキ	乳褐色・黒褐色 乳褐色	石・長(1~3) ◎	黒斑	
58	壺	口径(7.8) 底径3.1 器高8.6	小型丸底壺。口縁部は外傾し胴部は球形。底部はやや突出する。	マメツ	マメツ	橙褐色 橙褐色	石・長(1) 砂・少 ◎		10
59	壺	残高3.7	小型丸底壺。胴部上半は球形。	頸ハケ→ヨコナデ 胴マメツ・ハクリ	ナデケズリ 底指ナデ 底ケズリ→指おさえ	乳白色 乳白色	石・長(1~3) 金ウンモ ◎		16
60	壺	口径(7.0) 残高2.2	小型丸底壺。 外傾する口縁部。	マメツ	マメツ	褐色 褐色	長(1) 金ウンモ ◎		

遺物観察表

表 SD001下層 出土遺物観察表 土製品

(4)

番号	器種	法量 (cm)	形態・施文	調整		色調(外面) 色調(内面)	胎土 焼成	備考	図版
				外面	内面				
61	壺	残高2.2	小型丸底壺。丸底。	ハケ→ミガキ	マメツ・ハクリ	乳白 乳白 色 色	密 石・長(1) ◎		
62	鉢	残高2.3	低脚の台付鉢。 坏部は丸く、台は外方に広がる。	マメツ	⑤(坏部) マメツ ⑤(脚部) ナデ	乳橙 乳白 褐色 褐色 色 色	石・長(1~3) 金ウンモ ◎		10
63	鉢	底径(1.2) 残高4.0	口縁部が大きく外反する鉢。胴部下 半は丸く、底部は小さく突出する。	マメツ・ハクリ	マメツ・ハクリ	乳橙 乳黄 色 白色 色 色	石・長(1~2) ◎		
64	鉢	口径(30.2) 残高6.3	大型の鉢。口縁部から胴部上半。 口縁は外傾し、胴部は立ち上がる。	①ヨコナデ ④タタキ	①ハケ→ヨコナデ ④ハケ	乳白 乳白 色 色	密 石・長(1) 金ウンモ ◎		
65	鉢	口径(28.5) 残高4.0	大型鉢。口縁部から胴部上半。 口縁部は折りまげ口縁。	①ヨコナデ ④タタキ	①マメツ ④ハケ	乳橙 乳橙 色 色 色 色	石・長(1~3) 金ウンモ ◎		
66	器台	口径(25.6) 残高1.2	器台形土器の受部。水平 にひろがり、端部に波状文。	①(口端) ヨコナデ ①ハケ	ヨコナデ	乳褐 乳黄 色 色 色 色	石・長(1) 赤色酸化土粒 ◎		10
67	高坏	残高4.5	高坏形土器の坏部。坏部は2段 になり、外傾する。	⑤(坏) ヨコナデ ⑤(坏底) ハケ	マメツ	乳橙 乳橙 色 色 色 色	石・長(1~2) 金ウンモ ◎		10
68	高坏	残高2.2	坏部。坏部は2段になり外 傾する。	マメツ	マメツ	乳白 乳橙 色 色 色 色	長(1) 金ウンモ ◎		10
69	高坏	口径(19.0) 残高1.7	坏部、大きく外反する。	①ヨコナデ	①ヨコナデ	乳橙 乳橙 褐色 褐色 色 色	石・長(1) 金ウンモ ◎	黒斑	
70	高坏	口径(19.0) 残高1.7	坏部、大きく外反する。	⑤(坏) ハケ→ヨコナデ	⑤(坏) ハケ→ミガキ	乳黄 乳黄 白色 白色 色 色	密 石・長(1) ◎		
71	高坏	残高5.9	脚部。	④(脚) ミガキ→ハケ	④(脚) ヨコナデ	乳橙 乳橙 色 色 色 色	長(1~2) 金ウンモ ◎		10
72	高坏	残高7.2	脚部。	マメツ・ハクリ	マメツ・ハクリ	乳橙 乳橙 褐色 褐色 色 色	石・長(1~5) 金ウンモ ◎		10
73	高坏	底径(10.2) 残高3.1	脚部。円錐状に広がる。裾部 は角度をかえさらに広がる。	④(脚) ヨコナデ	④(脚) ケズリ ④(脚底) ヨコナデ	乳白 乳白 色 灰色 色 色	石・長(1) ◎		
74	高坏	残高4.6	坏部から脚部。 脚部に円孔が穿孔される。	マメツ・ハクリ	⑤(坏底) マメツ ④(脚) ナデ(シボリ痕)	乳赤 乳赤 橙 橙 色 色 色 色	石・長(1~2) 赤色酸化土粒 ◎		
75	高坏	残高10.1	脚部。 脚部に円孔が穿孔される。	マメツ・ハクリ	マメツ・ハクリ	乳白 乳白 色 色 色 色	密 石・長(1~2) 赤色酸化土粒 金ウンモ ◎		
76	高坏	残高5.5	脚部。 脚部に円孔が穿孔される。	マメツ	マメツ	乳橙 乳橙 色 色 色 色	石・長(1) 金ウンモ ◎		
77	支脚	口径(11.6) 残高5.5	受け部。「U」字状に切り込 まれている。中空。	指ナデ 指おさえ	指ナデ 指おさえ	乳褐 乳灰 色 白色 色 色	石・長(1~3) 赤色酸化土粒 金ウンモ ◎		
78	支脚	底径(11.0) 残高6.4	脚部。77と同じ形態の支脚。 裾部はひろがる。	ナデ	ナデ	乳白 乳白 橙 黄色 色 色	石・長(1~4) 金ウンモ ◎		
79	支脚	残高8.5	受け部が左右に広がる。背 面に突起が付く。中実。	ナデ (指頭痕顕著)	ナデ	乳橙 乳褐 色 橙色 色 色	石・長(1~3) 金ウンモ ◎		
80	支脚	残高11.1	79と同じ形態の支脚。中央 部に孔が貫通している。	ナデ (指頭痕顕著)	ナデ (指頭痕顕著)	乳褐 乳褐 色 色 色 色	石・長(1~5) ◎		

遺物観察表

表 SD001下層 出土遺物観察表 土製品 (5)

番号	器種	法量 (cm)	形態・施文	調整		色調(外面 内面)	胎土 焼成	備考	図版
				外面	内面				
81	支脚	残高3.3	79と同じ形態の支脚。 左右に広がる受け部。	指ナデ 指おさえ	-	乳 橙 白 色 乳 橙 白 色	石・長(1) 赤色酸化土粒 ◎		
82	支脚	残高2.6	79と同じ形態の支脚。 左右に広がる受け部。	指おさえ	-	乳 橙 褐色・褐黒色 乳 橙 褐色・褐黒色	石・長(1~2) 金ウンモ ◎	若干 黒斑	
83	支脚	残高3.1	79と同じ形態の支脚。 左右に広がる受け部。	指ナデ 指おさえ	-	乳 黄 色 乳 黄 色	石・長(1~4) 赤色酸化土粒 金ウンモ ◎		
84	支脚	底径9.5 残高10.4	胴部は棒状。 脚部は水平に広がる。	ナデ (指頭痕顕著)	ナデ	乳 白 橙 褐色 乳 白 橙 褐色	石・長(1~4) 金ウンモ ◎	黒斑	
85	甕	口径(25.2) 残高4.3	口縁部は外反する。端部は凹 線文。胴部上半には貝殻による 刻み目が施文される。	ヨコナデ	☐ハケ→ヨコナデ ⊕ミガキ	茶 褐 色 茶 褐 色	石・長(1~3) 金ウンモ ◎		11
86	甕	口径(21.6) 残高3.25	口縁部は外反する。端部に は凹線文が施される。	☐端 ナデ ☐ハケ	ヨコナデ	淡 乳 褐 色 淡 乳 褐 色	石・長(1~2) 金ウンモ ◎		
87	甕	口径(15.0) 残高3.9	口縁部は外反する。端部に 弱い凹線文が施される。	ヨコナデ	☐ヨコナデ ⊕ナデ	茶 褐 色 茶 褐 色	石・長(0.5~1) ◎		
88	甕	口径(22.4) 残高4.4	口縁部は外反する。端部と胴 部上半に刻み目が施される。	☐ヨコナデ ⊕ナデ	☐ヨコナデ ⊕ナデ	茶 褐 色 暗 茶 褐 色	石・長(0.5~1) 金ウンモ ◎		
89	甕	口径(25.3) 残高7.2	口縁端部は上方に立ちあがり、 凹線文が入る。屈曲部には工 具による刻み目の入った突帯。	☐ヨコナデ ⊕ミガキ	☐ヨコナデ ⊕ハケ→ナデ	暗 茶 褐 色 橙 褐 色	石・長(1~2) 金ウンモ ◎		11
90	甕	口径(27.8) 残高4.1	口縁端部は肥厚し凹線文が入 る。屈曲部には刻み目突帯が入 る。	☐ヨコナデ ⊕ナデ	☐ヨコナデ ⊕ナデ	淡 褐 色 茶 褐 色	石・長(1~3) ◎		
91	甕	底径7.1 残高2.7	上げ底の底部。	⊕ナデ 底ヨコナデ	ナデ	淡 褐 色 淡 褐 色	石・長(1~1.5) 金ウンモ ◎		
92	甕	口径(22.6) 残高9.6	口縁部は外傾する。胴部 上半の張りが弱い。	☐ヨコナデ ⊕上 ナデ ⊕下 ナデ→ミガキ	☐ヨコナデ ⊕ナデ→ハケ	淡 茶 褐 色 淡 茶 褐 色	石・長(0.5~1.5) 金ウンモ ◎		11
93	甕	口径(14.4) 残高3.6	口縁部は水平になり、胴部 上半は張りが弱い。	☐ヨコナデ ⊕ミガキ	☐ヨコナデ ⊕ナデ・ミガキ	茶 褐 色 茶 褐 色	石・長(1) ◎		
94	壺	口径(40.8) 残高8.5	長頸壺の大型品、端部は肥厚 し、擬凹線文が入る。長方形浮 文が2個1単位で付く。	☐端 ヨコナデ ☐ハケ 頸ヨコナデ	☐端 ヨコナデ ☐ミガキ	茶 褐 色 暗 灰 褐 色	石・長(1~1.5) △	黒斑	
95	壺	口径(20.0) 残高4.9	長頸壺。口縁部は外反し、口縁 端部は上方に肥厚する。端部 には凹線文が入る。	☐端 ヨコナデ ☐ハケ	☐端 ヨコナデ ☐ハケ→ナデ	茶 褐 色 暗 灰 褐 色	石・長(1~2) 赤色酸化土粒 金ウンモ ◎		11
96	壺	口径(8.2) 残高2.1	長頸壺。口縁部は外反し、口縁 端部は上方に肥厚する。端部 には弱い凹線文が入る。	ヨコナデ	ヨコナデ	茶 褐 色 茶 褐 色	石・長(1~1.5) ◎		
97	壺	口径(21.6) 残高2.4	長頸壺。口縁部は外反する。口 縁端部は肥厚し、弱い凹線文が 入る。	ヨコナデ	ナデ	橙 褐 色 茶 褐 色	石・長(1~3) ◎		
98	壺	口径(31.2) 残高6.4	長頸壺。口縁部は外反する。端 部は上下に肥厚し、凹線文が入 る。	☐端 ヨコナデ ☐ナデ	☐端 ヨコナデ ☐ミガキ	茶 褐 色 黒 灰 色	石・長(1~5) ◎	黒斑	
99	壺	口径(24.9) 残高2.7	長頸壺。口縁部は外反する。端 部は下方に垂下し、凹線文が入 る。	ヨコナデ	ヨコナデ	茶 褐 色 茶 褐 色	石・長(1~2) ◎		11
100	壺	口径(26.0) 残高3.0	長頸壺。端部は上下に伸 びる。凹線文が入る。	ナデ	マメツ	明 褐 色 明 褐 色	石・長(1~3) ◎		

遺物観察表

表 SD001下層 出土遺物観察表 土製品 (6)

番号	器種	法量 (cm)	形態・施文	調整		色調(外面) (内面)	胎土 焼成	備考	図 版
				外面	内面				
101	壺	口径(13.9) 残高4.0	長頸壺。頸部は筒状になる。口縁部は外傾し、端部は上下に肥厚し凹線が入る。	ヨコナデ	ヨコナデ	暗茶褐色 暗茶褐色	石・長(0.5~1) ◎		
102	壺	口径(13.2) 残高2.45	長頸壺。頸部は筒状になる。口縁部は外反する。端部は肥厚し凹線文が入る。	ヨコナデ	ヨコナデ	茶褐色 茶褐色	石・長(1~2) 金ウンモ ◎		
103	壺	口径(6.8) 残高3.4	長頸壺。口縁部は外反する。端部は肥厚し凹線文が入る。	ヨコナデ	ヨコナデ	暗茶褐色 暗茶褐色	石・長(0.5~1) ◎		
104	壺	口径(14.6) 残高2.4	長頸壺。口縁部は外反する。端部は肥厚し凹線文が入る。	ナデ	ヨコナデ	茶褐色 茶褐色	石・長(1~2) ◎		
105	壺	残高4.5	長頸壺の頸部。屈曲部には、刻み目の入った突帯が入る。	ヨコナデ	⑤頸上 ヨコナデ・ミガキ ⑤頸下 ナデ	暗灰茶褐色 茶褐色	石・長(1~2) ◎		11
106	壺	残高7.8	長頸壺の頸部。屈曲部には、刻み目の入った突帯が入る。胴部上半に刻み目文。	⑤頸上 ハケ ⑤頸下 ヨコナデ	⑤頸上 マメツ ⑤頸下 ハケ ⑤胴上 ナデ	茶褐色 茶褐色	石・長(1~4) ◎		11
107	壺	残高7.6	長頸壺の頸部。屈曲部には、指頭押圧の刻み目が2段入る突帯が入る。	マメツ	ミガキ	茶褐色 茶褐色	石・長(1~4) ◎		11
108	壺	残高10.25	長頸壺の胴部上半。刻み目が施される。	ハケ→1部ミガキ	ミガキ	茶褐色 茶褐色	石・長(1~5) 金ウンモ ◎		
109	壺	底径5.3 残高1.8	平底。	ナデ	ハケ	黒灰色・乳黄褐色 橙褐色	石・長(1~2) 金ウンモ ◎	黒斑	
110	壺	残高7.4	短頸壺の胴部上半。頸部との屈曲部に断面三角形の突帯が巡り、その直下に刺突文。	⑤頸 ヨコナデ ⑤胴 ハケ→ミガキ	ナデ(工具痕)	淡黄褐色 淡茶褐色	石・長(0.5~1) ◎		
111	高坏	底径(14.6) 残高6.1	脚部。円錐状に広がる。裾部には弱い凹線文が入る。山形文と竹管文が施されている。	ハケ	⑤ナデ ⑤底 ヨコナデ	茶褐色 茶褐色	石・長(1~2) 金ウンモ ◎		11
112	高坏	底径(14.2) 残高4.3	脚部。円錐状に広がる。裾部には沈線が入る。	⑤ナデ ⑤底 ヨコナデ	⑤ナデ ⑤底 ヨコナデ	暗茶褐色 暗茶褐色	石・長(0.5) 砂粒少 金ウンモ ◎		
113	高坏	底径(14.8) 残高3.0	脚部。円錐状に広がる。裾部には、1条の沈線が入る。	ヨコナデ	⑤板ナデ ⑤底端 ヨコナデ	淡黄褐色 淡黄褐色	砂粒少 ◎		
114	高坏	口径(20.8) 残高3.1	坏部。口縁部上方には凹線文が入る。	マメツ	マメツ	淡黄茶褐色 淡黄茶褐色	石・長(1~1.5) ◎		11
115	高坏	残高1.8	坏部。口縁部は上方と水平にそれぞれ伸びる。外来品。	⑤口端 ナデ ⑤口端 ミガキ	⑤口端 ナデ ⑤口端 ヨコナデ	淡黄茶褐色 淡黄茶褐色	石・長(1~1.5) ◎		
116	高坏	残高10.3	坏部から脚部。脚部は外方に伸びる。	ミガキ	⑤坏底 ミガキ ⑤脚 ナデ	茶褐色 茶褐色	石・長(1~2) ◎		
117	鉢	注口径3.05 残高4.8	注口付きの台付鉢。注口部分。	ナデ	ナデ	淡黄褐色 淡黄褐色	石・長(1~4) ◎		11
118	ジョッキ形	厚さ2.25 残高4.9	ジョッキ形土器の取手部分。	ナデ	ナデ	淡褐色 淡褐色	石・長(1) ◎		11
119	紡錘車	直径(5.2) 円孔径0.4~0.5	円盤型。中央部に直径0.5cm大の円孔。	ナデ	-	乳橙色 乳橙色	石・長(1) 金ウンモ ◎	黒斑	
120	甕	口径(22.2) 残高5.9	口縁部は肥厚し外傾する。外面には刻み目。胴部上半の張りは弱い。	⑤ヨコナデ ⑤ミガキ	⑤ミガキ ⑤ナデ	茶褐色 茶黒褐色	石・長(1~2) 金ウンモ ◎		

遺物観察表

表 SD001下層 出土遺物観察表 土製品

(7)

番号	器種	法量 (cm)	形態・施文	調整		色調 (外面) (内面)	胎土 焼成	備考	図版
				外面	内面				
121	甕 又は 壺	残高5.1	胴部上半。二枚貝による斜 めの刻み目が施される。	ヨコナデ	ミガキ	淡黄色 黄茶褐色・暗灰褐色	石・長(1~2) ◎		
122	壺	残高2.5	胴部上半。横方向の沈線 の間に貝殻で刻み目が施さ れる。	ハケ	ナデ	灰茶色 灰茶色	石・長(1~2) ◎		
123	壺	残高1.5	胴部上半。無軸羽状文が 施文される。外来品。		マメツ	乳白橙色 乳白橙色	長(1) 金ウンモ ◎		
124	壺	残高4.5	胴部上半。	Ⓜ上 ヨコナデ Ⓜ下 ナハケ→ヨコナ	Ⓜ上 指おさえ Ⓜ下 ケズリ	乳白色 乳白色	石・長(1) ◎		
125	壺	残高3.5	胴部上半。断面三角形の 突帯が2条巡る。外来品。	ヨコナデ	ナデ	淡黄褐色 淡黄褐色	石・長(1~15) ◎		11
126	高坏	残高2.9	上下不明。外方に広がる。 端部は細くなる。	ハケ	Ⓜシボリ痕 Ⓜナデ	灰黄色 灰黄色	長(1) 金ウンモ ◎		

表7 SD001下層 出土遺物観察表 石製品

番号	器種	残存	材質	法量				備考	図版
				長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)		
127	剥片刃器	3/4	サヌカイト	2.75	2.3	0.6	2.47		
128	自然石		結晶片岩	7.05	2.35	1.15	29.33		

表8 SD001中層 出土遺物観察表 土製品

(1)

番号	器種	法量 (cm)	形態・施文	調整		色調 (外面) (内面)	胎土 焼成	備考	図版
				外面	内面				
129	甕	口径(15.4) 残高4.2	口縁部は内湾する。 胴部の張りが強い。	ヨコナデ	ヨコナデ	褐橙黄色 乳褐色	石・長(1~4) 金ウンモ ◎		11
130	甕	口径(14.8) 残高3.5	口縁部は内湾する。 端部がつまみあげ。	ヨコナデ	ヨコナデ	暗褐色 暗褐色	石・長(1~2) 金ウンモ ◎		11
131	甕	口径(12.8) 残高3.1	口縁部は内湾する。	ヨコナデ	ヨコナデ	乳灰色 乳褐色	密石・長(1) 金ウンモ ◎		11
132	甕	口径(13.8) 残高3.4	口縁部はやや内湾する。	Ⓜヨコナデ Ⓜハケ	Ⓜハケ→ヨコナデ Ⓜケズリ	乳白色 乳赤橙色	石・長(1~2) 赤色酸化土粒 金ウンモ ◎		
133	甕	口径(13.0) 残高4.1	口縁部はやや内湾する。	Ⓜヨコナデ Ⓜハケ Ⓜタタキ	Ⓜヨコナデ Ⓜハケ Ⓜケズリ	乳褐色 乳褐色	密石・長(1~3) 赤色酸化土粒 金ウンモ ◎		
134	甕	口径(12.3) 残高3.0	口縁部はやや内湾する。	マメツ	マメツ	乳橙黄色 乳橙色	石・長(1~2) 金ウンモ ◎		
135	甕	口径(14.8) 残高2.6	口縁部はやや内湾する。	ヨコナデ	ヨコナデ	褐色 黒色	石・長(1~2) 金ウンモ ◎		
136	甕	口径(13.6) 残高2.9	口縁部はやや内湾する。 口縁端部は細くなる。	マメツ・ハクリ	マメツ・ハクリ	乳橙色 乳橙白色	長(1) ◎		
137	甕	口径(15.7) 残高3.6	口縁部はやや内湾する。	マメツ	マメツ	橙 橙色	石・長(1~4) 金ウンモ ◎		

遺物観察表

表 SD001中層 出土遺物観察表 土製品

(2)

番号	器種	法量 (cm)	形態・施文	調整		色調(外面) (内面)	胎土 焼成	備考	図版
				外面	内面				
138	甕	口径(15.6) 残高4.0	口縁部から胴部上半。 口縁部は内湾する。胴部上半 の張りが弱い。	①端)ヨコナデ ②ハケ ③タタキ	①端)ヨコナデ ②ハケ	乳灰白色 乳灰色	石・長(1) ◎		
139	甕	口径(19.8) 残高4.0	口縁部は内湾する。器壁 が厚い。	マメツ・ハクリ	①端)ナデ ②ハケ	乳橙色 乳白色	石・長(1~2) 赤色酸化土粒 ◎		
140	甕	口径(17.1) 残高3.4	口縁部は内湾する。器壁が厚い。 口縁端部は面をもち水平になる。	ヨコナデ	ヨコナデ	赤褐色 赤褐色	石・長(1~4) 金ウンモ ◎		
141	甕	口径(15.8) 残高4.7	口縁部は外反する。 端部は面を持つ。	①端)ヨコナデ ②ハケ→ヨコナデ	①端)ヨコナデ ②ハケ	乳黄灰白色 乳黒褐色	石・長(1) ◎		
142	甕	口径(16.8) 残高5.2	口縁部は外反し、胴部上半 は張りが強い。	②ハケ→ヨコナデ ③ハケ	①ヨコナデ ②ハケ→ヨコナデ ③ハケ	乳灰白色 乳灰白色	石・長(1~3) ◎		11
143	甕	口径(21.0) 残高5.0	口縁部は外反し、胴部上半は 張りが強い。端部は細くなる。	ハケ→ヨコナデ	ハケ	乳黄橙色 乳黄橙色	石・長(1~4) 赤色酸化土粒 金ウンモ ◎		11
144	甕	口径(18.4) 残高4.7	口縁部は外反し、胴部上半は 張りが強い。端部は面を持つ。	マメツ・ハクリ	マメツ・ハクリ	乳灰色 乳白色	石・長(1~4) 赤色酸化土粒 ◎		
145	甕	口径(15.6) 残高5.3	口縁部は外反する。胴部上 半は張りが弱い。	①端)ナデ ②ハケ ③ハケ→タタキ	ハケ	乳橙色 乳橙色	石・長(1~4) 赤色酸化土粒 ◎		11
146	甕	口径(14.4) 残高5.2	口縁部は外反し、胴部上半は 張りが弱い。端部は細くなる。	①ヨコナデ ②ハケ	ハケ→ナデ	乳橙白色 乳橙白色	石・長(1~3) ◎		
147	甕	口径(18.0) 残高11.5	口縁部は外反し、胴部上半 は張りが弱い。	①ヨコナデ ②ナデ→タタキ→ハケ	①端)ヨコナデ ②ハケ	乳白橙色 乳橙色	石・長(1~3) 金ウンモ ◎		
148	甕	口径(15.6) 残高4.2	口縁部は外反し、胴部上半 は張りが弱い。	マメツ	マメツ	乳白橙色 乳白橙色	石・長(1~4) 金ウンモ ◎		
149	甕	口径(18.0) 残高3.9	口縁部は外反し、端部は面を 持つ。胴部上半は張りが弱い。	①ヨコナデ ②タタキ	マメツ・ハクリ	乳黄色 乳黄色	長(1~3) 金ウンモ ◎		
150	甕	口径(13.2) 残高4.6	口縁部は急に立ち上がり、端部は 尖る。胴部上半は張りが弱い。	①端)ナデ ②タタキ	①ナデ ②ハケ	乳白色 乳灰色	石・長(1~3) ◎		
151	甕	残高6.4	胴部上半の張りが弱い。	タタキ→ハケ	①ハケ ②ハケ→ナデ	乳褐色 乳褐色	石・長(1~2) 金ウンモ ◎		
152	甕	残高5.2	口縁部は外傾し、胴部上半 の張りは弱い。	②ハケ ③タタキ→ハケ	ハケ	乳白色 乳白色	密 長(1~2) ◎		
153	甕	残高6.2	口縁部は外傾し、胴部上半 の張りは弱い。	①ヨコナデ ②ハケ	ケズリ痕	褐灰色 褐灰色	石・長(1~2) 金ウンモ ◎		
154	甕	口径(17.1) 残高3.1	口縁部は外反する。	①端)ナデ ②タタキ	ハケ	乳白色 乳白色	密 石・長(1) ◎		
155	甕	口径(17.9) 残高3.4	口縁部は外反する。	②ハケ→ヨコナデ ③ハケ	①端)ハケ→ヨコナデ ②ハケ	乳白色 乳白色	石・長(1~3) 赤色酸化土粒 金ウンモ ◎		
156	甕	口径(19.0) 残高2.9	口縁部は外反する。	①端)ヨコナデ ②ハケ	ハケ	褐色 乳橙色	石・長(1~2) 金ウンモ ◎		
157	甕	口径(15.0) 残高2.8	口縁部は外反する。 口縁端部は細くなる。	マメツ・ハクリ	マメツ・ハクリ	乳白色 灰色・乳白色	石・長(1~3) 金ウンモ ◎		

遺物観察表

表 SD001中層 出土遺物観察表 土製品

(3)

番号	器種	法量 (cm)	形態・施文	調整		色調(外面 内面)	胎土 焼成	備考	図版
				外面	内面				
158	甕	口径(17.2) 残高2.8	口縁部は外反する。 二重口縁壺の口縁部の可能性 がある。	マメツ・ハクリ	マメツ・ハクリ	乳黄色 乳橙色	石・長(1~9) 赤色酸化土粒 ◎		
159	甕	口径(12.0) 残高3.9	口縁部は外傾する。 胴部上半は張りが弱い。	マメツ	マメツ	乳白橙色 乳白褐色・灰白黄色	石(1~3) 金ウンモ ◎		
160	甕	残高7.3	尖底。焼成後に穿孔された 痕が2ヶ所ある。	タタキ→ハケ	胴ハケ→ナデ 底ナデ	乳褐色・黒褐色 乳褐色・黒褐色	石・長(1~2) ◎	黒斑	11
161	甕	残高3.6	尖底。	ハケ	ナデ	乳灰白色 乳褐色・黒褐色	石・長(1) ◎	黒斑	
162	甕	残高2.3	尖底。	タタキ→ハケ	ハケ	乳橙色 乳白色	石・長(1~3) ◎		
163	甕	残高4.2	丸底。	タタキ	指ナデ	乳橙色 黒灰色	石・長(1~2) 赤色酸化土粒 ◎		11
164	甕	残高4.9	丸底。	ミガキ	ハケ	乳白褐色・黒褐色 乳橙色	石・長(1~2) 金ウンモ ◎	黒斑	
165	甕	底径(2.5) 残高6.0	平底。 胴部下半尖る。	ハケ	胴ハケ 底ナデ	褐褐色・乳白褐色 乳白橙色	石・長(1~4) 金ウンモ ◎	黒斑	
166	甕	底径(1.8) 残高4.8	平底。 胴部下半尖る。	胴ハケ 底ナデ	ナデ	乳褐色・黒褐色 乳白橙色	石・長(1~2) 金ウンモ ◎	黒斑	
167	甕	底径(3.4) 残高7.7	平底。胴部下半尖る。ヘラ 状工具による線刻あり。	胴ハケ 底マメツ・ハクリ	胴ハケ→ナデ 底指おさえ・ナデ	乳褐色・黒褐色 乳赤褐色	石・長(1~4) ◎		11
168	甕	底径(3.4) 残高4.4	平底。	胴上ハケ 胴下ミガキ 底ナデ	ハケ	乳褐色・黒褐色 黒褐色	石・長(1~3) 金ウンモ ◎	黒斑	
169	甕	底径(2.6) 残高3.8	平底。	タタキ→ハケ	ハケ→ナデ	乳灰白色 乳灰白色	石・長(1~2) ◎		
170	甕	底径(4.2) 残高3.8	平底。	胴タタキ→ハケ 底ハケ	胴ハケ 底ナデ	乳白色・黒褐色 乳白色	石・長(1~4) 赤色酸化土粒 金ウンモ ◎	黒斑	
171	甕	底径4.5 残高2.8	平底。	胴ミガキ→ナデ 底ナデ	ハケ	乳橙色 乳橙色	石・長(1~6) 金ウンモ ◎		
172	甕	底径3.4 残高2.3	平底。	胴上ハケ 胴下ミガキ 底ナデ	マメツ	灰褐色 乳白橙色	石・長(1~2) 金ウンモ ◎	黒斑	
173	甕	底径(3.7) 残高4.2	平底。突出した底部を持つ。	タタキ	ハケ	乳白色・黒褐色 乳白色	石・長(1~3) 金ウンモ ◎	黒斑	
174	甕	底径2.2 残高3.3	平底。突出した底部を持つ。	胴タタキ 底ナデ	胴ナデ 底ハケ	乳白色・黒褐色 乳黄色	石・長(1~4) ◎	黒斑	
175	甗	孔径0.6 残高7.6	尖底。焼成前の円孔を1つ 穿孔する。	タタキ	胴ハケ 底ナデ	乳褐色・黒褐色 乳褐色	石・長(1~3) ◎	黒斑	11
176	甗	孔径0.6~1.8 底径4.5 残高1.6	平底。焼成前の円孔を1つ 穿孔する。	マメツ	ハクリ 底一部ナデ	乳白褐色・灰白褐色 乳橙色	石・長(1~3) 金ウンモ ◎	黒斑	
177	壺	口径(18.8) 残高4.4	複合口縁壺。 接合部が「く」の字状。二次口 縁部に櫛描波状文。	ミガキ	ヨコナデ	乳赤橙色 乳灰白色	石・長(1~3) ◎		12

遺物観察表

表 SD001中層 出土遺物観察表 土製品

(4)

番号	器種	法量 (cm)	形態・施文	調整		色調(外面) 色調(内面)	胎土 焼成	備考	図 版
				外面	内面				
178	壺	口径(21.0) 残高5.7	複合口縁壺。接合部が「く」の字状。二次口縁部に波状と山形文	マメツ・ハクリ	マメツ・ハクリ	乳 褐 色 乳 褐 色	石・長(1~5) 赤色酸化土粒 ◎		
179	壺	口径(14.9) 残高5.0	複合口縁壺。 接合部が「く」の字状。	マメツ・ハクリ	マメツ・ハクリ	乳 灰 白 色 乳 灰 白 色	石・長(1~2) ◎		
180	壺	口径(17.2) 残高4.0	複合口縁壺。接合部が「く」の字状。一次口縁部は水平になる。二次口縁部に波状文。	マメツ・ハクリ	マメツ・ハクリ	乳 黄 色 褐 色	石・長(1~3) 赤色酸化土粒 ◎		
181	壺	口径(12.3) 残高4.4	複合口縁壺。接合部が「く」の字状。二次口縁部に櫛描の波状文と沈線。	ヨコナデ	ヨコナデ	乳 橙 色 乳 橙 褐色	密・長(1) 赤色酸化土粒 金ウンモ ◎		12
182	壺	口径(10.8) 残高5.6	複合口縁壺。接合部が「く」の字状。口縁端部が直立する。	ヨコナデ	ナデ	褐 橙 色 乳 橙 黄色	石・長(1~5) 金ウンモ ◎		
183	壺	口径(9.8) 残高5.3	複合口縁壺。接合部が「く」の字状。頸部が短い。	マメツ	◎次口 ヨコナデ ◎接合部 ナデ ◎次口 ヨコナデ	乳 橙 色 乳 橙 色	石・長(1~4) 金ウンモ ◎		
184	壺	口径(10.4) 残高4.8	複合口縁壺。接合部が「く」の字状。頸部が短い。	①マメツ ②ハケ	ヨコナデ	乳白橙色・黒褐色 乳白橙色	石・長(1~3) 金ウンモ ◎	黒斑	
185	壺	口径(18.0) 残高3.4	複合口縁壺。接合部が「く」の字状。二次口縁部が短い	◎次口 ヨコナデ ◎次口 ナデ	◎次口 ヨコナデ ◎次口 ハケ→ヨコナデ	乳 白 色 乳 白 色	密 石・長(1) ◎		
186	壺	口径(17.2) 残高3.0	複合口縁壺。 接合部が「く」の字状。	マメツ	ヨコナデ	乳 橙 色 乳 橙 色	石・長(1~2) 金ウンモ ◎	黒斑	
187	壺	口径(17.4) 残高2.4	複合口縁壺。接合部が「く」の字状。二次口縁部が水平。貝殻による格子目文。	◎次口 マメツ ◎次口 ヨコナデ	ヨコナデ	橙 色 乳 橙 色	石・長(1~4) 金ウンモ ◎		12
188	壺	口径(16.8) 残高5.8	複合口縁壺。接合部が「コ」の字状。端部が外方にたちあがる。二次口縁部に横沈線と波状文。	ヨコナデ	マメツ	乳 橙 色 乳 橙 色	石・長(1~4) 金ウンモ ◎		12
189	壺	口径(14.0) 残高3.8	複合口縁壺。接合部が「コ」の字状。二次口縁部に横沈線と波状文。	ヨコナデ	マメツ・ハクリ	乳白橙色・乳灰色 乳 白 色	石・長(1~2) 赤色酸化土粒 金ウンモ ◎		
190	壺	残高3.9	複合口縁壺。接合部が「コ」の字状。	マメツ	マメツ	乳 橙 色 乳 黄 色	石・長(1~3) 金ウンモ ◎		
191	壺	口径(16.6) 残高5.6	複合口縁壺。接合部が「コ」の字状になり、垂下する。端部は立ちあがる。横沈線と波状文。	ヨコナデ	◎次口 ヨコナデ ◎次口 ハケ	乳白褐色黄色 乳白褐色黄色	石・長(1~3) 金ウンモ ◎		12
192	壺	口径(16.5) 残高3.8	複合口縁壺。接合部が「コ」の字状になり、垂下する。端部は立ちあがる。横沈線と波状文。		ヨコナデ	乳 白 橙 色 乳 白 橙 色	石・長(1~4) 金ウンモ ◎		
193	壺	口径(13.2) 残高3.6	複合口縁壺。口縁端部は立ちあがる。二次口縁部に横沈線と波状文。		ヨコナデ	乳 橙 色 灰 黄 色	石・長(1~4) 金ウンモ ◎		
194	壺	口径(16.2) 残高4.4	複合口縁壺。口縁端部は立ちあがる。二次口縁部に横沈線と波状文。		◎口端 ヨコナデ ◎口ハケ→ヨコナデ	乳 褐 色 乳 白 色	石・長(1~3) 赤色酸化土粒 ◎		
195	壺	口径(13.4) 残高6.0	複合口縁壺。接合部は袋状になる。文様なし。	ヨコナデ	ヨコナデ	乳 橙 色 乳 橙 色	石・長(1~2) 金ウンモ ◎		12
196	壺	口径(12.8) 残高6.3	複合口縁壺。接合部は袋状になる。	マメツ	◎接合部 ヨコナデ ◎次口 ハケ ◎胴 ヨコナデ	乳 橙 色 乳 橙 色	石・長(1~5) 金ウンモ ◎		
197	壺	口径(13.2) 残高6.0	複合口縁壺。接合部は袋状になる。	◎次口 ヨコナデ ◎次口 ハケ	◎次口 ヨコナデ ◎次口 マメツ	乳 橙 色 乳 白 橙 色	石・長(1~4) 金ウンモ ◎		

遺物観察表

表 SD001中層 出土遺物観察表 土製品

(5)

番号	器種	法量 (cm)	形態・施文	調整		色調 (外面 内面)	胎土 焼成	備考	図版
				外面	内面				
198	壺	残高8.0	複合口縁壺。一次口縁部から胴部上半。屈曲部に格子目入りの突帯がつく。	ハケ→ミガキ	ハケ→ミガキ	乳 橙 色 乳 橙 色	石・長(1~5) 赤色酸化土粒 ◎		
199	壺	残高2.9	複合口縁壺。屈曲部に格子目入りの突帯がつく。	ハケ	ハケ→マメツ	乳 橙 色 乳 橙 色	石・長(1~3) 金ウンモ ◎		
200	壺	残高3.5	複合口縁壺。屈曲部に格子目入りの突帯がつく。	マメツ・ハクリ	マメツ・ハクリ	乳 褐 色 乳 白 色	石・長(1~5) ◎		12
201	壺	残高3.5	複合口縁壺。屈曲部に斜め刻目入りの突帯がつく。	ハケ	ナデ	乳 橙 色 褐 赤 色	石・長(1~3) 金ウンモ ◎		12
202	壺	残高8.0	複合口縁壺。一次口縁部から胴部上半。胴部の張りは強い。	マメツ・ハクリ	マメツ・ハクリ	乳 橙 色 乳 白 色	石・長(1~4) 赤色酸化土粒 ◎		
203	壺	底径(5.0) 残高10.9	複合口縁壺。胴部下半から底部。胴部は球形で、底部は平底。	ハケ→ナデ	ハケ→ミガキ	乳 橙 白 色 黒 褐 色	石・長(1~5) ◎		
204	壺	底径6.4 残高5.5	複合口縁壺。平底。底面に4本の沈線。	ハケ	ナデ 指おさえ	乳白色・黒灰色 乳 白 色	石・長(1~5) 金ウンモ ◎		
205	壺	底径(7.0) 残高6.9	複合口縁壺。平底。	ミガキ→マメツ	指おさえ ハケ	乳橙色・黒褐色 乳白黄灰色	石・長(1~4) 金ウンモ ◎	黒斑	
206	壺	底径(9.0) 残高3.3	複合口縁壺。平底。	マメツ ハケ	ハケ	橙 色 橙 色	石・長(1~2) 金ウンモ ◎	黒斑	
207	壺	底径4.6 残高6.8	複合口縁壺。平底。	タタキ	マメツ・ハクリ	乳 橙 白 色 乳 橙 色	石・長(1~3) 金ウンモ ◎		
208	壺	底径3.8 残高6.4	複合口縁壺。平底。	Ⓜハケ Ⓜマメツ	マメツ	乳 橙 色 褐 白 黄 色	石・長(1~5) 金ウンモ ◎		
209	壺	底径4.7 残高5.1	複合口縁壺。平底。	Ⓜタタキ→ハケ Ⓜナデ	マメツ・ハクリ	乳白色・黒灰色 乳 橙 色	石・長(1~4) ◎	黒斑	
210	壺	底径(3.9) 残高4.8	複合口縁壺。平底。	タタキ→ハケ	ハケ	乳 白 色 乳 白 橙 色	石・長(1~5) ◎		
211	壺	底径(5.4) 残高3.0	複合口縁壺。平底。	タタキ	ハケ	乳灰色・乳白色 乳 白 色	石・長(1~3) 金ウンモ ◎		
212	壺	残高3.3	長頸壺。頸部下位はしまり、口縁部は外反する。	マメツ	マメツ	乳 白 橙 色 乳 白 橙 色	石・長(1~2) 金ウンモ ◎		
213	壺	口径(13.1) 残高4.8	長頸壺。頸部下位はしまる。	ハケ→ヨコナデ	ハケ→ヨコナデ	乳 黄 橙 色 乳 橙 色	石・長(1~3) 赤色酸化土粒 ◎		
214	壺	口径(16.0) 残高3.0	長頸壺。頸部は筒状になり、口縁部は外反する。	ハケ→ヨコナデ	ヨコナデ	乳 白 色 乳 白 色	石・長(1) ◎		
215	壺	口径(21.8) 残高6.0	長頸壺。口縁部は外反する。	Ⓜヨコナデ Ⓜハケ(8~10本/cm)	Ⓜハケ→ミガキ Ⓜハケ(8~10本/cm)	乳 橙 白 色 乳 橙 白 色	石・長(1~2) ◎		
216	壺	口径(26.0) 残高1.7	長頸壺。口縁部は外反する。	ヨコナデ→マメツ	ヨコナデ	乳 橙 白 色 乳 橙 白 色	石・長(1~2) ◎		
217	壺	口径(22.4) 残高2.4	長頸壺。口縁部は外反する。端部は下方に垂下する。	マメツ	ヨコナデ	橙 色 橙 色	石・長(1) ◎		

遺物観察表

表 SD001中層 出土遺物観察表 土製品 (6)

番号	器種	法量 (cm)	形態・施文	調整		色調 (外面 内面)	胎土 焼成	備考	図 版
				外面	内面				
218	壺	口径(17.2) 残高2.9	長頸壺。口縁部は外反する。	マメツ	マメツ	橙 乳 色 色	石・長(1) 金ウンモ ◎		
219	壺	口径(16.0) 残高2.2	長頸壺。口縁部は外反する。	ヨコナデ	ヨコナデ	乳 乳 色 色	石・長(1~3) 金ウンモ ◎		
220	壺	口径(18.2) 残高3.2	長頸壺。口縁部は外反する。	㊦ヨコナデ ㊦ミガキ	ヨコナデ	褐 褐 色 色	石・長(1~2) 金ウンモ ◎		
221	壺	口径(21.0) 残高7.6	長頸壺。口縁部は外反する。	㊦上 ナデ ㊦下 ハケ	ナデ	乳 乳 色 色	石・長(1~5) 金ウンモ ◎	黒斑	12
222	壺	口径(22.6) 残高1.4	長頸壺。頸部は外傾し、口縁部は外反する。口縁端部は垂下する。櫛描波状文が入る。		マメツ・ハクリ	乳 乳 色 色	石・長(1~3) ◎		12
223	壺	口径(23.6) 残高1.9	長頸壺。口縁部は外反し、口縁端部は垂下する。櫛描波状文が入る。	㊦ハケ	マメツ・ハクリ	乳 乳 色 色	石・長(1~4) ◎		12
224	壺	口径(21.0) 残高2.3	長頸壺。口縁部は外反し、口縁端部は垂下する。櫛描波状文が入る。	㊦マメツ	ヨコナデ	乳 乳 色 色	石・長(1~3) 金ウンモ ◎		12
225	壺	口径(27.6) 残高1.5	長頸壺。口縁部は外反し、口縁端部は垂する。波状文が入る。		㊦ヨコナデ ㊦ハクリ	乳 乳 色 色	石・長(1~2) 金ウンモ ◎		12
226	壺	口径(17.4) 残高2.5	長頸壺。口縁部は外反し、口縁端部は垂下する。波状文か又は、山形文が入る。	㊦口端 ヨコナデ ㊦ハケ	マメツ	乳 乳 色 色	石・長(1~4) 金ウンモ ◎		13
227	壺	口径(19.0) 残高5.8	長頸壺か短頸壺。屈曲部には格子目入りの突帯が巡る。口縁部は外傾し、長い。	㊦口端 マメツ・ハクリ ㊦ハケ→ヨコナデ	マメツ・ハクリ	乳 乳 色 色	石・長(1~5) 赤色酸化土粒 ◎		
228	壺	残高3.0	長頸壺か短頸壺。屈曲部には格子目入りの突帯が巡る。	㊦上 細いハケ→ ナデ・ミガキ	マメツ・ハクリ	乳 乳 色 色	石・長(1~3) ◎		
229	壺	残高3.1	長頸壺か短頸壺。胴部上半。	㊦上 ヨコナデ ㊦中 マメツ	ケズリ	乳 乳 色 色	石・長(1~2) 金ウンモ ◎		
230	壺	残高3.3	長頸壺か短頸壺。胴部上半。	マメツ	マメツ	灰 灰 色 色	石・長(1~2) 金ウンモ ◎		
231	壺	残高1.1	長頸壺か短頸壺。胴部上半。	マメツ	マメツ	乳 乳 色 色	石・長(1~2) ◎		
232	壺	残高1.7	長頸壺か短頸壺。胴部上半。	ヨコナデ	ナデ	乳 乳 色 色	金ウンモ ◎		
233	壺	残高4.4	丸底。	㊦ハケ ㊦底 ナデ	ミガキ	乳 乳 色 色	石・長(1~3) 赤色酸化土粒 ◎	黒斑	
234	壺	残高9.9	細長頸壺の頸部。外傾する。1単位6条の櫛描沈線文が3単位入る。	㊦ハケ→ ヨコナデ・ミガキ	ナデ (マメツ・ハクリ)	乳 乳 色 色	石・長(1~2) 金ウンモ ◎		
235	壺	口径(8.6) 残高3.5	小型丸底壺。口縁部は外傾する。端部は尖る。	ヨコナデ	ヨコナデ (マメツ・ハクリ)	灰 乳 色 色	密 ◎	黒斑	12
236	壺	残高4.4	小型丸底壺。口縁部は外傾する。胴部は尖りぎみ。	指おさえ ナデ	ヨコナデ (マメツ・ハクリ)	乳 乳 色 色	石・長(1~2) 金ウンモ ◎		12
237	壺	口径(11.0) 残高4.0	小型丸底壺。口縁部は外傾する。	ヨコナデ	ヨコナデ	乳 乳 色 色	石・長(1~2) 金ウンモ ◎		12

遺物観察表

表 SD001中層 出土遺物観察表 土製品

(7)

番号	器種	法量 (cm)	形態・施文	調整		色調(外面) (内面)	胎土 焼成	備考	図 版
				外面	内面				
238	壺	残高4.2	小型丸底壺。胴部は球形。	マメツ	マメツ	橙 色 色	石・長(1~2) 金ウンモ ◎		12
239	小形器台	残高4.6	小形器台。脚部は円錐状に広がる。円孔を穿孔する。	④ミガキ ④ミガキ→マメツ	④ハケ(8~9本/cm) ④マメツ	橙 色 色	石・長(1~5) 金ウンモ ◎		12
240	小形器台	残高5.4	小形器台。脚部は円錐状に広がる。	④マメツ ④ハケ→マメツ	④ミガキ ④シボリ痕	乳黄褐色 乳黄褐色	石・長(1~4) 金ウンモ ◎		12
241	壺	口径(24.4) 残高3.7	二重口縁壺。二次口縁部は大きく外反する。無飾。	マメツ	マメツ	乳橙 色 色	石・長(1~2) 金ウンモ ◎		12
242	壺	口径(24.0) 残高4.2	二重口縁壺。一次口縁部は外傾し、二次口縁部は外反する。接合部がやや垂下する。無飾。	④端 ヨコナデ ④ハケ・ナデ	ナデ ハケ	乳黄褐色 乳黄褐色	石・長(1~4) 金ウンモ ◎		13
243	壺	残高5.8	胴部上半。胴部が強く張る。	④端 ヨコナデ ④上 ミガキ	④端 ナデ ④上 ケズリ	灰黄 色 色	石・長(1~2) ◎	黒斑	
244	壺	残高5.8	二重口縁壺。頸部は筒状。胴部上半は張りが強い。	マメツ・ハクリ	マメツ・ハクリ	乳橙 色 色	石・長(1~3) ◎		
245	壺	残高3.5	二重口縁壺。頸部は筒状。	マメツ・ハクリ	マメツ・ハクリ	乳白 色 色	石・長(1) ◎		
246	壺	残高7.5	二重口縁壺。頸部は筒状で、胴部上半は張りが強い。最大径は上位あるいは中位にくる。	マメツ・ハクリ	マメツ・ハクリ	乳赤 色 色	石・長(1~5) ◎		
247	壺	残高4.6	胴部上半。張りが強い。	④端 ヨコナデ ④上 マメツ	④端 ナデ ④上 マメツ	乳橙 色 色	石・長(1~4) 金ウンモ ◎	黒斑	
248	壺 又は 高環	口径(20.8) 残高2.3	外来品。口縁部は外反し、端部は上下に肥厚する。山形文と円形浮文を施す。		ヨコナデ	乳橙 色 色	石・長(1~4) 金ウンモ ◎		13
249	壺	胴径(19.4) 残高5.7	外来品。胴部上半に直弧文が線刻される。			浅黄 色 色	長(0.5) ◎		13
250	鉢	口径(15.3) 残高5.9	直口口縁の鉢。碗状になる。	④端 ヨコナデ ④上 ハケ→ミガキ	④端 ヨコナデ ④上 ミガキ	淡乳褐 色 色	石・長(1~2) 金ウンモ ◎	黒斑	
251	鉢	口径(12.4) 残高5.6	直口口縁の鉢。碗状になる。	④端 ヨコナデ ④上 ミガキ	④端 ヨコナデ ④上 ナデ ④上 ミガキ	灰茶褐 色 色	石・長(1~15) ◎		13
252	鉢	口径(14.2) 残高3.7	直口口縁の鉢。碗状になる。	④端 ヨコナデ ④上 ミガキ	④端 ヨコナデ ④上 ミガキ	暗黒褐 色 色	石・長(0.5~1) ◎	黒斑	
253	鉢	口径(10.8) 残高3.1	直口口縁の鉢。低脚の鉢になる可能性あり。	④端 ヨコナデ ④上 ナデ	ハケ(5本/cm)	乳白黄褐 色 色	石・長(1) 金ウンモ ◎		
254	鉢	口径10.8 底径3.2 残高4.7	直口口縁の鉢。平底。	ミガキ→マメツ ④底 ナデ→マメツ	④端 ヨコナデ ④上 ハケ(10~12本/cm) ④底 ナデ→マメツ	乳白黄褐 色 色	石・長(1~3) 金ウンモ ◎	黒斑	13
255	鉢	口径(8.8) 残高2.6	折り曲げ口縁の鉢。	④端 ヨコナデ ④上 タタキ→ナデ	ヨコナデ	褐黒 色 色	石・長(1~2) 金ウンモ ◎		13
256	鉢	口径(21.4) 残高4.6	折り曲げ口縁の鉢。	④端 ヨコナデ ④上 ミガキ	④端 ハケ→ヨコナデ ④上 ミガキ→ナデ	暗灰褐 色 色	石・長(1~15) ◎	黒斑	
257	鉢	口径(21.3) 残高3.4	折り曲げ口縁の鉢。	④端 ヨコナデ ④上 ナデ	④端 ヨコナデ ④上 ミガキ	淡茶褐 色 色	石・長(1~3) ◎		

遺物観察表

表 SD001中層 出土遺物観察表 土製品 (8)

番号	器種	法量 (cm)	形態・施文	調整		色調 (外面) (内面)	胎土 焼成	備考	図 版
				外面	内面				
258	鉢	底径1.9 残高1.3	口縁部が強く外反する鉢の底部。小さく突出する。	マメツ・ハクリ	マメツ・ハクリ	乳白色 乳白色	石・長(1~2) ◎		13
259	鉢	底径3.5 残高3.5	口縁部が強く外反する鉢の底部。突出する。	指おさえ ナデ	ハケ(4~7本/cm)	乳灰色・乳褐色 乳褐色	石・長(1~3) ◎	黒斑	
260	鉢	底径8.4 残高3.1	上げ底。	ミガキ→マメツ	ハケ(5本/cm)	乳白橙色 褐黒黄色	石・長(1~2) 金ウンモ ◎	黒斑	
261	鉢	底径(9.4) 残高3.3	台付鉢の低脚。円錐状に広がる。	Ⓜハケ→ヨコナデ Ⓧ指おさえ・ナデ	ナデ	乳白色 乳白色	石・長(1~5) 赤色酸化土粒 ◎		
262	鉢	底径7.2 残高2.6	台付鉢の低脚。円錐状に広がる。	指おさえ	ナデ	乳白橙色 乳白橙色	石・長(1~2) 金ウンモ ◎	黒斑	
263	鉢	孔径1.2 残高3.5	台付鉢の低脚。円錐状に広がる。円孔が穿孔される。	マメツ・ハクリ	ハケ(7~9本/cm)	乳黄橙色 乳黄色	石・長(1~3) 金ウンモ ◎		13
264	鉢	残高2.3	台付鉢の低脚。円錐状に広がる。	ヨコナデ	マメツ	橙褐色 乳橙色	石・長(1~3) 金ウンモ ◎		
265	器台	口径32.8 残高1.2	受け部は水平に広がる。端部は上下に肥厚する。	マメツ・ハクリ	マメツ・ハクリ	乳褐色 乳橙色	石・長(1~3) 赤色酸化土粒 ◎		13
266	器台	口径25.0 残高1.5	器台の受け部。水平に広がる。端部は垂下し、波状文が施される。		ナデ 指おさえ	乳白色 黒灰色	石・長(1~3) 金ウンモ ◎		13
267	器台	残高2.25	器台の受け部。端部は垂下する。竹管文の入った円形浮文をつける。	ナデ	ナデ	淡灰橙色 淡灰黄色	石・長(1~3) ◎		
268	高坏	口径(18.4) 残高5.1	坏部。2段に屈曲する。坏部は深く、大きく外傾する。	ヨコナデ	マメツ	乳白黄褐色 乳白黄褐色	石・長(1~2) 金ウンモ ◎		13
269	高坏	口径(18.0) 残高3.6	坏部。2段に屈曲する。大きく外傾する。	マメツ	マメツ	乳白橙色 乳白橙色	石・長(1~4) 金ウンモ ◎		
270	高坏	口径(19.0) 残高3.6	坏部。2段に屈曲する。大きく外反する。	Ⓧ端)ヨコナデ Ⓧ)マメツ	ヨコナデ	乳黄白褐色 乳黄白褐色	石・長(1~4) 金ウンモ ◎		13
271	高坏	口径(16.2) 残高3.7	坏部。2段に屈曲する。大きく外反する。	マメツ・ハクリ	マメツ・ハクリ	乳赤橙白色 乳橙色	長(1) 密 ◎		
272	高坏	口径(15.7) 残高3.3	坏部。2段に屈曲する。大きく外反する。	Ⓧ端)ヨコナデ Ⓧ)ハケ	Ⓧ端)ヨコナデ Ⓧ)ハケ(6本/cm)	橙褐色 暗褐色	石・長(1) 金ウンモ ◎		
273	高坏	底径(11.2) 残高8.2	柱部は円錐状に広がり、裾部は角度を変えてさらに広がる。端部は細くなる。	マメツ・ハクリ	Ⓧ)ケズリ Ⓧ)マメツ・ハクリ	乳白色 乳白色	石・長(1~2) 金ウンモ 赤色酸化土粒 ◎		13
274	高坏	底径(12.0) 残高7.5	柱部は円錐状に広がり、裾部は角度を変えてさらに広がる。端部は細くなる。	マメツ・ハクリ	Ⓧ)ケズリ Ⓧ)マメツ・ハクリ	乳橙白色 乳橙白色	石・長(1~2) 金ウンモ 赤色酸化土粒 ◎		13
275	高坏	残高7.0	柱部は円錐状に広がり、裾部は角度を変えてさらに広がる。	マメツ	マメツ	乳白橙色 乳白橙色	石・長(1) 金ウンモ ◎		
276	高坏	残高8.8	柱部は円錐状に広がり、裾部は水平に広がる。柱部は細い。	ミガキ→マメツ	Ⓧ)マメツ・ハクリ Ⓧ)シボリ痕	乳橙褐色 乳橙色	石・長(1~2) 金ウンモ ◎		13
277	高坏	口径(23.2) 残高3.5	坏部。大きく外反する。器壁が厚い。	Ⓧ端)ヨコナデ Ⓧ)ハケ→ガキ(7本/cm)	マメツ・ハクリ	乳赤色 乳赤色	長(1) 赤色酸化土粒 ◎		

遺物観察表

表 SD001中層 出土遺物観察表 土製品 (9)

番号	器種	法量 (cm)	形態・施文	調整		色調(外面 内面)	胎土 焼成	備考	図版
				外面	内面				
278	高坏	残高3.6	坏部。2段に屈曲する。 外方に大きく開く。	マメツ	マメツ	乳橙色・黒褐色 褐橙色・褐黄色	石・長(1~2) 金ウンモ ◎	黒斑	
279	高坏	残高1.8	坏部。2段に屈曲する。 外方に大きく開く。	ハケ (4~5本/cm)	ハケ (7~8本/cm)	橙色 色 色	石・長(1~2) 金ウンモ ◎		
280	高坏	残高8.6	脚部。柱部から裾部にゆる やかに移行する。	ナデ	マメツ	乳白黄色 乳白黄色	石・長(1~2) 金ウンモ ◎		
281	高坏	残高5.3	脚部が円錐。	マメツ	⑧マメツ ⑨マメツ	乳白橙色 乳白橙色	石・長(1~4) 金ウンモ ◎		
282	高坏	残高6.0	脚部が円錐。	ミガキ	⑧マメツ ⑨ナデ	暗褐色 暗褐色	石・長(1~3) 金ウンモ ◎		
283	高坏	残高7.4	脚部。柱部が直立する。	ミガキ	⑧ミガキ ⑨シボリ痕	乳橙色・黒褐色 褐橙色	石・長(1) 金ウンモ ◎		
284	高坏	残高6.0	脚部。柱部が直立する。 円孔が穿孔される。	マメツ	シボリ痕	乳橙色 色 色	石・長(1~3) 金ウンモ ◎		
285	高坏	残高5.7	脚部。柱部がエンタシスで 円孔が穿孔される。	マメツ	マメツ	乳橙色 乳 色 色	石・長(1~4) 金ウンモ ◎		
286	高坏	残高2.6	高坏の脚部。 裾部は角度を変え広がる。	マメツ	マメツ	乳白橙色 乳白橙色	石・長(1~2) 金ウンモ ◎		
287	ニチュア	残高3.1	小形高坏形土器。	ミガキ→マメツ	ナデ・ヨコナデ	乳橙色 乳 色 色	石・長(1~2) 金ウンモ ◎		13
288	ニチュア	残高3.4	小形高坏形土器。	指おさえ ナデ	ナデ	乳灰白色 乳 褐色	石・長(1~3) ◎		13
289	ニチュア	底径3.1 残高2.7	台付き鉢の台。上げ底。	指おさえ	指おさえ	乳灰白色 乳 白色	石・長(1) ◎		13
290	ニチュア	残高4.1	小形の甑形土器。	ナデ 指おさえ	ナデ	乳白黄色・黒褐色 乳白橙色	石・長(1~2) 金ウンモ ◎	黒斑	13
291	支脚	底径10.4 残高12.0	受け部が左右に広がるもの。 背面に突起が付く。	ナデ	ナデ	乳黄橙色 乳 黄 色 色	石・長(1~3) 金ウンモ ◎		
292	支脚	底径(9.0) 器高12.0	受け部が左右に広がるもの。 背面に突起が付く。	指おさえ	ナデ	乳赤褐色 乳 赤 褐色	石・長(1~4) ◎		
293	支脚	残高8.6	受け部が左右に広がるもの。 背面に突起が付く。	ナデ 指おさえ	ケズリ	褐橙色 褐 色 色	石・長(1~3) 金ウンモ ◎		
294	支脚	残高9.7	受け部が左右に広がるもの。 背面に突起が付く。	指おさえ	ハケ	乳褐色 乳 褐色	石・長(1~5) ◎		
295	支脚	底径(7.4) 残高10.9	受け部が左右に広がるもの。 背面に突起が付く。	指おさえ		黒褐色・灰色・乳白色 灰色・乳橙色	石・長(1~2) 金ウンモ ◎	黒斑	
296	支脚	残高9.4	受け部が左右に広がるもの。背 面に突起が付く。受部~脚部に かけて貫通している。	ハケ (12~13本1組)		褐橙色 褐 色 色	石・長(1~3) 金ウンモ ◎		
297	支脚	底径9.3 残高10.2	受け部が左右に広がるもの。 背面に突起が付く。	タタキ	ナデ 指おさえ	乳黄褐色 乳 黄 褐色	石・長(1~3) 金ウンモ ◎		

遺物観察表

表 SD001中層 出土遺物観察表 土製品 (10)

番号	器種	法量 (cm)	形態・施文	調整		色調 (外面 内面)	胎土 焼成	備考	図 版
				外面	内面				
298	支脚	残高8.5	受け部が左右に広がるもの。 突起がつかない。	指おさえ		乳褐色 乳褐色	密 長(1) 金ウンモ ◎		
299	支脚	底径(10.2) 残高9.8	脚部。294~300と同じ形態。	タタキ→ケズリ	ケズリ	乳橙色・褐黒色 乳褐橙色	石・長(1~4) 金ウンモ ◎	黒斑	
300	支脚	残高6.2	脚部。294~300と同じ形態。	タタキ	シボリ痕→マメツ ハクリ	乳黄褐色 乳黄褐色	石・長(1~2) 金ウンモ ◎		
301	支脚	底径(10.2) 残高9.0	柱部が棒状で、裾部が広がる。	ハケ(10~11本/cm) ナデ	ナデ ハケ(8~9本/cm)	乳白橙色 乳白橙色	石・長(1~3) 金ウンモ ◎		
302	支脚	底径(9.3) 残高7.1	受け部の平面は翼状になり、断面は上方に立ちあがる。柱部は筒状。裾部は広がる。中実。	ハケ(9~10本/cm) ナデ	環ハケ(9~10本/cm) 底ナデ・ハクリ	明褐色 明褐色	石・長(1~3) 金ウンモ ◎		
303	甕	口径(17.8) 残高4.2	口縁部は外反する。 端部には、凹線文が入る。	ヨコナデ	ヨコナデ ケズリ	茶褐色 茶褐色	石・長(1~5) 金ウンモ ◎		14
304	甕	残高2.4	口縁部は外反する。端部は肥厚し、凹線文が入る。	ヨコナデ	ヨコナデ	淡黄褐色 淡黄褐色	石・長(0.5) ◎		
305	甕	口径(15.8) 残高4.4	口縁部は外反する。端部には、凹線文が、口縁部直下には刺突文が入る。	ヨコナデ ハケ→ミガキ	ヨコナデ ミガキ	暗茶灰褐色 暗茶褐色	石・長(1~1.5) ◎		
306	甕	口径(27.3) 残高6.1	口縁部は外反する。凹線文なし。	◎ヨコナデ 胸ハケ→ヨコナデ	◎ヨコナデ 胸ナデ・ハケ	褐色 暗褐色	石・長(1~2) ◎		14
307	甕	口径(23.6) 残高4.6	口縁部は外反する。凹線文なし。	◎ヨコナデ 胸マメツ	◎ヨコナデ 胸ナデ	茶褐色 茶褐色	石・長(1~2) 金ウンモ ◎		
308	甕	口径(15.0) 残高11.9	口縁部は外反する。凹線文なし。	マメツ・ハクリ	マメツ・ハクリ	乳白色 乳白色	石・長(1~4) 赤色酸化土粒 ◎		
309	甕	口径(20.3) 残高7.0	口縁部は外反する。凹線文なし。	◎ヨコナデ 胸工具痕	◎ヨコナデ 胸ナデ	茶褐色 茶褐色	石・長(1~3) ◎		
310	甕	口径(15.6) 残高5.3	口縁部は外反する。凹線文なし。	◎ヨコナデ 胸ミガキ	◎ヨコナデ 胸板ナデ	暗褐色 暗褐色	石・長(1~3) 金ウンモ ◎	黒斑	
311	甕	口径(18.0) 残高4.1	口縁部は外反する。	ヨコナデ	ヨコナデ→ナデ	暗褐色 暗褐色	石・長(1~3) 金ウンモ ◎	黒斑	
312	甕	口径(22.6) 残高3.5	口縁部は外反する。胴部との屈曲部に格子文が入った突帯。口縁部に貝殻による刻み目。	ヨコナデ ハケ(9~10本/cm)	ヨコナデ	乳橙色 乳褐色	石・長(1~2) 金ウンモ ◎		
313	甕	口径(19.3) 残高4.1	外来品。口縁部は「く」の字状になる。凹線文が施される。	ヨコナデ→ハケ ハケ(6~7本/cm)	ヨコナデ	乳黄白色 乳黄白色	石・長(1) 金ウンモ ◎		14
314	甕	口径(22.2) 残高3.1	口縁部は外傾する。端部は上方に立ちあがり、凹線文が入る。	ナデ	ヨコナデ ナデ	淡茶褐色 淡茶褐色	石・長(1~1.5) 金ウンモ ◎		
315	甕	口径(20.2) 残高4.1	口縁部は内湾する。端部は上方に立ちあがり、凹線文が入る。	◎ヨコナデ 胸ハケ→ナデ	◎ヨコナデ 胸ハケ→ナデ	淡茶褐色 淡茶褐色	石・長(1~3) 金ウンモ ◎		14
316	甕	口径(20.4) 残高5.4	口縁部は外傾する。端部は上方に立ちあがり、凹線文が入る。	ハケ→ナデ	工具痕	茶褐色 茶褐色	石・長(1~3) 金ウンモ ◎		
317	甕	口径(22.0) 残高4.0	口縁部は外傾する。端部には、凹線文が、口縁部直下には刺突文が施される。	ヨコナデ	◎端ヨコナデ ◎マメツ	淡褐色 淡茶褐色	石・長(1~2) ◎		

遺物観察表

表 SD001中層 出土遺物観察表 土製品

(11)

番号	器種	法量 (cm)	形態・施文	調整		色調(外面) (内面)	胎土 焼成	備考	図 版
				外面	内面				
318	甕	口径(25.6) 残高4.5	口縁部は外傾する。端部には凹線文が入る。屈曲部には、指頭押圧の刻み目入り突帯。	ヨコナデ	ヨコナデ	黄褐色 黄褐色	石・長(1~1.5) 金ウンモ ◎		14
319	甕	口径(30.8) 残高4.2	端部には凹線文が入る。屈曲部には、指頭押圧の刻み目突帯が入る。	マメツ	ナデ	乳白色 乳白色	石・長(1~2) ◎		
320	甕	口径(26.1) 残高4.5	口縁部は外傾し、端部に文様は入らない。屈曲部には、指頭押圧の刻み目突帯が入る。	㊦ヨコナデ 胴ハケ	㊦ヨコナデ 胴ハケ	茶褐色 茶褐色	石・長(1~2) 金ウンモ ◎		
321	甕	口径(28.8) 残高2.8	口縁部は外傾し、端部に文様は入らない。屈曲部には、指頭押圧の刻み目突帯が入る。	ヨコナデ	㊦ヨコナデ ㊦ナデ	淡黄褐色 淡黄褐色	石・長(1~1.5) ◎		
322	甕	口径(32.4) 残高4.1	口縁部は外傾し、端部は無飾。屈曲部には、指頭押圧の刻み目突帯が入る。	㊦ヨコナデ 胴ミガキ	㊦ヨコナデ 胴ナデ	暗茶褐色 暗茶褐色	石・長(0.5~1.5) 金ウンモ ◎		
323	甕	口径(26.6) 残高9.4	口縁部は外反する。端部は無飾。	㊦ヨコナデ 胴ミガキ	㊦マメツ 胴ナデ	淡褐色 黄褐色	石・長(1~3) ◎	黒斑	
324	甕	口径(20.7) 残高6.8	口縁部は外反する。端部は無飾。	㊦ヨコナデ 胴ナデ→ミガキ	㊦ヨコナデ 胴上ナデ 胴下ケズリ	淡茶褐色 淡茶褐色	石・長(1~3) 金ウンモ ◎		
325	甕	底径(6.8) 残高3.5	上げ底。	胴ミガキ 底ヨコナデ	ナデ	淡茶褐色 淡茶褐色	石・長(1) ◎		
326	甕	底径4.7 残高6.3	上げ底。	胴ミガキ 底ナデ	ナデ	茶褐色 暗茶褐色	石・長(1~1.5) ◎	黒斑	
327	甕	底径6.2 残高9.0	上げ底。	胴ミガキ 底ヨコナデ	ナデ	淡黄褐色 淡黄褐色	石・長(1~2) ◎		
328	甕	底径7.1 残高7.2	上げ底。	胴マメツ 底ナデ	ナデ	茶褐色 暗褐色	石・長(1~3) ◎		
329	甕	底径6.0 残高3.4	やや上げ底。	胴マメツ 底ミガキ・ナデ	ナデ	茶褐色 茶褐色	石・長(0.5~1.5) ◎		
330	甕	底径6.2 残高4.3	やや上げ底。	胴マメツ 底ナデ	ナデ	茶褐色 茶褐色	石・長(1~5) 安山岩 ◎	黒斑	
331	甕	底径6.5 残高4.2	平底。	ナデ	マメツ(工具痕)	乳黄灰色 乳黄灰色	石・長(1~3) 赤色酸化土粒 金ウンモ ◎		
332	甕	底径6.6 残高3.2	平底。	胴ミガキ 底ナデ	ナデ	茶褐色 茶褐色	石・長(1~3) ◎	黒斑	
333	壺	口径(26.6) 残高10.5	長頸壺。端部下半には、横沈線が巡り、6条1単位の縦沈線。端部上半と頸部には貝殻による刺突文。	マメツ	マメツ	淡茶黄褐色 淡黄褐色	石・長(2~3) ◎		14
334	壺	残高10.5	336と同一個体。胴部上半と中位に貝殻による刻み目文。	ミガキ	ナデ	茶褐色 淡茶褐色	石・長(1~1.5) ◎		14
335	壺	口径(31.1) 残高5.7	長頸壺。口縁端部は肥厚し、縦沈線の後に横方向の凹線文。円形浮文が2単位上下で付く。	ヨコナデ	㊦ヨコハケ→ヨコナデ ㊦ヨコハケ	淡茶色・黄茶褐色 淡茶色	石・長(1~3) 金ウンモ ◎		14
336	壺	口径(28.1) 残高13.9	長頸壺。口縁端部は肥厚し、縦沈線の後に横方向の凹線文と円形浮文が付く。	㊦ナデ ㊦ハケ	㊦ヨコナデ ㊦ヨコハケ	淡茶褐色 淡茶褐色	石・長(1~2) 金ウンモ ◎		14
337	壺	口径(20.6) 残高6.1	長頸壺。口縁端部は上方に立ちあがる。凹線文の後円形浮文が付く。	マメツ	マメツ	茶褐色 暗茶褐色	石・長(1~5) ◎		14

遺物観察表

表 SD001中層 出土遺物観察表 土製品 (12)

番号	器種	法量 (cm)	形態・施文	調整		色調(外面 内面)	胎土 焼成	備考	図 版
				外面	内面				
338	壺	口径(15.8) 残高3.7	口縁部は外反する。端部に凹線文が入り、円形浮文が付く。	マメツ	マメツ	暗黄褐色 暗黄褐色	石・長(1~15) ◎		14
339	壺	口径(25.4) 残高4.35	長頸壺。口縁端部は上下に肥厚する。凹線文の後貝殻の刻みが入る方形浮文が付く。	ヨコナデ	ミガキ	茶褐色 茶褐色	石・長(1~2) ◎	黒斑	14
340	壺	口径(25.4) 残高5.3	長頸壺。口縁端部は下方に垂下する。凹線文の後方形浮文が入る。	ハケ	ミガキ	茶褐色 茶褐色	石・長(1~3) 金ウンモ ◎	黒斑	15
341	壺	口径(22.8) 残高5.1	長頸壺。口縁部は大きく外反する。端部は上下に肥厚する。端部と方形浮文に刻み目。	ハケ→ナデ	ハケ→ナデ	茶褐色 茶褐色	石・長(1~3) 金ウンモ ◎		15
342	壺	口径(29.2) 残高4.65	長頸壺。口縁端部は上下に肥厚する。凹線文と端部先端に貝殻で刻み目が入る。浮文剥離。	ナデ	マメツ	淡褐色 橙褐色	石・長(1~3) ◎		15
343	壺	口径(24.0) 残高5.4	長頸壺。口縁部は大きく外反する。端部は上下に肥厚する。凹線文が入る。	ナデ	ミガキ	暗灰褐色 暗灰褐色	石・長(1~2) ◎		15
344	壺	口径(18.4) 残高4.3	長頸壺。口縁部は大きく外反する。端部は上下に肥厚する。凹線文が入る。	①ヨコナデ ②ハケ→ナデ	①ハケ ②ミガキ	乳黄褐色 淡灰褐色	石・長(1~3) 金ウンモ ◎	黒斑	
345	壺	口径(17.0) 残高6.8	長頸壺。口縁部は外反する。端部は上下に肥厚する。凹線文が入る。頸部は短い。	①ナデ ②ミガキ	ミガキ	淡乳褐色 淡乳褐色	石・長(1~5) 金ウンモ ◎		
346	壺	口径(13.8) 残高6.8	長頸壺。口縁部は大きく外反する。端部は「く」の字状になる。凹線文が入る。頸部は筒状。刻み目が入る。	①ヨコナデ ②ハケ	①ハケ→ヨコナデ ②ナデ	暗茶褐色 暗茶褐色	石・長(1~15) ◎		
347	壺	口径(15.6) 残高1.8	長頸壺。口縁部は外反する。端部は下方に垂下する。凹線文が入る。	ヨコナデ	ナデ	茶褐色 茶褐色	石・長(1~2) 金ウンモ ◎		
348	壺	口径(12.2) 残高4.8	長頸壺。口縁部は外傾する。頸部は筒状になる。端面に凹線文。	①ヨコナデ ②ナデ	ヨコナデ	黄褐色 黄褐色	石・長(1~3) ◎		
349	壺	口径(12.2) 残高3.1	長頸壺。口縁部は外傾する。頸部は筒状になる。端面に凹線文。	①ヨコナデ ②ハケ・ヨコナデ	ヨコナデ	茶褐色 茶褐色	石・長(0.5~1) ◎		
350	壺	残高4.5	長頸壺。口縁端部は上下に肥厚する。端面に格子目文が線刻される。	ヨコナデ	ヨコナデ	淡灰褐色 淡灰褐色	石・長(1~2) ◎		15
351	壺	残高5.5	長頸壺の頸部。胴部との屈曲部に指頭押圧が3段入る突帯が巡る。	ナデ	ハケ・ナデ	茶褐色 茶褐色	石・長(0.5~1) ◎		
352	壺	残高4.1	長頸壺の胴部上半。頸部との屈曲部に刻目入りの突帯、その直下に刻目が入る。	ヨコナデ	ナデ	茶褐色 茶褐色	石・長(1~2) 金ウンモ ◎		
353	壺	残高8.0	長頸壺の胴部上半。刻み目が巡る。	ミガキ	ナデ	淡褐色 淡褐色	石・長(1~2) 金ウンモ ◎	黒斑	
354	壺	底径9.8 残高7.6	長頸壺の底部。平底。	③(胴下)ミガキ ④(底)ナデ	ミガキ	暗黒褐色 茶褐色	石・長(0.5~1) ◎	黒斑	
355	壺	底径18.4 残高10.6	長頸壺の底部。平底。	③(胴下)ハケ→ミガキ ④(底)ミガキ	ハケ	暗茶褐色 暗茶褐色	石・長(1~2) ◎		
356	壺	底径11.9 残高9.7	長頸壺の底部。やや上げ底。	③(胴下)ミガキ ④(底)マメツ	ナデアゲ	茶褐色 灰黄色	石・長(1~2) ◎	黒斑	
357	壺	底径10.2 残高4.0	長頸壺の底部。やや上げ底。	ミガキ	ミガキ	茶褐色 茶褐色	石・長(1~5) ◎	黒斑	

遺物観察表

表 SD001中層 出土遺物観察表 土製品

(13)

番号	器種	法量 (cm)	形態・施文	調整		色調 (外面) (内面)	胎土 焼成	備考	図 版
				外面	内面				
358	壺	口径(14.5) 残高2.7	長頸壺。口縁端部は上方に立ち上がり、凹線文が入る。内面には5条1単位の沈線が巡り、その間に縦沈線。	ヨコナデ	ハケ→ヨコナデ	淡茶褐色 黄茶褐色	石・長(1~2) 金ウンモ ◎		15
359	壺	口径(13.6) 残高4.2	長頸壺。口縁部が大きく外反する。端部は水平になる。屈曲部には断面三角形の突帯が巡る。	ヨコナデ	ナデ	淡黄褐色 淡黄褐色	石・長(1~2) ◎		
360	壺	口径(15.0) 残高5.6	長頸壺。口縁部が外傾する。端部は下方に垂下する。屈曲部には布目押圧の断面三角形の突帯。	ヨコナデ	ナデ	暗茶褐色 暗茶褐色	石・長(1) 砂粒 ◎		
361	壺	残高7.6	長頸壺。胴部上半。布目押圧の入った突帯が間をおいて、2条巡る。	ヨコナデ	ナデ	淡茶褐色 淡茶褐色	石・長(1~2) ◎		
362	壺	残高6.0	長頸壺。胴部上半。布目押圧の入った突帯が1条巡る。	⑧ヨコナデ ⑧上 ミガキ	⑧ヨコナデ ⑧上 ナデ	茶褐色 茶褐色	石・長(0.5~1) ◎		
363	壺	口径(24.0) 残高2.3	長頸壺。口縁部は外傾する。端部は下方に垂下する。格子目文が施される。	ナデ	ナデ	淡黄褐色 淡黄褐色	石・長(1~1.5) ◎		
364	壺	口径(21.0) 残高2.9	長頸壺。口縁部は外反する。端部は上下に肥厚する。下方端に刻み目が入る。	ヨコナデ	ヨコナデ	茶褐色 茶褐色	石・長(1~3) 金ウンモ ◎	黒斑	
365	壺	口径(19.0) 残高3.0	長頸壺。口縁部は外反する。口縁端部に山形文が施される。	マメツ	マメツ	乳黄色 淡灰褐色	石・長(1~4) ◎		
366	壺	口径(18.0) 残高3.5	長頸壺。口縁部は外反する。口縁端部に山形文が施される。	⑨ヨコナデ ⑨上 ミガキ	⑨ヨコナデ ⑨上 ミガキ	淡茶褐色 淡茶褐色	石・長(1~1.5) ◎		
367	壺	口径(19.0) 残高3.0	長頸壺。頸部は筒状で、口縁部は外反する。端部は上方に立ちあがり、格子目文が入る。	ヨコナデ	ヨコナデ	茶褐色 茶褐色	石・長(1~3) 金ウンモ ◎	黒斑	
368	壺	残高3.9	胴部上半。屈曲部直下にヘラ状工具にて刻み目が入る。	ヨコナデ	ヨコナデ	暗褐色 暗褐色	石・長(1~2) 金ウンモ ◎		
369	壺	残高6.2	胴部上半。屈曲部直下に櫛描沈線と刺突文が施される。	ミガキ	ヨコナデ	暗灰褐色 暗茶褐色	石・長(0.5~1.5) ◎		
370	壺	残高3.2	胴部上半。貝殻による刻み目が施される。	ミガキ	ミガキ	淡茶褐色 淡黄茶褐色	石・長(1~2) ◎		15
371	壺	残高3.5	胴部上半。横沈線と貝殻による刻み目が施される。	ヨコナデ	ナデ	乳黄褐色 乳黄褐色	石・長(1) ◎		15
372	壺	残高3.6	胴部上半。貝殻による刻み目が施されている。	マメツ	ナデ	茶褐色 茶褐色	石・長(1) ◎		15
373	壺	残高3.8	胴部上半。貝殻による刻み目が2段施される。	ハケ	ナデ	茶褐色 茶褐色	石・長(1) 金ウンモ ◎		15
374	壺	残高1.7	胴部上半。横沈線と貝殻による刻み目が施される。	ナデ	ナデ	淡茶褐色 淡茶褐色	石・長(1~2) ◎		15
375	壺	残高4.2	胴部上半。横沈線と貝殻による刻み目が施される。	ハケ→ナデ	ナデ	茶褐色 茶褐色	石・長(1~2) ◎		15
376	壺	残高2.6	胴部。最大径の部分。横沈線が2条1単位で2段施される。	ナデ	ナデ	黄褐色 黄褐色	石・長(1) ◎		
377	壺	底径7.4 残高4.9	平底。	⑩下 ミガキ ⑩底 ナデ	ミガキ	褐色 黄褐色	石・長(1~4) 金ウンモ ◎	黒斑	

遺物観察表

表 SD001中層 出土遺物観察表 土製品

(14)

番号	器種	法量 (cm)	形態・施文	調整		色調(外面 内面)	胎土 焼成	備考	図 版
				外面	内面				
378	壺	底径9.0 残高3.1	やや上げ底。	㊦下ハケ→ミガキ ㊦ナデ	マメツ(工具痕)	茶 褐 色 淡 褐 色	石・長(1~1.5) 金ウンモ ◎	黒斑	
379	壺	底径10.0 残高3.15	やや上げ底。	ナデ	マメツ	黄 褐 色 黄 褐 色	石・長(1~5) ◎		
380	壺	底径9.7 残高5.1	上げ底。	ナデ(指頭痕)	板ナデ	灰黄褐色 暗 灰 色	石・長(1~5) 金ウンモ ◎	黒斑	
381	壺	口径(10.0) 残高4.4	上げ底。	㊦下ハケ→ミガキ ㊦ヨコナデ	ミガキ	淡黄褐色 淡黄褐色	石・長(1~1.5) ◎		
382	壺	口径(9.0) 残高3.2	細長頸壺。口縁部は外傾する。 横方向の沈線が6条間をあげて 施される。	マメツ	マメツ	淡黄褐色 淡黄褐色	石・長(1~1.5) ○		
383	壺	残高5.1	細長頸壺の頸部。10条の 沈線が施される。	ミガキ	ナデ	灰黄褐色 灰黄褐色	石・長(1~2) 赤色土粒 金ウンモ ◎		
384	壺	口径(11.4) 残高2.6	短頸壺。口縁部は外反する。端部 は下方に垂下する。凹線文が入る。	ナデ	マメツ	淡黄褐色 淡黄褐色	石・長(1) ◎		
385	鉢	口径(18.1) 残高6.9	口縁部は外反し、胴部は張り が強い。	㊦ヨコナデ ㊦ミガキ	㊦ヨコナデ ㊦ミガキ	黒 灰 色 暗 褐 色	石・長(1~2) ◎	黒斑	
386	鉢	口径(25.8) 残高5.9	口縁部は外傾し、端部上方は立 ちあがる。凹線文が入る。胴部 直下には刺突文が入る。	㊦ヨコナデ ㊦ハケ	㊦ハケ→ヨコナデ ㊦ナデ→ミガキ	暗灰褐色 茶 褐 色	石・長(1~1.5) ◎		
387	高坏	口径(24.4) 残高4.9	坏部が深い。口縁部から屈曲 部に凹線文、その直下に斜文が 施される。	㊦マメツ ㊦ミガキ→キザミ	㊦ヨコナデ ㊦ナデ・ヨコナデ	淡茶褐色 淡茶褐色	石・長(1~2) ◎	黒斑	15
388	高坏	口径(17.4) 残高3.55	坏部が深い。口縁部から屈曲 部に凹線文、その直下に刻み目 が施される。指頭押圧。	マメツ	マメツ	黄 褐 色 黄 褐 色	石・長(1~2) ◎		
389	高坏	口径(17.2) 残高4.0	坏部が深い。口縁部から屈 曲部に凹線文が施される。	㊦ナデ ㊦ナデ→ミガキ	㊦ヨコナデ ㊦ミガキ	暗黒褐色 淡黄褐色	石・長(0.5~1) ◎	黒斑	15
390	高坏	口径(25.0) 残高2.8	坏部が浅い。口縁部から屈 曲部に凹線文が施される。	マメツ	ヨコナデ	淡黄褐色 淡黄褐色	石・長(0.5~1.5) ◎		
391	高坏	口径(19.8) 残高3.6	坏部が浅い。口縁部から屈曲 部に凹線文、その直下に刻み目 が施される。	㊦ミガキ	㊦ヨコナデ ㊦ミガキ	淡黄褐色 淡黄褐色	石・長(1~3) ◎	黒斑	15
392	高坏	口径(12.8) 残高4.2	坏部が浅い。	㊦(ヨコナデ)マメツ ㊦(ナデ)マメツ	㊦ヨコナデ ㊦マメツ	黄 褐 色 黄 褐 色	石・長(1) ◎		
393	高坏	残高2.7	坏部。凹線文と刻み目が施される。	ナデ	マメツ	茶 褐 色 茶 褐 色	石・長(1~1.5) ○		
394	高坏	残高7.5	坏部から脚部。柱上部に7 条の沈線が施される。	ミガキ	㊦ミガキ ㊦シボリ痕→ナデ	淡橙褐色 橙 褐 色	石・長(1~4) 金ウンモ ◎		
395	高坏	残高9.05	坏部から脚部。柱上部に5条の 沈線が施される。矢羽根透かし。	ミガキ	㊦ミガキ、ハツリ ㊦シボリ、ナデ	淡灰褐色 褐 色	石・長(1~3) ◎		
396	高坏	底径10.2 残高12.7	柱部から脚部。柱上部に5条、 裾部に3条、脚端面に1条沈線 が施される。矢羽根透かし。	㊦ミガキ ㊦ハケ	㊦ナデ、ミガキ ㊦シボリ痕、ナデ	茶 褐 色 淡黄褐色	石・長(1~4) ◎		15
397	高坏	残高4.5	坏部。柱上部に3条と8条以上 の沈線が、その間に斜格子文が 施される。	㊦マメツ ㊦マメツ	㊦ハクリ ㊦ヨコナデ	暗 褐 色 暗 褐 色	石・長(0.5~1) 金ウンモ ◎		15

遺物観察表

表 SD001中層 出土遺物観察表 土製品

(15)

番号	器種	法量 (cm)	形態・施文	調整		色調 (外面) (内面)	胎土 焼成	備考	図版
				外面	内面				
398	高坏	底径9.55 残高7.45	脚部は柱状になり、裾部は外方に広がる。8条の沈線と矢羽根透かしが入る。	脚ミガキ	脚シボリ痕 裾ヨコナデ	淡灰黄色 淡黄褐色	石・長(1~2) ◎	黒斑	
399	高坏	底径8.8 残高6.1	柱部が棒状で、裾部が広がる。端部は細くなる。	柱ミガキ 裾ヨコナデ	柱ナデ 裾ヨコナデ	淡灰黄褐色 黒灰色	石・長(0.5~1.5) 金ウンモ ◎		
400	高坏	底径19.4 残高3.9	裾部は広がる。方形又は三角形の透かし孔が入る。	裾ミガキ 裾ヨコナデ	ヨコナデ	茶褐色 茶褐色	石・長(0.5) ウンモ ◎		
401	高坏	底径16.2 残高4.55	裾部は広がる。裾部と脚端面沈線が入る。三角形の透かし孔が入る。	裾ミガキ	裾ハケ 裾ヨコナデ	淡褐色 淡茶褐色	石・長(1) 金ウンモ ◎		
402	高坏	底径9.1 残高4.2	裾部は広がる。裾部中位に4条の沈線が入り、その上下に山形文が線刻される。	裾ヨコナデ 裾ナデ	マメツ	茶褐色・褐色 茶褐色	石・長(1~2) ◎	黒斑	
403	甕	口径(22.0) 残高5.3	折り曲げ口縁の甕。口縁部直下に4条の沈線。	口ヨコナデ 胴上マメツ	口ヨコナデ 胴上ミガキ	乳黄色 乳黄色	石・長(1~3) 金ウンモ ◎		
404	甕	残高4.6	折り曲げ口縁の甕。口縁部直下に3条の沈線。	ヨコナデ・ハケ	マメツ	淡褐色 淡褐色	石・長(1~2) 金ウンモ ◎		
405	甕	口径(46.5) 残高7.7	折り曲げ口縁の甕。口縁部直下に5条の沈線。	口ヨコナデ 胴上ミガキ	口ヨコナデ 胴上ミガキ	茶褐色 茶褐色	石・長(1~2) 金ウンモ ◎		
406	甕	残高4.05	胴部に7条の沈線。直下に刺突文。	マメツ	ミガキ	淡黄褐色 暗茶褐色	石・長(1~2) ◎		
407	壺	口径(12.8) 残高2.7	口縁部は外反する。頸部は短い。	口ヨコナデ 頸ナデ	口ヨコナデ 頸ナデ	茶褐色 茶褐色	石・長(1~2) ◎		
408	壺	残高4.6	胴部上半。最大径付近に4条の沈線を施す。	ナデ	ナデ	乳白色 乳白色	石・長(1~2) ◎		
409	壺	残高8.3	球形の胴部。最大径に2条の突帯がつく。	ミガキ	ハケ→ミガキ	淡黄茶褐色 暗灰色・淡黄茶褐色	石・長(1~3) ◎		15
410	甕	口径(11.4) 残高8.0	口縁部が袋状になり、胴部の張りは弱い。	口マメツ・ハクリ 胴タタキ→ハケ→ミガキ	口ハケ→ヨコナデ 胴ナデ→ハケ	乳橙白色 乳橙白色	石・長(1) ◎		
411	甕 又は壺	残高4.8	甕又は壺の口縁から胴部。口縁部は段を持つ。	口ヨコナデ 胴ハケ→タタキ	口ナデ 胴ケズリ	乳白色 乳白色	石・長(1~2) ◎		
412	甕 又は壺	口径(16.8) 残高1.4	甕又は壺の口縁部。内湾し、端部下に刻み目が入る。	ヨコナデ	ヨコナデ	茶褐色 茶褐色	石・長(1) 金ウンモ ◎		
413	甕 又は壺	口径(22.4) 残高2.0	甕又は壺の口縁部。内湾し、端部に波状文が入る。	ヨコナデ	ヨコナデ	乳橙白色 乳橙白色	石・長(1~2) 金ウンモ ◎		13
414	壺	残高5.9	415は同一個体。口縁部は段を持つ。袋状。	ヨコナデ	ヨコナデ	乳橙白色・黒褐色 乳褐色	石・長(1~2) ◎	黒斑	13
415	壺	残高4.0	胴部の張りは弱い。	ヨコナデ	ナデ	乳白橙色・黒灰色 乳褐色	石・長(1~2) 金ウンモ ◎		13
416	壺	残高3.0	玉葱状の胴部。最大径に断面三角形の突帯が巡り、突帯のすぐ上に波状文。	ハケ	ヨコナデ	橙白色 橙白色	石・長(1~4) 金ウンモ ◎		13
417	壺	残高2.6	内傾する胴部。刻み目の入る突帯が2条巡る。	ヨコナデ	マメツ	淡褐色 淡灰褐色	石・長(1) ◎		
418	高坏	残高10.3	上下不明。高坏と考える。柱部は棒状で、坏部も裾部も外方へ広がる。	柱ハケ→マメツ 柱ミガキ→マメツ	マメツ	乳白黄色 橙褐色	石・長(1~4) 金ウンモ ◎		

遺物観察表

表9 SD001中層 出土遺物観察表 石製品

番号	器種	残存	材質	法量				備考	図版
				長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)		
419	石 庖 丁	1 / 4	結晶片岩	3.55	3.4	0.45	10.10		15
420	石 庖 丁	1 / 3	結晶片岩	5.85	3.45	0.35	11.10		15
421	石 庖 丁	1 / 1	結晶片岩	5.15	3.3	0.95	20.02		
422	柱状片刃石斧	1 / 8	結晶片岩	3.2	1.95	0.45	3.29		
423	柱状片刃石斧	-	結晶片岩	9.9	4.3	0.7	34.99		
424	伐 採 斧	1 / 3	結晶片岩	11.85	5.05	1.8	133.97		
425	自 然 石	1 / 1	-	12.1	10.7	2.95	599		
426	剥 片 刃 器	1 / 1	サヌカイト	3.95	3.1	0.65	8.48		
427	剥 片 刃 器	1 / 1	サヌカイト	3.35	2.4	0.5	4.13		
428	剥 片	1 / 1	サヌカイト	2.9	1.0	0.55	1.52		

表10 SD001上層 出土遺物観察表 土製品 (1)

番号	器種	法量 (cm)	形態・施文	調 整		色調 (外面 内面)	胎土 焼成	備考	図版
				外 面	内 面				
429	甕	口径(14.6) 残高2.9	口縁部は内湾する。 端部の内面が肥厚する。	ヨコナデ	ヨコナデ	乳白色 乳白色	石・長(1) 赤色酸化土粒 ◎		16
430	甕	口径(13.3) 残高5.7	口縁部が外反し、胴部上半 の張りが弱い。	㊦マメツ ㊧上 タタキ	㊦マメツ ㊧上 ナデ	茶褐色 乳橙黄色	石・長(1~4) 金ウンモ ◎		16
431	甕	口径(20.4) 残高3.0	口縁部は外反する。	ヨコナデ	ナデ	暗褐色 茶褐色	石・長(1~2) 金ウンモ ◎		
432	甕	口径(17.6) 残高4.0	口縁部は大きく外反する。	㊦ナデ ㊧上 タタキ→ハケ	マメツ・ハクリ	乳灰褐色 乳褐色・灰白色	石・長(1~3) ◎		
433	甕	底径2.2 残高6.6	平底。	マメツ・ハクリ	マメツ・ハクリ	乳白色・灰白色 乳黄白色	石・長(1~2) 金ウンモ ◎	黒斑	
434	甕	底径2.1 残高3.1	平底。	タタキ	指ナデ	灰褐色 乳橙黄色	石・長(1~2) 金ウンモ ◎	黒斑	
435	甕	底径3.2 残高2.8	平底。	㊧下 ミガキ ㊧底 ナデ	ミガキ	乳橙色・黒褐色 灰白色	石・長(1~2) 金ウンモ ◎	黒斑	
436	壺	残高3.4	複合口縁壺。接合部が「く」 の字状になる。	マメツ・ハクリ	マメツ・ハクリ	乳白色 乳白色	石・長(1~3) 金ウンモ ◎		
437	壺	残高4.4	複合口縁壺。接合部が「く」の 字状になる。屈曲部には、格子 目文のついた突帯が巡る。	ハケ	ハケ	乳橙黄色 乳橙黄色	石・長(1~5) 金ウンモ ◎		16
438	壺	残高4.5	複合口縁壺。接合部が「く」 の字状になる。	マメツ・ハクリ	マメツ・ハクリ	乳白色 乳白色	石・長(1~2) 赤色酸化土粒 ◎		
439	壺	口径(27.4) 残高6.7	複合口縁壺。接合部が「コ」 の字状になる。沈線と同工具 による格子目文が施される。	ヨコナデ	マメツ	暗灰褐色 淡黄褐色	石・長(1~3) ◎		16
440	壺	口径(16.8) 残高4.8	複合口縁壺。接合部不明。櫛 描沈線と同工具による格子目 文が施される。	㊦ヨコナデ ㊧上 ハケ	㊦ヨコナデ ㊧上 ハケ	淡茶褐色 淡茶褐色	石・長(1~15) 金ウンモ ◎		16
441	壺	残高7.8	複合口縁壺。頸部は長い。屈 曲部には、刻み目の入る突帯 がつく。	㊧上 ナデ ㊧下 マメツ	マメツ	茶褐色 暗茶褐色	石・長(1~15) ◎		

遺物観察表

表 SD001上層 出土遺物観察表 土製品

(2)

番号	器種	法量 (cm)	形態・施文	調整		色調 (外面) (内面)	胎土 焼成	備考	図版
				外面	内面				
442	壺	底径4.0 残高8.3	複合口縁壺。胴部半は球形。平底。	㊟下 ミガキ ㊟底 ナデ	㊟ハケ ㊟底 ナデ	乳橙色・灰褐色 乳白色・乳灰白色	石・長(1~5) 金ウンモ 赤色酸化土粒 ◎		
443	壺	底径3.0 残高3.0	複合口縁壺。平底。	マメツ・ハクリ	ミガキ	乳赤色・乳褐色 乳黄色	石・長(1~3) 金ウンモ ◎		
444	壺	底径5.8 残高7.3	複合口縁壺。平底。	㊟下 タタキ ㊟底 ナデ	ナデ	乳橙色・黒褐色 乳灰黄色	石・長(1~3) 金ウンモ ◎	黒斑	
445	壺	口径(22.6) 残高2.1	長頸壺。口縁部は水平に伸びる。端部は垂下する。波状文。	ヨコナデ	ハケ→ヨコナデ	乳灰色・乳白色 乳白色	石・長(1~2) 赤色酸化土粒 ◎		16
446	壺	口径(23.4) 残高1.7	長頸壺。口縁部は水平に伸びる。端部は垂下する。波状文。	マメツ	マメツ	乳白橙色 乳橙色	石・長(1~3) 金ウンモ ◎	黒斑	16
447	壺	口径(15.0) 残高6.9	長頸壺。頸部は長く、筒状。口縁部は外反する。	ハケ→ヨコナデ	ハケ→ナデ	乳橙色 乳白色・灰色	石・長(1~5) ◎		
448	壺	口径(10.8) 残高5.0	長頸壺。頸部は下方でしまる。口縁部は外反する。	ヨコナデ→マメツ	マメツ	褐黄色 褐黄色	石・長(1~2) 金ウンモ ◎		
449	壺	残高3.3	長頸壺。胴部上半。張りは強い。	ハケ→ナデ	ハケ	乳白色 乳白色	石・長(1~2) 赤色酸化土粒 ◎		
450	壺	底径3.2 残高8.5	長頸壺。胴部下半。丸形。平底。	㊟下 タタキ→ハケ ㊟底 ナデ	㊟下 ハケ ㊟底 ナデ	乳褐色・乳橙色 乳褐色	石・長(1~4) 赤色酸化土粒 ◎		
451	壺	底径3.4 残高5.3	壺の底部。平底。	㊟下 マメツ ㊟底 ナデ	ハケ	乳黄色・灰褐色 灰褐色	石・長(1~3) ◎		
452	壺	残高2.9	細長頸壺の頸部。櫛描きの横沈線が2段施される。下段は7条。	ミガキ		乳橙色 乳白橙色	石・長(1~2) 金ウンモ ◎		
453	壺	口径(9.7) 残高6.0	小型丸底壺。口縁部は外反し、端部は尖る。胴部は球形。	マメツ・ハクリ	㊟上 ハケ→ヨコナデ ㊟下 ナデ	乳黄橙色 乳黄橙色	密 ◎		10
454	壺	残高3.3	小型丸底壺。胴部は球形。	マメツ	マメツ	暗褐灰色 暗褐灰色	長(1) ◎		
455	壺	口径(18.9) 残高3.6	短頸壺。口縁部が大きく外反する。	㊟マメツ ㊟ハケ	㊟マメツ ㊟ハケ	乳橙色 乳橙色	石・長(1~4) 金ウンモ ◎		
456	器台	残高1.3	受け部が水平になる。端部に半截竹管文が入る。	ヨコナデ	ハケ	乳赤橙色 乳灰色	石・長(1) ◎		13
457	高坏	口径(20.0) 残高6.8	坏部は長く、外傾する。2段になる。	ハケ→ミガキ	ハケ→ミガキ	乳白色 乳赤白色	石・長(1~2) 赤色酸化土粒 金ウンモ ◎		16
458	高坏	口径(14.4) 残高5.0	坏部は長く、外傾する。2段になる。	ヨコナデ→ハケ	ヨコナデ→ハケ	乳白橙色 乳白橙色	石・長(1) 金ウンモ ◎		
459	高坏	残高3.5	坏部は長く、内湾する。2段になる。	マメツ	ヨコナデ	乳白色 乳白色	石・長(1) 金ウンモ ◎		16
460	高坏	口径(15.8) 残高6.0	坏部は長く、内湾する。	ナデ	マメツ	橙褐色 淡褐色	石・長(1~2) ◎	黒斑	
461	高坏	残高4.1	坏部は長く、外反する。	ミガキ	マメツ	乳橙色 乳白橙色	石・長(1~2) 金ウンモ ◎		

遺物観察表

表 SD001上層 出土遺物観察表 土製品

(3)

番号	器種	法量 (cm)	形態・施文	調整		色調(外面) 色調(内面)	胎土 焼成	備考	図 版
				外面	内面				
462	高坏	稜径14.8 残高4.1	坏部は大きく外反する。 2段になる。	マメツ・ハクリ	マメツ・ハクリ	乳灰褐色 乳灰褐色	石・長(1~3) 金ウンモ ◎		
463	高坏	孔径1.8~2.0 残高9.2	脚部が長い。円孔が穿孔される。	マメツ・ハクリ	マメツ・ハクリ	乳灰褐色 乳白色	石・長(1~3) 赤色酸化土粒 ◎		
464	支脚	残高10.1	受け部が左右に広がる支脚。 受け部から底部まで貫通する。	マメツ・ハクリ		乳灰色・乳橙色 乳灰色・乳橙色	石・長(1~3) ◎		
465	支脚	底径9.0 残高6.1	脚部は外方にひろがる。 受部は上方に立ちあがる。	ナデ	ナデ	乳灰黄褐色 乳灰黄褐色	石・長(1~2) 金ウンモ ◎		
466	甕	口径(24.8) 残高3.0	口縁部は外反し、端部は上下に 肥厚する。凹線文が入る。屈曲 部に指頭押圧の突帯が巡る。	ヨコナデ	ヨコナデ	黄褐色 黄褐色	石・長(1~3) 金ウンモ ◎	黒斑	16
467	甕	口径(26.6) 残高2.7	口縁部は外傾する。屈曲部 に布目押圧の突帯が巡る。	ヨコナデ	ヨコナデ	淡茶褐色 橙褐色	石・長(1~15) ◎		16
468	甕	口径(34.6) 残高4.6	口縁部は外傾し、端部に上方に 立ち上がる。凹線文が入る。屈 曲部に指頭押圧の突帯。	ヨコナデ	ヨコナデ	茶褐色 茶褐色	石・長(1~2) 金ウンモ ◎		16
469	甕	底径8.0 残高3.5	平底。	ミガキ	ミガキ	暗灰褐色 淡黄褐色	石・長(1) ◎	黒斑	
470	甕	底径7.0 残高2.8	平底。	ナデ	ナデ	橙褐色 橙褐色	石・長(1~3) ◎		
471	甕	底径6.2 残高4.0	上げ底。	ナデ	マメツ	橙褐色 褐色	石・長(1~3) ◎		
472	甕	底径8.2 残高5.1	上げ底。	⓪下) ハケ→ナデ ⓪底) ヨコナデ	ナデ	淡茶褐色 淡茶褐色・暗茶褐色	石・長(1~15) ◎		
473	甕	底径6.6 残高2.7	上げ底。	ハケ→ナデ	ナデ・ミガキ	乳白色・乳褐色 乳褐色	石・長(1~5) 赤色酸化土粒 ◎		
474	甗	底径6.9 残高3.7	上げ底。底部中央に1つ円孔 が穿孔する。焼成前穿孔。	⓪下) ナデ ⓪底) ヨコナデ	ナデ	淡茶褐色 暗茶褐色	石・長(1~15) ◎		
475	壺	口径(18.0) 残高3.2	長頸壺。口縁部は外反す る。端部に刻み目が入る。	ナデ	ハケ→ヨコナデ	淡茶褐色 淡茶褐色	石・長(1~2) ◎		
476	壺	口径(18.8) 残高5.8	長頸壺。口縁部は大きく外反す る。端部は下方に肥厚する。凹 線文が入る。	⓪ナデ	⓪ヨコナデ ⓪頸) ナデ	茶褐色 茶褐色	石・長(1~2) 金ウンモ ◎		
477	壺	口径(15.6) 残高2.1	長頸壺。口縁部は外傾する。端 部は肥厚し、凹線文が入る。内 面に線刻あり。	ナデ	ナデ	暗黄褐色 淡茶褐色	石・長(1~2) ◎		
478	壺	口径(23.0) 残高5.1	長頸壺。口縁部は外反する。端 部は上下に肥厚し、凹線文が入 る。端部に刻み目が入る。	ナデ	ナデ	淡黄褐色 淡黄褐色	石・長(1~15) ◎		
479	壺	口径(28.6) 残高3.8	長頸壺。口縁部は外反する。端部 は上下に肥厚し、凹線文が入る。	ヨコナデ	ヨコナデ	淡黄褐色 淡黄褐色	石・長(1~2) ◎		
480	壺	口径(31.6) 残高3.3	長頸壺。口縁部は外反する。端部 は上下に肥厚し、凹線文が入る。 その後「ノ」字状に刻み目が入る。	ナデ	マメツ	明褐色 淡褐色	石・長(1~3) ◎	黒斑	
481	壺	口径(39.0) 残高4.1	長頸壺。口縁部は外反する。端 部は上下に肥厚する。擬凹線 文が入る。	ミガキ	ナデ	茶褐色 茶褐色	石・長(1~25) ◎		

遺物観察表

表 SD001上層 出土遺物観察表 土製品 (4)

番号	器種	法量 (cm)	形態・施文	調整		色調 (外面) (内面)	胎土 焼成	備考	図版
				外面	内面				
482	壺	残高4.7	胴部上半。貝殻による刻み目が縦と横に入る。	ナデ	ナデ	淡黄褐色 淡黄灰褐色	石・長(1~4) ◎		16
483	壺	残高4.95	胴部上半。6条の沈線と櫛描工具による刻み目が施される。	ハケ	ナデ	淡黄褐色・淡褐色 淡黄褐色	石・長(1~5) ◎		16
484	壺	残高2.4	胴部上半。貝殻による刻み目が入る。	ナデ	マメツ	暗茶色 黒茶色	石・長(1~2) ◎		16
485	壺	口径(17.8) 残高7.6	短頸壺。口縁部は外反し、端部に1条の沈線が入る。胴部上半は張りが弱い。	㊦ヨコナデ ㊧ミガキ	㊦ヨコナデ ㊧ハケ→ナデ	淡黄褐色 淡黄褐色	石・長(1~15) ◎	黒斑	
486	壺	残高2.8	無頸壺か細長頸壺。胴部は張りが弱い。櫛描き沈線と「ノ」字状の刻み目が入る。	キザミ	マメツ・ハクリ	乳黄色 乳黄色	密 ◎		
487	壺	口径(11.6) 残高0.8	無頸壺。口縁部は内湾する。外面磨滅。	マメツ	マメツ	乳橙色 乳白橙色	石・長(1~3) 金ウンモ ◎		
488	高坏	口径(14.6) 残高2.9	坏部が深い。口縁から屈曲部にかけて凹線文が入る。	ミガキ	ヨコナデ	淡黄褐色 淡黄褐色	石・長(0.5~1) ◎		16
489	高坏	口径(22.6) 残高5.2	口縁部は水平になり、坏部は深い。	㊦ヨコナデ ㊧ナデ	㊦ナデ ㊧ミガキ	淡黄褐色 淡茶褐色	石・長(0.5~1.5) ◎		16
490	高坏	残高1.9	口縁部は外反し、端部内部に断面三角形の突帯が水平に巡る。	ヨコナデ	ヨコナデ	暗褐色 暗褐色	石・長(1~2) ◎		
491	分銅形 土製品	残高2.7	分銅形の下部。表情はない。	ナデ	ナデ	淡茶褐色 淡茶褐色	石・長(1) 赤色土粒 金ウンモ ◎		16
492	甕	残高3.9	折り曲げ口縁の口縁部。4条の沈線が入る。	ナデ	ヨコナデ	乳黄白色 乳黄白色	石・長(1~2) ◎		
493	甕	残高4.1	胴部。3条の沈線とその直上下に刺突文が入る。	ミガキ	ナデ	淡黄褐色 淡黄褐色	石・長(1~2) 金ウンモ ◎		
494	甕	残高3.6	胴部。6条以上の沈線とその直下に山形文が入る。	ナデ	ナデ	淡褐色 褐色	石・長(1~2) ◎		
495	甕	残高4.5	胴部。櫛描沈線とその直下に刺突文が入る。	ハケ	ナデ	淡黄褐色 淡茶褐色	石・長(1) 砂粒 ◎		
496	壺	底径7.9 残高6.8	平底。	ハケ→ミガキ	ミガキ	淡褐色 淡褐色	石・長(1~5) 金ウンモ ◎	黒斑	
497	壺	底径10.0 残高7.1	平底。	ミガキ	ミガキ	暗茶褐色 暗茶褐色	石・長(1~3) ◎		
498	高坏	残高6.7	脚部。坏部と柱部の間には断面三角形の突帯が巡る。	ミガキ	㊧ミガキ ㊨ナデ	茶褐色 淡褐色	石・長(1~2) ◎		
499	紡錘車	直径4.9~5.2 孔径0.6~0.7 器高0.9	円盤状。中央に直径0.8cm大の円孔が1つ空く。	ナデ・指おさえ	ナデ・指おさえ	乳白色・黒灰色 乳白色・黒灰色	石・長(1~4) 金ウンモ ◎	黒斑	
500	紡錘車	孔径0.6 残高5.2	円盤状。中央に直径0.6cm大の円孔が1つ空く。	ナデ・指おさえ	ナデ・指おさえ	褐色 褐色	石・長(1~2) 金ウンモ ◎		
501	縄文 深鉢	残高3.4	深鉢の口縁部。やや内湾する。内外面ともに削り調整。	㊦ヨコナデ ㊧ケズリ	㊦ヨコナデ ㊧ケズリ	灰褐色 淡灰褐色	石・長(1~2) 金ウンモ ◎		

遺物観察表

表11 SD001上層 出土遺物観察表 石製品

番号	器種	残存	材質	法 量				備考	図版
				長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)		
502	扁平片刃石斧	ほぼ完存	結晶片岩	5.55	4.0	1.15	41.76		
503	石 庖 丁	1 / 4	結晶片岩	5.35	5.0	0.65	25.23		
504	石 庖 丁	1 / 4	結晶片岩	6.7	2.25	0.8	23.27		
505	剥片素材	完存	結晶片岩	7.15	5.7	0.75	47.3	自然面あり	
506	剥片刃器	完存	サヌカイト	2.8	2.95	0.45	5.16		
507	剥片刃器	完存	サヌカイト	3.1	1.65	0.3	1.58		

表12 SD001層位不明 出土遺物観察表 土製品

番号	器種	法 量 (cm)	形態・施文	調 整		色調(外面) (内面)	胎土 焼成	備考	図版
				外面	内面				
508	高坏	口径(15.2) 残高2.9	坏部。口縁部は外傾する。	ナデ	ナデ	暗 褐 色 淡黄褐色	石・長(1~1.5) 金ウンモ ◎		
509	高坏	残高4.65	坏部。屈曲部が段にならず丸みを持つ。	マメツ	ナデ	乳 白 色 乳 白 色	石・長(1) ◎		
510	壺	口径(22.2) 残高1.8	長頸壺。口縁部は外反し、端部は上下へ肥厚する。波状文。端部に刻み目。	◎口上 ヨコナデ ◎口下 ハケ	マメツ	淡茶褐色 淡茶褐色	石・長(1~1.5) 赤色粒(1) 金ウンモ ◎		
511	壺	口径(25.8) 残高1.7	長頸壺。口縁部は外反し、端部は上下へ肥厚する。櫛描工具で刻み目が入る。	ナデ	ナデ	乳灰白・乳白 灰 褐 色	石・長(1~2) ◎		
512	壺	口径(20.8) 残高2.1	長頸壺。口縁部は外反し、端部は下方へ垂下する。波状文と2個1単位の竹管文円形浮文。	ナデ	ハケ	暗 灰 色 淡黄褐色	石・長(1~4) ◎	黒斑	
513	壺	口径(22.6) 残高(1.9)	長頸壺。口縁部は上下へ肥厚する。波状文。	ナデ	ナデ	褐 色 褐 色	石・長(1) ◎		
514	高坏	残高3.15	坏部は2段になる。口縁部は外反する。	マメツ	マメツ	黄 褐 色 黄 褐 色	石・長(1~2) ◎		
515	鉢	口径(37.0) 残高6.1	大型品。口縁部は外反し、端部は丸い。胴部との屈曲部に斜めの沈線が突帯上にある。	タタキ→ナデ	◎ナデ ◎ミガキ	茶 褐 色 茶 褐 色	石・長(1~5) ◎		
516	高坏	残高5.3	脚部は円錐状に広がる。	マメツ	マメツ	乳 褐 色 乳 褐 色	石・長(1) ◎		
517	高坏	残高6.3	脚部は直立し、裾部で角度を変えて広がる。	ミガキ	ナデ	乳 褐 色 灰 褐 色	石・長(1~2) ◎		
518	甕 又は 壺	口径(16.4) 残高1.4	甕または壺形土器の口縁部。端部が「く」の字状になり、凹線文が入る。	ナデ	ナデ	淡灰褐色 淡 褐 色	石・長(0.5) ◎		
519	壺	口径(16.5) 残高2.1	口縁部が外反し、端部が上下に肥厚する。弱い凹線文が入る。	ナデ	ナデ	茶 褐 色 茶 褐 色	石・長(1~2) ◎		
520	壺	口径(16.0) 残高5.4	口縁部は外反する。端部には沈線が入り、屈曲部には布目押圧が入る突帯が巡る。	ナデ	ナデ	淡茶褐色 淡黄褐色	石・長(1~2) ◎		
521	壺	口径(31.6) 残高8.4	口縁部は外反する。端部は上方に立ちあがり、凹線文と円形浮文が入る。	ナデ	ナデ	茶 褐 色 茶 褐 色	石・長(1~1.5) ◎		
522	壺	残高3.9	胴部上半。	ミガキ	ナデ	淡黄褐色 淡黄褐色	石・長(1~1.5) ◎		
523	器種 不明	残高2.7	器種不明。壺または鉢、または高坏になる可能性がある。胴部は内湾し、口縁部は外反。突帯付き。	ナデ	マメツ	淡茶褐色 淡茶褐色	石・長(1~1.5) ◎		

遺物観察表

表13 SD001層位不明 出土遺物観察表 石製品

番号	器種	残存	材質	法量				備考	図版
				長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)		
524	石 庖 丁	1 / 8	結晶片岩	4.7	3.0	0.55	10.42		
525	剥片素材	完存	結晶片岩	4.95	4.2	0.8	24.75		
526	剥片素材	完存	サヌカイト	3.15	1.45	0.3	1.83		
527	剥片刃器	完存	サヌカイト	3.3	2.45	0.45	5.71		

表14 掘立005 出土遺物観察表 土製品

(1)

番号	器種	法量 (cm)	形態・施文	調 整		色調 (外面 内面)	胎土 焼成	備考	図版
				外面	内面				
528	甕	口径(16.2) 残高3.3	口縁部は直線的に立ちあがり、 口縁端部は面を持つ。内外面 とも稜は明瞭。	マメツ	☐ハケ ⊗ナデ	にぶい黄橙色 橙 色	長(0.5~1) 石(0.5~4) 赤色粒(0.5~1) 金ウンモ △	SP17	17
529	甕	残高2.1	胴部。内外とも稜は明瞭。	タタキ	ハケ	橙 色 橙 色	石・長(0.5~2) ◎	SP14	17
530	壺	口径(17.4) 残高1.9	直口口縁壺又は二重口縁壺。 口縁はゆるやかに外反し、口縁 端部は下方にやや肥厚する。	ナナメハケ→ナデ	ナデ	橙 色 明赤褐色	石・長・赤色粒 (0.5) △	SP14 精製土	
531	壺	残高5.5	長頸壺の頸部。やや外傾し ながら伸びる。	ハケ→ナデ	ナナメハケ→ ナデ→指おさえ	橙 色 橙 色・灰褐色	石・長(0.5~2) 赤色粒(0.5~2.5) 金ウンモ ◎	SP17	17
532	壺	残高4.5	胴部上半部分。頸部と胴部 の境に列点文が施される。	ナデ	ナデ	明 褐 色 橙 色	長(0.5~3) 石(1~2) 赤色粒(1.5) 金ウンモ ○	SP8 黒斑	
533	支脚	残高11.1	支脚の突起。	指おさえ	指おさえ	にぶい黄橙色 にぶい黄褐色	長(0.1~2) 石(0.5~4) 赤色粒(0.5) 金ウンモ ◎	SP32	17
534	支脚	残高3.2	支脚の脚部。	ナデ→タタキ	指おさえ	にぶい橙色 にぶい褐色	石・長(0.5~3) 金ウンモ ◎	SP14	17
535	甕	残高2.1	胴部上半部分。	ハケ	☐ハケ ⊗ナデ	橙 色 にぶい黄褐色	石・長(0.5~2) 赤色粒(0.5) 金ウンモ ◎	SP4	17
536	甕	残高5.3	胴部上半部分。口縁部と 胴部の境は内面が明瞭。 外面はやや不明瞭。	☐ナナメハケ ⊗タタキ→ハケ→ 指おさえ ⊗ナナメハケ	☐ ナナメハケ→ ナデ→指おさえ ⊗ ナナメハケ→ナデ	橙 色 橙 色	長(1~3) 石(0.5~2) 赤色粒(0.5~1) 金ウンモ ○	SP23 煤休着	17
537	甕	残高5.3	胴部上半部分。口縁部と胴 部の境は内外面とも明瞭。	☐ハケ ⊗タタキ	☐ナナメハケ ⊗ナナメハケ	橙 色 橙 色	石・長(0.5~2) 金ウンモ ◎	SP24 黒斑	17
538	甕	胴部最大径(11.2) 残高6.5	胴部。最大径を上半に持つ。	⊗タタキ→ナデ	⊗ハケ→ナデ	灰黄褐色 褐 灰 色	石・長(0.5~3) 赤色粒(0.5) 金ウンモ ○	SP16 石莖が多 量に入る	17
539	甕	底径(1.8) 残高3.4	胴部下半から底部。直径1cm 程度の底部に尖り気味の胴部 下半。	⊗タタキ ⊗タタキ	⊗上 ケズリ→ナデ ⊗下 ナメハケ→ナデ	赤 色 橙 色	石・長(0.5~2) 赤色粒(0.5) ◎	SP24 黒斑	
540	甕	底径(8.0) 残高3.9	上げ底。	マメツ	マメツ	褐 灰 色 明赤褐色・ 黒褐色・褐灰色	石・長(0.5~3) 金ウンモ △	SP16	
541	壺	口径(26.0) 残高2.7	直口口縁壺。口縁部はゆるやかに 外反し、口縁端部は上方・下方とも に拡張する。端面には格子目文。	ハケ→指おさえ	☐上 ナデ ☐下 ミガキ	にぶい黄褐色 黒 褐 色	石・長(0.5~2.5) ◎	SP13 黒斑	17
542	低脚 高坏	口径(10.0) 残高3.4	低脚の高坏。坩状の坏部。	ハケ→ハケ	✳ナデ 1部にミガキ	橙 色 明赤褐色・橙 色	石・長(0.5~3) 金ウンモ ◎	SP24	
543	高坏	残高1.9	坏部。	マメツ	マメツ	橙 色 浅黄橙色	長(0.5~3) 石(0.5~1) 金ウンモ △	SP16	17

遺物観察表

表 掘立005 出土遺物観察表 土製品 (2)

番号	器種	法量 (cm)	形態・施文	調整		色調(外面) (内面)	胎土 焼成	備考	図版
				外面	内面				
544	高坏	底径(12.4) 残高1.9	裾部に2条、裾端部に1条の凹線文。円錐に広がる脚部と矢羽根透孔。	マメツ	ナデ→指おさえ	明赤褐色 灰褐色・橙色	石・長(0.5~3) 金ウンモ ◎	SP23	
545	壺 又は 鉢	残高4.2 厚さ(2.2)	取手と考える。	ハケ→ナデ	-	橙 色 橙 色	石・長(0.5~1) 金ウンモ ◎	SP8	
547	甕	残高7.5	内外面とも明瞭な稜を持つ。外面に煤付着。	ハケ	ケズリ	にぶい黄褐色 にぶい黄褐色	石・長(0.5~2.5) 赤色粒(1) ◎	SP17	17
548	甕	残高5.1	外面にタタキ痕のある胴部。	ナナメハケ→タタキ	ナデ	にぶい橙褐色 橙 色	石・長(0.5~5) 金ウンモ ◎	SP7	17
549	支脚	残高7.6	脚部は外方に伸びる。	タタキ→ ナデ→指おさえ	ナデ	にぶい黄褐色 にぶい橙褐色・灰褐色	石・長(0.5~4) 金ウンモ ◎	SP16	
550	壺	口径(29.8) 残高1.6	ゆるやかに外反する口縁部。口縁端部は下方に垂下する。端部に波状文。	ナデ→ハケ	マメツ	橙 色 橙褐色・黄灰色	石・長(0.5~6) 金ウンモ △	SP9	17
551	高坏	口径(23.0) 残高4.5	坏部は内湾する。	マメツ	マメツ	橙 色 橙 色	石・長(0.5~5) 金ウンモ △	SP32	

表15 掘立005 出土遺物観察表 石製品

番号	器種	残存	材質	法量				備考	図版
				長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)		
546	石 鏃	完存	サヌカイト	3.4	2.0	0.6	3.53		

表16 SK006 出土遺物観察表 土製品

番号	器種	法量 (cm)	形態・施文	調整		色調(外面) (内面)	胎土 焼成	備考	図版
				外面	内面				
552	壺	胴部最大径(54.0) 残高34.4	複合口縁壺の胴部と考える。	Ⓜタテハケ→ミガキ Ⓧケズリ→ナナメハケ →タタキ→ナデ	Ⓜヨコハケ→ナデ	橙 色 橙 色	石(0.5~5.5) 長(0.5~3) 赤色粒(5~15) 黒粒(1)金ウンモ◎		17

表17 SK003 出土遺物観察表 土製品

番号	器種	法量 (cm)	形態・施文	調整		色調(外面) (内面)	胎土 焼成	備考	図版
				外面	内面				
553	壺	残高2.5	口縁部は外方に伸びる。口縁端部には、3条の凹線文が施されている。	ナデ	ナデ	赤 褐 色 赤 褐 色	石・長(0.2~0.5) 金ウンモ ○		

表18 SK017 出土遺物観察表 土製品

番号	器種	法量 (cm)	形態・施文	調整		色調(外面) (内面)	胎土 焼成	備考	図版
				外面	内面				
554	甕	残高1.9	口縁部。やや外面が肥厚する。口縁端部に面を持つ。	ナデ	ナデ	黒 褐 色 黒 褐 色	長(0.5~1.5) 石(0.1~1.5) 赤色粒(1) 金ウンモ◎		

表19 SP072 出土遺物観察表 土製品

番号	器種	法量 (cm)	形態・施文	調整		色調(外面) (内面)	胎土 焼成	備考	図版
				外面	内面				
555	甕	口径(39.5) 残高12.8	折り曲げ口縁で、口縁直下には4条の沈線が施される。口縁端部には刻目が施される。	ナナメハケ	ヨコハケ→ 指おさえ→ヨコミガキ	にぶい橙褐色 にぶい橙褐色	石・長(0.5~2) 金ウンモ ◎		17

遺物観察表

表20 SP103 出土遺物観察表 土製品

番号	器種	法量 (cm)	形態・施文	調整		色調 (外面) (内面)	胎土 焼成	備考	図版
				外面	内面				
556	高坏	残高13.3	坏部～脚部。 脚部に8本の凹線文。	⑧ナナメハケ→ タテミガキ ⑨ミガキ	⑧ナナメハケ→ 指おさえ→ヨコミガキ ⑨マメツ	橙 色 色	石・長(1~3) 金ウンモ ◎		17

表21 小穴 出土遺物観察表 石製品

番号	器種	残存	材質	法量				備考	図版
				長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)		
557	スクレイパー	完存	砂岩	11.3	6.7	1.3	131.1	SP113出土 自然面あり	
558	砥石	大きく欠損	砂岩	8.4	3.5	4.3以上	250.0	SP113	
559	石核	完存	サヌカイト	10.3	8.2	1.8	164.9	SP113	
560	自然石	-	砂岩	6.1	4.3	3.0	68.0	SP113	
561	自然石	完存	花崗岩	12.2	6.4	4.9	430.0	SP113	
562	柱状片刀石斧	1 / 6	結晶片岩	8.4	3.5	1.6	63.9	SP050	
563	敲石	1 / 2	砂岩	8.9	3.4	6.4	254.0	SP058	

表22 SP113 出土遺物観察表 土製品

番号	器種	法量 (cm)	形態・施文	調整		色調 (外面) (内面)	胎土 焼成	備考	図版
				外面	内面				
564	甕 又は壺	底径3.8 残高1.8	底部。平底。	ナデ	ハケ	橙 色 色	石・長(1~2) ◎		

写 真 图 版

写真図版データ

1. 遺構は、主な状況については、4×5判や6×7判の白黒ネガフィルム・カラーリバーサルフィルムで撮影し、35mm判で補足している。一部の撮影には高所作業車・やぐらを使用した。

使用機材：

カメラ	トヨフィールド45A	レンズ	スーパーアンギュロン90mm他
	アサヒペンタックス67		ペンタックス67 55mm他
	ニコンニューFM2		ズームニッコール28～85mm他
フィルム	白黒	プラスXパン・ネオパンSS・アクロス	
	カラー	エクタクロームEPP・RDPⅢ	

2. 遺物は、4×5判または6×9判で撮影した。すべて白黒フィルムで撮影している。

使用機材：

カメラ	トヨビュー45G・69ロールフィルムホルダー
レンズ	ジンマーS 240mm F5.6他
ストロボ	コメット/CA32・CB2400
スタンド等	トヨ無影撮影台・ウエイトスタンド101
フィルム	白黒 プラスXパン・ネオパンアクロス

3. 単色図版は、白黒プリントを等倍で使用できるように焼き付けている。

使用機材：

引伸機	ラッキー450MD・90MS
レンズ	エル・ニッコール135mm F5.6A・50mm F2.8N
印画紙	イルフォードマルチグレードⅣ RCペーパー

4. 製版 写真図版 175線

印刷 オフセット印刷

用紙 カラー図版 - ニューVマツト菊版 93.5kg 使用

白黒図版 - ニューVマツト菊版 93.5kg 使用

【参考】『埋文写真研究』 vol.1～13 『報告書ガイド』

[大西朋子]



1. 調査地完掘状況（拡張前）（北より）



2. SD001 検出状況（北より）



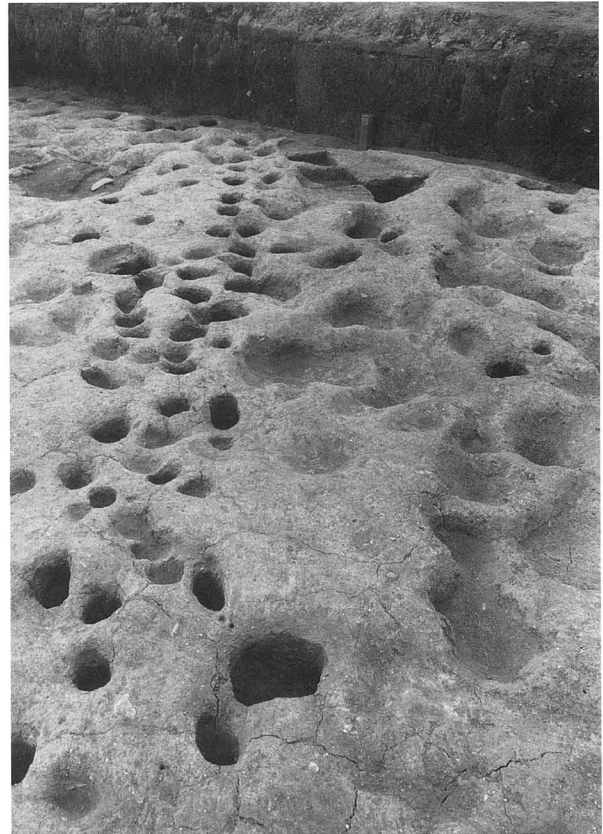
3. SD001 遺物出土状況（東より）



4. SD001 遺物出土状況（北東より）



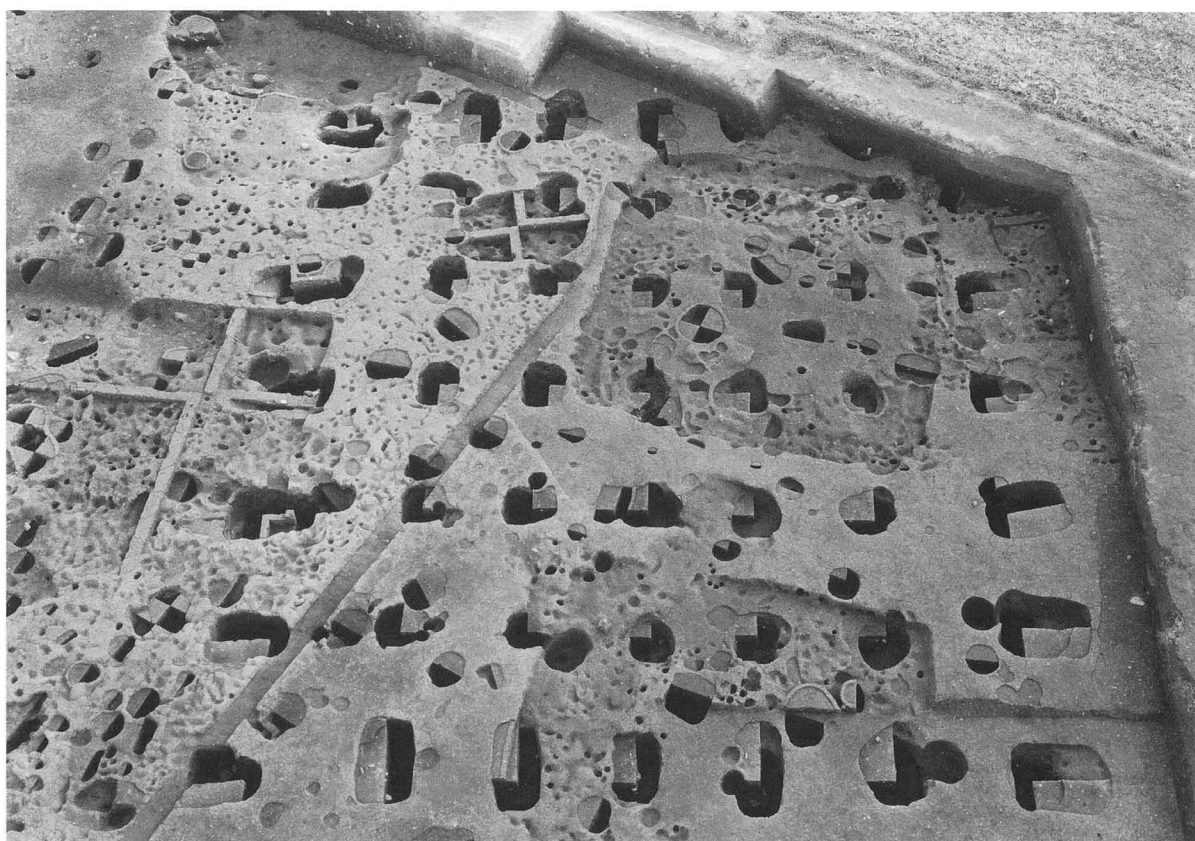
5. SD001、SA001・002検出状況（南西より）



6. SA001・002完掘状況（北東より）



7. 掘立005 検出状況 (北西より)



8. 掘立005 完掘状況 (北西より)



9. 掘立005 SP4 (西より)



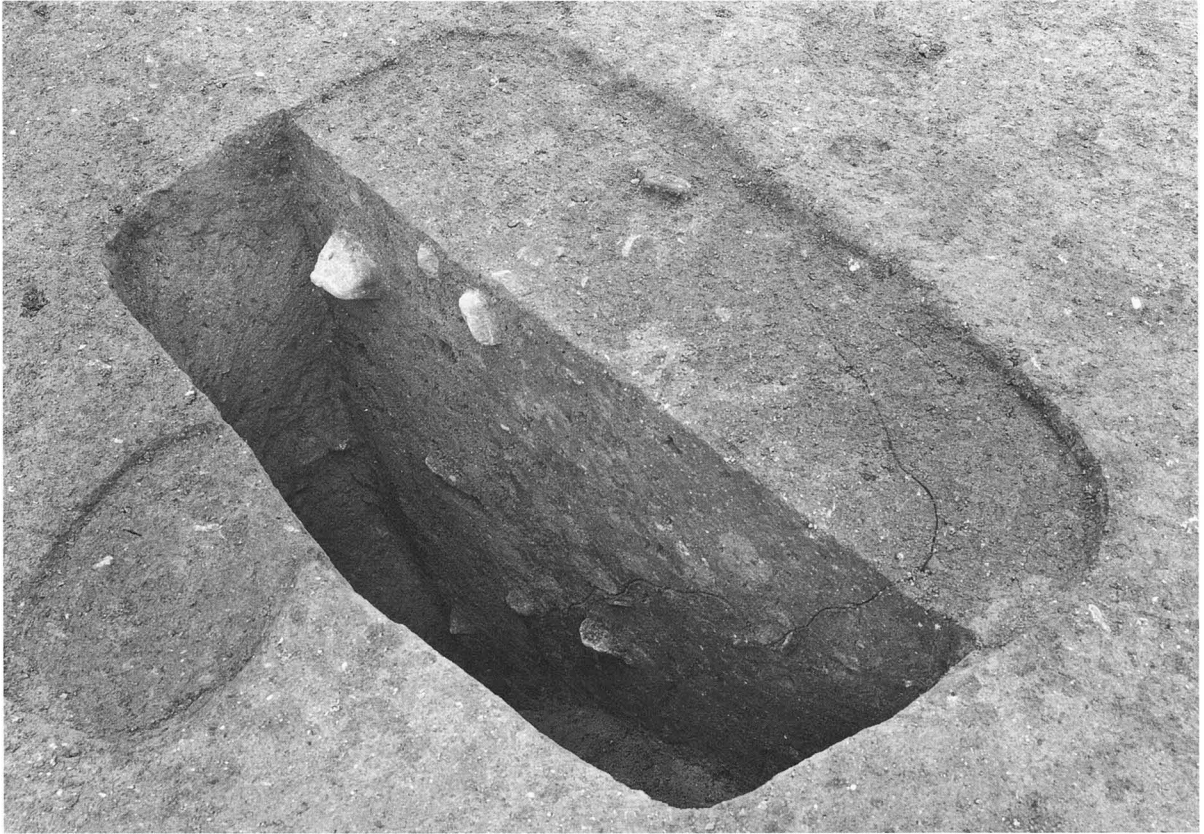
10. 掘立005 SP21 (南東より)



11. 掘立005 SP5 (北西より)



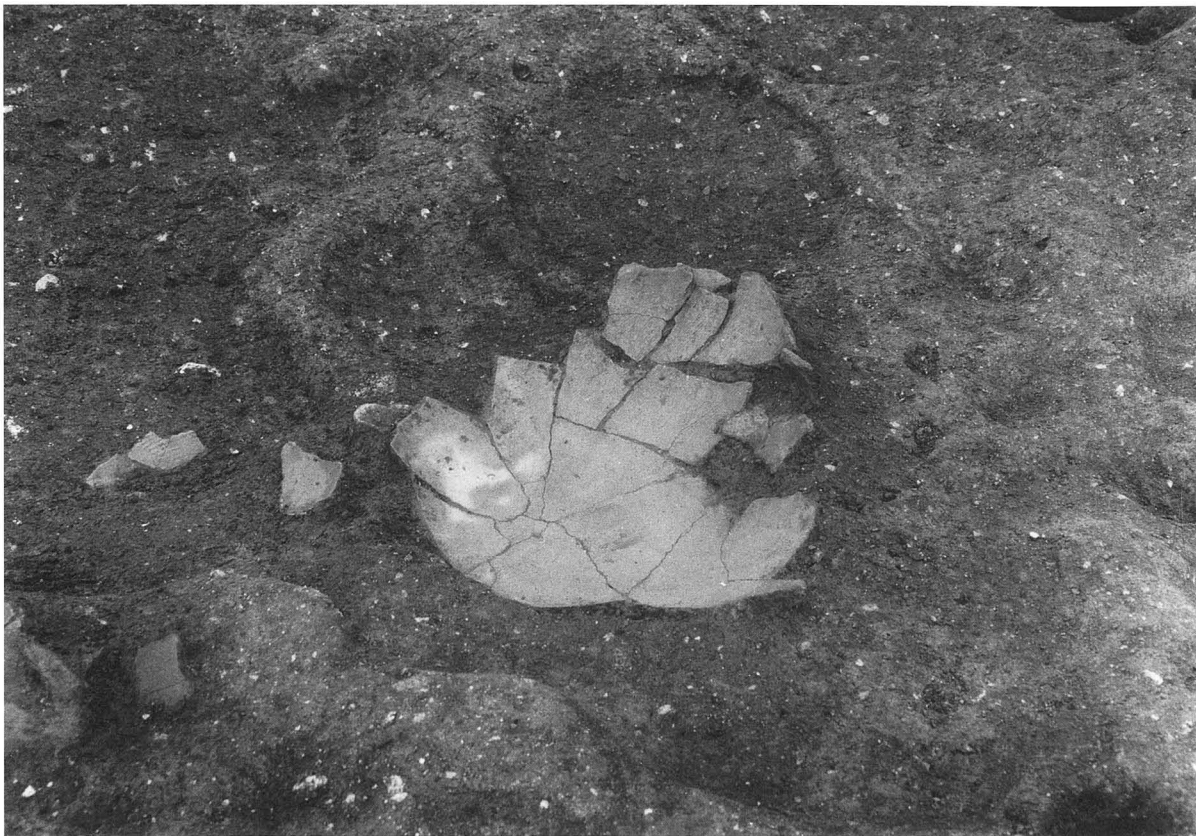
12. 掘立005 SP5 柱痕跡部分 (北西より)



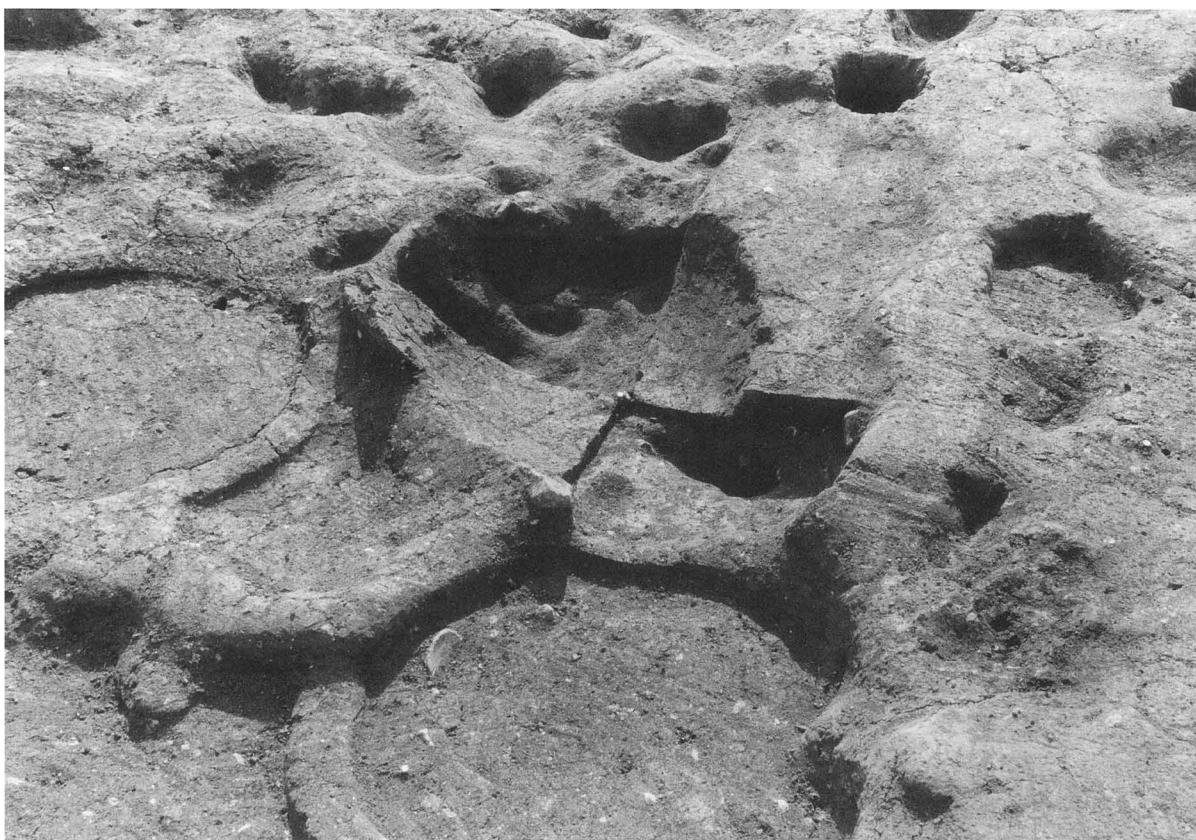
13. 掘立005 SP6 (南西より)



14. 掘立005 SP6 (西より)



15. SK006 土器棺出土状況（北西より）



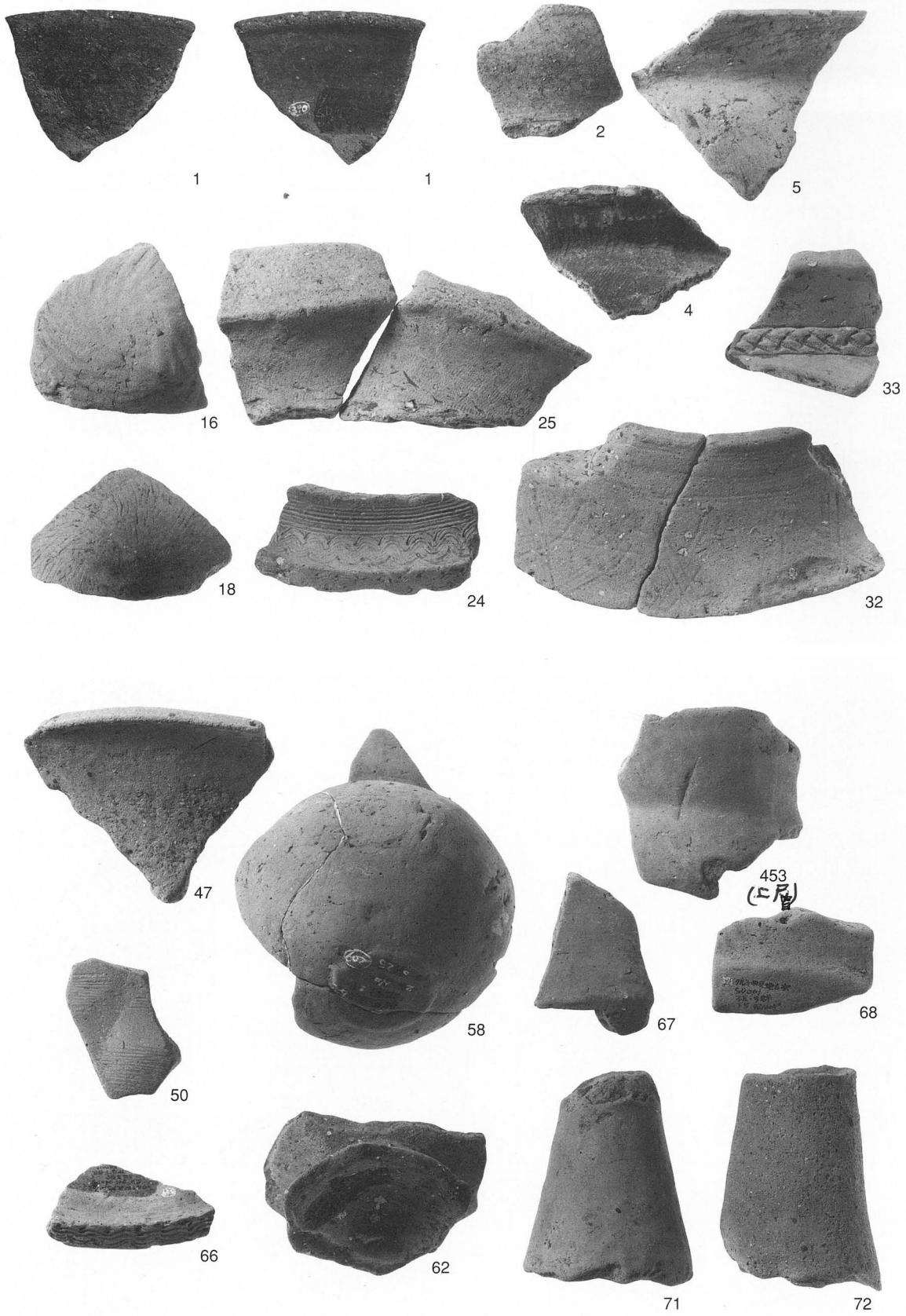
16. SK006 裏込めの状況（北より）



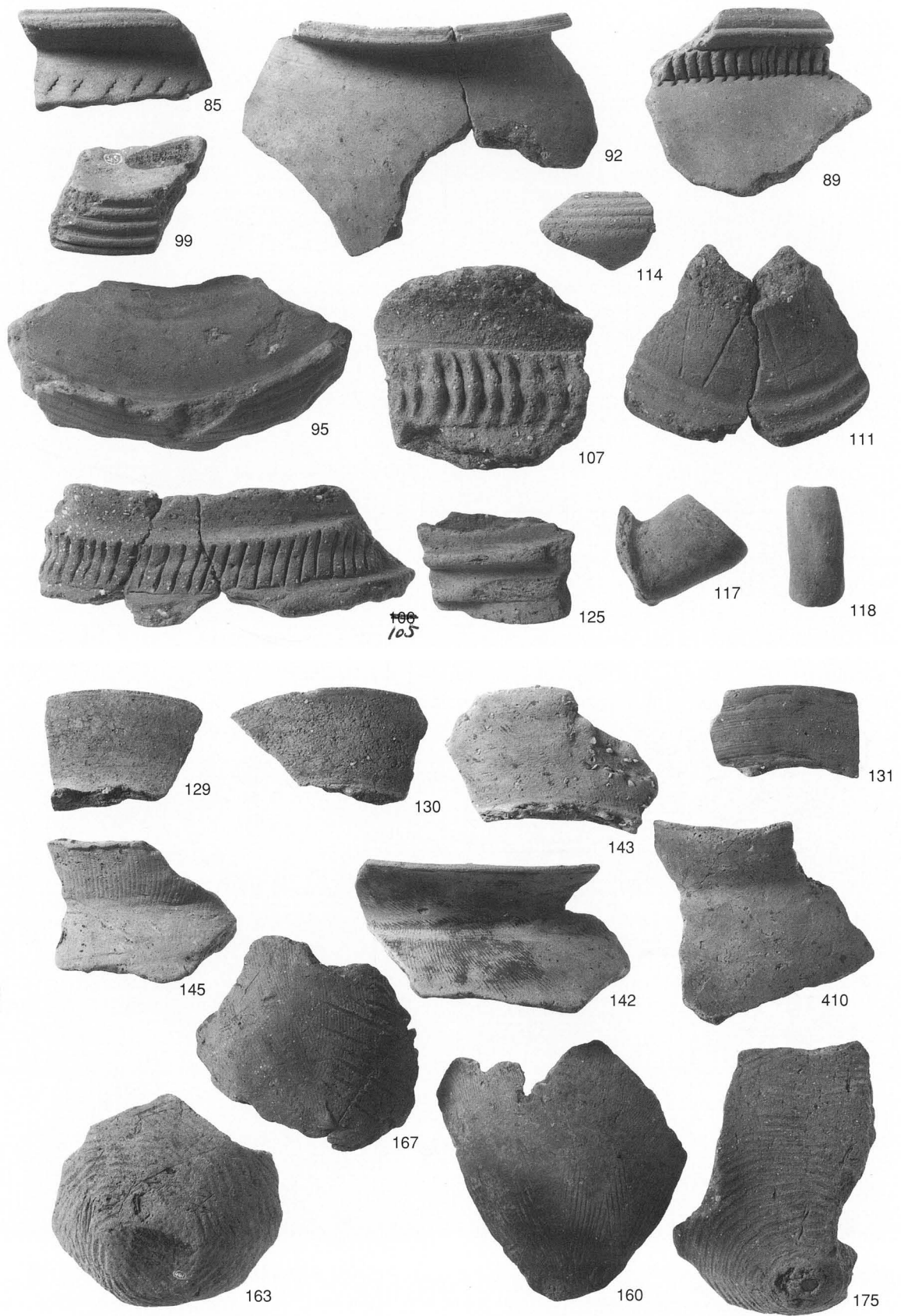
17. SK003 (南東より)



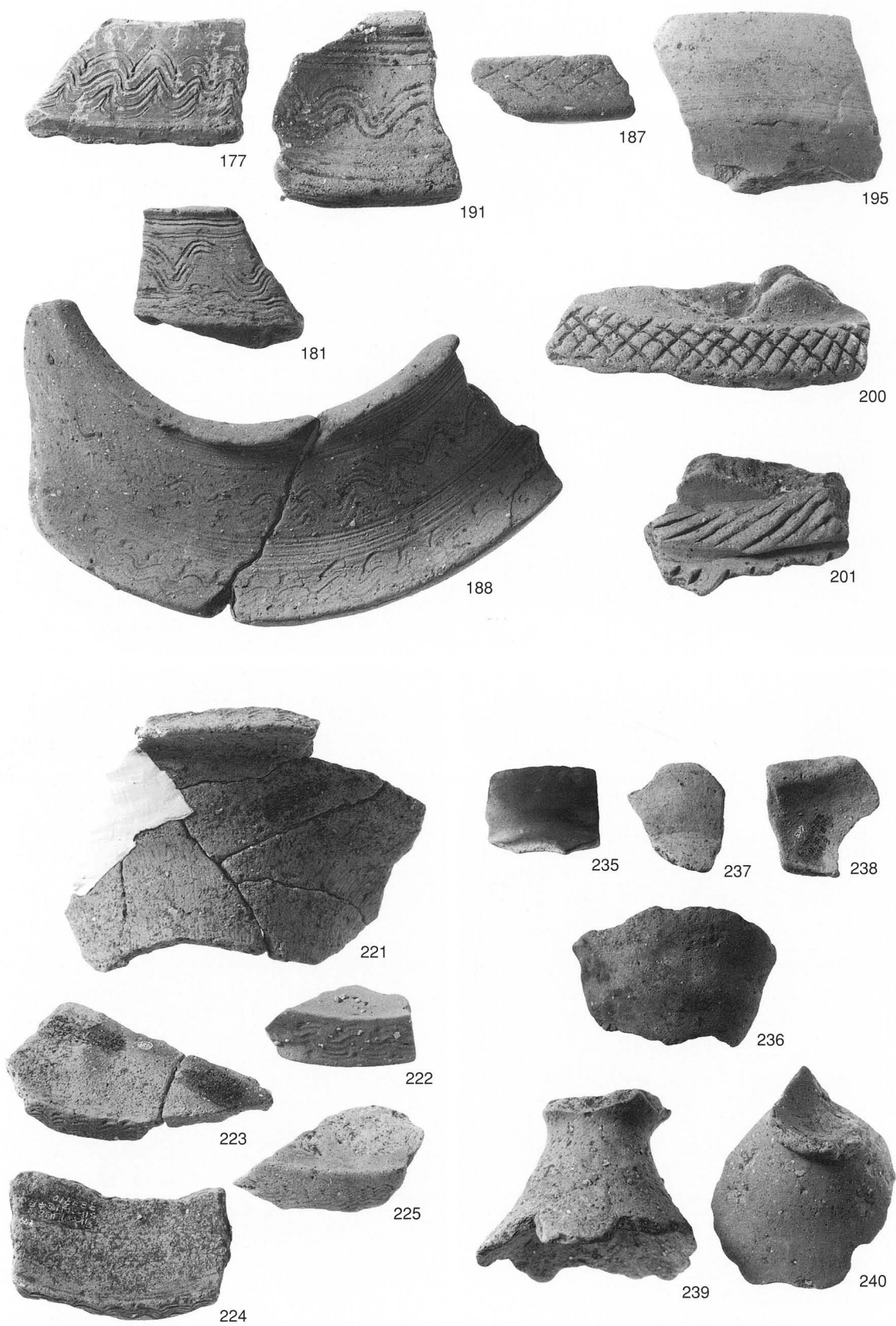
18. SP072 (北東より)



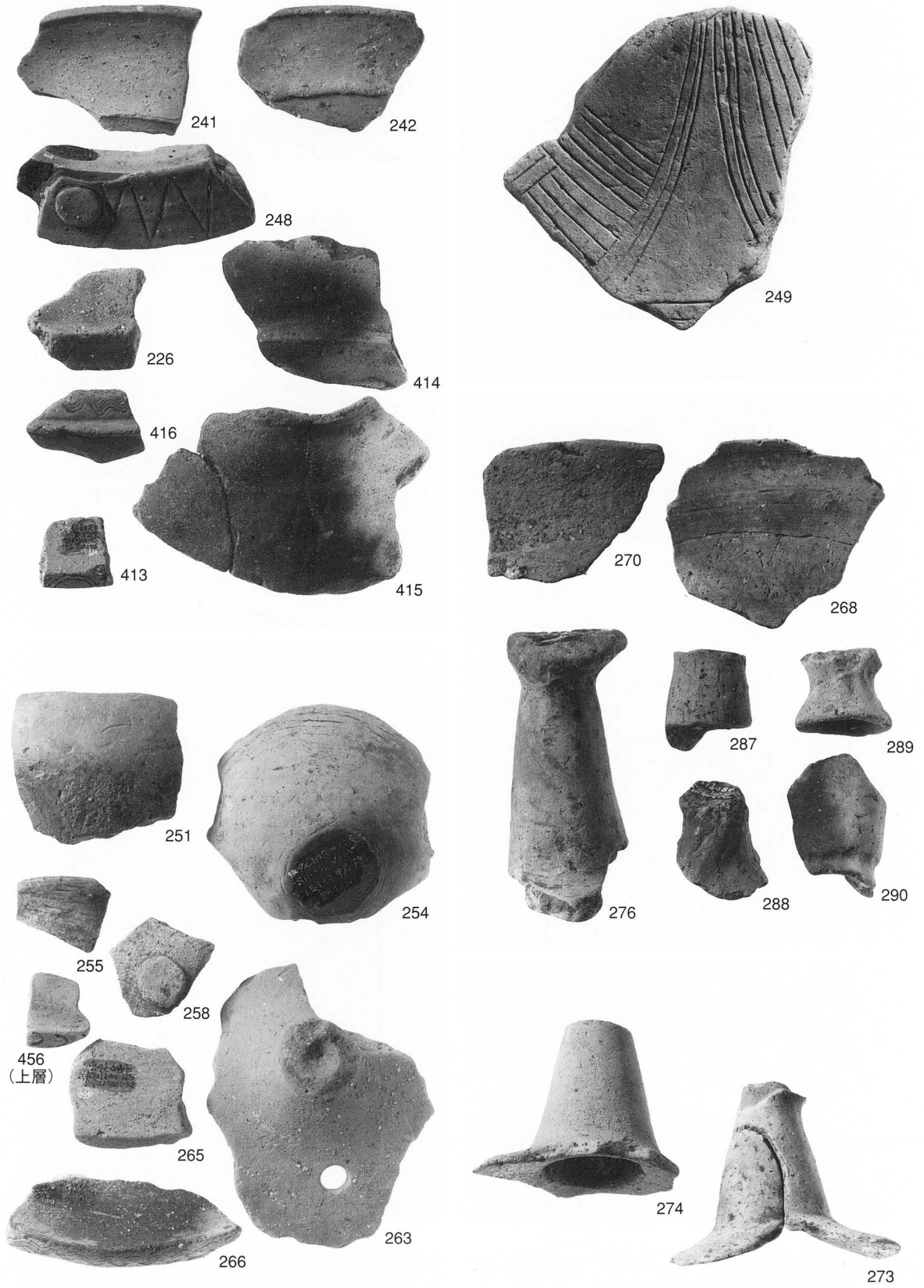
19. SD001下層 出土遺物①



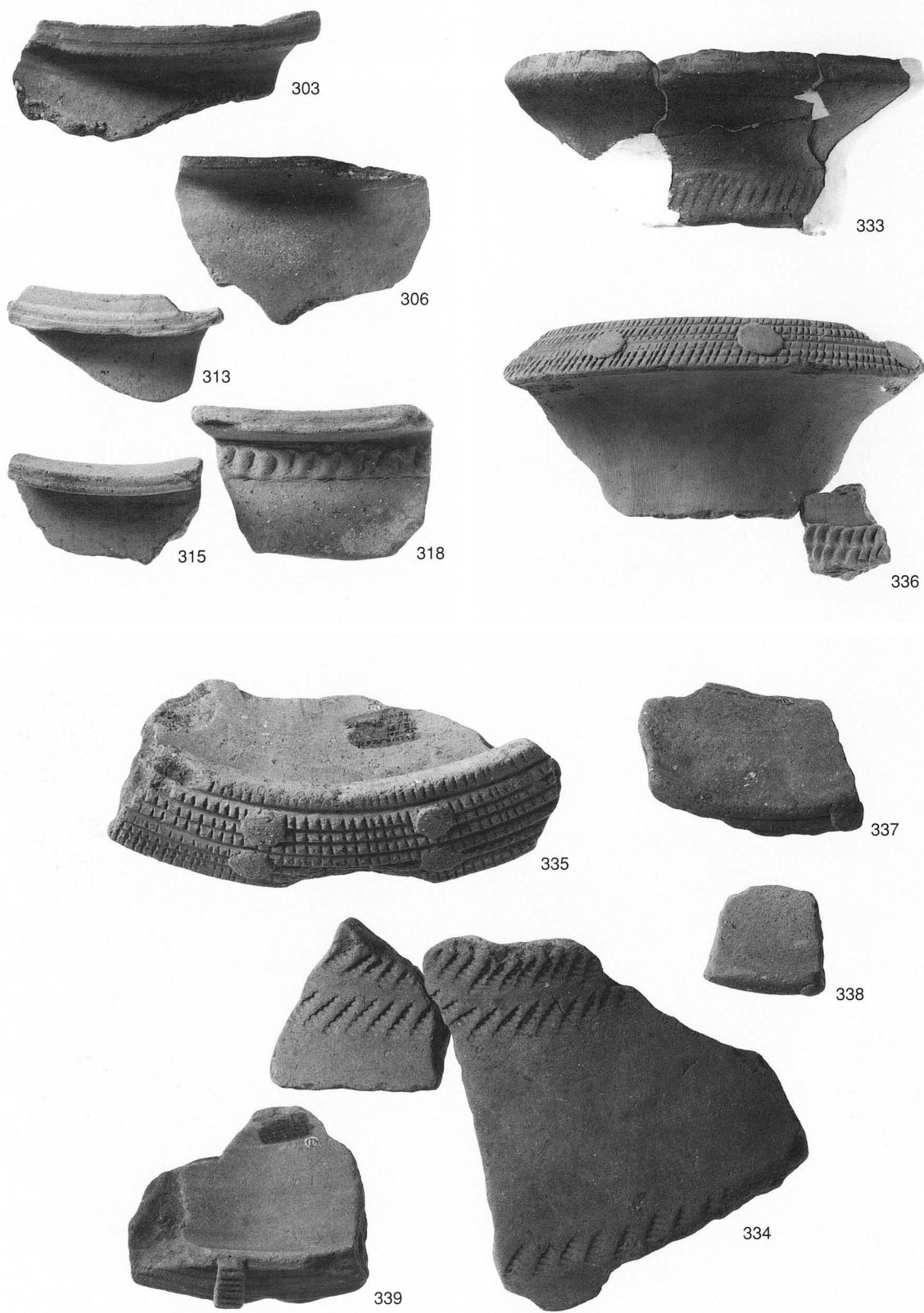
20. SD001下層 出土遺物② (上)、SD001 中層出土遺物① (下)



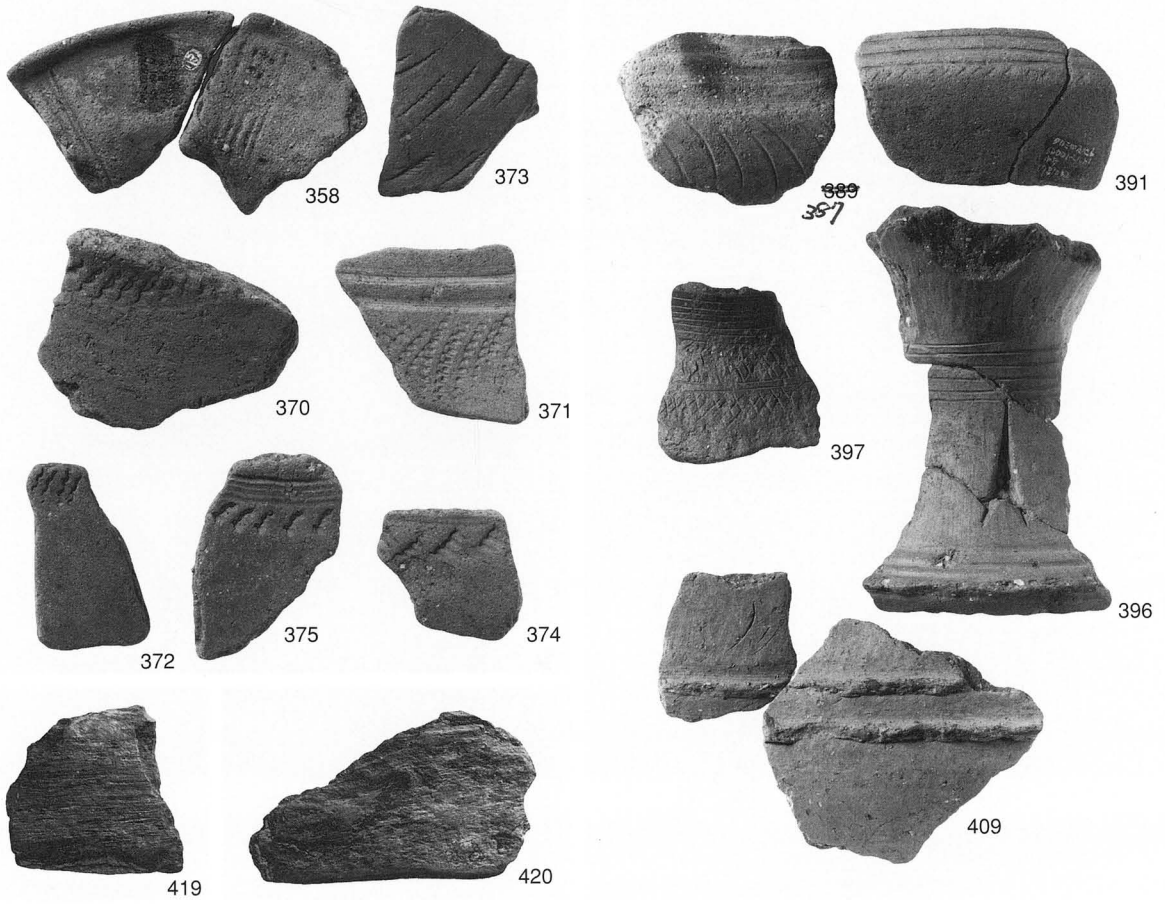
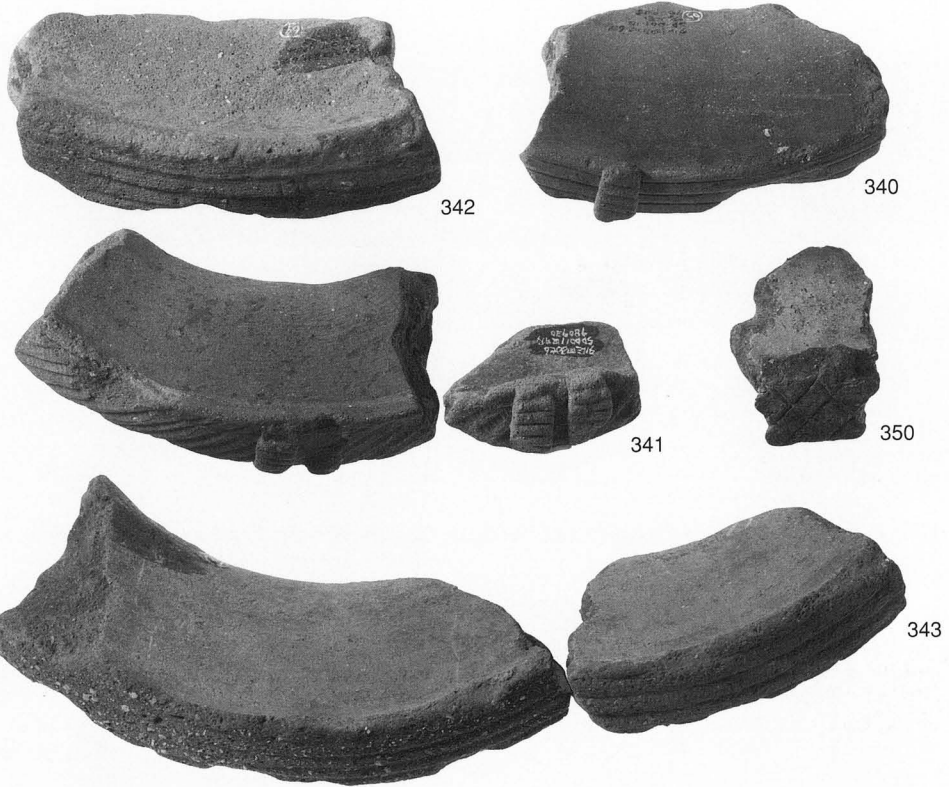
21. SD001中層 出土遺物②



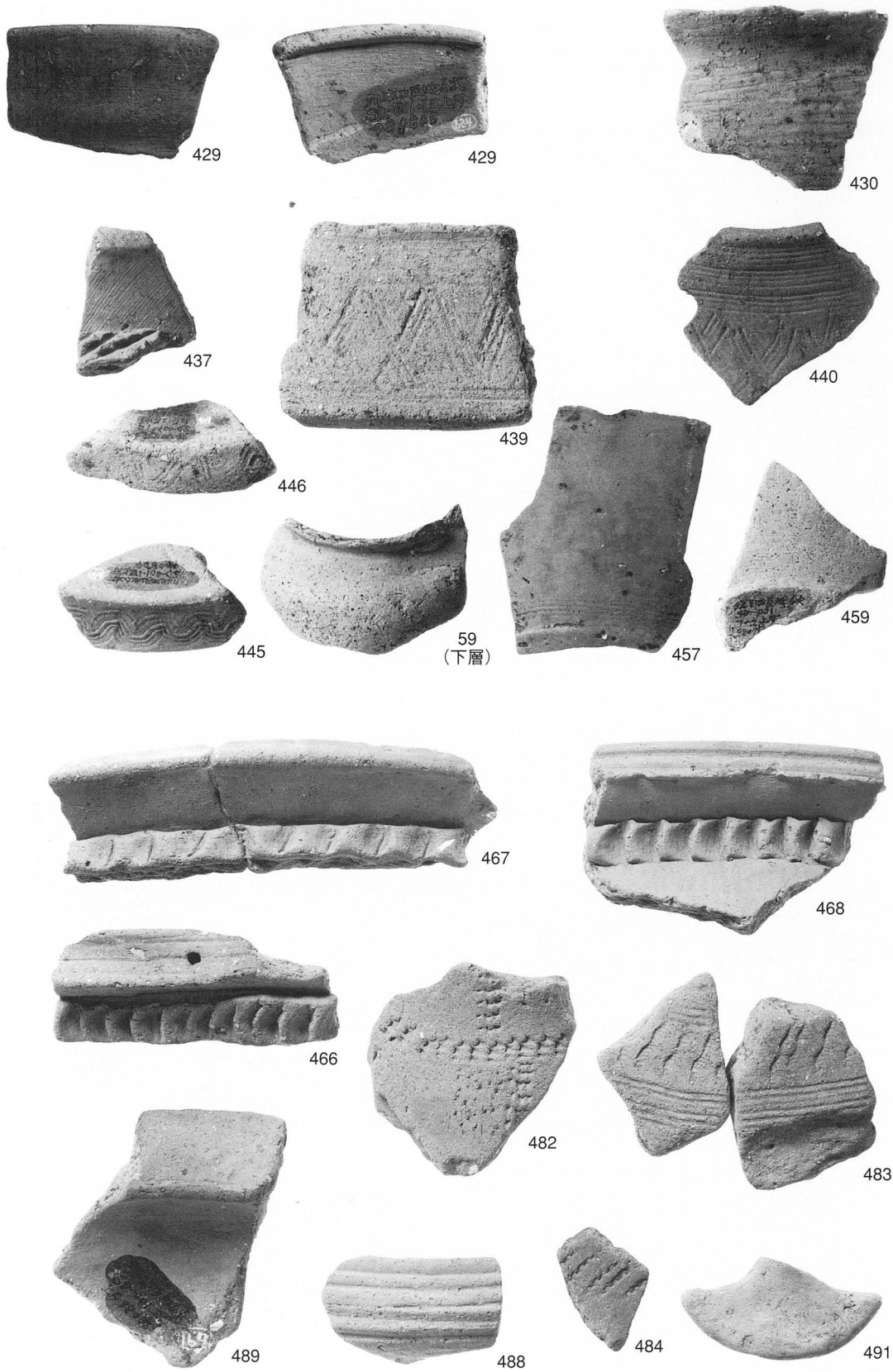
22. SD001中層 出土遺物③



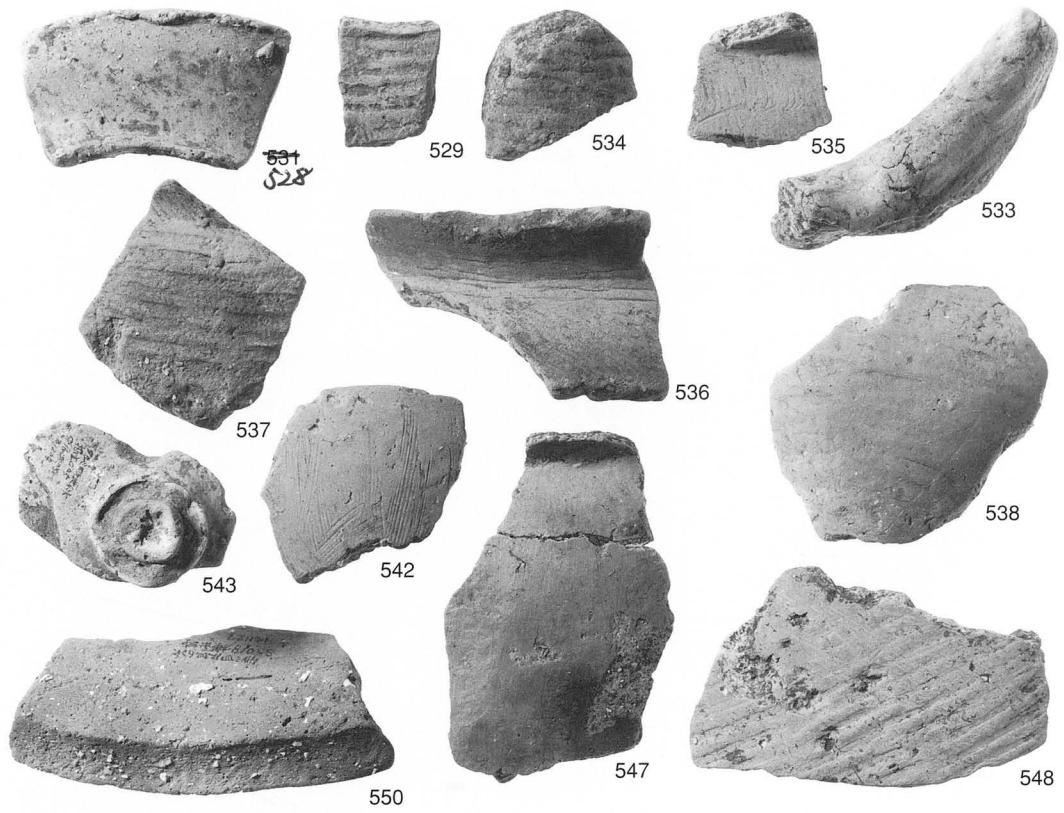
23. SD001中層 出土遺物④



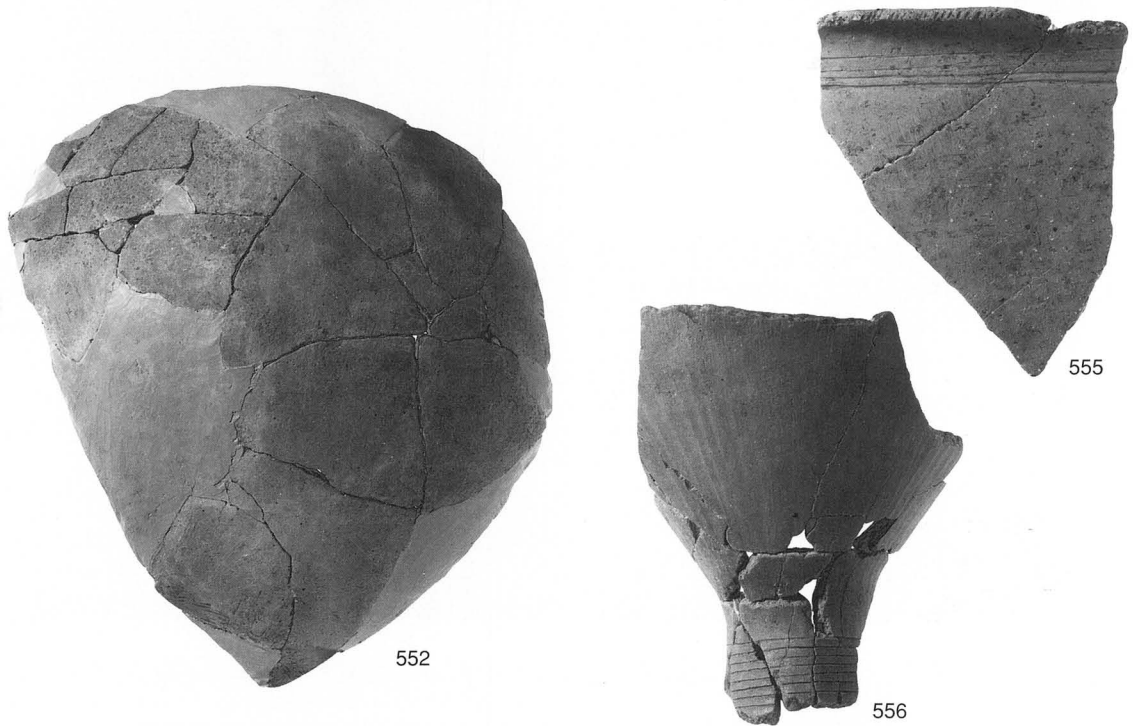
24. SD001中層 出土遺物⑤



25. SD001上層 出土遺物



26. 掘立005 出土遺物



27. SK006 出土遺物

28. SP072・103 出土遺物

報告書抄録

ふりがな	たるみしたんじいせき							
書店	樽味四反地遺跡							
副書店	6次調査							
巻次	(弥生時代～古墳時代初頭編)							
シリーズ名	松山市文化財調査報告書							
シリーズ番号	第94集							
編著者名	小玉亜紀子							
編集機関	松山市教育委員会							
所在地	〒790-0003 愛媛県松山市三番町6丁目6-1 TEL089-948-6605							
発行年月日	西暦 2003年3月31日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 m ²	調査原因
		市町村	遺跡番号					
たるみしたんじ 樽味四反地 遺跡6次	まつやましたるみ 松山市樽味	38201		33° 50′ 11″	132° 47′ 47″	19980520 ～ 19981228	999	学術調査
所収遺跡名	種別	主な時代		主な遺構		主な遺物		特記事項
樽味四反地 遺跡6次	集落	弥生時代 古墳時代初頭		土坑 大形掘立柱建物 壕・柵		弥生土器 石器 土師器		首長居館

松山市文化財調査報告書 第94集

樽味四反地遺跡 — 6次調査 — 弥生時代～古墳時代初頭編

平成15年3月31日 発行

編集・発行 **松山市教育委員会**
〒790-0003 愛媛県松山市三番町6丁目6-1
TEL (089) 948-6605

印刷 **株式会社明朗社**
〒791-2112 愛媛県伊予郡砥部町重光150番地1
TEL (089) 958-6868